

第3章. 被災地方言の記録

岩手県方言の音声の概要

大橋 純一

1 母音の特徴

1. 1 5母音

/i/は中舌音の[i]に、または[i]よりも広口の[i̠]～[e̠]に発音される。/e/は主として[e]よりも狭口の[e̠]、/u/は中舌音でやや広口の[ü̠]～[ü̠̠]となる。それらに対し、/a/と/o/はともに共通語音に近い[a] [o]であるが、発音によっては若干狭口に聞かれることもある。なお、以上の音声的バリエーションは個人差や地域差によるところも大きい。後述するように、実際には前後接音の調音との兼ね合いで生じているものが多い。

1. 2 /i/と/e/

上記のとおり、単母音の/i/は中舌もしくは広口の発音となり、/e/は逆に狭口の発音となる。よってミニマルペアを組む次のような語はともに[e̠]に近く現れ、実相上の区別があまりはつきりしない。

「胃」 /i/[e̠] 「息」 /iki/[e̠.g̠i]

「絵」 /e/[e̠] 「駅」 /eki/[e̠.g̠i]

ただし、以上は付接母音の性質やその調音に左右されるところがあり、たとえば狭母音音節が前接する場合は[i]に、連母音/ai/が融合せずに発音される場合は[e̠]になりやすい

などの傾向がみとめられる。

「厚い」/acui/[atsüi] 甘い/amai/[amae.]

またその様相（各実相やそれらの接近の程度）は地域によっても異なる。

1. 3 /-i/と/-u/

/-i/と/-u/は顕著な中舌音に発音される。特に/-i/は、/si/ /ci/ /zi/などにおいて相当に[w]寄りの中舌音となり、[si] [tsi] [dzi]（あるいは[sü] [tsü] [dzü]）のような印象の発音となる。逆に/su/ /cu/ /zu/などは相当に[i]寄りの中舌音となり、[sü] [tsü] [dzü]（あるいは[si] [tsi] [dzi]）のような印象の発音となる。よってこれらの音節は全体に区別がはっきりとせず、時に合一化して聞こえる場合のあることが特徴である。

「四」/si/[si]~[sü] 「知事」/cizi/[tsi~dzi]~[tsü~dzü]

「酢」/su/[si]~[sü] 「地図」/cizu/[tsi~dzi]~[tsü~dzü]

ただしその発音には、おおよそ県の中北部を境として、

- ① 以北地域：主として[si] [tsi] [dzi]に合一化（岩泉、田老、葛巻、小子内など）
- ② 以南地域：主として[sü] [tsü] [dzü]に合一化（盛岡、宮古など）
- ③ 境界地域：非合一化（穴沢、釜津田、小本、茂師など）

といった対立的傾向がみとめられる。またこの状況を踏まえて、各地域を①ジージー弁・②ズズー弁・③非ズズー弁地域などと称することもある。

一方、上記以外の/-i/ /-u/は、接近はするものの、基本的には合一化しない。しかし地域によってはさらに/ni/ /nu/や/ri/ /ru/の音節においても区別を失い、次のように[-ü]に合一化する例が散見される。

「煮る」/niru/[nürü] 「針」/hari/[harü]

「塗る」/nuru/[nürü] 「春」/haru/[harü]

なお狭母音の/i/と/u/は、無声子音に挟まれた音環境、または無声子音に接して語末環境に置かれた場合、次のように無声化することがある。これは共通語をはじめ、東日本方言に広くみとめられる傾向である。

「下」/sita/[süta] 「草」/kusa/[küsa] 「滝」/taki/[tak^hi]

1. 4 連母音の融合化

連母音の/aɪ/ /ae/は融合して[e:]、または若干短拍化して[eː]になるのが一般的である。

「甘い」/amai/[ame:] 「高い」/takai/[tage:]

「苗」/nae/[ne:(kko)] 「帰る」/kaeru/[ke:rü]

/ei/ /ie/ /oi/等も同様に融合することがあるが、地域差があるほか、/ai/ /ae/ほどには
は広口にならず、[e:]もしくはそれよりも狭口の[e:]に現れがちである。

「毛糸」/keito/[ke:do] 「見える」/mieru/[me:rü] 「白い」/siroi/[süre:]

なお以上のうち、漢語や外来語など、その方言にとって馴染みが薄いと思われる語は融
合せず、元の連母音のままに発音される傾向がある。ただし連母音の構成により、例えば
/ai/の場合の後項母音は前項母音に引きずられ、次例のようにやや広口となる。

「外国」/gaikoku/[gae.kogü] 「ネクタイ」/nekutai/[nekütæ.]

2 子音の特徴

2. 1 語中/k/ /t/ /c/の有声化

語中の/k/ /t/ /c/は有声化して[g] [d] [dz]と発音されがちである。

「開ける」/akeru/[agerü] 「旗」/hata/[hada] 「靴」/kucu/[küdzü]

ただしそれらに特殊音が前接する場合、あるいは前接母音に無声化が生じた場合などは
有声化せず、[k] [t] [ts]のままに発音されることが多い。

「学校」/gaQkoR/[gakko] 「新幹線」/siNkaNseN/[sünkansen]

「鹿」/sika/[süika] 「下」/sita/[süta] 「口」/kuci/[kütsü]

2. 2 語中/g/ /d/ /z/ /b/の鼻音化

語中の/g/は鼻濁音[ŋ]に、/d/ /z/ /b/は直前に小鼻音を介して各々[~d] [~dz] [~b]
に発音されがちである。

「上げる」/ageru/[aŋerü] 「肌」/hada/[ha~da]

「屑」/kuzu/[kü~dzü] 「壁」/kabe/[ka~be]

なおこのことにより、上記のうちの/g/ /d/ /z/は、/k/ /t/ /c/の有声化との兼ね合い

で、共通語の体系をそのままスライドさせた形での対立（無声音[k] [t] [ts]／有声音[g] [d] [dz] → 有声音[g] [d] [dz]／鼻(濁)音[ŋ] [˜d] [˜dz]）を形成することになっている。

「開ける」 /akeru/[agerü] 「旗」 /hata/[hada] 「靴」 /kucu/[küdzü]
「上げる」 /ageru/[aŋerü] 「肌」 /hada/[ha˜da] 「屑」 /kuzu/[kü˜dzü]

以上は岩手県はもとより、東北の広い範囲で共通にみとめられる傾向であり、東北方言的な音声の特徴を真っ先に印象づけるものでもあるが、当方言では沿岸域の中部や岩泉地方など、ごく一部の地域においてこれらの鼻音化はみとめられない。また調音点が前寄りの/b/や/z/を中心に、鼻音化を落としつつある地域も観察される。

2. 3 /ki/ /gi/の口蓋化

/ki/と/gi/が口蓋化し、摩擦音を伴って[k^ɛi] [g^ɛi]のように発音される傾向がある。それは特に南部地域で著しく、発音によっては頭子音と介入摩擦音とで響きの度合いが逆転し、ほとんど[k^ɛi]や[g^ɛi]のように聞こえる場合もある。

「木」 /ki/[k^ɛi] 「着物」 /kimono/[k^ɛimono]
「銀行」 /giNkoR/[g^ɛiŋko] 「銀杏」 /giNnaN/[g^ɛinnaN]

2. 4 /se/ /ze/の口蓋化

/se/ /ze/も口蓋化して、それぞれ[ʃe] [dʒe]となることが多い。

「汗」 /ase/[aʃe] 「先生」 /seNseR/[ʃenʃe]
「風」 /kaze/[ka˜dʒe] 「税金」 /zeRkiN/[dʒe˜k^ɛiN]

なお北部地域では、口蓋化した[ʃe]がさらにその度合いを強め、[he]や[çe]となって現れることもある。

「背中」 /senaka/[henaga]～[çenaga]

2. 5 /si/ /ci/ /zi/の非口蓋化

一方、/si/ /ci/ /zi/などはあまり口蓋化せず、[si] [tsi] [dzi]～[sü] [tsü] [dzü]

のように発音されるのが一般的である。

「梨」/nasi/[nasi]～[nasü] 「口」/kuci/[küdzi]～[küdzü]

「知事」/cizi/[tsi~dzi]～[tsü~dzü]

ただしこれは当該子音の問題というよりは、既述したように、後接/i/母音の中舌化に付随して生じている現象と考えるのが妥当である。

2. 6 拗音の直音化

以上に加え、沿岸地域や南部地域では、拗音/sju/ /sjo/ /sja/、/zju/ /zjo/ /zja/、/cju/ /cjo/ /cja/の口蓋化も不十分となりがちであり、半母音/j/が脱落して、各々直音化した[sü] [so] [sa]、[dzü] [dzo] [dza]、[tsü] [tso] [tsa]に近く発音される傾向がみとめられる。

「習字」/sjuRzi/[sü'~dzü] 「手術」/sjuzjucu/[sü~dzütsü]

「注射」/cjuRsja/[tsü'sa] 「茶碗」/cjawaN/[tsawaN]

2. 7 /ka/ /ga/の合拗音化

その一方で、/ka/ /ga/の音節が、(近年は聞かれることが少なくなったが)、主として漢語系の語において合拗音の[kwa] [gwa]に現れることがある。

「火事」/kazi/[kwa~dzü] 「外国」/gaikoku/[gwae.kogü]

2. 8 ハ行唇音

現代日本語において、/hu/の頭子音は共通語でも唇音[ϕ -]であるが、当方言ではさらに/h/や/he/、あるいは拗音節の場合を中心に[ϕ -]に現れることがある。ただしこれも上記の合拗音と同様、近年特に聞かれることが少なくなった発音のひとつであり、当方言では北西部地域などに散在的に、また高齢者の一部にその痕跡がみとめられるに過ぎない。

「人」/hito/[ϕ üdo] 「屁」/he/[ϕ e.]

「表紙」/hjoRsi/[ϕ jo'sü] 「百」/hjaku/[ϕ ia ϕ ü]

3 特殊音の特徴

特殊音（長音・促音・撥音）は共通語などに比べると発音（持続時間）が短く、拍としての独立性が弱く感じられる。特に長音で語末環境にあるものはその傾向が強い。

「砂糖」 /satoR/[sado] 「学校」 /gaQkoR/[ga^hko] 「新聞」 /siNbuN/[sü^mbü]

しかしそれ以外のものは極端には目立たず、また次例のとおり、特殊音部の持続時間は意味の弁別にもそれなりに寄与していることがうかがえる。

「茎」 /kuki/[kü^gi]

「肩」 /kata/[kada]

「空気」 /kuRki/[kü^gi]

「勝った」 /kaQta/[ka^dda]

「渋」 /sibu/[sü^bü]

「新聞」 /siNbuN/[sü^mbü]

4 その他の特徴

以上に加え、当方言では次に掲げるような音声特徴が会話の各所に観察される。これらは音韻的に確立されている現象であるというよりは、発音の簡便性を志向しての現象、強調を意図しての現象、語彙的・文法的事情に基づく現象と理解すべきものも少なくない。その点では、既述した有声化と鼻音化など（つまりはある音韻規則に従って生じている体系的現象）とは区別して考える必要があるが、ここでは当方言らしさを発音の面から特徴づけるもののひとつとして例示しておく。

4. 1 縮約

たとえば次のようなものがある。主として発音の簡便化に即して生じている音声的現象とみとめられる。

[~ttsü:] (～という) [~tʃa] (～ては) [~dʒa] (～では)

[ʌ rja:] (それは) [ka ㇿ] (食わない)

4. 2 脱落

以下のように、単一の音節の母音部が脱落してあたかも撥音化ないしは逆行同化して見えるもの、子音部の /r/ が脱落して母音音節を形成しているもの、さらには音節自体が脱

落・略化しているものなどがみとめられる。

(1) 母音脱落

[~nダガ] (～のだか) [ナnカ] (何か) [ナnモ] (何も)
[サmi] (寒い) [オbeル] (覚える)

(2) 子音脱落

[タマeダ] (たまげた) [トラeダ] (取られた) [ハナeル] (離れる)

(3) 音節脱落

[~バリ] (～ばかり) [カマネ] (構わない) [ヤダ] (嫌だ)
[~トモッテル] (～と思っている) [ソイゴド] (そういうこと)

4. 3 添加

これには子音（含特殊音）が添加して現れるものが多い。ただし次例のとおり、その現れ方には発音の調音的な理屈から生じているものと、強意・強調等の韻律的事情から生じているものとの二通りがあることがうかがえる。

[ツre] (杖) [riハイ] (位牌) [アttsüイ] (暑い)
[~バkkaシ] (～ばかり) [ホン:トニ] (本当に)

4. 4 交替

たとえば次のようなものがあげられる。例からもわかるとおり、どちらかといえば特定の語における発音習慣的な現象の意味合いが強い。

[オra] (俺) [honデ] (それで) [siト] (人)
[~バッカsi] (～ばかり)

4. 5 転倒

次例のように、構成音の一部が前後で逆転する形で現れる。調音の難しさやそれによる言い間違いなどが主な原因だと思われるが、これもまた特定の語において生じている発音習慣的な現象と理解できるものである。

[チャマガ] (茶釜) [トナダ] (戸棚)

岩手県大槌町方言

大橋 純一

1 収録地点名

岩手県上閉伊郡大槌町

2 地点外観

大槌町は岩手県の沿岸中南部に位置し、南は釜石市、北は山田町、西は遠野市に隣接している。明治22年の町村制施行に伴い、大槌村・小槌村・吉里吉里村の三村が合併、昭和30年の金沢村との合併により現在に至る。町は大槌湾に面した海沿いを中心に、そこに注ぐ大槌川と小槌川の流域に沿う形で広がっている。またその海沿いには主要道路である国道45号線が、それとほぼ並行してJR山田線が走っている。町の丘陵部には城山公園（大槌城址）があるが、江戸時代を通じてその山麓には代官所が置かれるなど、当域が長らく行政管轄の中心地であったことが町民の誇りである。歴史的には江戸時代（南部藩）の御用商人であり、海運・水産業で多大な功績を残した吉里吉里善兵衛こと前川善兵衛の故郷であることで知られる。また文学との関連も深く、作家・井上ひさしの人形劇『ひょっこりひょうたん島』や長編小説『吉里吉里人』のモデル地ともなった。地域がら古くから豊富な海の幸に恵まれ、鮭の定置網漁を中心とした水産業が町の主産業となっている。平成25年1月現在、世帯数：5454戸、人口：13024人。

3 大槌町の方言の特色

3. 1 方言区画上の位置

岩手県方言はその地形・風土・歴史などにより、①秋田県・青森県に北接する北部方言地域、②盛岡市を中心とする中部方言地域、③東部沿岸域に連なる沿岸方言地域、④それらから残る南部方言地域の4つに分かれる。大槌町は、近隣の山田町や釜石市、宮古市などとともに、そのうちの③沿岸方言地域の一角を占める。なお以上の4地域は、おおよそ①～③が旧南部藩領、④が旧伊達藩領に属し、方言区画の上では大きく北奥方言的な色合いを示す①～③と南奥方言的な色合いを示す④とで傾向が二分されることが想定できる。しかし大槌町は、地理的に④地域との境界付近に位置することもあり、言葉の各側面において北奥・南奥方言の差異はそれほど顕著にはみとめられない。以下、後掲の「4 談話資料」を参考に当方言に特徴的と思われる事象をとりあげ、その大要を見ていくことにする。

3. 2 アクセント

岩手県はほぼ全域が東京式アクセントに属するが、中でも大槌町を含む沿岸方言地域のアクセントは最もそれに類似している。アクセントの性質を抽出しようとした場合、「類別語彙表」と呼ばれる体系表を用いて比較することが有効であるが、たとえば一・二拍名詞に即してその実態を見ると次のようであり、特に類の体系性の面で大槌町と東京はほぼ合致していることがわかる。注) ●▶：高い拍、○▶：低い拍（○●：単語の一拍、▶▶：助詞の「ガ」）。

| | 大槌町 | 東京 | 語例 |
|---------------|-----|-----|---------|
| 【一拍名詞】 | | | |
| 第一・二類 | ○▶ | ○▶ | 絵・毛・子・血 |
| 第三類 | ●▶ | ●▶ | 名・葉・木・手 |
| 【二拍名詞】 | | | |
| 第一類 | ○○▶ | ○●▶ | 飴・牛・首・酒 |
| 第二類 | ○○▶ | ○●▶ | 石・紙・北・夏 |

| | | | |
|-------|-----|-----|---------|
| 第三類 | ○●▷ | ○●▷ | 足・池・坂・月 |
| 第四・五類 | ●○▷ | ●○▷ | 稲・海・猿・春 |

ただし、二拍名詞の第一・二類に○○▶がみとめられるなど、大槌町では一拍目から二拍目にかけての上昇が東京などと比べるとかなり緩やかであり、表記のように助詞部分のみが卓立する場合のあることが注意される。このことから、当方言のアクセントは、東京式アクセントと体系性の面では類似しながらも、基本的には高い部分が2拍以上に連続して現れることはなく、一拍卓立のアクセントを基調とするものであることが指摘できる。

3. 3 話調子

上記のアクセントとも関連するが、当方言の話調子は全体に抑揚幅が狭く、平板的である。注) 上線の付いた文字が高い部分。

○オイシノ フジンドゴカラ デテキタチューナ ハナシ
(大石の淵の所から出てきたというような話)

○アノ フケ° ツンドコロ イッテカラ コー
(あの風月の所に行ってからこう)

しかし、それでいて文の末部には後起的な抑揚が随所に現れ、聞き耳には後ろのめりの印象が強い話調子となっている。なおその抑揚は、次のように、文末もしくはそれよりも一拍前の箇所に見えるのが一般的である。

○アソゴガラ (あそこから) ○コツツカワノ (小鎧川の)

○アソコノ ヘビアナカ° (あその蛇穴が)

○カワノ ミズノ ナガレカ° (川の水の流れが)

○ヒツヨーカ° ナイ グライ (必要がないくらい)

○カセツノ レンチューカ° アノー (仮設住宅の連中があの)

○アソコサ ヤッタノカ° (あそこに入れたのが)

一方、東北の日本海側に特徴的とされるシラビーム現象(長音・促音・撥音の各特殊音を短拍化する現象)はあまり目立たない。むしろ文末部を中心に単一の拍が長呼され、タタター、タタータのようなリズム単位のものが時折見受けられる。

○ココワー カナシキボー (ここは金敷坊)

- オレガー トショリカラ キーテルノンデワ (おれが年寄りから聞いているものでは)
- ソレコソー カミヘーノ (それこそ上閉伊野)
- マ カッテニー ヒトカ° (まあ勝手に人が)
- コノサキーノ (この先の) ○ムカシカラー ネ (昔からね)

以上のように、当方言の話調子は、後起する規則的な抑揚と時折現れる文末部での長呼とによって、平板的な中にも一定の起伏をもたらすものになっている。

3. 4 発音

/i/と/e/の発音の違いがさほど明確ではない。相互に接近し合い、/i/がやや広口の[i:]に、/e/がやや狭口の[e:]に発音されることが多い。

- [i. ッタツノ ハナ] (一龍の端)
- [ナンブノ ジョーダ i:] (南部の城代)
- [e. ソクツーノ アレバ] (遠足というものがあれば)
- [コ e. タモンダレバ] (越えたものだよ)

ただし、どちらかといえば/i/の広母音化の方が著しく、発音によっては/e/との区別を失っているものもある。

- [e. ッタモンナンダ] (行ったものなんだ)
- [e. マ トノサマ] (今 殿様)

/si/ /su/、/ci/ /cu/、/zi/ /zu/の区別もとかく曖昧になりがちである。いずれも中舌音に発音されるが、全般には/-i/が/-u/の方に寄り、[-ü]となることが多い。

- [サキッパ s^üノ コト] (先端のこと)
- [カワノ キ s^ü] (川の岸) ○[オニム s^ü トツタリ] (鬼虫を捕ったり)
- [ハッショー-ts^ü] (発祥地) ○[シオノ ミ ts^ü] (塩の道)
- [ts^üケーナンダ] (地形なんだ) ○[オー-dz^üts^ü] (大槌)
- [コ dz^üts^üノ ヒドダ ts^ü] (小鎧の人達)
- [タイショー-dz^üダイ] (大正時代) ○[トー-dz^üノ ヤツ] (当時のやつ)

連母音の/ai/ /oi/等は、発音時の態度やその時々調子・加減とも関わるが、融合化して[-e(:)]になることが多い。ただし東北方言でしばしば聞かれる中間音の[-ɛ:]や[-æ:]は、とりたててそう表記するほどには目立ってはみとめられない。

- [スŋe: ナ] (すごいな)
- [ナニ キカレタカ ワガン ne] (何を聞かれたかわからない)
- [ナニ シャベッタカ ワガラ ne] (何をしゃべったかわからない)
- [ツクッタ ワゲデ ne:ガラ] (作ったわけではないから)

一方、子音面で特徴的なのが、語中/k/ /t/ /c/の有声化である。やはり発話時の態度や連続する音の構成などで若干出方がまちまちではあるが、次例のように、多くは有声化して現れる。

- [ココノ ドgi ニ ネ] (この時にね)
- [ツヨイga ラ] (強いから)
- [タgi ノ オdo ドデ] (滝の音で)
- [トユーgodo ガラ] (ということから)
- [コビョーノ do コカラ] (古廟の所から)
- [コノ ブラクノ ヒト dadzū] (この部落の人達)
- [モ dzūッタ ヨーナノカ°] (文字ったようなのが)

他方、語中の/g/は基本的には鼻濁音に発音される。

- [コズツŋa ワ] (小鎚川) ○[ビンボーナŋa レ] (貧乏長嶺)
- [ソネマエŋa ワラ] (曾根前川原)
- [ナŋa レル ミズワ] (流れる水は)
- [イツŋo ロカラ] (いつごろから)
- [アイヌŋo オ ゲンダイŋo ニ] (アイヌ語を現代語に)

/g/以外の濁音が鼻音化して現れることはほとんどない。しかし語頭に濁音を有する接続語の場合において、小鼻音が次のように介入することがある。

- [ⁿダガラ] (だから) ○[ⁿダネ] (だね)
- [ⁿダドモ] (だけれども) ○[ⁿダッケドモ] (だけれども)
- [ⁿジャー ソノー] (じゃあその)

以上のほか、引用や修飾等を表す「～という」の箇所が[～(t) tsü:] [～(t) tʃü:]のように縮約して現れるものがあり、当方言の発音上の特色を彩るひとつとなっている。

- [ビンボーダガ tʃü: ハナシ] (貧乏だかという話)
- [ゴホンマツ tʃü:ノワ] (五本松というのはね)
- [ビンボーナカ° レ tsü:] (貧乏長嶺という)

- [サカイギ tsü:ノ トーッテ] (境木というのを 通って)
- [エンソク tsü:ノ アレバ] (遠足というものがあれば)
- [チョードーtsü:ノカ° デダ] (町道というのが出来た)
- [イワイザワ tsü:ノ アンダ] (岩井沢というのがあるのだ)
- [デテキタ tʃü:ナ ハナシ] (出てきたというような話)

3. 5 文法

東北方言が全域的にそうであるように、推量の助動詞「だろう」は当方言でもほぼ例外なく「べ(一)」になる。

- ソーダндаベ ネ (そうなんだろうね)
- ソーナндаベ ネ (そうなんだろうね)
- ドーナндаベ ナ (どうなんだろうな)
- メイショーニ ナッタンダベ ナ (名称になったんだろうな)

ただしこれが意思形に用いられると「ペシ」となる。三陸沿岸の被災地では、復興スローガンのひとつとして、この「ペシ」による表現が日常会話をはじめ、看板やのぼり、ステッカーなど、生活の各所にみとめられる。

- ガンバッペシ! (がんばろう!)

場所や方向、対象などを表す格助詞「に」も、やはり東北の他方言がそうであるのと同様、「サ」になることが一般的である。

- アソコサ ヤッタノガ (あそこに入れたのが)
- ソコサ ミツ アル (そこに三つある)
- シンヤマサ ノボル (新山に登る)
- ココサ キテイル ワケダ (ここに来ているわけだ)
- ケモノミチサ プラスアルファミタイナ (獣道にプラスアルファみたいな)
- クリバヤシノホーサ イグ (栗林の方に行く)

さらに主格の「が」が「サ」に現れることもある。

- ゼンコクバンニ コレサ デタ トギニ (全国版にこれが出た時に)

接続詞・接続助詞の「～(だ)けれども」は「～(ダ)ドモ」になることが多い。これもまた東北方言に広くみとめられる特徴的傾向である。

- フツノ コトバダドモ（普通の言葉だけれども）
- ワラビウチナト ユードモ（蕨打直というけれども）
- ワラビウチナト ユンダドモ（蕨打直というんだけれども）
- ザイバツワ イッドモ（財閥は居るけれども）
- ダドモ ムカシワ ネ（だけれども昔はね）

さらに出現回数こそ多くはないが、過去表現の「タッタ」が見られ、この点においても東北方言的であるといえる。

- ドーロナンテ イッタッタッテー（道路なんて言っていたって）

3. 6 語彙

この調査では、大槌町遺族会会長の越田征男氏をはじめ、多くの方々にお世話をいただいた。そのお一人であり、後掲の「4 談話資料」の当事者でもある小林正寛氏は、長く大槌町の文化財保護に携わってこられたかたわら、ご自身の覚書として、町に古くから残る言葉を手帳に書き留めてきている。以下はその一部を拝借して記したものである。ここでは、これをもって当方言の語彙の特徴を知る一助としたい。

注) 表記は一部の調整箇所を除き、基本的には手帳の記載のとおりとする。

| | | | |
|-----------|----------|-----------|------------|
| あ項 | | あっちゃー | 父親 |
| 地方呼名 | 一般的呼名 | あんねっこ | 姉 |
| あっぺ | 赤ん坊 | あんぐり | 1口 |
| あうじす | かもしか | あけず | とんぼ |
| あがめいけい | 目つぱり | | |
| あねいず | くるみ遊び | い項 | |
| あくど | かかと | 地方呼名 | 一般的呼名 |
| あんな | 兄貴 | いんじー | 窮屈 しっくりいか |
| あきふく | 腹いっぱい | | ない |
| あっぷくう | 水におぼれること | お | いっときま 一寸の間 |
| | ぼれかかったこと | いदैすか | 居りますか |
| あじだす | 思い出す | いび垂れ | 糞尿をもらすこと |

| | | | |
|-----------|------------|-----------|------------------------|
| いざまい悪い | 行儀が悪い | おこわ | 赤飯 |
| いとど | そうでなくても | おなかに | 仲良く |
| いじよう | まさか | おづげい | まねく |
| いずりむずり | 一所懸命 | おどける | ふざける |
| いずだり | 時なし | | |
| いけだふり | 酔った振り | | |
| | | か項 | |
| う項 | | 地方呼名 | 一般的呼名 |
| 地方呼名 | 一般的呼名 | かつこ | 桑 |
| うざねはき | 苦勞する | かすぎ | 炊事 |
| うんぜいする | 介護する | かっこん花 | あつもり草 |
| うんな | お前 | かまけいし | 破産 |
| うんこ | 糞 | からこうせい | むずかしがりや だ だをこねる |
| | | かあど | 川岸の洗場 |
| え項 | | 川狩 | 川で魚を採ること |
| 地方呼名 | 一般的呼名 | 風花 | ちらちら雪 |
| えのこ | リンパ腺のはれ | 神楽宿 | 巡業の神楽を泊める家 |
| | | 後引祝 | 結婚式の後始末 残 り物で祝う |
| お項 | | かこ | 船の乗組員 |
| 地方呼名 | 一般的呼名 | 家路荷 | 山かせぎが家に帰る とき背負ってくる薪 |
| おどし | 王室 | かます | わらであんだ袋 |
| お七夜 | 親らんの法要 | かつかべ | 蝶々 |
| おっかない | あぶない おそろしい | かあつぱり | 水にぬれたこと |
| おしょうし | 恥かしい | かあらげ | すり鉢 |
| おがる | 大きくなる | かだごど | 遠慮する |
| おそぺ | 口笛 | かんがら | 唐鍬 鍬 |
| おさらく | 遊女 | かんながら | かんなくず |
| おめおめと | ずうずうしい | かばしくない | 他人を悪くいうこと |
| おだつな | ふざけるな | | |
| おじげ | 味そ汁 | | |

| | | | |
|-----------|------------|-----------|----------|
| がっかあ | 母親 | げいらご | おたまじやくし |
| | | けいちやが | 反対 |
| き項 | | げんば | 縄むしろ |
| 地方呼名 | 一般的呼名 | 毛の上 | 樹木の繁った山 |
| きすね | 穀物一般 | 毛無し森 | 樹木のない山 |
| きっきのきー | じゃんけんぼん | けっけろ花 | 立ふよう |
| きどころね | ふとんにはいらずね | げいだか | 毛虫全般の呼び名 |
| | ること | けら | みの |
| きっち | 穀物を入れる大きな箱 | | |
| きっぱげ | 木のない山 | こ項 | |
| きぎ | きね | 地方呼名 | 一般的呼名 |
| きったで | 正油さし | こまごま汁 | けんちん汁 |
| | | ごだめき | ぬかるみ |
| く項 | | こわい | 疲れた |
| 地方呼名 | 一般的呼名 | こちがしい | くすぐったい |
| くず餅 | 工棟式の祝餅 | こんまる | しゃがむ |
| くろ | 田の畔 | ごせやく | おこる |
| くず布団 | わら布団 | こうのげ | まゆ毛 |
| ぐやめく | 小言をいう | こが | みそだる |
| くらいたいし | 食べるだけで役に立た | こんじよかめ | けち |
| | いもの | ごきあらい | てんとうむし |
| くさい | たぬき | ごんぼうほり | あくたれもの |
| くず座 | かやぶき家 | こづく | 俄か大雨（雷雨） |
| け項 | | さ項 | |
| 地方呼名 | 一般的呼名 | 地方呼名 | 一般的呼名 |
| げいぐり | 回り | ざっこ | 小魚の総称 |
| けつまげる | つまづく | さんたま | お茶の実 |
| けっけろ花 | 芙蓉 | ざんぞ | 批評 |
| げじ | とんぼ | さるがしら | 破風止め |

| | | | |
|-----------|-------------|-----------|------------|
| 参宮仲間 | 一緒に参宮まいいりし人 | | ないもの |
| | が〇〇〇集って語る | すぐせい | 早く 今すぐしなさい |
| されいかまね | 世話をしない | すいふろ | 鍛〇ぶろ |
| 酒手 | 寸志 心づけ | すぐり | グスベリー |
| | | ずんぞう | 石仏 |
| し項 | | すがり | 蜂 |
| 地方呼名 | 一般的呼名 | | |
| しっあぼ | ぼうし | せ項 | |
| しやぼん | 石けん | 地方呼名 | 一般的呼名 |
| しど | 田の水の出口 | せいぎ | 敷店 |
| じぎ | 人糞 | ぜんめいろ | うば百合 |
| しまこ粥 | 粥を上棟式にふるまう | せいろ | 〇し暑 |
| しだみ | どんぐり | せぐ | 急ぐ |
| じょうの口 | 庭光の道路 | | |
| じょうさない | 面倒でない | そ項 | |
| しょうす | 恥かしい | 地方呼名 | 一般的呼名 |
| しだ | 石垣 | そろびる | 乾燥する |
| しけ | 台風 | そうみ | 水およぎで頭から飛 |
| じょうい | 居間 | | び込むこと |
| | | そづる | 失配する、損ずる |
| す項 | | そらめふく | 天井をむく |
| 地方呼名 | 一般的呼名 | | |
| すつとぎ | 米の生粉だんご | た項 | |
| すが | 氷 | 地方呼名 | 一般的呼名 |
| ずくがよい | 勇気、思い切りが良い | たまる | 増える |
| ずる | 囲炉裏 | 建前 | 上棟式 |
| すず | がらすびん | 田の神 | 朴の葉にくるんだ餅、 |
| すなむずり | 一所懸命 気仙ことば | | 赤飯 |
| すきがあ | 敷布 | たばかり笠 | 竹の皮であんだ笠 |
| すんたらす | 必要とする長さに足ら | 箆筍かつぎ | 結婚式の花嫁道具を |

| | | | |
|-----------|---------------------|-----------|------------------------|
| | かつぐ人 | でと | 出口 |
| たなぐ | かつぐ | でがちょう | 介護 |
| たね板 | レコード | てでいぼっぼ | たんぼぼ |
| たるひ | つらら | | |
| たんな | 子供の背負いおび | と項 | |
| たまげる | おどろく | 地方呼名 | 一般的呼名 |
| たまり | 枝堂(?) | とざま雪 | ぼたん雪 |
| たあれる | 費やす(日) | とつこになる | 糸などが乱れてから みつくこと |
| ち項 | | とざま | 古着 |
| 地方呼名 | 一般的呼名 | とがき棒 | 均し棒 |
| ちか迎い | 花嫁を途中まで迎いに 行くこと | 唐人 | 富山の薬座 |
| | | どうらん結び | 煙草 きせる入を作 る樺細工職人 |
| つ項 | | どんどこば | 顔のうしろ |
| 地方呼名 | 一般的呼名 | とうどっこ | |
| つぼまい | 庭 | とがばね | |
| つきや | 水車小屋 | | |
| つっぱさみ | 着物の裾をおびの後に はさむこと | な項 | |
| つぶくぐり | 潜水泳法 | 地方呼名 | 一般的呼名 |
| つつくす返る | 頭から前に転ぶ | ながら | 雑木の素○ |
| | | なやとり | 死人を埋める穴掘り |
| | | なんじゅう日和 | 荒れ日和 |
| て項 | | に項 | |
| 地方呼名 | 一般的呼名 | 地方呼名 | 一般的呼名 |
| てんばた | 凧 | 逃げ水 | 暖かい日道路上が水 のように見えること |
| でんび | 額 | | |
| 手足からみ | まとわりつく | | |
| でいばつ | まむし草 | | |
| てん木 | 拍子木 | ぬ項 | |

| | | | |
|-----------|---------------------|-----------|-----------------------|
| 地方呼名 | 一般的呼名 | はぐた | 対にならないこと |
| ぬた | 煮豆をつぶし山菜など あえたもの | ばんげ | 晩景 |
| ひ項 | | | |
| ね項 | | 地方呼名 | 一般的呼名 |
| 地方呼名 | 一般的呼名 | びっき | 蛙 |
| 根掘り葉掘り | すみからすみまで | ひじ | 衣裳箱 |
| | | びだい | 女の子 |
| の項 | | びす | 低い鼻 |
| 地方呼名 | 一般的呼名 | ひとさらい | 両腕で集めること |
| のみ (ばか) | ものもらい | ひとつまみ | 親ゆびを人差しゆび でつまむこと |
| のめる | すべる | ひとつかみ | 片手一ぱいでつかむ こと |
| は項 | | ひかがみ | 足のひざ裏のこと |
| 地方呼名 | 一般的呼名 | | |
| はる木 | 大割の薪 (1尺5寸余) | ふ項 | |
| 早ごあす | おはようございます | 地方呼名 | 一般的呼名 |
| はらびた | 妊婦 | ふつつ | 大きい |
| ばんどり | むささび | ふるだ | ひき蛙 |
| ばば | 糞 なんこばば (乳児 の糞) | ふるまい | 結婚式 |
| はんかくさい | 相手にされない | 古屋下げ | 古屋の解体 |
| はっさく | 乾燥する | ふんむるがえし | ねんざ |
| はんねえる | 手始め | ふくろばたき | 末に生まれた子 |
| はじき玉 | ビー玉 | ふん込む | 入り込む |
| はんどう | 上衣 | | |
| ばった | めんこ遊び | へ項 | |
| はっちあける | もち上げる | 地方呼名 | 一般的呼名 |
| ばっけい | ふきのとう | 兵隊祝 | 兵隊に行く人を招き ごちそうすること |
| はんさん | 未じく児お産 | | |

| | | | |
|-----------|-----------|-----------|------------|
| べいら | 急に | めんぴ | 顔面神経痛 |
| ぺいこ | 小さい | 目つる | 涙 |
| へずる | 少なくする | めごい | 可愛い |
| | | めった | 目の病気 |
| ほ項 | | | |
| 地方呼名 | 一般的呼名 | も項 | |
| ほうでいなし | 解のわからないやつ | 地方呼名 | 一般的呼名 |
| ぼつかける | 追いかける | もうーし | 入店時のあいさつ |
| ほまち | へそくり | もしじけ | たきつけ |
| ほいど | 乞食 | もげる | とれる |
| ぼんがふき | うそつき | | |
| ほや | 電球 | や項 | |
| | | 地方呼名 | 一般的呼名 |
| ま項 | | やどい | 〇〇〇 |
| 地方呼名 | 一般的呼名 | やあぐど | わざと |
| まっけいす | 煙に巻く | やどこ | 家のふしん |
| まくり | 廊下 | やつこ | 男の子 |
| | | やぐだり | わざと |
| み項 | | やまのげいす | やまかかし |
| 地方呼名 | 一般的呼名 | やんたあ | いやだ |
| みな口 | 田の水の取口 | | |
| みぐさい | 見た目がよくない | ゆ項 | |
| みだぐねい | 〃 | 地方呼名 | 一般的呼名 |
| | | ゆるくない | 楽でない 余命がない |
| む項 | | ゆき ちようま | つぐみ |
| 地方呼名 | 一般的呼名 | | |
| むぞい | 可愛想う | よ項 | |
| | | 地方呼名 | 一般的呼名 |
| め項 | | よっぱらさっぱら | 何もかも十分に |
| 地方呼名 | 一般的呼名 | | |

4 談話資料

【大槌町の伝承および地名に関する考証】

話し手

A 男 1945 (昭和 20) 年 (収録時 67 歳)

B 男 1931 (昭和 6) 年 (収録時 82 歳)

001A : マー ソノー ツジノハナシワ ツジノハナシドシテ。 アノー、 ベツナ
まあ その 「土」の話は 「土」の話として。 あの、 別に

ムガシガラ イワレテイルノンデ、 コビョー。

昔から 言われているもので、 古廟。

002B : ウン、 コビョー。

うん、 古廟。

003A : ネ、 コビョーノドコカラ アノー ニワトリオ コビョーニ ハナシタラ、
ね、 古廟の所から あの 鶏を 古廟に 放したら、

アノー オイシノフジンドゴカラ デテキタチューナハナシ、

あの 大石の淵の所から 出てきたというような話、

キータコトナイ。

聞いたことない。

004B : コビョーフ キーダコトワ ナイナー ンー。 アノー ヒトツ コレワ
古廟は 聞いたことは ないな。 うん。 あの 一つ これは

アノー カネザワノ アノー フカワダ。

あの 金沢の あの 深渡。

005A : アー フカワダリ。

ああ 深渡。

006B : フカワダネ。 アソコニモ アノ イワノ ドーロノホドリニ アナカ°

深渡だね。 あそこにも あの 岩の 道路のほとりに 穴が

アッタモンダス。 アソコサヤッタノカ°、 ヤマダノセキグチエ。

あったもんです。 あそこに入れたのが、 山田の関口へ。

(A サ ヌゲダッテネ。) デタトユーゴト。 ソレカラ アトワ

(A [関口] へ抜けたってね。) 出たということ。 それから あとは

モーヒトツ ソノー イマノー アレナ、 コンド フケ° ツ、

もう一つ その 今の あれな、 今度 風月、

フケ° ツッテユートコロネ。 (A ダカラ {笑}) アソコノ

風月っていう所ね。 (A だから {笑})。あそのこの

ヘビアナカ° ズット アノー ムコーエ ツナカ° ッテラト、

蛇穴が ずっと あの 向こうへ つながっていたと、

ユークトノ デンセツカ° アッテ。 ソシテ アノ フケ° ツンドコロ

いうことの 伝説があつて。 そして あの 風月の所 [に]

イッテカラ コー、 カーブヤッテ イチノアタリデショー。

行ってから こう、 カーブを過ぎて 一渡でしょう。

アソコノハナオ。 ハナッテイエバ アノー ヤマノ (A ウン ヤマノ

あそこの端を。 端っていえば、 あの 山の (A うん 山の

ハナネ。) ヤマノハナ。 イッタツノハナッテユー ツケーナンダ
端ね。) 山の端。 「いったつの端」という 地形なんだ

アソコワ。

あそこは。

007A : ナンダ イッタツッテユーノワ。

何だ 「いったつ」 っていうのは。

008B : ヒトツノタツ。

一つの龍。

009A : ア、 イチ ヒトツタツネ。

あ、 一 一つ龍ね。

010B : ウン。 ヒトツ、 イツ イツタツ。

うん。 一つ、 ×× 一龍。

011A : イチノ (B イツ) リュー、 リューネ。

一の (B 一) 龍、 龍ね。

012B : ウン イツ ウン イツリューノハナト。 ハナトイエバ、 アノー ヤマノ

うん 一 うん 一龍の端と。 端と言え、 あの 山の

コノ サキツパスノコト。 (A ヤマノサキツパシノコトダカラ。)

この 先っ端しのこと。 (A 山の先っ端しのことだから。)

アソコオ イッタツノハナトユーンデス。 (A アー。) ウン。

あそこを 一龍の端と言うんです。 (A ああ。) うん。

イマデモネ。 イマ ハツデンショカ° アッタアトノ スク°
今でもね。 今 発電所が あったあとの すぐ

カミカタノ アノ カーブ。 (A カーブ。) アソコカ°
上方の あの カーブ。 (A カーブ。) あそこが

イッタツノハナ。 ソレカ° イワレテ アソコノ スク° スタニモ
一龍の端。 それが いわれで あそこの すぐ下にも

ヘビノアナダテ アッタモンダ。 ウン。
蛇の穴だと [言われる穴が] あったもんだ。 うん。

013A : ソノ フケ° ツジャナイケド タイシタ フーリユーナ ナマエダヨナ。
その 風月じゃないけど たいした 風流な 名前だよな。

ンー リンドーノ フケ° ツリンドー。 (B ウン、フケ° ツネ。)
うん 林道の 風月林道。 (B うん、風月ね。)

カゼノツキト カクノナ。 トコロガ トンデモネー ハナシダナー。
風の月と 書くのな。 ところが とんでもない 話だな。

カゼノツキトコロノハナ、 コノマエ。
風の月のところの話では・・・、この前・・・。

014B : ンダカラ ソノ フケ° ツノネ、 アソコノ シモフケ° ツ、カミケ° ツト
だから その 風月のね、 あそこの 下風月、 上月と

アルンダケレドモ、 シモフケ° ツノホーニワネ、 タキカ°

あるんだけど、 下風月の方にはね、 滝が

アルンデスヨ。 サワガラネ。 マー ミズワ ナイカラダケド、
あるんですよ。 沢からね。 まあ 水は ないからだけど、

ミズカ° アッタラ リッパナタキナノ。
水が あったら 立派な滝なの。

015A : ウン ソーダンダベネ。 ウン。
うん そうなんだろうね。 うん。

016B : アノー ケコ° シノタキニ ニテルトイッタタキナノ。 シダケドモ
あの 華巖の滝に 似てるといった滝なの。 だけれども

イマデワ ミエナイケドモ オーミズカ° デレバ ミエルワケダ。
今では 見えないけれども 大水が 出れば 見えるわけだ。

ウン。 (A デンダ。) タキカ° ネ。
うん。 (A 出るんだ。) 滝がね。

017A : コノマエ シダカラ ココノドギニネ、 ゼンコクバンニ コレサ
この前 だから この時にね、 全国版に これが

デタトギニサ。 (B ウン。 マズ ソーイウコト。) アーリャ スコ°
出た時にさ。 (B うん。 まず そういうこと。) あれは ××

スケ° ーナ、 トンデモナイ、 ヨル ネラレナカッタッテ。 アノー
すごいな、 とんでもない、 夜 寝られなかったって。 あの

カセツノ レンチューカ° アノー タギノオドデ。

仮設〔住宅〕の連中が あの 滝の音で。

018B : ココカ° コッタキトユーンダヨ。 ソシテ。 (A コッチカ°
ここが 小滝というんだよ。 そして。 (A こっちが

コッタキダネ。) コッタキネ。 (A ソノ サキノホーナ。) ウン
小滝だね。) 小滝ね。 (A その先の方な。) うん

ウン。 ンダカラ タマタマ チケーガラ ユーッテルロンデネ、 ココワー
うん。 だから たまたま 地形柄で 言っているんだけどね、ここは

カナスキボー。 ソシテ ムカスノ カジヤノ ハッショーツ。 ンー、
金敷房。 そして 昔の 鍛冶屋の 発祥地。 うん、

ソーユークトナンデス。

そういうことなんです。

019A : ウーン、 ソレガラー、 ソレコソ アノー シンヤマ アタラシヤマト
うーん、 それから、 それこそ あの 新山、 新しい山と

カクカ°、 アレワー シン イツコ° ロカラ アノ シンヤマツ
書くが、 あれは ×× いつごろから あの 新山という

メーショーニ ナッタンダベナ。 ドーナンダベナ。 アタシーツゴドワ
名称になったんだろうな。 どうなんだろうな。 新しいということは

アタラシーヨーナ カンジナンダカ°、 ムカシカラ アタラシーヤマネ、
新しいような 感じなんだが、 昔から 新しい山ね、

アレ。

あれ。

020B : マー ンダガラ マー ソーユノモネ、 コレナ カガッテルケレドモネ、
まあ だがら まあ そういうのもね、これが かかっているけれどもね、

ドーユーフーニ ナッタカラ ワカラナインダケドモネ、
どういうふうになつたから [か] わからないんだけれどもね、

シンヤマツユーノワネ、 アレデスネ。 アノー。
新山というのはね、 あれですね。 あの。

021A : ソレコソー カミヘーノ、 トーノ、 カマイシ、 オーズチ、 カマイシ、
それこそ、 上閉伊野 遠野、 釜石、 大釜、 釜石、

トーノノ ミツツノ ネ ニ カコマレタ、 アソコニ ヤマガ、 ソコサ
遠野の 三つ × × に 囲まれた、 あそこに 山が、 そこに

ミツツアル。 ワヤマ、 シンヤマ。
三つある。 和山、 新山。

022B : トモカク アノー ココラヘンワ ソレ、 アノー アイヌノカンケーカ°
ともかく、あの この辺りは それ、 あの アイヌの関係が

ツヨイガラ、 スベデ ソノ アイヌコ° オ ゲンダイコ° ニ
強いから、 全て その アイヌ語を 現代語に

モズッタヨーナノカ° ナッテルワケダヨネ。 (A マア、チョード
文字ったようなのが なっているわけだよね。 (A まあ、ちょうど

キリキリノ ハナシド オンナジダナ。) ンダカラ アノー

吉里吉里の 話と 同じだな。) だから、 あの

ダイドーネンカンデ ココラヘンノ テツノハッショージキダト
大同年間で、 この辺りの 鉄の発祥地だと

ユーンダケレドモ、 ソノコロカラ シンヤマト ヒョーク° ンワ
言うんだけど、 その頃から、 新山という 表現は

ツカッテルモンネ。 (A ツカッテルト。) ウン。 アイヌコ° ノ
使っているもんね。 (A 使っていると。) うん。 アイヌ語の

アイヌコ° デ ソレ。 コノ ワラビウチナモネ、 ワラビウチナト
アイヌ語で それ。 この 蕨打直もね、 蕨打直と

ユードモ、 コレワ アイヌ アイヌコ° オモジッタ チーキナンデスヨ。
いうけれども、これは×××アイヌ語を文字った 地域なんですよ。

ナンダッケ、ワルン ワルンピ・ウシ・ナイ ウシナウトカネ、
なんだっけ、ワルン 「わるんぴ・うし・ない」 うしなうとかね、

ソーユーノガ ソノー ワラビウチナト ユンダドモ。 ナンダカデワネ、
そういうのが その 蕨打直と いうんだけど。なんだかではね、

ワラビノ ハエルサワト ソレノ アイヌコ° ナンダデ。 ソレ
「蕨の 生える沢」と、その アイヌ語 なんだって。それ

ワルンピ・ウシ・ナイトガテユーネ、 アイヌコ° カ° ナマッテ
「わるんぴ・うし・ない」とかいうね、アイヌ語が 訛って

ワラビウチナトユーノニ ナッテルンダッケ。 ンダッケドモ

蕨打直という名前に なってるんだよ。 だけれども、

コゴラヘンノ イッパンテキナ ゾクショーノナガデワ、 アノー
この辺りの 一般的な 俗称の中では、 あの

オーズツノ ソノー ジダイ、 アノー トーノノ ヨコダダガノ。
大槌の その 時代、 あの 遠野の 横田だかの。

(A ヨコダジョーノ。) ヨコダジョーノカンケー、 ソレカラ

(A 横田城の。) 横田城の関係、 それから

モリオカノ ナンブノジョーダイ、ナンブノトノサマカ° ココノ ズット
盛岡の 南部の城代、 南部の殿様が この ズっと

コレワ ムカシカラ シオノミツデトータガラ、 トチューデ
これは 昔から 塩の道で通ったから、 途中で

コノブラクノヒトダズカ° カワラ カワデ ワラビオウッテルナ
この部落の人達が 川原 川で 蕨を打っているな

ウッテランダト。 ソーシタラ ナンブノトノサマカ° トーッテキテ
打っていたんだと。そうしたら 南部の殿様が 通って来て

ナニオヤッテンデスカト。 マー コトバデイエバネ、
「何をやっているんですか」と。まあ 言葉で言えばね、

ワラビオウッテルネ、 ワラビオウッテルネテ イッタンダッテ。
「蕨を打っているね」、「蕨を打っているね」と 言ったんだそうだ。

ンダドモ ソレ、ブラグノヒトダズワ トノサマガラ イワレタカラ

だけれどもそれ、部落の人達は 殿様から 言われたから

アダマ サパットキテカラ、 ナニキカレタカワガンネ。 ソシテ
頭に血がのぼってのぼせていたから、何聞かれたかわからない。 そして

トノサマカ° イッテシマッテカラ、 イマ トノサマワ ナニ
殿様が 行ってしまってから、「今 殿様は 何を

シャベッテイッタト コーナッタラシインダヨ。 ソスタラ ホラ、
しゃべっていった」と こうなったらしいんだよ。 そしたら ほら、

イヤ、 ワラビオウッテイルネテユーノワ フツノコトバダドモ、
いや、「蕨を打っているね」というのは 普通の言葉だけれども、

ワラビウッテンナト シャベッタト。 ココラヘンデモ イウンデス。
「蕨打ってんな」と しゃべったと。 この辺りでも 言うんです。

ナニスッタナ。 ウッテルネデナクネ、 ナニハタゲスコ° トスッタナ
「何すったな」。「打っているね」ではなくてね、「何、畑仕事していたな」

ドカネ。 (A ウン) ムキ° マギスッタナテユーノンノ、
とかね。 (A うん。)「麦まきしていたな」というものの、

ソノコトバダ トノサマワ ワラビオウッテルネッテユー テーネーナ
その言葉で 殿様は 「蕨を打っているね」という 丁寧な

コトバダ イッタトオモ。 キグホーデワ キンチョーシテッカラ
言葉で 言ったと思う。 聞く方では 緊張しているから

ナニシャベッタカ ワガラネ。 アドガラ ブラクノヒトタツワ、 エマ

何をしゃべったか わからない。あとから 部落の人達は、 「今

トノサマ ナニオシャベッテッタ、 ワラビウッテンナト
殿様 何をしゃべっていった、「蕨打ってんな」と

シャベッテッタド。 トユーゴドガラ ワラビウチナト。 ソシテ
しゃべっていったと。ということから 「蕨打直」と。 そして

ウチナオシタトユーコトデ、 ワラビウチナニナッテンダケドモ、
打ち直したということで、 蕨打直になっているんだけど、

コレワ ホントワ サマザマナ ツクリバナシ。
これは 本当は 様々な 作り話。

023A : マー ワカ°ンナイコトワ イッパイダナ。
まあ 解らないことは 一杯だな。

024B : ウン。 ソーソー。
うん。 そうそう。

025A : オレカ°ー トショリカラ キーテルノンデワ、 ワラビノネオネ、
おれが 年寄りから 聞いているものでは、蕨の根をね、

(B ウン) ホッテネ、 ソレカラ デンプンニ。 イマイエバ

(B うん) 掘ってね、 それから デンプンに。 今で言えば

デンプンダネ。 ソーヤッテ タベルヒツヨーノナイグライ コゴ
デンプンだね。 そうやって 食べる必要のないぐらい ここ [は]

ヒアタリモイーシネ、 モノモトレルトネ カネモチガ オーイトコダトネ、

日当たりもいいしね、物も採れるとね 金持ちが 多い所だとね、

ソー キーテルンダヨ。

そう 聞いているんだよ。

026B : ソレワ カネモチカ° オーイグナイノ。 ソレオユーノデアレバ
それは 金持ちが 多くないの。 それを言うのであれば

ココニワネ、 カネザワノホーノブラクト、コズツド、ハスノノ、ミッツノ
ここにはね、 金沢の方の部落と、 小鎚と、 橋野の、 三つの

ツイーギ アルノ。 コノコズツカ° ビンボーブラク。
地域があるの。 この小鎚が 貧乏部落。

(A アー ソーカ。) カネザワノホーモ ユーフグ、 ハシノノホーモ
(A ああ そうか。) 金沢の方も 裕福、 橋野の方も

ユーフグ、コズツワ ビンボーブラグ。 ナニシテ ビンボーダガッツー
裕福、 小鎚は 貧乏部落。 どうして 貧乏だかという

ハナシワ アル。 コノシンヤマニ ビンボーナガレツズヤマ アンダ。
話は ある。 この新山に 貧乏長嶺という山が あるんだ。

027A : ハー、 ソレ ヤマワ ナニ、 サキカ、 ソレトモ フモト。
はあ、 それ 山は 何、 先か、 それとも 麓。

028B : アノ シンヤマサ シンヤマノチョージョーサ ノボッテグトゴノ
あの 新山に 新山の頂上に 登っていく所の

ヒダリカワ。 アノ・・・。

左側。 あの・・・。

029A : ムガッテヒダリ、 ソレトモ ムガッテミキ°。
向かって左、 それとも 向かって右。

030B : シンヤマサ ノボルトジューノ ヒダリカワノヤマ、 アレワ
新山に 登る途中の 左側の山、 あれは

ビンボーナカ° レッテ シャベンノ。 (A ハー。) ソノ
貧乏長嶺と 言うの。 (A は一。) その

ビンボーナカ° レカラ ナカ° レルミズワ ココサキテイルワケダ。
貧乏長嶺から流れる水は [銭無沢を通過] ここ [=小鎗] に来ているわけだ。

(A ウーン。{笑}) ソレデ、 ビンボーナカ° レガラ ナガレルミズオ
(A うーん。{笑}) それで、 貧乏長嶺から 流れる水を

ノンデルガラ コズツノヒトダツワ ミンナ ビンボーダト。
飲んでいるから 小鎗の人達は 皆 貧乏だと。

(A カネモチニ ナレネートカ。{笑}。ナルホド。) ウン。 ダカラ、
(A 金持ちになれないとか。{笑}。なるほど。) うん。 だから、

カネザワノホーニモ ザイバツカ° イルシ、 ウノスマイ ハシノニモ
金沢の方にも 財閥が いるし、 鶯住居 橋野にも

ザイバツワ イッドモ、 ココニワ ザイバツワ ナイト。
財閥は 居るけれども、 ここには 財閥は ないと。

031A : モチロンネ、 カネザワットユーヨーナチメイカ° キンカ° トレタカラ

もちろんね、 金沢というような地名が 金が 採れたから

カネザワカラダモン。

金沢だからだもん。

032B : コゴワ ソノー ヤマカラデテクル コノミズ、 コノコズツカ° ワノ
ここは その 山から出てくる この水、 小鍬川の

ゲンセンワ、 ビンボーナカ° レツウ ビンボーナカ° レノ ヤマガラ
源泉は、 貧乏長嶺という 貧乏長嶺の 山から

デテキテルワケ。 ダカラ ソノミズ ノンデツカラ コズツノヒドダツワ
出て来ているわけ。だから その水 飲んでいるから小鍬の人達は

ビンボーダッテ、 オラワ オシエラレタナ。
貧乏だって、 俺は 教えられたな。

033A : マー ソコワ オタカ° イニ ソレワナ。 {笑}。 ケンソンシテ
まあそこは お互いに それはな。 {笑}。 謙遜して

イッテルコツダカラ、 ソレディー。 {笑}。
言ってることだから、 それでいい。 {笑}。

034B : マー ソーユーセツワ アルネ、 ビンボーナカ° レ。 トーゼン、
まあそういう説は あるね、 貧乏長嶺。 当然、

ビンボーナカ° レツテ アルモノ。 ウン。
貧乏長嶺って あるもの。 うん。

035A : ソレガラサ、 コノサキーノ フジワラサンドコノウチ、 アノツテカ、

それからさ、この先の、藤原さんの所の家、あの先の山は、

ゴホンマツツトユーチメイナ。(B ゴホンマツ、ハイハイ。) ア
五本松という地名な。(B 五本松、はいはい。) ×

アレワ ヤッパリ ナニガー ムカシカラーネ、アノー オッキナ
あれは やっぱり 何か 昔からね、あの 大きな

マツノキカ° アッタガナイカ シタカラナノカナ。
松の木が あったかないか したからなのかな。

036B : ハイハイ。ハイ。ソシテ ゴホンマツツツーノワネ、コノコズツト、
はいはい。はい。そして 五本松というのはね、この小鎚と、

アノー アツツノ タネドザカノホーワ アノー ハシノノホーノ
あの [釜石の栗林を結び] あっちの種戸坂の方は あの 橋野の方の

ヨコウチ、ワヤマ、ソレカラ サカイギツーノ トーッテ トーノサ
横内、和山、それから 境木というのを 通って 遠野に

イッタミチ、ワヤマノホーネ。(A ワヤマノホーネ。) コッチワ
行った道、和山の方ね。(A 和山の方ね。) こっちは

サワダ。(A ウン サワダ。) サワダッテユーノネ。
沢田。(A うん 沢田。) 沢田っていうのね。

(A サワダノ・・・。) クリバヤシ。(A クリバヤシノホーノ。)
(A 沢田の・・・。) 栗林。(A 栗林の方の。)

クリバヤシニ イグノニ アノ イチノワタリノ アノー

栗林に 行くのに あの 一の渡りの あの

ハシオワタッテ、 アノ サワアカ° ッテッテ
橋を渡って、 あの 沢を上がって行って

ゴホンマツトーケ° ツーノオ コエテ エッタモンナンダ。 タシカニ
五本松峠というのを 越えて 行ったもんなんだ。 確かに

トーケ° ニワ マツ アッタノ。 ソシテ イマワ アノー リンドーカ°
峠には 松が あったの。 そして 今は 林道が

トーッテネ。 (A リンドー トーッテ。) イルケド、 ムガシワ
通ってね。 (A 林道通って。) [通って] いるけど、 昔は

ソンナドーロデナカッタノ。 ウン。
そんな道路でなかったの。 うん。

037A : ンジャー ソノー ドーロナンテイッタッタッテ、 マ カッテニー
じゃあ その 道路なんて言っていたって、 まあ勝手に

ヒトカ° チヤントツクッタ ドーロジャナイ。 ソノー。
人が ちゃんと作った 道路じゃない。 その。

(B ウンウン。 ソウソウ。) ウマオー ヒーダ、
(B うんうん。 そうそう。) 馬を 引いたり、

ベゴオヒーダリシテネ、 ノイッタアドンノンガ ドーロニ ケモノミチサ
牛を引いたりしてね、 といったあと×××が 道路に 獣道に

プラスアルファミタイナカタチデ デキタンダナ。

プラスアルファみたいな形で 出来たんだな。

038B : ソーソー。 オラカ° アノー ショーカ° ツコーコロネ、
そうそう。 俺が あの 小学校の頃ね、

エンソクツーノアレバネ、 クリバヤシノホーサ イグノ アノヤマオ
遠足というものがあればね、栗林の方に 行くの あの山を

コエタモンダレバ。 ソレカラ アトワ イマ コノ ソネノマエノカワラ、
越えたもんだよ。 それから あとは 今 この 曾根の前の川原、

コゴワ アノ タンボニナッテ イマ アノ カセツカ°
ここは あの 田んぼになって 今 あの 仮設 [住宅] が

タツテイルケドモ、 ソネカ° ワラッテイッテ ヒロイカワラダッタノ。
建っているけれども、曾根川原と言って 広い川原だったの。

(A カワラニナッテイタノ。) カワラダッタノ。 マズカ° ハエテ
(A 川原になっていたの。) 川原だったの。 松が 生えて

ソシテ キノコ ハツタケ トツタリネ、 ソレガラ アノー
そして 茸 初茸 採ったりね、 それから あの

ハルニナレバ オニムストツタリ。 アドワ ココワ
春になれば 鬼虫 [=くわがた] 捕ったり。 あとは ここは

オニウチカワラト イッタノ。 ココカ° ネ。
鬼打川原と 言ったの。 ここがね。

039A : ンダカラ オニウチガラ ハジメテ オレモ コッチエキテガラ、

だから 鬼打から 初めて 俺も こっちへ来てから、

カセツニハイッテガラ、 マー ジューショカゲッテ、 {笑} ソノトキ。
仮設 [住宅] に入ってから、まあ住所を書けて、 {笑} その時。

ソーダツゴドデ・・・、
そうだということ・・・、

040B : ジワリバンチニ ナオシタガラ コレ ジューハチジチワリカ
地割番地に直したから これ 十八地割か

ココワネ。
ここはね。

041A : エー ジューロクチワリ。
ええ 十六地割。

042B : ジューロクカ。 ウン。 ジューナナワ ムゴードネ。 ココワ
十六か。 うん。 十七は 向こうでね。 ここは

ソーユウワケデ ゴホンマツツノワ ソーダッタノ。 ダドモ
そういうわけで 五本松というのは [育った] そうだったの。だけれども

ムカシワネ、 コノー タイショーズダイナンデスヨ イマノ コノ
昔はね、 この 大正時代なんですよ 今の この

チョードーツノカ° デダノカ° 。 ムカシワ アノー カワノキスオ
町道というのが 出来たのが。 昔は あの 川の岸を

ワタッタリ アノ ヤッテ、 コー トーッタドーロダカラ ソノ

渡ったり あの やって、 こう 通った道路だから その

ソネマエカ° ワラッテユー、 アノ イマノカワラノ、
曾根前川原っていう、 あの 今の川原の、

オタクサンタズカ° ミセダシタ ソノ ウラノ、 アソコカラ ムカイニ
お宅さんたちが 店を出した その 裏の、 あそこから 向かいに

イワイザワツノー アンダ。 イワイザワ。
岩井沢というのが あんだ。 岩井沢。

043A : アノ クマ、 クマ コノマエモ デダードゴガナ。
あの 熊、 熊 この前も 出た所かな。

044B : ウン イワイザワ。 アソコノ ワタリダッタワケダ、 イタバシデ。
うん 岩井沢。 あそのの 渡りだったわけだ、 板橋で。

ソシテ イマノ ナカムラブラグオトーッテ ヤマキ° シオヌゲテ。
そして 今の 中村部落を通して 山岸を抜けて。

(A ヌゲデ。) サンマイドーエヌゲテ コー イッタモンダ。
(A 抜けて。) 三枚堂へ抜けて こう 行ったもんだ。

ンダカラ トーズノヤツワネ、 ホントニ タイショージダイニ
だから 当時のやつはね、 本当に 大正時代に

ナッテカラ コンナドーロカ° デダンダ。 ムカシワ ドーロモ
なってから こんな道路が 出来たんだ。昔は 道路も

カワノホトリオ ポンポンポンポン ハネテ。

川のほとりを ぽんぽんぽんぽん 跳ねて。

045A : ソーナンダベネ。 イマミタイニ チャントー ドーロ
そうなんだろうね。今みたいに ちゃんと 道路を

ツクッタワゲデネーガラ。

作ったわけではないから。

046B : ソーソーソー、 ウン。 ソーユーワケデネ。
そうそうそう、 うん。 そういうわけだね。

5 言語意識

本調査では、別項に掲げるような談話収集の中で方言使用に関する話題にも触れ、大槌町の実態やそれに対する人々の評価・意識等を対話形式で尋ねている(60～80歳代の男女)。

それらからは、おおよそ「嫁や孫の手前、方言と共通語は使い分けるように心がけて」おり、必然的に「方言使用は以前よりも減ってきている(ただしそのことと今回の震災とは直接には関係しない)」と実感されていること、しかし一方で「方言ならではのよさ」は自得しており、「それらを後世に残したい」、「捨ててはもったいない」、「若い世代にも使ってもらいたい」との本意があることがうかがえる。それと同時に、方言使用の効用として「気持ちが出る」、「心がこもる」、「力が入る」、「自分はここの者だという証になる」といった点が積極的に意識されていることもわかる。

一方、震災後の方言使用に関しては、「他地域との言葉の違いがより敏感に感じられるようになった」こと、「方言を通じて同じ言葉(同じ地域の人間)であることを自然と確かめ合うようになっている」こと、その意味ではむしろ「方言を意識する機会が以前よりも増えている面がある」ことが実感されている。また震災時に現地入りしたボランティアとの会話については、「共通語による対応を心がけている」とする反面、「むしろ苦労するのは現地入りしたボランティアの方々の方なのではないか」といった配慮のあることがうかがえる。

談話資料：釜石市(1)

津波から生き残るために

—両石地区—

竹田晃子

1. 調査概要

話者は、D：瀬戸 ^{はじめ}元さん（男性 1945 年生）と、K：北村弘子さん（女性）、収録日時は 2012 年 9 月 20 日午後、録音場所は宝来館（岩手県釜石市鶴住居町）である。調査者は、X：大野眞男（岩手大学教育学部）、Y：小島聡子（岩手大学人文社会学部）、Z：竹田晃子（国立国語研究所）である。

調査と録音は大野・小島・竹田の共同で行った。録音の文字起こし・共通語訳は草稿をアルバイトに依頼し、談話資料としての取りまとめは竹田が担当した。

2. 談話の概要

瀬戸元さんは、両石町内会、両石町復興促進協議会、釜石市文化財保護審議会委員のほか、津波防災・両石町の津浪を語る会の主宰を務める方で、これまで、両石地区を中心に、津波防災の研究を進めてきた津波防災研究者でもある。

2011 年 3 月 11 日、午後 14 時半過ぎ、瀬戸さんは両石湾の棧橋に腹ばいになり、二日前の地震をふまえて次に来る津波の高さこそは測ろうと、棧橋に計測器を仕掛けていたところだったという。その棧橋で大地震を体験した。直後、近所に避難を呼びかけ、ビデオカメラとバッテリーを持って山の上に駆け上り、避難した人たちと一緒に、雪の降る中、両石地区が壊滅状態になっていくさまを目撃した。撮影された映像は各放送局に引用された。

今回の談話は、我々による依頼内容（津波のご体験を教えてください）と、瀬戸さんご自身が研究していらっしゃるさまざまな事柄と、意識調査の 3 点となった。

本稿には、瀬戸さんのご研究をご教示いただいた場面を収録する。

紙幅の都合で割愛した部分は、次のような内容である。瀬戸さんのご体験や調査に基づくお話は示唆に富んでおり、これからの三陸の防災計画に十分に生かさなければならぬ内容ばかりである。

- ・「津波てんでんこ」という言葉が、三陸には古くから存在していて、伝承されていると言われていたが、これは平成 2（1990）年に新聞記者によって広められた言葉である。古くから「命てんでんこ」はあったが、「津波てんでんこ」は伝承ではない。詳しくは山下文男『近代日本の津波史—津波てんでんこ—』参照。

- ・碑文に残されている内容は、遺言的教訓が多い。他の地域では「家」「財産」を守るための内容や、「津波到達」などの記念碑的な内容もある。
- ・碑文や古文書は、漢文や漢文体、擬古文などで書かれていることが多く、現代では、普通の人には全く読めない。これでは、「記録」があっても意味がない。伝承されるわけもない。
- ・津波について研究してきたが、非常時でもないのに津波のことを調べているような者は、この地域では「効能きり」（いわゆる「怠け者」）と呼ばれ、常日頃から馬鹿にされていた。
- ・震災後、「三陸には教訓が伝承されていた」とか、「教訓が風化した」などと報道していたが、そもそも伝承のようなものはなかった。伝承がないのだから「風化」も起こりようがない。

当日は、津波について、ご自身がワープロを打ったり写真を撮ったりして作成なされた分厚いファイルをご持参くださった。時間の都合があり、残念ながら調査当日に全てを拝見することはできなかったが、瀬戸さんのご研究が、釜石市にとって何ものにも代えがたい重要なものであることはまちがいない。

3. 談話の言語的特徴

ごく簡単に特徴を述べる。方言的特徴として、俚言や文法表現に少しと、音韻と韻律に特徴がみられた。母音のうち、イとエが若干近く、ウが中舌的である。カ行・タ行の有声化と共に、ガ行鼻濁音が散見される。特に助詞の「が」には鼻濁音カ^oが使われている。推量の「ゴッタ」が用いられている(104)。

共通語の「もう」に相当する副詞ハが多用されている(モーハー／ハーモー：108, 124, 215, ハー：124, 176)。ハまたはワは東北地方に広く分布しているが、山形県では文末の終助詞ハとして使われており、宮城県でも同様に文末の終助詞ワとして使われている。当地より以北では、文末よりも文節の合間に用いられる副詞的用法が中心である。

4. 談話

文字化は、原則としてカタカナ表記と文節による分かち書きで行った。表の左に発話番号、次に方言の文字化、右に対応する共通語訳を逐語訳として掲載した。発話番号は実際には001から422までであるが、ここでは087-298を掲載した。

話者の記号は1. 調査の概要を参照されたい。瀬戸さんの発話内容を中心に、他の人の発話は()に入れて示した。質問は、主に小島が担当した。

カタカナにできない部分については、次のように表記した。

- × 言い間違いや言いよどみ
- * 聞き取れない部分
- / 共通語訳が付けられない部分
- [] 共通語訳の際に補った部分
- {笑} 笑い声
- | | 共通語訳以外の補足情報

| 発話 番号 | 発話の文字化 | 共通語訳 |
|----------|--|---|
| 087 | (Z: ジシン, ジシンの トキ ドコニ イマシタ?) (X: ウーン) ワダシワ ジシン ナッタ ドギニワネ, エート カイメン カラ イチメーターノ トゴニ イマシタ (Y: アレ マ) (Z: フネ ーニー ノッテテ?) いや, サンバシ ニ ハラバイン ナッテマシタ。 (Y: ホ ー) (Z: ナンデ マタ {笑} ナン デ マタ ハラバイニ) | (Z: 地震, 地震の 時 [は] どこに いました?) (X: ううん) 私は 地 震 [に] なった 時にはね, ええと 海 面 から 1mの ところに いました (Y: あれ まあ) (Z: 船に 乗っ ていて?) いや, 栈橋に 腹ばいにな ってました。 (Y: ほう) (Z: ど うして また {笑} どうして また 腹 ばいに) |
| 088 | ンー サッキノ ソノ サンバシ ッテ ユーノワ チョード ソノー オ, ムガ シノ ソノ テッコセキ° オネ? (X: ウーン) (Y: ウーン) ツミダ シタ サンバシ ナノデスカ° ネ? (Z: ウーン ウン ウン) (X: ウー ン) | うん さっきの その 栈橋 というのは ちょうど その ×, 昔の その × 鉄鉱石をね? (X: ううん) (Y: う うん) 積み出した 栈橋 なのですが ね? (Z: ううん うん うん) (X: ううん) |
| 089 | フツカ マエニー ツナミカ° アツタン デスヨ, (Y: アー ジシン) ジシ ンカ° アッテ。 (Y: アリマシタヨネ? ウーン) (Z: ウーン ウン ウン ウ ン ウン ウン) | 2日 前に 津波が あったんですよ, (Y: ああ 地震) 地震が あって。 (Y: ありましたよね? ううん) (Z: ううん うん うん うん うん うん) |
| 090 | デー, ソドギモー オフナドカ° ー ツ ナミカ° ログジュッセンチ, (Y: ウ ン) ソイカラ アト カマイシカ° ヨ ンジュッセンチ, (Y: ウン ウン ウ ン) イズモ ホカ° ノ ミナト ヨリモ ワカ° ナンデ リューイシカ° ツナミ カ° タカ° イノカ° クルノカナッ? (Y: ウーン ウン ウン ウン) ア, ビデオモ トッテマスクドモネ? (Y: ウーウーン) | それで, その 時も 大船渡が 津波が 60センチ, (Y: うん) それから ほ か [に] 釜石が 40センチ, (Y: うん うん うん) いつも ほかの 港 よりも 我が なんて 両石が 津波が 高いのが 来るのかな? (Y: ううん う ん うん うん) × ビデオも 撮って いますけれどもね? (Y: ううん) |
| 091 | ソイデ モッテー ヨシ, コンドア キ タラバ ゼーッテ コドシワ ツナミカ° クルッテ ユー カクシンカ° アリマス カラネ? (Y: ウーン ウン ウン ウ ン ウーン) ソイデ モッテー アノー ア, ソジャアー ウーン コンドア キタ ラバ アノー ハカ° ッテ ヤロー ト | それで もって 「よし, 今度は [津 波が] 来たらば 絶対」 今年は 津波が 来るって いう 確信が ありますから ね? (Y: ううん うん うん うん う うん) それで もって あの × では ううん 「今度は 来たらば 測って や ろう」 という ところで もって, そ |

| | | |
|-----|---|---|
| | <p>ユー ドコ° ロデ モッテ, ソノー サ ンメーターノー ツナミポー ツグッテ, (Y: ウーン ウン ウン) チョーイキ ューオ ツグッテ, ソレオ サンバシ ク, ユウェ ツケデ オッタデスヨ (Y: ハーアー) (Z: デ, ジシंगा) ハラバイソ ナッテ (Z: キタンデスカ?) ソー。</p> | <p>の3mの 津波棒 作って, (Y: うう ん うん うん) 潮位きゅう =自作の計 測器 =を 作って, それを 栈橋に ×, 結わえ つけて おったんですよ (Y: はあ) (Z: で, 地震が) 腹ばいにな って (Z: 来たんですか?) そう。</p> |
| 092 | <p>チョードー サイコ° ニ コノ ユウェ ツケ オワッタ ドギニ, ツナミカ° キタンデスヨ アー ジシंगा° キタ ワゲデスヨ。 (Y: アーアー)</p> | <p>ちょうど 最後に この 結わえつけ 終 わった 時に, 津波が きたんですよ ああ 地震が きた わけですよ。 (Y: ああ ああ)</p> |
| 093 | <p>オウー マー メノ マエデー, モー, コザカナカ° トビアカ° ル ヨニ ボン ボン ボンボン ド ナルワゲデスヨ ネ? アノー (Y: アー) オーキナ ネ? ドシャブリソ ナッタ ドキワ コ ー ヨグ ミズカ° コー ハネルデシ ョ? (Y: ウーン ウン) アーユ フ ナ ジョーター 「バアーアツ」 ト, ドージニ ソレカ° ネ? モー ウコ° イ ダンデスヨ オギニ (Z: ミズガ?) ウ ン, ウミカ° (YZ: ハーアーアー) イママデノ タイケンノ ナイ ゴド デ スヨネ? アッ (Y: アノ ハネテルマ マ, コー ブッワー ッテ) ソー ソ ー ソー ソー。</p> | <p>もう まあ 目の 前で, もう, 小魚 が 飛び上がる ように ボンボン ボン ボンボン と なる わけ ですよ? あの (Y: ああ) 大きな ね? どし ゃ降りになった 時は こう よく 水 が こう はねるでしょ? (Y: ううん うん) ああいうような 状態, バァー ツと, 同時に それが ね? もう 動 いたんですよ 沖に (Z: 水が?) う ん, 海が (YZ: はあ) 今までの 体 験の ない こと ですよ? あっ (Y: あの [水が] はねるまま, こう ブワーッて) そう そう そう そう。</p> |
| 094 | <p>デスカラネ? マー トージ ソノ ク° ライノ オーアー, ジョータイノー ナ ミカ° キワダツ ッテ ユーガネ? * *****デネ? (Y: ウーン ウン ウン ウン) ソーユーノカ° ヒトツ。</p> | <p>ですからね? まあ 当時 その くらい の おお, 状態の波が 際立つ という かね? *****でね? (Y: う うん うん うん うん) そういうのが ひとつ。</p> |
| 095 | <p>ソレカラ アドワ, ウミカ° ウコ° ク ト ユー ゴドワ, コレワ モー ス ク° ソバノ ジシンダ ッテ (Y: ア ー アー アー アー) ド イウ ゴ ドワ スク° ツナミカ° クルッ。 (Y: ウーアーアー)</p> | <p>それから あとは, 海が 動くという ことは, これは もう すぐ 近く [が 震源] の 地震だ って (Y: ああ あ あ ああ ああ) という ことは すぐ 津波が 来る。 (Y: ううん)</p> |

| | | |
|------------|---|---|
| <p>096</p> | <p>(Z:ソレワ ナンデ シッテタンデスカ?) ナンテユッタラ? イヤ, イママデノー ツナミ ッテ ユーノワー アノーオーオーオー ナンテ ユーノカ° ナー マ, ソーユー フーサモ ナカッタ ケドモ マー ソレ チョッカノ アノ, ナノ (Y:アー) イワユル ミズカ° ウゴ° クト ソーダモノ ミズカ° ウゴ° グ ッチュー ゴドワ ソーシンケ° ンチカ° チカイ ッテ ゴドニ ナンナン モー (Y:ウン ウン ウン ウンウン) ダッテ ソーデショ? (Y:ソ, ウーン ソー デスネエ) (Z:ウン ウン) ソダ スク° ソバニ イシラゲレバ パット (Y:アー ー) ミズカ° クルド オンナジデサー。 (Y:ウーン ウン ウン)</p> | <p>(Z:それは どうして 知っていたんですか?) なんて ×××//? いや, 今までの津波 というのは あの ××××× なんて いうのかな まあ, そういうふうにも なかった けれども まあ それ 直下の あの, ×× (Y:ああ) いわゆる 水が 動く と そうだもの 水が 動く という ことは そう 震源地が 近い って ことに // // // もう (Y:うん うん うん うん うん) だって そうでしょ? (Y:×, ううん そう ですねえ) (Z:うん うん) そうだ すぐ そばに 石 投げれば パット (Y:ああ うん) 水が 来ると 同じでさ。 (Y:ううん うん うん)</p> |
| <p>097</p> | <p>ソーユー ゴドオデネ, スク° モー (Y:ウン, ウーン) モー バイクデー ノッテ イグ キョーモ キテラドモ (Y:ウン) バイクデネ, スク° モー サッキノ カッタ ソノー ボーサイヨノ マイクネ? (Y:ウン ウン ウン ウンウン) マズ ソレオー ンソ トリニ イクヨーナ カンカ° エ ヨビカケナキャ (Y:ウン) ナイカラ。 (Y:ウーン ウン ウン)</p> | <p>そういう ことでね, すぐ もう (Y:うん, ううん) もう バイクで 乗って 行く 今日も 来ていたけれども (Y:うん) バイクでね, すぐ もう さっきの 買った その 防災用の マイクね? (Y:うん うん うん うん うん) まず それを んん 取りに 行く ような 考え [をしていた] 呼びかけなければ (Y:うん) ならないから。</p> |
| <p>098</p> | <p>デ ソノー デ チョーナイカイノ ジム ショニ イッテ, ソレオオーオー トッテ, (Y:ウン ウン) ト ドー ジニ, マズ, ヨー エンコー シャ, (Y:ウン) イワユル *** *** *** (Y:ウン) アシノ ワルイ ヒトドカ°, (Y:ウン ウン) ソーユー ヨー エンコー シャ ジューニン ク° ライ, (Y:ウン) コレオ マズ, カク° ニンシテ アルカ° ネバネ。 (Y:ウーン)</p> | <p>それで その それで 町内会の 事務所に 行って, それ [=マイク] を××××× 取って, (Y:うん うん) と 同時に, まず, 要援護者, (Y:うん) いわゆる *** **** (Y:うん) 足の 悪い 人とか, (Y:うん うん) そういう 要援護者, 10人 くらい, (Y:うん) これを まず, 確認して 歩かなければ ならない。 (Y:ううん)</p> |

| | | |
|-----|--|--|
| 099 | ア、ホンライワ ソーユー フニ チャント ナッテルノデスヨ ジシン ボーサイニネ? (Y:ネ?) アノー ダレカ° ドー ッテ (Y:ウン ウン ウン) デモ マー ソンナノ イジイチー ア, ヤッテル ヒトモ ナイカ° マー, ミズガラ ウコ° イダ ホーア オヨソ ハヤイ ワゲデスヨ (Y:ウン) モーソーユ ドキ° ワネ? (Y:ウン ウン ウーウン ウン) | あ、本来は そういう ふうに ちゃんと なっているんですよ 地震 防災に ね? (Y:ね?) あの 誰が どう っ て (Y:ううん うん うん) でも まあ そんなの いちいち × やっている 人も ないか まあ, みずから 動いた 方が およそ 早い わけですよ (Y:ううん) もう そういう 時はね? (Y:うん うん ううん うん) |
| 100 | デ マー—— ソノ マー——ッテ, ダイジョブガー? ット アゲレバ, ア, ウン イマ ジュンビ シテル ヨシ ダイジョブダー ナンテ ダイジョブダット ユー ゴドデネ, モー。 | それで まあ その [各戸を] 回って, 大丈夫か? と [戸を] 開ければ, 「あ, うん 今 [避難の] 準備 [を] している よし 大丈夫だ」 なんて 大丈夫だ という ことでね, もう。 |
| 101 | デ, オワッテ, マー ウジニ ツイダ ドギニワー, アノーオー ジューツプン マエカ°, ジュップン マエッテ ユーノワネ? (Z:ウン ウン) エー ットオーオー ツナミカ° クルッ ツナミカ°, クルノカ° サンジュップン デスカラネ? ワレワレエー ノワ, (Y:ウン) サンジュップン デスカラ ソノ マエニ ジューツプン マエニ ツイデ (Y:ウン) モー サンジー ニ ジュップ, サンジ ジューツプン スキ° ニ ツイダンデスヨネ? (YZ:ウーウン) ソノー ヒ, イワユル ヒナンジョニ。 (Y:ウー———) | それで, 終わって, まあ 家に 着いた 時には, あの 10分 前か, 10分 前って いうのはね? (Z:うん ううん) ええ っと×××× 津波が ××× 津波が くるのが 30分 [後] ですからね? 我々 [いう]のは, (Y:うん) 30分 ですから その 前に 10分 前に 着いて (Y:うん) もう 3時 20×, 30分 過ぎに 着いたんですよ? (YZ:ううん) その×, いわゆる 避難所に。 (Y:ううん) |
| 102 | モ, ソノ ドギニワ モー イツ キテ モ イーヨーニ チャントー オ, オー バッテリー モネ? ジュージカン ブーノ バッテリーオ チャント ジューデン シテ マエニ (Z:ア———) シテオッタノネ? (Y:ア———) | もう, その 時には もう いつ きて も いいように ちゃんと ×, おお バッテリー もね? 10時間 分の バッテリーを ちゃんと 充電 して 前に (Z:ああ) して おったのね? (Y:ああ あああ) |
| 103 | デ, ビデオモネ? スク° モー トリダセル ヨーニ イツモ ハイソ カ° ワニ オイドク° ノ (Y:ハ———) スク° ハー モー ト アケ° デ スク° | それで, ビデオもね? すぐ もう 取り出せる ように いつも [部屋の] 入る側に 置いておくの (Y:はあ) すぐ ほう もう 戸 [を] 開けて すぐ |

| | | |
|-----|---|---|
| | <p>モ, モデル ヨニ (Y:ウーウーウー) サンダイモ ヨンダイモ ホントワ アツタデスヨ? (Y:ウーン) ア, テ, テーテン カメラデネ? (Y:ウーン) ヤロート オモッテ, デモ ヤッパ ジカノカ ナガッタ。 (Y:ソアウーウー)</p> | <p>×, 持てる ように (Y:ううん) 3台も 4台も 本当は あったんですよ? (Y:ううん) × ×, 定点 カメラでね? (Y:ううん) やろうと 思って, でも やっぱり 時間が なかった。 (Y:ああ)</p> |
| 104 | <p>ソリヤーー ハジメカラ ソゴニ ウジニ イレバ アンカ° イト ソナエツケダ ゴッタケドネ (Z:アー) (Y:ウーン) (Z:サンバシニー イタンデスモンネ?) ン, ハマニ イッテー (Y:ウーン) (Z:アー) カエッテ キタノカ° モー ノコ° リ ジューツプン シカ ナイガラ。 (Z:ウーン)</p> | <p>それは 初めから そこに 家に いれば 案外と 備え付けた だろうけどね (Z:ああ) (Y:ううん) (Z:栈橋に いたんですもんね?) ×, 浜に行つて (Y:ううん) (Z:ああ) 帰つて きたのが もう 残り 10分 しかないから。 (Z:ううん)</p> |
| 105 | <p>モー ソーユーノ ヤッパリー, ヒナン ヨビカ° ケ° ナクチャ ナイガラ (Y:ウーウーン ウン ウン) ソノ ホー ユーセン シナクチャ ナイガラネ, デモッテー, マズ イチバン カンタンナ カメラ トー, マー アド マイク モッテ, (Y:ウーウーン) アド ヒナンジョニ イッテー ヤル, アレア ヒルノ バリ ミダゴドワ ナイカ° ナ? ヒルノバ (K:アー,) アー アー (K:アノー ホーソー) ウーン。</p> | <p>もう そういうの やっぱり, 避難 呼びかけなくては いけないから (Y:ううん うん うん) そのほう [を] 優先 しなくては いけないからね, でも かって, まず 一番 簡単な カメラと, まあ あと マイク 持って, (Y:ううん) あと 避難所に行つて やる, あれは 昼の ばかり [を] 見た ことは ないかな? 昼のは (K:ああ) ああ ああ (K:あの 放送) ううん。</p> |
| 106 | <p>(K:エヌエチケーデー? デー?) (Y:ウーン) (K:アノー ニュースデ ナカ° レタンデスケド? アノ セトサンカ° サケビナガラ トッテル ビデオ) ウーン (Y:ウーン アタシ タブン ミタコト アリマス) ウーン (K:アノー) ウーン (K:ズコ° グダー ズコ° グダー ッテ イウ) (Y:ッテ ユーカ ハラ ハラバイニ ナッテル ッテ キーテ アレ? ッテ) (K:アー) (Y:ウン ナンカー アノー オモッタノデー) (K:ケッコ エヌエチケーデナカ° レマシタモンネ?) ウーン マー エヌエチケー デモー マ ケッコデー</p> | <p>(K:NHK で?) (Y:ううん) (K:あの ニュースで 流れたんですけど? あの 瀬戸さんが 叫びながら 撮っている ビデオ) ううん (Y:ううん 私 [は] 多分 見たこと あります) ううん (K:あの) ううん (K:地獄だ 地獄だ と 言う) (Y:って いうか ×× 腹ばいになっている と 聞いて あれ? と) (K:ああ) (Y:うん 何か あの 思ったので) (K:結構 NHKで 流れました もんね?) ううん まあ NHKでも まあ 結構 全部 どこでも 流れました。 (K:ううん) (Y:ううん)</p> |

| | | |
|-----|--|--|
| | ンブ ドーッコデモ ナカ° レマシタ。 (K: ウーン) (Y: ウーン) | |
| 107 | (Y: ソッカァー アノー, カタ ナン デスネ? {笑} アタシ イマ) (K: {笑} ゴホンニンデ) (Y: ウーン ホ, ホンニン ダトワ) ウーン。 (Z: ハ ー) (Y: ゾンジマセンデシタ ケ レドモ, ウーン) | (Y: そうかあ あの, 方 なんです ね? {笑} 私 [は] 今) (K: {笑} ご 本人で) (Y: ううん ×, 本人 だ とは) ううん。 (Z: はあ) (Y: 存じませんでした けれども, ううん) |
| 108 | マー デスカラ イズレ ヨビカケルノ カ° ダイーチ (Y: ウーン) ソ ダガラ モー, ボーサイマイク ワ, アノーオー マチナカ° ノ ホー ムケ° デー (Y: ウーン) ジブンワ ワ, ワイヤレスカナ? イマ ワイヤレス (Y: ウン ウン) ジブンワ モー コ, カタテニ, エーット ミキ° テニー ビ デオ モッテ, ヒダリテニワ マイク モッテ (Y: ウーン) サカ° ンダワ ゲデスヨ。 (Y: ウン ウン ウン) | まあ ですから いずれ 呼びかけるのが 第一 (Y: ううん) だから もう, 防 災マイクは, あの 町中の 方 [に] 向 けて (Y: ううん) 自分は ×, ワ イヤレス かな? いま ワイヤレス (Y: うん うん) 自分は もう こう, 片手に, ええっと 右手に ビデオ [を] 持って, 左手には マイク [を] 持っ て (Y: ううん) 叫んだ わけですよ。 (Y: うん うん うん) |
| 109 | (X: ドーユー フーナ コトー オ, オ サケビニ ナッタンデスカ?) ウーン マズ オーヨ, モ 「ツナミカ° キタ ー」 デー (X: ウン) ウーン 「オ ーツナミダー, キター」 ッテ ユー ゴドオー マズ サガンダンデスヨネ? (Y: ウン ウーン) | (X: どういう ふうな ことを ×, お 叫びに なったんですか?) ううん ま ず おうよ, もう 「津波が きた」 で (X: うん) ううん 「大津波だ, き た」 という ことを まず 叫んだん ですよ? (Y: うん ううん) |
| 110 | モーン ソリヤ ダレモ, アノー イ ッシュンネ? オキノ ホー ミレバ フ ツノ ヒトァ ワカ° ソナインデスヨ デモ, ワダシワ モー ワガルンデス (Y: ウーン) モー オーツナミン ナル カ° ッテ ユーノワ, ワガル, ワガ ル ヒトワ ワガルンデス。 | もう それは 誰も, あの 一瞬ね? 沖の 方 見れば 普通の 人は わから ないんですよ でも, 私は もう わか るんです (Y: ううん) もう 大津波 に なるか というのは, わかる, わ かる 人は わかるんです。 |
| 111 | マズ ソノー ワガル ヒトワ ワガル ッテ ユーノワネ? ウミノ イロカ° ヘンカ スルンデスヨ。 (Z: オオー ーン) (Y: ウン) | まず そのわかる 人は わかる とい うのはね? 海の色が 変化 するん ですよ。 (Z: おお) (Y: うん) |
| 112 | イワユル ツナミワ スイアツ, タガ グナルワゲデスカラ, (Y: ウン ウン) | いわゆる 津波は 水圧, 高く なるわ け ですから, (Y: うん うん) 高 |

| | | |
|-----|---|---|
| | <p>タカク ナルッ ツ, ツナミト ユーノ ワ タカ° クナレバ ナルホド, スイア ツカ° カガルッ タガグナルンデスヨネ? ンマー アノー ミズノ ゲンリ (Y: ウーン ウン) ッテ ユーカ アノー ソースル トユートー, アノー, シタ ノ ホーガラ アツガ カカッテ クルン デスヨ (Y:ウーンウーン) ソノ タ メニ, ジワレワ スル, ソエカラ ア トー ヘドロー マキアケ° ルンデス ソ ノ (Y:ウン ウン ウン ウン) ソ ノ タメニー ツナミン トギニワー ア ノー ヘドロカ° ー マーッ クログ ナ ッテ, ウミノ イロカ° クログナルン デスヨ。 (Y:ウン ウン ウン ウー ン)</p> | <p>く なる, ×, 津波というのは 高く なれば なるほど, 水圧が かかる, 高 くなるんですね? んまあ あの 水 の 原理 (Y:ううん うん) という か あの そうする というと, あの, 下 の 方から 圧が かかってくるん ですよ (Y:ううん ううん) その た めに, 地割れは する, それから あ とは ヘドロを 巻き上げるんです その (Y:うん うん うん うん) その た めに 津波の 時には あの ヘドロが まっ黒く なって, 海 の 色が 黒く なるんですよ。 (Y:うん うん うん ううん)</p> |
| 113 | <p>ソエデー アノー ヨグ ソノー ツナ アノー ナンダ, エー シンブン ナ ンカノ アレ デモ ウーン クロイ カ タマリー ナンテ ユー フーナ (Y: ウン ウン) ヒョーケ° ンデネ? (Y: ウン ウーン) ツナミノ ゴド イッテ マス ケドモ。</p> | <p>それで あの よく その ×× あの なんだ, えええ 新聞 何かの あれ でも ううん 黒い 塊 なんて いう ふうな (Y:うん うん) 表現でね? (Y:うん ううん) 津波の こと 言 っています けれども。</p> |
| 114 | <p>ソレワ イマ ユッタ ヨーニ, オーキ ナ ツナミン ナレバ ナルホド アノー ミズノ イロカ° カワルンデスヨ (Y:ウー————) コレワ アノー ー マ ワレワレモ ナン—カイモ, チ ーサイ ツナミナラ アレダッ トユ ーゾット (Y:ウーン) タイケンシテ マスカラネ? (Y:ウーン ウン ウー ン) モー ジワレトー, イロカ° カ ワル ッテ ユーノ コノ アレカ°。 (Y:ウー—————)</p> | <p>それは 今 言った ように, 大きな 津波に なれば なるほど あの 水 の 色が 変わるんですよ (Y:ううん) こ れは あの まあ 我々も 何回も, 小 さい 津波なら あれだという ずっと (Y:ううん) 体験して ますからね? (Y:ううん うん ううん) もう 地 割れと, 色が 変わる というの この あれが。 (Y:ううん)</p> |
| 115 | <p>(Y:ジ, ジワレワ モー コー カイ カ° ンノ アタリ カラ ズットー ミタ イナ カンジ ナンデスカ?) イヤ イ ヤ アル ドコ° ロ コノ, アノー カ ナラズ リク, リクカラ コー ナカ° レデグル スイロカ° アルデシヨ?</p> | <p>(Y:じ, 地割れは もう こう 海岸 の あたり から ずっと みたいな 感 じ なんですか?) いや いや ある ところの, あの 必ず 陸, 陸 から こう 流れて くる 水路が あるでしょ う? (Y:はいはい) それが その そ</p> |

| | | |
|-----|--|---|
| | (Y:ハイ ハイ) ソレカ°ー ソノ ソレデモ ソゴカ° ヤーッパリ クウド ッテ ユー アノ ナカ°ノ スイロノ ドコ°カ° (Y:ハイ) アツ カカ° ルカラ ベェーット サケ°ルノ (Y: ホーアーーーー) (Z:フーーーーン) キレーニ イク°ソデスヨ? ベェーット サケテ イクソデスヨ アノー (Y:へエ ーーーー) ウーン。 (Y:ソッカ ア) | れでも そこが やっぱり 空洞 という あの 中の 水路の ところが (Y:はい) 圧 かかるから ベリッと 裂けるの (Y:ほう) (Z:ふうん) きれいに いくんですよ? ベリッと 裂けて いく んですよ あの (Y:へえええ) う うん。 (Y:そうか) |
| 116 | デ ソ, アノーーーー マズ ソゴカラ, ミズカ° コノ フキダス。 (Y:ウン ウン ウン ウーン) | それで × あの まず そこから, 水 が この 吹き出す。 (Y:うん うん うん ううん) |
| 117 | ト ユー ゴドデネ イズレ アノーオー ソゴノ カラ クロイ ミズカ°, イロ カ° カワル (Y:ウン ウン ウン ウ ン ウーン) ソリヤー モー オーツナ ミニソ ナレバ ナルホ, ホド カ, ソ ーユー チョーコカ° アル モンダガラ (Y:ウン ウン) ア, モー コレワ タダゴド デワ ナイト。 (Y:ウーン ウン) | という ことでね いずれ あの 底の [方] から 黒い 水が, 色が 変わ る (Y:うん うん うん うん うう ん) それは もう 大津波に なれば なる ×, ほど か, そういう 兆候 がある もんだから (Y:うん うん) × もう これは ただごと では ない と。 (Y:ううん うん) |
| 118 | ト ドージニ モー オー キタナ, ド オモッタ ドギニワ, チョード ソンド キ°ア カンチョー デシタカラネ? (Y:ウン ウン) カンチョノ ドギノ ソノー スイメンカラ ウーツア ボー ハテーノ テッペン マデ ヨンメータ グライ アルソデスヨ (Y:ウン ウン ウン) ソレオ ナンナク° コシマシタ カラ。 | それと 同時に もう 「おお, 来たな」, と 思った 時には, ちょうど その 時は 干潮 でしたからね? (Y:うん うん) 干潮の 時の その 水面から ううん × 防波堤の てっぺん まで 4m ぐらい あるんですよ (Y:うん うん うん) それを 難なく 越えまし たから。 |
| 119 | ア, ナンナク ヨンメーターノ ボーハ テー コエダ (Y:ウーン) アー コ ーレワー モー, ハ, オーツナミダ (Y:ウーン ウン ウン) アー ソ ーカー ソノ ドキ°カラ モー オーツ ナミカ° キタ, ト ヨノナカ°ワ マ ダ ソンドキ°モ コー, ヘーオンナ ト キ°ナンデスヨ デモ ナン, オレダ ケ°ナンデスヨ (K:ウン) オーツナ | あ, 難なく 4mの 防波堤 越えた (Y:ううん) ああ これは もう, も う, 大津波だ (Y:ううん うん う ん) ああ そうか その 時 から も う 大津波が 来た, と 世の中は ま だ その 時も こう, 平穏な 時 な んですよ でも ××, 俺だけ なん ですよ (K:うん) 大津波が 来た っ て 騒いでんのは (Y:ああ ああ 周 |

| | | |
|-----|--|--|
| | ミカ° キタッテ サワイデソノワ (Y: アーアーアー マワリカ° ソーデモ ナガッタンデスカ,) ウン。 | りが そうでも なかったんですか) うん。 |
| 120 | (Z: ミナサン, ソコ, ソノ トキ ド コニ イタンデスカ? ミナサンワ) | (Z: みなさん, ××, その 時 ど こに いたんですか? みなさんは) |
| 121 | イヤ, リョーイシワネ, エート オー モー ニジュップン ドギニワ ミンナ イッタンワ ヒナン シマシタガラ。 (Y: ウンウーーン) | いや, 両石はね, ええと ×× もう 20分 [後の] 時には みんな [は] 一旦は 避難 しましたから。(Y: うん ううん) |
| 122 | タダ, ワルイ ノニ サンメーター キ チョーチョーノ ホーガラ ポーサイムセ ンデ 「サンメーター ク° ライノ ツナ ミダ」, (Y: ソアー) ソシタラ, ジ ッサイ サンメーター ク° ライノ ツナ ミット ユーノワ, (Y: サイショニ) ゼンッゼン タイシタ コトワ ナインデ ス (Y: ウーン) ワレワレカ° ミレ バ (Y: アー) ハマニ イル ヒト カ° ミレバ。 | ただ, 悪いことに 3m 気象庁の 方 から 防災無線で 「3m くらいの 津 波だ」, (Y: ああ) そうしたら, 実 際 3m くらいの 津波というのは, (Y: 最初に) 全然 たいした こと は ないんです (Y: ううん) 我々が み れば (Y: ああ) 浜に いる 人が 見 れば。 |
| 123 | ソダガラ, クルマオ トリニ イッテモ マニアウ, (Y: アー) ネ? タカ° イトコ° ロニ イドーシテモ ダイジョブ ダ, ソノ タメニ イッタ ソレア ニ ジュップン スキ° デスヨ (Y: ウー ーアー) イッタノワ ネ? ソレ カ° ー ナンニンカ イテ, アドワー アドワ アドワ ミ, ミンナ アノ ジ ブンノ フネオ ミニ イッタ, コブネ オ (Y: アーアー) (K: ハーッ) カイカ° ンニ。(Y: ウーアー)) | だから, 車を取りに 行っても 間に 合う, (Y: ああ) ね? 高い とこ ろに 移動しても 大丈夫だ, その た めに 行った それは 10分 過ぎです よ (Y: ううん) 行ったのは ね? そ れが 何人か いて, あとは あとは あとは ×, みんな あの 自分の 船 を 見に行つた, 小舟を (Y: ああ) (K: はあ) 海岸に。(Y: ううん) |
| 124 | マー ウジノ オトート ナンカモー マ, ウジデ フネカ° アルガラ (Z: ウン) モー オドード ナンカモ ハ ダメダ, イーガラ ニケ° ッペシ, キ タラ マ, ソッドキ° ワ ソッドギ ダガ ラ (Y: ウーーン ウン) モー ニゲ ロ, スク° ハー モー ッテ, ニケ° ダ ヒトワ タスカッタノ。(Y: ウー ーアー) | まあ うちの 弟 [も] 何かも まあ, うちで 船が あるから (Z: うん) も う 弟 [は] 「何かも もう だめだ, いいから 逃げよう, [津波が] 来たら まあ, その 時は その 時 だから (Y: ううん うん) もう 逃げろ, す ぐ もう もう」 って, 逃げた 人は 助かったの。(Y: ううん) |

| | | |
|-----|---|--|
| 125 | <p>デ、ソノー、ジューツ ジューニンク° ライダネ？ ソノ イマノー ジューメーター ア、サンメータノ ツナミツ、トユー ゴドデ モッテ、（Y：イヤツ、モー） エー モドッテ イーヤ、ッテ ナク° ナッタノワ。（Y：ウン ウン ウーン）</p> | <p>それで、その、×× 10人 ぐらいだね？ その 今の10m × 3mの津波、ということでもって、（Y：いやあ、もう） ええ 「[海辺に]戻って いいや」、って 亡くなったのは。（Y：うん うん うん ううん）</p> |
| 126 | <p>アドア カイシャガラ カエッテキタリネ？（Z：アーーーー）（Y：ウン） ソイデ ソゴカ° ジューニン。</p> | <p>あとは 会社から 帰ってきたりね？（Z：ああ）（Y：ううん） それで そこが 10人。</p> |
| 127 | <p>ソレカラ アト、ワラシ ジシンモネーソノー ヒナンワ シタケドモ、サンメー アノーオーオーーーーー ソマア ヨースルニー イママデモ、コゴ コッ コレガラ ナンダヨ イジバン ナンデスヨネ、イママデモ ツナミト ユーノワー メージ ショーワ クラスカ° イチバン オーキイツ、ト コレカ° ダイーチ ソーユー フーニ ハナサレデ キタンデスヨ（Y：ウン ウン） シリョーテギニワ。</p> | <p>それから あと、私自身もね その 避難は したけれども、3名[は] あの×××× まあ 要するに 今までも、ここ ×× これから なんだよ 一番[大事] なんですよね、今までも 津波というのは 明治[注8] 昭和[注9] クラスが 一番 大きい、と これが 第一 そういう ふうに 話されて きたんですよ（Y：ううん うん） 資料的には。</p> |
| 128 | <p>トコ° ロカ° ワレワレ シッテル モノワ、ジョーカ° ンジシンカ° アル ッテ ユーノワ ワカ° ッテ オッタデスヨ（Y：ウーーン ウン ウン） デモ サッキ イッタ ヨニ ナノーネンカ マエカラ、ツナミカ° クル クルッテ シャベッテラノワ、ツ、メージド ショーワノ ツナミノ タカ° サ ダッタノ（Y：ウーーン） オッキクテモネ？（Y：ウン）</p> | <p>ところが 我々 知っている 津波は、貞観地震[注10] がある というのは 知って おったんですよ（Y：ううん うん うん） でも さっき いった ように 何年か 前から、津波が 来る 来るって 話していたのは、×、明治と昭和の 津波の 高さ だったの（Y：ううん） 大きくてもね？（Y：うん）</p> |
| 129 | <p>デスカラ タトエバ ソレワー マ、アッタニ シテモ マー ソリヤ アルテードノ ヒカ° イワー オ、ウ イ、ウケ° マスヨ（Y：ウン） ダケドモネ？ マズ、ソゴニー ニゲレバ、（Y：ウン） ダイジョブ タスカルト ユー（Y：ウン ウン ウン） ニ モッテ ラタンデスヨネ？（Y：ウン） ソダガラ、ソゴニ ヒナンシテモ イ、イ</p> | <p>ですから 例えば それは まあ、あったにしても まあ それは ある程度の被害は ×、× ×、受けますよ（Y：うん） だけでもね？ まず、そこに 逃げれば、（Y：ううん） 大丈夫 助かるという（Y：ううん うん うん） [ふう]に 思っ て いたんですよ ね？（Y：ううん） だから、そこに 避難しても ×、行く、と 言ったか</p> |

| | | |
|-----|---|--|
| | ク°, ッタガラ ア ウーン, イケ°, キオ ツケデ イケ° ッ, ト イッテ マー タイ, タイハンワー モー トシ ョーリナノ (Y:ウン ウン ウーン) トシヨリカ° ネ ソゴニ ニケ° ダノ (Y:ウン ウーン) ソコデ モッテ サンジュー サンニン ヤラレマシタ。 (Y:アーーーー) (X:ハーーーー) | ら × ううん 行け, 気をつけて 行け, と 行って まあ たい, 大半は もう 年寄りなの (Y:うん うん ううん) 年寄りがね そこに 逃げたの (Y:うん ううん) そこで もって 3 3人 やられました。 (Y:ああ) (X:はあ) |
| 130 | ソノー ジョーカ° ンジシンカ° アル ッ ト ユーノカ° ネ? モシ ソレカ° ヨソー サレルソデ アレバ, ソゴニ ヒ ナン ナソカ サセマセンデシタヨ。 (Z:アーーーーアーーーーアーーーー) | その 貞観地震が ある というのがね? もし それが 予想 されるので あれば, そこに 避難なんか させませんでしたよ。 (Z:ああ あああ あああ) |
| 131 | ソレワ コノ チクノ ウノスマイノ ボーサイセンターモ オナジ ナンデス (Z:ウーーーー) (X:ウン) メー ジ ショーワ クラスノ ツナミデ アレバ ダイジョブ ダッタンデスヨ ホントワ ニガイニ ニケ° デモ (Y:ウン ウン ウン ウン ウン) コゴ ダ ッテ ダイジョブ メー ジ ショーワ クラス コゴ ダッタンダガラ。 (Y:ウン ウン) | それは この 地区の 鶺住居 ※岩手県 釜石市鶺住居町 の 防災センターも 同じ なんです (Z:ううん) (X:ううん) 明治 昭和 クラスの 津波で あれば 大丈夫 だったんですよ 本当は 2階に 逃げても (Y:ううん うん うん うん うん) ここ だって 大丈夫 明治 昭和 クラス ここ だったんだから。 (Y:うん うん) |
| 132 | ソダガラ コゴー, サイショ コノー マエノー コレ アダガラネ? タデナオストギニモネ (Y:ウン) ア, ダイジョブダー ショーワモ メー ジモ コナガ ッタガラ, ダイジョブダッ, ト ユーゴドデネ, コゴ ツグッ ドキ° モ ワレワレモ カネカケ° デモ イーカ° ラト ユー ゴドデ モッテネ? (Y:ウン) ヤッタンデスヨネ? (Y:ウンウン ウン) | だから ここ, 最初 この前の これ [は] 後からね? 建て直す 時にもね (Y:うん) × 大丈夫だ 昭和も 明治も 来なかったから, 大丈夫だ, という ことでね, ここ [を] 作る 時も 我々も 金かけても いいからという ことでもってね? (Y:ううん) やったんですよ? (Y:ううん ううん うん) |
| 133 | ソノ ジョーカ° ンジシン トガ ナニカ° ッテ ユーノワ ワカ° ッテ イレバネ? (Y:ウン ウン ウン) ア ワカ° ッテレバ ッテ ワレワレワ ワカ° ッテデモ ガクシャカ° ソモソモ イママデ ユワナガッタンダガラ (Y:ウン ウン) ソレオ シャベッテモネ, | その 貞観地震 とか 何か というのは 知って いればね? (Y:ううん うん うん) × 知ってれば って 我々は 知っていても 学者が そもそも いままで 言わなかったんだから (Y:うん ううん) それを 話してもね, 我々 [は] 一蹴 されました からね? (Y:うう |

| | | |
|-----|---|--|
| | ワレワレ イッシュユー サレマシタ ガラ ネ? (Y:ウー—ーン) (X:ウー ン ウーン) | ん) (X:ううん ううん) |
| 134 | アナタワ シロート (Y:ウー—ーン) ナ ニオ コンキョニ, ワレワレワー カネ カケ° デー ベンキョー シテル モノ ア, ソンナ コトワ ナイト ユー。 (Y:ウー—ーン) | 「あなたは 素人 [だ] (Y:ううん) 何を 根拠に, 我々は 金 掛けて 勉 強 している 者は, そんな ことは ない」 という。 (Y:ううん) |
| 135 | コノ コゴ ナンデスヨネ? (Y:ウー —ーン) デスカラ コンカイノ ヒカ° イ ノ オーキイ ジンメー ギセーニ ナッ タノノ オーキーノノ アレワネ? ワダ シワ ガクシャカ° イチバンダト マ ズ, キショーチョー, ガクシャカ° イ ジバン セキ° ニンワ オーキ° イ ダド オモイマスヨ? (Y:ウー—ーン) | この ここ なんですよね? (Y:うう ん) ですから 今回の 被害の 大きい 人命 犠牲に なったものの 大きいもの の あれはね? 私は 学者が 一番だと まず, 気象庁, 学者が 一番 責任は 大きい [の] だ と 思いますよ? (Y: ううん) |
| 136 | ホンライワネ, コレカ° ネ? センネン イマヌナッテ センネンニ イッカイ ナ ンテ イッテンナノネ? (Y:ウン) ア ダリメー ジャ ネーカド オモッテ。 (Y:ウー—ーン) | 本来はね, これがね? 千年, 今に な って 千年に 一回 なんて 言ってんの ね? (Y:うん) 当たり前では ない かと思って。 (Y:ううん) |
| 137 | コノ ヘンノ トラエカ° ダカ° ネ? ド ーユーニ ドノ ヨーニ トラエルカ° ワダシ ジシンワネ? イヤ, センネン マエニワ, ア, センネンニ イッカイ ノ ツナミト ユー ノカ° アッタソジ ャ ネーカ° ドー (Y:ウー—ーン ウ ン) ソレサエ ハジメガラ ヨソー シ テレバ, (Y:ウー—ーン ウン ウン ウ —ーン) ドイウ ゴドオ ヨグ ユーンデス ヨネ? コー ソレオネ? (Y:ウー— —ーン) (X:ウン) ワレワレモ ソダガラ ソレサエ ヨソー シテレバ, イヤ, モ ット タカ° イ ドコ° ッテ (Y:ウ ン ウン) シャベッタソデスヨネ? (Y:ウー—ーン ウン) | この あたりの 捉え方がね? どういう [ふう]に どの ように 捉えるか 私 自身はね? いや, 千年前には, × 千 年に 一回の 津波という のが あった のではないかと (Y:ううん うん) それさえ 初めから 予想 していれば, (Y:ううん うん うん ううん) と いう ことを よく 言うんですよね? こう それをね? (Y:ううん) (X: うん) 我々も だから それさえ 予想 していれば, いや, もっと 高い と ころに って (Y:うん うん) 話し たんですよね? (Y:ううん うん) |

| | | |
|-----|--|---|
| 138 | コンカイ ソーユー フーノデネ? アノ ー イワユル ウーウー マター メー ジ ショーワ クラスノ, アーウー ニマンニン デモ ショーワ, メージ ショーワカラ ソノ ニマンニン ト ユ ーノワネ? アノーオーウー イワテケ ン ダケ ダンデスヨネ? (Y:ウーン ウン ウン ウン) | 今回 そういう ふうなことでね? あの いわゆる ×× また 明治 昭和 クラ スの, ああ ああ 2万人 =津波の犠 牲者 でも 昭和, 明治 昭和から その 2万人というのはね? あの××× × 岩手県 だけ なんですよね? (Y:ううん うん うん うん) |
| 139 | コンカイワ マーイ イワテケンガラ フ クシマケンマデデ ヤグニマンニン デス カラネ? (Y:ウーン) ア, ムガシ ワ ソーユーフニ マ, イッカ ゼン メズ スル ドコ° カ° オーガッタ ガ ラ イワテケン デモネ? (Y:ウン ウ ン) ソダガラー マー ニマンニン イワ テケン ダゲデモ ニマンニン ダッタデ ショーケドモネー? (Y:ウーン) | 今回は まあ 岩手県から 福島県までで 約2万人 ですからね? (Y:ううん) × 昔は そういうふうに まあ, 一家 全滅 する ところが 多かった から 岩 手県 でもね? (Y:うん うん) だ から まあ 2万人 岩手県 だけ でも 2万人 だったでしょうけれどもねえ? (Y:ううん) |
| 140 | (X:セトサン ゴジシンワー, ドチラ ニ ヒナン ナサッタンデスカ?) ンモ タカ° ダイ, ソソノー サンジュー メー ター アルー ノ ウチノ マエニ, ヒ ナンジョカ° アル モンデスカラ ウジ デア ヨンカシヨ アルンデスヨ。 | (X:瀬戸さん ご自身は, どちらに 避 難 なさったんですか?) もう 高台, その 30m ある [そ]の うちの 前 に, 避難所が ある もんですから う ちでは 4カ所 あるんですよ。 |
| 141 | ヨンカシヨ アッテー, エーットー マ, サンカシヨワ ダイチョブ ダッタ, デ モ イッカシヨカ° ネー, イッカシヨ カ° アブナガッタンデス アブナイ ッ テ ユーガ, ソゴモネ, ソゴカ° ヒ サイ シタンデスヨ。 | 4カ所 あって, ええと まあ, 3カ 所は 大丈夫 だった, でも 1カ所が ね, 1カ所が 危なかったんです 危な い といつか, そこもね, そこが 被 災 したんですよ。 |
| 142 | エートオー, ソゴワ マエノネ? エー トー ホイクエン (Y:ウーン ウン ウ ーン) ショーワー ジューネンー アド ニ タデター エー リュー, プンコー, ショーカ° ッコーノ プンコー ソシテ ソノーコ° ニ アノー ホイクエンニ イ ッテ, (Y:ウン ウン) デ ソゴモ ー ナンネンカ マエニー アノーオー ーヘーエン シテネ? (Y:ウーン) デ コノー ソノー キョネンノ シカ° ツニワ, ソゴニー ボーサイノ ソノー | ええと, そこは 前のね? ええと 保 育園 (Y:ううん うん ううん) 昭 和 10年 あとに 建てた ええ ×× ×, 分校, 小学校の 分校 そして そ の後に あの 保育園に いて, (Y: うん うん) それで そこも 何年か 前に あの ×××× 閉園 してね? (Y:ううん) それで この 去年の 4 月には, そこに 防災の その ×, 集 会所を 作る 予定 だったんです (Y:ううん) もう 予算も ついて, |

| | | |
|-----|---|---|
| | ー ナ, シューカイジョオ ツク° ル ヨテー ダツタンデス (Y:ウーン) モ ー ヨサンモ ツイテ, アブナガッタン デスヨ。 | [もし完成していたら] 危なかったんです よ。 |
| 143 | モシ ソゴカ° デキ° デレバネ, ソゴ ニ オソラク° ヒヤク° ニン グライ コロシテマシタヨ (Y:ウーン) (X: ホー) ミンナ ソゴニ ニケ° ダデシ ョーガラ。 (X:ウーン) (Y:ウー ー——ン) | もし そこ [=避難所] が できればね, そこに [避難した人たちのうち] 恐らく 100人 ぐらい [を] 殺していました よ (Y:ううん) (X:ほお) みん な そこに 逃げた でしょうから。 (X:ううん) (Y:ううん) |
| 144 | ソダガラネー イヤー タスカ, オー ワ ダシ ジシンワ マー ア ハッキリ イッテ ナン, ムネオ ナデオロシマシ タヨ。 (Y:ウーウーウーン) | だからね いや ×××, ×× 私自身 は まあ × はっきり 言って なん, 胸を なでおろしましたよ。 (Y:うう ん) |
| 145 | ソゴニ ニケ° ダ ヒトワ ムラ, マ サイワイニ スク° ソマイ グアイニ コー ニケ° デルヨーナ ジョータエダッ タ モンダガラ, ウラ, ヤマニ ニケ° デ タスカッタンデスカ° ネ? (X:ウー ン) (Y:ウーン) | そこに 逃げた 人は ×, まあ さい わいに すぐ うまい 具合に こう 逃 げるような 状態だった もんだから, 裏山に 逃げて 助かったんですがね? (X:ううん) (Y:ううん) |
| 146 | (Z:セトサンー ノー, オウチノー ウ ラニー アルンデスカ? ソレ ソノ,) ンー (Z:エトー ヒ, ヒナン ヒナ ンジョ ッテ ユーカ ソノー タカダイ ッテ) ウン ソジャ ソダガラ ウジノ マエ ニモ イッカショ, ソエカラ コ ー ショーカ° ッコニ ヨンカショ アル ンデス (YZ:ウーン) チョーナイワ。 | (Z:瀬戸さんの, お家の裏に あるん ですか? それ その) うん (Z:え えと ×, 避難 避難所 というか そ の高台 って) うん それでは だから うちの 前 にも 1カ所, それから こう 小学校に 4カ所 あるんです (YZ:ううん) 町内は。 |
| 147 | (Z:ンデ セトサンワー ビデオカメラ モッテ) ウジノマ, マエニ アル (Z:タカダイニ アガッタ) ウン (Z:ハー——— アノー ソノ トキー ニワー ドー ドーユー ジョー キョー ダツタンデスカ? アノー ア カ° ーッテ, ナン—ブン ク° ライ シ テ キタンデスカ?) ソモ— ソダガラ モー キタ ドギ ニワ モー ソーユー チョーコーカ° アツタンデス。 | (Z:それで 瀬戸さんは ビデオカメラ 持って) 家の ×, 前に ある (Z: 高台に 上がった) うん (Z:はあ あ の その 時には × どういう 状況 だったんですか? あの 上がって, 何 分 ぐらい して きたんですか?) う ん もう だから もう [高台に] 来た 時 には もう そういう 兆候が あっ たんです。 |
| 148 | (Z:ウーン ア, イヤ エト, オウ | (Z:ううん × いや ええと, お家 |

| | | |
|-----|--|---|
| | <p>チニ イタ トキニー モー スデニー ヨンメートル コエタンデスカ?) イ ヤ イヤ イヤ (Z:ボーハテー) イ ヤ イヤ (Z:マダ デスネ?) マダ マダ マダ マダ (Z:デ, ジャア ウ チ カエッテ? ビデオカメラ モッテ? タカダイニ アカ° ッテ?) モー ミタ ラバ, モー ソノ チョーコーカ° デ アルンデスヨ (Z:コ, コエタンデス カ?) イヤ, ン, ア, マダ コエ ナイ ケドモ (Z:ウ, ウーン)</p> | <p>に いた 時に もう すでに 4メート ル 越えていたんですか?) いや いや いや (Z:防波堤) いや いや (Z: まだ ですね?) まだ まだ まだ ま だ (Z:で, じゃあ うち [に] 帰 って? ビデオカメラ 持って? 高台に 上がって?) もう 見たらば, もう そ の 兆候が で あるんですよ (Z:こ ×, 越えたんですか?) いや, ン, × まだ 越えない けれども。 (Z: ×, ううん)</p> |
| 149 | <p>ソレカ° コエタノカ° ダイタイ エー ント ジシン ハッセー ガラ ニジュ ゴフン コ° ロ (Z:ウーン) オキノ ホーガラ デスヨネ (Y:ウーン) (X: サンジュップン ルール デスネ?) ウ ーン。 (Z:ウーン) (Y:ウーン)</p> | <p>それが 越えたのが だいたい ええと 地震 発生 から 25分 ごろ (Z: ううん) 沖の 方 から ですよ (Y:ううん) (X:30分 ルール で すね?) ううん。 (Z:ううん) (Y: ううん)</p> |
| 150 | <p>(X:サンジュップン ルールノ コトー チョット オハナシ イタダケマセン カ?) ウン ウーン デスカラ ソノー サンジュップン ルールト ユーノワ ソ ノ サンジュップンノ ウチニー イズレ ヒナン シナクチャ ナイト, (Z:ウ ン) マ, コレー ドッコ ニモ イマ イッテー ハナシスル ゴド ナンデス カ° ネ? (X:ウン) ア, コレ ニ モ イマ カイデ アル コノー エ, ソ。 (Z:アーン) (Y:ウーン)</p> | <p>(X:30分 ルールの ことを ちょっ と お話 いただけませんか?) ううん ですから その30分 ルールというのは その 30分の うちに いずれ 避難 しなくては いけないと, (Z:うん) まあ, これ どこにも 今 行って 話 [を] する こと なんですがね? (X:うん) × これにも 今 書いて ある この ×, そう。 (Z:ああ) (Y:ううん)</p> |
| 151 | <p>イワユルー ゼンパンノ ジューゴフン ト, コーハンノ ジューゴフン ワケ° ルンデスヨ。 (Z:ウーン)</p> | <p>いわゆる 前半の 15分と, 後半の 15分 [を] 分けるんですよ。 (Z: ううん)</p> |
| 152 | <p>ゼンパンノ ジューゴフン, イワユルー ジシントー ドージニ, (Z:ウーンウ ーン) スク° ヌケ° ナクチャ ナンナ インデスヨ コレワ イーッパンジンノ ゲンソク (Z:ウン ウン) ドージ, ダレデモ。 (Z:ウン ウン ウン)</p> | <p>前半の 15分, いわゆる 地震と 同 時に, (Z:ううん ううん) すぐ 逃 げなくては いけないんですよ これは 一般人の 原則 (Z:うん うん) 同 時 [に], 誰でも。 (Z:うん うん うん)</p> |

| | | |
|-----|---|---|
| 153 | <p>ダケドモ、アノー— ヨー エンコ° シャ トカ (Z:ウン ウン) ショー ボーダン トカ ケーサツ トカ アドワ アノー イワユル フクシ カンコ° シ ッテカ° ネ? ホラ ヨー エンコ° シャ オー ミマワッテル ネ? (Z:ウン ウン) コノ ヒト ダチワ, ニ タイス ル ジューゴフン ルール ナンデスヨ。 (XY:ウーン)</p> | <p>だけれども、あの 要援護者 とか (Z:うん うん) 消防団 とか 警察 とか あとは あの いわゆる 福祉看護師 というかね? ほら 要援護者を見 回っている ね? (Z:うん うん) この 人達は, に 対する 15分 ルール なんですよ。 (XY:ううん)</p> |
| 154 | <p>イワユル ジ ジューゴフンノ ウチニ, アノー ヒト— タスケテ クダサイ ッ ト (Y:ウン ウン) ソレワー マー トーゼン ワレワレ ユーシニワ ソノ ヨーナー ナンダロナ フクシカイコ° シ ッテ ユーガ ソーユーノ イマセンカラ ネ? (Y:ウン ウン) チョーナイカ イデ ソレオ ヤグワリ モツンデスヨ。 (Y:ウン ウン)</p> | <p>いわゆる × 15分の うちに, あの 人を 助けて ください という (Y:うん うん) それは まあ 当然 我々 有志には その ような なんだろな 福祉 介護士 というか そういうの いま せんからね? (Z:うん うん) 町内会 で それを 役割 持つんですよ。 (Y:うん うん)</p> |
| 155 | <p>イマ ソレカ° ネ ムガシワネ, ソノー — ソーユー コトワ, イノチ テン— デン—コニ ソムク° コーイ ダガラ ヤ メロ ッテ ユーゴド ダッタンデスヨ (Y:ウン ウーン) モ, カッテニ ニ ケ° ロッ (Y:ウーン) オキ° ザリ ニシテ。 (Y:ウン ウン)</p> | <p>今 それがね 昔はね, その そういう ことは, 「命 てうんでうんこ」に 背 く 行為 だから やめろ という こと だったんですよ (Y:うん ううん) もう, 勝手に 逃げろ (Y:ううん) 置 き去りに して。 (Y:うん うん)</p> |
| 156 | <p>マー ソリヤー タスケレレーバ タスケ ル— イ—ンデスヨ? (Y:ウン) ソレ ナニモネ? (Z:ウン ウン) タダ ム リシテ マデ, ッテ マキ° ゴエオ ク ーナ ッテ ユー ゴド ナンデスヨ。 (Y:ウーン ウーン)</p> | <p>まあ それは 助け [られ] れば 助ける いいんですよ? それ [は] 何もね? (Y:うん うん) ただ 無理して ま で, って 巻き添えを くうな という こと なんですよ。 (Y:ううん うう ん)</p> |
| 157 | <p>イノチ テン—デン—コノ ダイ—ゲンソ グワ, マズ, マキゾエオ クウナ, タ スケヨード シテ ジブンノ イノチモ ステルナッ ソレカラ, アトワー イチ バン ダイジ ナノワ, ハカオ マモレ イワユル トムラウネ? センゾオ トム ラウ ヒトカ° カナラズ ソノ ウジニ ワ ダレカ° カナラズ ノコ° レッ メ ージノ キョークンニ ソレカ° アルン</p> | <p>「命 てんでんこ」の 大原則は, まず, 巻き添えを くうな。 助けようと して 自分の 命も 捨てるな。 それから, あ とは 一番 大事なのは 墓を 守れ いわゆる 「弔う」 [こと] ね? 先祖を 弔う 人が 必ず その 家には 誰か 必ず 残れ。 明治の 教訓に それが あるんですよね? (Y:ううん)</p> |

| | | |
|-----|---|--|
| | デスヨネ? (Y:ウーン) | |
| 158 | ッテ, イッカ ゼンメツカ° ソモソモ (Y:ウン ウン) キューワリモ ア ッタラバ (Y:ウン ウン) (X:ウ ン) ダレモ センゾオ ウヤマウ ヒ トカ° イナイッ ト (Y:ウーン) ソ レジャー モー アンシンシテ コレガラ アッチノ ホーニ イゲナイカ° ラ, モ ー ゼッターニ カナラズ ダレカオ, ダレカ カナラズ ヒトリ ノコ° サナク チャ イケ° ナイ ト コレカ° マズ ヒトツ。 | それで, 一家 全滅が そもそも (Y: うん うん) 9割も あつたらば (Y: うん うん) (X:うん) 誰も 先祖 を 敬う 人が いない と (Y:うう ン) それじゃあ もう 安心して これ から あっちの 方 に 行けない [=天に 召されるの意] から, もう 絶対に 必 ず 誰かを 誰か 必ず 一人 残さなく ては いけない と これが まず ひと つ。 |
| 159 | アレ ナンデスヨ ソダガラ マキゾエオ クーナ, (Y:ウーン) アトワー カ ケーオ ノコ° セ。 (Y:ウン ウン ウ ーン) | あれ なんですよ だから 巻き添えを ぐうな, (Y:ううん) あとは 家系 を 残せ。 (Y:うん うん ううん) |
| 160 | デ ソノー マキゾエオ クウナドガ カ ケー××× ンー マキゾエオ クーナ, カケーオ ノコ° セ ト ユーノノ, ソ ノ コーイノ ナカニワ ゼーッータイ ニ ソノ アド ソノ バショ カラ ア トニ ノゴッテワ イゲナイ ッテ ユ ノカ° アルンデス。 | それで その巻き添えを ぐうな とか 家系 ××× うん 巻き添えを ぐう な, 家系を 残せ というものの, そ の 行為の 中には 絶対に その あと その 場所から あとに 残っては いけ ない というのが あるんです。 |
| 161 | イーッタン ヒナン シタラ, ゼーッー タイ モー (X:ウン ウン) アカコ° カ° ナコート ナニ ショート (Y: アー) モドッテワ イケナイ, (Y: モドッテワ イケナイ) ダレガカ° タ スケテクレー ト イッテモ (Y:モド ッテワ,) ソレワ モドルナッ (Y: ウーウーン) コレカ° ゲンソク ダ イゲンソグ ナンデスヨ (Y:ウン ウ ーン) タスカル タメノ。 (Y:ウ ン ウーン ウーン) | いったん 避難 したら, 絶対 もう (X:うん うん) 赤子が 泣こうと 何 [を] しようと (Y:ああ) 戻っ ては いけない, (Y:戻っては いけな い) 誰かが 「助けてくれ」と 言っ ても (Y:戻っては) それは 戻るな (Y:ううん) これが 原則 大原則 な んですよ。 (Y:うん ううん) 助か る ための。 (Y:ううん ううん う うん) |

| | | |
|-----|---|---|
| 162 | <p>マズ ジューゴフン ルールワ ソー イ ッタ イミデネ? ワレワレ チョーナイ カイモ, チョーナイオ ジューニハンニ ワゲ ワケ° ルンデス (YZ:ウン) デ ソノー イーッパンノ ヒトワー イーッ パンノ ヒト ダケノー ヒトー タスケ ル, ニハンワ ヒハンノ ヒト ダケ, ゼッテー イーッパン ガラ ニハンニ イッテワ ダメダ ドガネ? (YZ:ウ ン) ソーユーノ アルンデス ソレワ イワユル トナリ イク° トー (Y:ウ ン) ウン, ジカン カカ° ル, カカ° ル カラ。 (Y:ウーン)</p> | <p>まず 15分 ルールは そう いった 意味でね? 我々 町内会も, 町内を 12班に ×× 分けるんです (YZ: うん) で その1班の 人は 1班の 人 だけの人を 助ける, 2班は 2班の 人 だけ, 絶対 1班 から 2班に 行っては だめだ とかね? (YZ:う ん) そういふの あるんです それは いわゆる 隣 [に] 行くと (Y:うん) うん, 時間 [が] かかる, かかる か ら。 (Y:ううん)</p> |
| 163 | <p>デスカラ ソレオー アーイ イーッパン ノ ウチノー ソノー アレモー ナカノ タスケルノモ, ケートラック モッテル ヒト (Z:ウー————ン) モシク ワ カゾクデ クルマオ モッテル ヒト コレコソカ°。</p> | <p>ですから それを ああ 1班の [=ひと つの班の] うちの その あれも 中の 助けるのも, 軽トラック 持っている 人 (Z:ううん) もしくは 家族で 車 を 持っている 人, これこそが。</p> |
| 164 | <p>アナタワ ネダキリ デシヨ, ワダシ カ° イキマス アド ダレモ イガナイ デ クダサイト (XY:ウーン) ソー ユー フニ カナラズ ペア クマセルン デス (Z:ウン ウン) サア, ダレ ニ イコーカ ト ユー コトジャ ナグ (Y:ウー————ン ウン) アナタワ ワダシカ° イキマス ト (Y:ウーン ウ ン) ソーユ フニ ペア クマセルンデ スヨ。 (Y:ウーン ウン, ウン ウ ン ウン)</p> | <p>あなたは 寝たきり でしょ, 私が 行 きます あと [は] 誰も 行かないで ください と (XY:ううん) そういふ ふうに 必ず ペア [を] 組ませるん です (Z:うん うん) さあ, 誰に 行 こうか という ことじゃ なく (Y: ううん うん) あなたは 私が 行しま す と (Y:ううん うん) そういふ ふうに ペア [を] 組ませるんですよ。 (Y:ううん うん, うん うん うん)</p> |
| 165 | <p>ジャー ワタシカ° タマタマ イナガッ タラ ドースルノガ ッテ ユーノ, ソ リヤー モー ハー アキラメデ クダサ イ, (Y:ウーン) (X:ウン, ウ ン) ソリヤ オタカ° イニ モーシアワ セ スルシカ ナイト, (Y:ウーン) チーキカ° ナットクシ, シナイト (X Y:ウーン) ソノ ゴドワネ? (Y: ウー————ン)</p> | <p>では 私が たまたま いなかったら ど うするのか というの, それは もう もう あきらめて ください, (Y:う うん) (X:うん, うん) それは お 互いに 申し合わせ [を] するしか な いと, (Y:ううん) 地域が 納得 ×, しないと (XY:ううん) その こと はね? (Y:ううん)</p> |

| | | |
|-----|--|---|
| 166 | ソーデ ナイト ユート, アドカ° ラー オメワ イカ°, イカ° ネバ ナガッ タノニ ナニ シテダッ, (Y:ウーン) コノ ヨーナ ケッカニ ナルンデスヨ (Y:ウーン) ナルンデス。 (Y:ウ ーン) | そうで ないというと, 後から 「おま えは ××, 行かなければ ならなかつ たのに 何 [を] していた」 (Y:うう ん) この ような 結果に なるんです よ (Y:ううん) なるんです。 (Y: ううん) |
| 167 | (X:ソ, ソレカ° ハジメノ ジュー ゴフン デスヨネ?) ソーナンデスヨ (X:ソレカ° スギタラ, ドーデス カ?) アドワ, モー スキ° タラバ, アノー ミステデ クダサイ ト。 | (X:それが 初めの 15分 ですよ ね?) そうなんですよ (X:それが 過 ぎたら, どうですか?) あとは, も う 過ぎたらば, あの 見捨てて くだ さい と。 |
| 168 | マー, ジューゴフン タッタラ スグ, ッテ ワケデ イケ° マセンケドネ? (X:ウン) ソリヤー モー。 (Y: ウーン) | まあ, 15分 経ったら すぐ, とい う わけで [は] いけませんけどね? (X:うん) それは もう。 |
| 169 | ジッサイニー スク° アノー マニアウ ンデス, ゲンジツテギニー (Y:ウー ーーン) (Z:ウン) ウン (Y: ウン ウン ウン ウン ウンウーン) ソリヤー アン マズワ クンレンデス デスカラ アク° マデモ。 (Y:アー ー, ウーーーーン) | 実際に すぐ あの 間に合うんです, 現実的に (Y:ううん) (Z:うん) うん (Y:うん うん うん うん う ん ううん) それは あの まずは 訓 練です ですから あくまでも。 (Y: ああ, ううん) |
| 170 | ダガラ, アノーオーーーー ソレワー, ジューゴフン ルールワ チカイ ヒトー タスケル, イマ ホレ キョーリョ ト ガ コージョ トガー アドワー (K: ジジョ) ジジョ トカネ? (Y:ウン) ユー ハナシ アリマスケドモ, プラス イマ キンージョ ナンデス (Y:ウー ン) チカクオ タスケル (Y:ウン ウ ン) ソノ キンジョ サクセンカ° ジ ューゴフン ルール。 (Y:ウーン ウ ン ウン ウン) | だから, あの それは, 15分ルール は 近い 人を 助ける, 今 ほら 協 力とか ほう助とか あとは (K:自助) 自助 とかね? (Y:うん) という 話 [が] ありますけれども, プラス 今 「近助」 なんです (Y:ううん) 近 くを 助ける (Y:うん うん) その 近助 作戦が 15分 ルール。 (Y: ううん うん うん うん) |
| 171 | (Y:ジューゴフン マエデ, タスケ ラ レル ヒトワ タスケル) ハーイ ハイ (X:ウーン) (Y:モ アトワ シラ ナイ ト) ウン (X:アトワ テン, イノチ テンデンコ) ソーソー イワユ ル オニト ナレッ。 (Y:ハー) | (Y:15分 前で, 助け られる 人 は 助ける) はい はい (X:ううん) (Y:も あとは 知らない と) うん (X:あとは ××, 命 てんでんこ) そう そう いわゆる 「鬼と なれ」。 (Y:はあ) |

| | | |
|-----|--|--|
| 172 | ソダガラ, アナタワ, (Z:アアー ソーデスネー,) オニト ナル ココロ (Z:ウン) モッテ マスカッ, (Y:ウン ウン) (Z:ソノ ファイルニ カイテ アリマシタネ?) ウン ソー ソー ツ, (Z:サイショノ トコニ ネ?) ソーソーソーソー, イヤ イヤ モー コー コーニ カイデマス。 (Y:コッチノ ホー ネ? カイテアル) (Z:ウン) | だから, 「あなたは, (Z:ああ そうですねえ) 鬼と なる 心を (Z:ううん) 持って ますか», (Y:うん うん) (Z:その ファイルに 書いて ありましたね?) うん そう そう × (Z:最初の ところに ね?) そう そう そう そう, いや いや もう ×× ここに 書いてます。 (Y:こっちの 方ね? 書いてある) (Z:ううん) |
| 173 | {紙をめくる音} (Y:ココデスネ?) ウン (Z:ウン) | {紙をめくる音} (Y:ここですね?) うん (Z:ううん) |
| 174 | ネ? オニトー ナル ココロー モテマスカ? ッテ ユーノ (Z:ウン ウン) コノ ココロー モテナケレバ, アナタワ タスカリマセンヨ (Y:ウン ウン) コレワ イノチ テンデンコノ ハナシダ, ッテ ユーノ。 (Y:ウン, ウン ウーン) | ね? 「鬼と なる 心を 持てますか?」 というの [は] (Z:うん うん) 「この 心を 持てなければ, あなたは 助かりませんよ」 (Y:うん うん) これは 「命 てんでんこ」の 話だ, というの。 (Y:うん, うん ううん) |
| 175 | ツラミソ トキア, テンデンコデ ニゲロ ッテ ユーケ°ド, カゾクノ キズナ, チョーナイノ キズナ, カソーカ°エレバネ, ソー カンタンニ テンデンニ ニケ°ル ワケニ イカナイ ット。 (Y:ウン) | 津波の 時は, てんでんこで 逃げる と言うけど, 家族の きずな [を], 町内の きずな [を], 考えればね, そう 簡単に てんでんに 逃げる わけに いかない と。 (Y:ううん) |
| 176 | ソロー ナラバ, テンデンコ, ジューゴフン ルールオ シーッカリト ココ°ロニ キザンデ, ジューゴフン ダゲネ? (Y:ウン) (K:スイマセン) ソレオ, マモッテ ヤレバ, (Y:ウン) タイオー スレバ, ダイジョブ (Y:ウン ウン) タスカリマスヨ (Y:ウン) ト ユー ゴド ナンデスヨネ? (Y:ウン ウーン) コノ オニト ナル ココロー モテマスカ, ト ユー ゴド ナンデスヨ。 (Y:ウン ウン ウン) (K:ウン) | それ ならば, てんでんこ, 15分 ルールを しっかりと 心に 刻んで, 15分 だけね? (Y:ううん) (K:すいません) それを, 守って やれば, (Y:うん) 対応 すれば, 大丈夫 (Y:うん うん) 助かりますよ (Y:ううん) という こと なんですよ (Y:ううん ううん) この 「鬼と なる 心を 持てますか», という こと なんですよ。 (Y:ううん うん うん) (K:ううん) |
| 177 | ソレデー コンドー エー コ, ワダシノ コノ ハナシー マー イロイロト | それで 今度 ええ ×, 私の この 話 [は] まあ いろいろと 話を ええ |

| | | |
|-----|---|--|
| | <p>ハナシオ エートー キーテ イダダキ° マシテネ, クカ° ズ イッピニア アノ ボーサイセン, ア, ボーサイ クンレ ン ニワ コノ マエノ, ツラミカラ ジューゴフン タチマシタ ト ユー ゴ ドノ ジケ° ン レンラクオ イレデ モライマシタ。 (Y:ソアー) (X: アアー)</p> | <p>と 聞いて いただきましてね, 9月1 日 には あの 防災××, × 防災 訓練 には この 前の, 津波から 1 5分 経ちました という ことの 時限 連絡を 入れて もらいました。 (Y: ん ああ) (X:ああ ああ)</p> |
| 178 | <p>ソースルト ユート, アノー タズサワ ッテル ヒトワ, (Y:ウーン) ト ユ ーノワ コウガッタンデスヨ コノ マエ ケーサツチョーニ イッテー ハ コーエ ン シテ キタ ドギニデスネー, ケー サツノ カンプ, トップノ ヒトニー アナタワー テーッタイト ユー メーレ ーオ ダセマスカッ? (K:ウン) (X Y:ウーン)</p> | <p>そうするというと, あの 携わっている 人は, (Y:ううん) というのは 怖 かったんですよ この 前 警察庁に 行 っては, 講演して きた 時に です ね, 警察の 幹部, トップの 人に 「あなたは [部下に]『撤退』という 命 令を 出せますか?」 (K:うん) (X Y:ううん)</p> |
| 179 | <p>イワユル ケーサツカンモー ヒトノコ ダガラ (Z:ウーン) ヒトノ オヤ ダ ガラ (X:ウン) ゼーッタイ タスカ ラナクチャ イゲナイト (Y:ウン ウン) ナニモ ソノー ショクセギ ト ユーネ? (X:ウン) ショクム ダガ ラ ムット ユー ゴドー コド ダケデー イノチオ ステル シツヨーワ ナインジ ャ ナイカッ。</p> | <p>いわゆる 警察官も 人の子 だから (Z:ううん) 人の 親だから (X: うん) 絶対 助からなくては いけない と (Y:うん うん) 何も その職責 というね? (X:うん) 職務 だから という ×× こと だけで 命を 捨て る 必要は ないのでは ないか。</p> |
| 180 | <p>ダガラ, ジューゴフン タッタラバ, テ ッタイ メーレーオ ダシテクダサイ (Y:ウーン) ト イッタンデスヨ ソ シタラバー, イヤー ワダシ カラワ ダセマセン シゴドジョー ソレワ ダセ ナイ ルール ダト (K:ウーン) ソ ーダラ, ダセナガッタ ナラバ, ソノ ゲンバノ ヒトカ° ジブン ジシンー テーッタイオ イエル ヨーナ タイセー オ ツグッテ クダサイ。 (Y:ウー ン)</p> | <p>だから, 「15分 経ったら, 撤退 命 令を 出してください」 (Y:ううん) と 言ったんですよ そうしたら, 「い や 私からは 出せません 仕事上 それ は 出せない ルール だ」と (K:う うん) 「それなら, 出せなかった な らば, その 現場の 人が 自分 自身 撤退を 言える ような 態勢を 作っ てください。」 (Y:ううん)</p> |

| | | |
|-----|--|--|
| 181 | <p>ソレワ ナニモナイ、 ウエノ ホーカラ 「イマカラ ジューゴフン タ、 クラ、 イエ ン、 ツナミカラ ジシンカラ ジューゴフン タチマシタ」 ト ユー ゴドー ホーソシテ モラエバ、 (Z:ウーン、 ウン) ア、 ソロソロ ワダシワ ニケ° マス、 ト (Y:ウン ウン ウーン) キメレバネ? アドワー、 ソノ ジカンオ ダイタイ スキ° ダラバ イッシュニ ナッテ ニゲレバ イーンジヤナイカ (Y:ウーン) ソレカ° スク° ヒナンジョカ° チカク° ニ アルンデ アレバ、 ゴフン イナイデ ニケ° レルンデ アレバ、 ソレワ ニジュップン タッテ ニジューゴフン タッテモ イー デショーケドモ。 (Y:ウーン ウン ウン ウン)</p> | <p>それは 何でも無い、 上の 方から 「今から 15分 ×、 ××、 いえ ×、 津波から 15分 経ちました」ということを 放送して もらえば、 (Z:ううん、 うん) × 「そろそろ 私は 逃げます」、 と (Y:うん うん ううん) 決めればね? あとは、 その 時間を だいたい 過ぎた ならば 一緒になって 逃げれば いいんじゃないか (Y:ううん) それが すぐ 避難所が 近くに あるので あれば、 5分 以内に 逃げられるので あれば、 それは 20分 経って 25分 経っても いいでしょうけれども。 (Y:ううん うん うん うん)</p> |
| 182 | <p>コノ マエモ 「ジューゴフン タチマシタ、 ニジュップン タチマシタ、 ニジューゴフン タチマシタ ット ユー ゴドオ イレデルンデス。 (Y:ウン ウン ウン ウン ウン ウーン)</p> | <p>この 前も 「15分 経ちました、 20分 経ちました、 25分 経ちました」ということを [放送で] いているんです。 (Y:うん うん うん うん うん ううん)</p> |
| 183 | <p>タラ、 ニジューゴフン ジャ モー オソイガラ ダメダド モー ソンドキ° アツナミ クンダガラ ヤメロ、 ト (Y:ウーン ウン) イズレ、 モー ジューップン、 ジューゴフン、 ニジュアップン、 コノ ミッツ ダケデ イー ト。 (Y:アー)</p> | <p>そうしたら、 25分では もう 遅いから だめだと もう その 時は 津波 来るんだから やめろ、 と (Y:ううん うん) いずれ、 もう 10分、 15分、 20分、 この 3つ だけで いい と。 (Y:ああ)</p> |
| 184 | <p>ソーユー ルールオー ヤッパ シャベツテ クレレバ、 (Z:ウーン) ジブン ジシンニ テットアイ メーレーオ、 ダセルノワ ケーサツカン、 ショーボードン、 アトワ、 アーーン フクシ カンケーシャ (Y:ウン ウン) アトワーワレワレミ、 ミダイニ チョーナイカイデ タズサワッタ ヒトカ° ネ? (Y:ウン ウン) モー イソイデ ニケ° ルト。 (Y:ウーン)</p> | <p>そういう ルールを やっぱり [決めて] 話して くれれば、 (Z:ううん) 自分 自身に 撤退 命令を、 出せるのは 警察官、 消防団、 あとは、 ああ× 福祉 関係者 (Y:うん うん) あとは 我々 ×、 みたいに 町内会で 携わった 人がね? (Y:うん うん) もう 急いで 逃げると。 (Y:ううん)</p> |

| | | |
|-----|--|--|
| 185 | ソレオ マモツ, マモラセル ヨーニ シテ クダサイト コレカ° キョークン デス コンカイノ イジバンノ キョークン デスカラ。 (Y:ウーン ウーン) | 「それを ××, 守らせる ように し て ください」と これが 教訓です 今 回の 一番の 教訓 ですから。 (Y: ううん ううん) |
| 186 | シノーダ ヒトモー ジコ° ク デショー ケドモ, (Y:ウン ウーン) コレカ ラ イキノビテク° ヒトモ ジコ° グ ナンデスヨト (Y:ウン) カゾクワ (Y:ウーーン) ゲンジツノ ソノ ソ。 (Y:ウーーン) (K:タシカニ) | 「死んだ 人も 地獄 でしょう けれど も, (Y:うん ううん) これから 生 き延びてく 人も 地獄 なんですよ」と (Y:うん) 家族は (Y:ううん) 現 実の その ×。 (Y:ううん) (K: 確かに) |
| 187 | ウーン ソダガラ ジューゴフン ルール ノー テッター メーレーオ ジブンジン シンニ ダセル ヨーナ タイセー ズクリ オ シナイト ダメデスヨ ット (Y: ウーン ウーン ウーン) ユーノカ° コノ ジューゴフン ルールノー (Y: ウーウーーン) ゲンソグデス。 | ううん だから 15分 ルールの撤退 命令を 自分自身に 出せる ような 態 勢 づくりを しないと だめですよ と (Y:ううん ううん ううん) いうの が この 15分 ルールの (Y:うう ん) 原則です。 |
| 188 | タダ, コレワ アクーマデモ, ジシン ハッセーカラ サンジュップンデ クル トユー サンーリグエンカ° ノノ ハナシ ナンデスヨ (Z:ウーン) (Y:ウー ン) (Z:ウン ウン) カントーニ イ ッタ バーイニワ, ソレワ ツージナイ ンデスネ? (Y:ウーン) (X:ダネ?) | ただ, これは あくまでも, 地震 発 生から 30分で [津波が] 来る とい う 三陸沿岸の 話 なんですよ (Z: ううん) (Y:ううん) (Z:うん う ん) 関東に いった 場合には, それ は 通用 しないんですね? (Y:うう ん) (X:[そう]だね?) |
| 189 | コンカイ トーカイ ナンカイ トーナン カイノ ハナシワ (Y:ウーン) モー ゴフンカラ ジュ, ジューゴフン ニジ ュップンデ クル, ト ユー ゴト デ スカラネ? (Y:ウーウーウーウー) | 今回 東海 南海, 東南海の 話は (Y:ううん) もう 5分から ×, 1 5分 20分で 来る こと で すからね? (Y:ううん) |
| 190 | イヤ, ナレバ, ナルホド モー ミン ナ スク° ニケ° ナクチャ ナイデスヨ ト。 (Y:ウーウーウーウー) | いや, [そう] ならば, なるほど も う みんな すぐ 逃げなくては いけな いですよ と。 (Y:ううん) |
| 191 | ジャ ソノ ルール トユーノー モー ネ? (Y:ウン ウン ウン) ツク° ソ ナクチャ ナイ (Y:ウーン ウン ウ ン) ワレワレワー ワレワレソ ドコ° ニ ー (Y:ウーンウーン) アノー ** ヤリマスカラ (Y:アノー チラバッテ ル カラネ? ウーン) ウーン。 | じゃ その ルール というのを もう ね? (Y:うん うん うん) 作らな くは いけない (Y:ううん うん う ん) 我々は 我々の ところに (Y: ううん ううん) あの **やりますか ら (Y:あの 散らばっている からね? ううん) ううん。 |

| | | |
|-----|---|--|
| 192 | ダカラー ジモドノ ツナミワ ジモドノ ヒトカ° カダレ ッテ ノワ ソゴ ナ ンデスヨ (Y:アー) ワダシ ムガシ カラ イッテル ノワ。 (Y:ウン) (Y Z:ウーン) | だから 地元の 津波は 地元の 人が 語れ という のは そこ なんですよ (Y:ああ) 私 [が] 昔から 言っ ている のは。 (Y:うん) (YZ:う うん) |
| 193 | ヨソガラ キタッテ ソーユー ルール カ° ワガンナケレバ ワカ° ンネー ダガラ (Y:ウーン) ヘダニー リ ーッパナ ゴド シャベッテ カエッテ マチカ° ワレデモ コマリマスヨ。 (Y: ウーン ウン ウン) | よそ から 来たって そういう ルール が わからなければ わからないん だか ら (Y:ううん) 下手に 立派な こ と 話して かえって 間違われても 困 りますよ。 (Y:ううん うん うん) |
| 194 | ワダシー ムガシカラ イッテン ノワ, ジモトノ ツナミワ, ジモトノ ヒト カ° カダレッ (Y:ウーン ウーン) コレカ° イチバンノ キョークン デス ヨッ。 (Y:ウーン ウン ウーン) | 私 [が] 昔から 言っている のは, 地 元の 津波は, 地元の 人が 語れ (Y:ううん ううん) これが 一番の 教訓 ですよ。 (Y:ううん うん う うん) |
| 195 | (Y:イチバン ヤッパ ワカ° ッテルン デスモンネ) ウーン。 | (Y:一番 やっぱ [り] 知っているん ですもんね) ううん。 |
| 196 | ソレワ ドゴニ ニケ° タラ イチバンノ チケー トカネ? (Y:ウーン ウーン) イチバン ハヤグニケ° レルカ トカ (Y:ウーン ドノ ミチ トカ) ソー ソー ソー (Y:ネ?) (Z:ウーン) ソーユー モノワネ, アノー ハナシア ッティガ, アノー——— ツタエナケ レバ, (Y:ウン ウン ウン) ダメ ナンジャ ナイカーッ ン。 (YZ: ウーン) | それは どこに 逃げたら 一番の 地形 とかね? (Y:ううん ううん) 一番 早く 逃げられるか とか (Y:ううん どの 道 とか) そう そう そう (Y:ね?) (Z:ううん) そういう ものはね, あの 話し合っ ていか, あの 伝えなければ, (Y:うん うん う うん) だめ なんじゃ ないか うん。 (YZ:ううん) |
| 197 | ムゴーノ ホーワ ジャー ドーシタラ イーデショ? イヤ, ドーシタラ イー デショー ッテ ユーノワ (Y:ウーン) ギャク° ニ アンタカ° タノ ホーガラ アダシニ シツモン シテクダサイト (Y:ウーン) トコロカ° マダ, ソ ノー キキ° カンカ° ナイデス (Y: アー) コノ マエ。 (Y:アー) (Z:ウーウー——) | 向こうの 方 = 関東, 東南海の津波対策 関係者 は 「それでは どうしたら い いでしょう?」 いや, 「どうしたら い いでしょう」 というのは (Y:ううん) 「逆に あなた方の 方から 私に 質問 してください」と (Y:ううん) とこ ろが まだ, その危機感が ないです (Y:ああ) この 前。 (Y:ああ) (Z:ううん) |
| 198 | ソーユー モノワ ドーシタラ イー カ°, ッテ ユーノワ マダ モッテ | そういう ものは どうしたら いいか, というのは まだ もって いない × |

| | | |
|-----|--|---|
| | <p>ナイ ソ, ソノ ク° ライ マダ キキ カン モッテ ナインデスヨ (Y:ウー ーン ウー—) キ° ヤクニ ジ ブンカ° ジブンラノ ゴドド カンカ° エレバネ? (Y:ウー—) ホント ワ ソノ ゴドオ チャント モー ドン ドン シツモン ナケレバ ナインデスヨ。 (Z:ウン) (Y:ウー—)</p> | <p>その くらい まだ 危機感 持って い ないんですよ (Y:ううん ううん) 逆 に 自分が 自分らの ことと 考えれば ね? (Y:ううん) 本当は その こ とを ちゃんと もう どんどん 質問 [し] なければ いけないんですよ。 (Z:うん) (Y:ううん)</p> |
| 199 | <p>ゴフンデ ドーシテ ニケ° ラレマスカ? (Y:ウーン ネー? ウー—) ソレ オー タイシテー テンデー マー— ガ クシャモー オ, オ オー ギョーセー モ (Y:ウン) ナンノ コタエモ マ ダ ダ, ダシテ ネーデスヨ? (Y: ウー—ウー—)</p> | <p>5分で どうやって 逃げられますか? (Y:ううん ねえ? ううん) それを たいして バラバラで まあ 学者も ×, × おお 行政も (Y:うん) 何 の 答えも まだ ×, 出して いない んですよ? (Y:ううん ううん)</p> |
| 200 | <p>(Y:ゴフン デワ ネ?) (X:ヤッ バリ ダイジナ コトワ イノチ テンデ ンコ, デスネ?) ソーソー アトワ イ ノチ テン—デンコ シカ アリマセン ヨ? (X:ウーン)</p> | <p>(Y:5分 では ね?) (X:やっぱ り 大事な ことは 「命 てんでんこ」 ですね?) そう そう あとは 「命 て んでんこ」 しか ありませんよ? (X: ううん)</p> |
| 201 | <p>タダ, イノチ テン—デンコ, トワ イ ッタ モノノ, ゴフンシカ ナイツ ト ユー ゴドワ, ニケ° レル バシヨカ° ナイ, ット ユー ゴド ダガラ, テ ン—デンコト ユー マエニ, ドコ° エ ド—ユー フニ ヒナン スルカ トユー タイセーノ ホー トラナイト (Y:ウ ーン) (X:ウン ウン ウン) ソリ ャ テンデンコト ユーノワ ニケ° ル コーイノ ハナシ ダガラ (Y:ウー ーン) コード—ノ ハナシ ダガラネ? (Y:ウー—)</p> | <p>ただ, 「命 てんでんこ」とは いた た ものの, 5分しか ない という ことは, 逃げられる 場所が ない, と いう こと だから, 「てうんでんこ」 という 前に, どこへ どういう ふう に 避難 するか という 態勢の 方 [を] 取らないと (=準備しないと) (Y:ううん) (X:うん うん うん) それは 「てんでんこ」というのは 逃 げる 行為の 話 だから (Y:ううん) 行動の 話 だからね? (Y:ううん)</p> |
| 202 | <p>(Y:スクナクトモ イ, イシ, サ, イクサキ° グライワ,) ウーン ソー ソーソ (Y:ミツケドカナイト ッテ ユ ー ゴド デシヨ— ケドネ?) (Z: ウーン) ド, ドコ° ニ ゴフンデ モ ッテ ニケ° レルカ? (Z:ウーン) (Y:ウーン ソーデスヨネ?) ウーン。 (Z:ゴフン カア—)</p> | <p>(Y:少なくとも ×, ××, ×, 行 く先 ぐらいは) ううん そう そう そう (Y:見つけて おかないと とい う こと でしょう けどね?) (Z: ううん) ×, どこに 5分で もって 逃げられるか? (Z:ううん) (Y: ううん そうですよ?) ううん。 (Z:5分かあ)</p> |

| | | |
|-----|--|---|
| 203 | <p>ジュップンデ ニケ° レルカー イヤ ソ ダガラ ソノー ホントニ ゴフンデ クルツ ト ユー— ナンテ ユーノ？ オー ナ, アノー ジカ° ソ ナノカ オラモー チョット ワカ° ソナイヨネ？</p> | <p>10分で 逃げられるか いや だから その本当に 5分で 来るという なんて いうの？ おお な あの 時間 何か 俺も ちょっと わからないよね？</p> |
| 204 | <p>ソマー ガクシャノ ソレゴソ ソーユー ノワ ガクシャカ° チャント ダス— (X:ウン ウン) (Y:ウーン ウー ン ウーン) ジカン ダガラネ？ ソレ ワ モー ハッキリ モー シャベツナク チャ ネーノサ アノー コーカラ コ コ° ア ナンブン, (Y:ウー—ン ウ ン) ヨソー サレル, ッテ ゴドオネ？ (Y:ウーン—ウン ウン)</p> | <p>まあ 学者の それこそ そういのは 学者が ちゃんと 出す (X:うん う ん) (Y:ううん ううん ううん) 時 間 だからね？ それは もう はっきり もう しゃべらなくては いけないのさ あの ここから ここは 何分, (Y: ううん うん) 予想 される, って こ とをね？ (Y:ううん うん うん)</p> |
| 205 | <p>アノー ヘダニ アノー—— ネ？ ジ ップンモ ニジュップンモ カカ° ルヨナ ドコ° オサ, テキトーニ ゴフンデ シャベツテサ？ (Y:ウーン) アノー キョーフンオ, キョーフシンオー アオ ル ヨリモネ？ (Y:ウーン) ヤーッ パリ コノー ア, ポイント ポイント デネ？ (Y:ウーン) チャント ソレ オ ツタエ, ツタエドガナイト—。 (Y:ウーン ウー—ン)</p> | <p>あの 下手に あのね？ 10分も 20 分も かかる よ [う] な ところをさ, 適当に 5分で 話してさ？ (Y:うう ん) あの 恐怖心を, 恐怖心を あお る よりもね？ (Y:ううん) やっぱ り この X, ポイント ポイント で ね？ (Y:ううん) ちゃんと それを 伝え, 伝えとかないと。 (Y:ううん ううん)</p> |
| 206 | <p>(Y:ゴフンテ ユツテテ コナカッタラ, マタ モドッテ ギセ—ニ ナツタリ ネ?) ソーソーソーソー (Y:ソーユ コトモ) マダ ジカンカ° アルト オ モーソダガラ。 (Y:ウーン)</p> | <p>(Y:5分と 言っていて 来なかったら, また 戻って 犠牲に なったりね?) そう そう そう そう (Y:そういう ことも) まだ 時間が あると 思うん だから。 (Y:ううん)</p> |
| 207 | <p>ソノ モドツチャ イケナイ ット ユー イノジ テンデンコ ノネ？ (Y:ウン ウン) キョークンオ コンド— (Y: ウー—ン ウン) ナント ユーノ？ コ ワス カッコニ ナルソダヨネ—？ (Y: ウーン)</p> | <p>その 戻っては いけない という 「命 てんでんこ」 のね？ (Y:うん うん) 教訓を 今度 (Y:ううん うん) な んというの？ 壊す 格好に なるんだよ ね？ (Y:ううん)</p> |
| 208 | <p>ソダガラ, ソノ ヘンオネ？ マー ソリ ヤー マ, ワダシラト ユー ヨリモ ン ソノー ソノ ジチタイ ッテカ° ソノ ネ？ ソノ ソレゴソ ユ, ワダ</p> | <p>だから, その 辺をね？ まあ それは まあ, 私らという よりも X そのそ の 自治体 って [いう] か その ね？ その それこそ X, 私が いう 地元</p> |

| | | |
|-----|--|---|
| | シカ° ユー ジモトノ ジモ, (Y:ウーン) ウ, ツナミワ, ソノ トコロ ドゴロデ カダッテ モラワナイト コマル ワゲ ダガラ。 (Y:ウーン) (X:ウーン) (Y:ウーン) | の ××, (Y:ううん) ×, 津波は, その ところ どころで 語って もらわないと 困る わけ だから。 (Y:ううん) (X:ううん) (Y:ううん) |
| 209 | ツタラ ソレニ タエシテ ワレワレカ° ソンデァ ナンカ° チエカ° アリマスカ ッテ ユーソデ アレバ, コダエレマ, ネ? (Y:ウン) ソレナリノ (Y:ウーン) キョーリョク ドカ° ー ナニカ° スル ケドモ (Y:ウーン, ウン) モー マダ アノー ン, アノー キキ° カンカ° ナイ ワゲデス (Y:ウー——ン) マダ カンガエテ ナイ ヨーデス (Y:ウー————ン) ウン。 | そうしたら それに 対して 我々が それでは 何か 知恵が ありますか というので あれば, 答えられません, ね? (Y:うん) それなりの (Y:ううん) 協力 とか 何か する けれども (Y:ううん うん) もう まだ あの ン, あの 危機感が ない わけです (Y:ううん) まだ 考えて いない ようです (Y:ううん) うん。 |
| 210 | ドーシタラ イー デショーネ? ア, シンパイダワッ, コエデ オワリ ナンデスヨ (Y:ウーン アンマリ グタイテギナ) ウー————ン (Y:ハナシワ ドコ° サ ニゲレバ イーノカ° ナンツ ハナシニワ ナラナインデスネ?) ウーン。 (Z:ウーン) | 「どうしたら いい でしょうね? × 心配だわ」, これで おしまい なんですよ (Y:ううん あまり 具体的な) ううん (Y:話は どこに 逃げれば いいのか なんていう 話には ならないんですね?) ううん。 (Z:ううん) |
| 211 | デ ソモソモ ニケ° ル ノニ ドーシタラ イーカ°, ナカ° ークツカ° イチバン イーンデスヨ イチバン イーノワ (Y:アー— アー—) (Z:ミズー— ネ? チョットー アッテモー) (Y:ウーン) ウーン アノー ズックー トユー アノー フツーノ クズワネ? (Z:ウーン) トークニ ニケ° ル ドギワ ソリヤー アノー クツワ (Y:ウン) イーンデスヨ (Y:ウーン) カルクテ ハヤクテ— イーンデスヨ。 (Y:ウーン) | それで そもそも 逃げる のに どうしたら いいか, 長靴が 一番 いいんですよ 一番 いいのは (Y:ああ ああああ) (Z:水 ね? ちょっと あっても) (Y:ううん) ううん あの ズック という あの 普通の 靴はね? (Z:ううん) 遠くに 逃げる 時は それは あの 靴は (Y:うん) いいんですよ (Y:ううん) 軽くて 速くて いいんですよ。 (Y:ううん) |
| 212 | ソダケ° ドモー ツナミン ドキ° ワ トーク° ニ ニケ° ル ヒツヨーワ ナインデスヨネ? (Y:ウーン) イズレ タカイ ドゴニ (Y:***ワ— サレテマス ウーン) デ, アド ソノ コ° ノゴト— カンカ° エレバネ? (Y:ハイ) | だけれども 津波の 時は 遠くに 逃げる 必要は ないんですよね? (Y:ううん) いずれ 高い ところに (Y:***は されています ううん) で, あと その 後の ことを 考えればね? (Y:はい) もう ぬかるみが あった |

| | | |
|-----|--|---|
| | <p>モー スカリカ° アツタリ ナンナリ カンカ° エレバ, ナカ° クツカ° イチ バン イーンデスヨ? (Y:ウー—ー—)</p> | <p>り なんなり 考えれば, 長靴が 一番 いいんですよ? (Y:ううん)</p> |
| 213 | <p>ト ユー グダイテギナ モノ トガネ? (Y:ウーン) ソーユー モノノ ヘラ ブト シタラ ドーシタラ イーカ° ド ガネ? (Y:ウーン) ヤッパリ ソノ ー ソーユーノカ° ネ? (Y:ウー— ウン ウン ウン)</p> | <p>という 具体的な もの とかね? (Y:ううん) そういう ものの 選ぶ と したら どうしたら いいか とか ね? (Y:ううん) やっぱり その そ ういうのがね? (Y:ううん うん う ん うん)</p> |
| 214 | <p>イズレー モー オワーッタ アドニヤ サキ° ョーカ° ハジマリマスカラ, (Y:ウー—ー—) ソソドギ ニア ナカ° クツカ° イチバン イーンデスヨ ー。 (Y:ウー—ー—)</p> | <p>いずれ もう 終わった 後には [片付 け, 清掃等の] 作業が 始まりますから, (Y:ううん) そんな 時には 長靴が 一 番 いいんですよ。 (Y:ううん)</p> |
| 215 | <p>(Y:ズック ジャ, ン, ンナ, ハ ナシニ ナンナイ デスネ?) ウーン ー, ソーソダ ズック ハイデ ジャ ドコ° ニ ニケ° ルンデスカ ッテ (Y:{笑}) ナー—ニ イチキロモ ニ キロモ ハシッテ イ, イク° ツモリ シテルンデスヨネ? (Y:{笑} ウー— ー—) ソゴ ナンデスヨネ? (YZ: ウー—)</p> | <p>(Y:ズック じゃ, ×, そんな, 話 に なんない ですね?) ううん うん, そうだ ズック 履いて では どこに 逃げるんですか って (Y:{笑}) な あに 1キロも 2キロも 走って ×, 行く つもりでいるんですよ? (Y: {笑} ううん) そこ なんですよ? (YZ:ううん)</p> |
| 216 | <p>カンカ° エダ コド ナイデシヨ? (Z:イヤ, アリマス) アルンデスカ { {笑} } (Y: {笑})</p> | <p>考えた こと ないでしょ? (Z:いや, あります) あるんですか { {笑} } (Y: {笑})</p> |
| 217 | <p>(X:ケッコウ, チカクニ スンデルモン デ) (Y:カノジョワ ジモトノ, シ ュッシンカ° ー ナンデー) (Z:ア, ワタシー ワー,) (X:ケッコウ ウ ミノ チカクダモンネ?) ウーン。</p> | <p>(X:結構, [海の] 近くに 住んでい る もんで) (Y:彼女は 地元の, 出 身が [沿岸] なので) (Z:あ, 私 は) (X:結構 海の 近くだもんね?) ううん。</p> |
| 218 | <p>(Z:ハーイ アノ, ウミー, ウミー ノー リョー リョーカ° ワカ° ー トー キョーワンテ ユートコニ スンデンデス) ウン (Z:デ, ジブンカ° イマ ド コ, カイバツ ナンメートルソ トコニ イター ッテ ユーノワ ツネニ カン カ° エテルノデ, ウー—) (X:ウ ン, ミニ ツマサレタネ? キョーノ</p> | <p>(Z:はい あの, 海, 海 ×××× [今] 両側が 東京湾 という いうとこ ろに 住んでいるんです) うん (Z: で, 自分が 今 どこ, 海拔 何メー トルの ところに いて というのは 常 に 考えているので, ううん) (X: うん, [Zに対して] 身に つまされた ね? 今日の 話は) (Z:うん そう</p> |

| | | |
|-----|--|---|
| | ハナシワ) (Z:ウン ソーデスネー?) | ですね?) |
| 219 | イヤ デモネ? コノ ソノ ツキ° ニ コンド イチバン コワイ ノワネ? ア ノー イマ, チューオーニ イッテ シャベッテルノワ。 {紙をめくる音} | いや でもね? この その 次に 今度 一番 怖い のはね? あの いま, 中 央 =東京 =に 行って 話しているの は。 {紙をめくる音} |
| 220 | コレ シャベッテルノ (Z:ウーン) クルマ ヒナンワ ヤメヨ ッテ ユー ノ。 (XY:ウーン) (Z:クルー マ ニワ ノラナイ デショー ネ?) | これ [を] 話しているの (Z:ううん) 「車 避難は やめよ」というの。(X Y:ううん) (Z:車 には 乗らない でしょう ね?) |
| 221 | コノー クルマワ, ウミニワ ヨワイ ッテ ユーノワネ? イ, ウミッテユ カ° シ, カイスイニ ヨワイ, ッ テ ユーノーネ? (XY:ウーン) イ シキ° シテンノカ° アッタノ。(Y: アーーー) | この車は, 海には 弱い というのは ね? い, 海というか ×, 海水に 弱 い, というのをね? (XY:ううん) 意識 しているの [=ところ] が あった の。(Y:ああ) |
| 222 | トーキョーニ イク° ト ユート ナニ, イチメーターカ°, セーゼー ア, オ タカイ, タカイ トコ° ロデ ニメータ ー ツージョーデ イチメーターダッ, (Y:ウーン) スイボツスル タカ° サ ワ (Y:ウン ウン) イッテルンデス デ スカラ, (Y:フツノ ミズダト ソ レク° ライー マー ン, アト ノレナ ク° ナッテモ ソ ソノ バワ ノ, ノ カ° レラレルカモ シレナイ) ウン。 (Y:ナンテ オモイマスモンネ?) | 東京に 行くというと 何, 1mか, せ いぜい × × 高い, 高い ところで 2m 通常で 1mだ, (Y:ううん) 水没する 高さは (Y:うん うん) [と] 言っているんです ですから, (Y:普通の 水だと それくらい まあ ×, あと 乗れなくなっても × そ の 場は の, 逃れられる かもしれな い) うん。(Y:なんて 思います も んね?) |
| 223 | タダ, (Y:カイスイ ジャ ナントモ ナラナイ) ソーナンデ アレバ, ソー ユー フニ カンカ° エルソデ アレバ, ヒナン, トユーノワ モット ラク° ナ ハズダッ (Y:ウーン) ネ? デワ ソ レワ ソレデ モッテ ア, オタクサン ダジ セキ° ニン モッテ ヤッテ クダ サイト (Y:ウーン) ヒナン ト ユ ーノワ ソンナネ? (Y:ウン) イチ メーター ク° ライデ アレバネ? (Y:ウーンウーン) イーンデ アレバ。 | ただ, (Y:海水では なんとも なら ない) そうなんで あれば, そうい うに 考えるんで あれば, 避難, と いうのは もっと 楽な はずだ (Y:う うん) ね? では それは それで も って × おたくで ×× 責任 持って やって くださいと (Y:ううん) 避 難 と いうのは そんなね? (Y:う うん) 1m くらいで あればね? (Y: ううん ううん) いいんで あれば。 |

| | | |
|-----|--|---|
| 224 | <p>ただ、イチーバン コマルノワ、カイスイニ ツカッタ クルマワ、(Y:ウン ウン ソー ナンデスネ?) ジドーテキニ ハッカ スルノモ アレバ、(Y:ウー——ン) カナラズ ア、ダイジョーブカ° ナ ド モッテ スイッチ オ イレテ、カキ° オ イレテ スイッチ オ イレダラ ボッ、ト (X:ホー—) (Y:アリャア) バク° ハズスル (Y:ウー——ン) コレカ° クルマ (Y:ウー——ン) カイスイヌ ツカッタ クルマ。</p> | <p>ただ、いちばん 困るのは、海水に 浸かった 車は、(Y:うん うん そう なんですネ?) 自動的に 発火 するの も あれば、(Y:ううん) 必ず × 大丈夫かな と 思って スイッチ を 入れて、 鍵を 入れて スイッチ を 入れたら 「ボッ」 と (X:ほお) (Y:ありゃあ) 爆発する (Y:ううん) これが 車 (Y:ううん) 海水に 浸かった 車。</p> |
| 225 | <p>(Y:ウー——ン フツ—ノ ミズ— トワ チカ° ウンデスネ?) ウン、ウン コレワ カンカ° エデマスカッ? (Y:ウーン)</p> | <p>(Y:ううん 普通の 水 とは 違うん ですね?) うん、うん これは 考えて いますか? (Y:ううん)</p> |
| 226 | <p>モー アブラ、(Y:ウーン ウン) アブラト ユー モノワ モー ネ? ソ、モシ マンカ° イチー、アブラ、カ°—、カイスイニ、アブラカ° デタラバ、(Y:ウーン) (Z:モエマスヨネ?) ソモー モエルンジヤナグ、(X:ウン) (Z:ウン ウン) タ、タダヨッテクル ドンドン ドンドン ハー、(Y:ウーン) カキ° リナク°。(Y:ウーン)</p> | <p>もう、油、(Y:ううん うん) 油 という ものは もう ね? × もし 万が一、油が、海水に、油が 出たら ば、(Y:ううん) (Z:燃えますよ ね?) んも 燃えるんじや なく、(X:うん) (Z:うん うん) ×、漂ってくる どんどん どんどん もう、(Y:ううん) 限りなく。(Y:ううん)</p> |
| 227 | <p>(X:ケセンヌマ ナンカ タイヘンデシ タヨネ?) ウー——ン (Z:デスヨネ?)</p> | <p>(X:気仙沼 [注11] 何か 大変でした よね?) ううん (Z:ですよ ね?)</p> |
| 228 | <p>アーユー フーニ ナルノ (Z:ヒカ° ツイタラ モー オワリ デスヨネ—?) ソースルト—、ターッタ イチメーターノ ツナミ タガラ アンシンシテ、ア、(Y:ウー——ン コワイ デスヨネ—?) イマーノ クルマーデヒ、アノー クルマ カラ ハナレル ドギワ カキ° オ サシタ ママ ッテ ヨグ ユーンデスヨネ? (Y:ウーン)</p> | <p>ああいう ふうに なるの (Z:火が ついたら もう 終わり ですよ ね?) そうすると、 たった 1mの 津波 だから 安心して、× (Y:ううん 怖い ですよ ねえ?) 今の 車で ×、あの 車 から 離れる ときは 鍵を 差した まま っ て よく 言うん ですよ ね? (Y:ううん)</p> |
| 229 | <p>オレ アレ ヤメデクダサイ、 ッテ ユーノ ナゼカト ユート、カナラズ ダ</p> | <p>俺 [は] あれ やめてください、 というの なぜか というと、 必ず 誰か い</p> |

| | | |
|-----|---|--|
| | レカ イタズラス, イタズラ スルンデ スヨ (Y:ウーン ウン ウン ウーン) イジーバン キケンナ コーイ デスヨ アレア。 (Y:ウーーン ウーン ウー ーーン) | たずら ×, いたずら するんですよ (Y:ううん うん うん ううん) い ちばん 危険な 行為 ですよ あれは。 (Y:ううん ううん ううん) |
| 230 | (Z:ソーデスヨネ? アレ ヨク カン カ° エタラー アンマリ ミンナ イシキ シテ ナイデス ナカデ モヤシテンデス カラネ) ウン (Y:ウーン) (Z: {笑}) (Y:バクハツ サセルンデス モンネ) (Z:ウーン) (Y:ウー ーーーン イヤー) | (Z:そうですね? あれ よく 考え たら あまり みんな 意識 して いな いです 中で 燃やしているんですから ね) うん (Y:ううん) (Z:{笑}) (Y:爆発 させるんですものね) (Z: ううん) (Y:ううん いやあ) |
| 231 | マ, ソーユー ゴドカ° ネ? (Z:ウ ーン) ジーッサイニ, ジブンノ ミノ コトト シテ, イワユル ヒナン タイ サク トガー ボ, ボーサイ タイサ ク° オ シテルカ ドーカ ッテ ユーノ カ° マダ, トーキョーノ ホー ッテ ユーカ チューオーノ ホーニワ (X: ウン) ミラレマセンネ。 (Y:ウーン ウーーン) | ま, そういう ことがね? (Z:うう ん) 実際に, 自分の 身の ことと して, いわゆる 避難 対策 とか ぼ, 防災 対策を しているか どうか とい うのが まだ, 東京の 方 といつか 中央の 方には (X:うん) みられま せんね。 (Y:ううん ううん) |
| 232 | (Z:コナイダー ウ, オージシンカ° アッタ トキー ニワ, テツドーオ ウ コ° カセ, ト ユー メーレーカ° デ テータ) {マイクが転がる音} (Z: ト, トカ ナンカ アノー) {お茶を すする音} (Z:カラ ヨーサーカ° デ テ, ダイジョブデスカ) ダイジョブ (Z:ダッテ センロ マカ° ッテル カ モ シレナイノニネ?) ウン (K:{笑}) (Z:ウコ° カセ, トワ ナンダト) ウ ン。 (K:{笑}) | (Z:この 間 ×, 大地震が あった 時 には, 鉄道を 動かせ, という 命 令が 出ていた) {マイクが転がる音} (Z:都, とか 何か あの) {お茶 をすすする音} (Z:から 要請が 出 て, 大丈夫ですか) 大丈夫 (Z:だって 線 路 曲がっている かも しれないのに ね?) うん (K:{笑}) (Z:動 かせ, とは なんだと) うん。 (K: {笑}) |
| 233 | (Z:デモ ケッキョク シテツノ オ ークカ° ウコ° カス コトニ シタンデ スヨネ?) (XY:ウーン) (Z:ウ ーンテンシュカ° モクシデ ミテー) (Y:ウーン) (Z:ユックリ ダッタ ラ ウコ° カシテ イイ コトニ ナッタ ンデスケドー ジェーアールワ イマダニ ー) (XY:ウーン) (Z:イヤダ, | (Z:でも 結局 私鉄の 多くが 動か す ことに したんですよね?) (X Y:ううん) (Z:運転手が 目視で 見 て) (Y:ううん) (Z:ゆっくり だ ったら 動かして いい ことになっ たんですけど JRは いまだに) (XY: ううん) (Z:いやだ, と 言ってい て) |

| | | |
|-----|---|---|
| | ッテー イッテデー) | |
| 234 | イヤ、ソダガラ スク° ソノー ウコ° カサナクチャ ナラナイ リュー ッテ ユーノカ° アルノカ ドーカ° ト (Y:ウーン) (Z:アノー ジョーキ ャク オ オロス タメニー) アー、 (Z:モヨリノ エキマデ ウコ° カセ ッテ ユー コト ナンデスケド) アー ソユー イミデネ? | いや、だから すぐ その 動かさなく ては いけない 理由 というのがある のか どうか と (Y:ううん) (Z: あの 乗客を 降ろす ために) ああ、 (Z:最寄りの 駅まで 動かせ という こと なんですけど) ああ そういう 意味でね? |
| 235 | (X:ト, トーキョーワ マタ ベツノ ジジョーカ° アリマスカラネ?) (Z: ソーデスヨネ? アト ヒトー, ヒトー カ° ヒトー オ) (X:キタク ナン ミン) ウン (Z:アノー コロース カ モ シレナイ ッテ ユー) アー ハイ ハイ ハイ (XY:ウーン) (Z: モンダイカ° アルノデー ヒトッテ タクサン イル ダケデー モー キョー キ ミタイナ モン デスカラネー) (X:ウーン) ウーン。 (Z:ウーン) | (X:X, 東京は また 別の 事情が あ りますからね?) (Z:そうですね? あと ひと, 人が 人を) (X:帰宅 難民) うん (Z:あの 殺す かも し れない という) ああ はい はい はい はい (XY:ううん) (Z:問題 があるので 人って たくさん いる だけで もう 凶器 みたいな もん で すからね) (X:ううん) ううん。 (Z: ううん) |
| 236 | コンカイネ? (Y:ウーン) イワユル エーットー {紙をめくる音} カマイ シノ キセキ, ソノ カマイシノー キ セキノ ウントーオーー ボーサイ カ° クシユーニワ, ワダシカ° イチバ ン タッチ シマシタカ° ネ? (Y:ウ ーンウーン) ツラミノ ゴドデ。 (Y: ウーン) | 今回ね? (Y:ううん) いわゆる え えっと おお {紙をめくる音} 釜石の 奇跡, その 釜石の奇跡の うんと 防 災学習には, 私が 一番 タッチ しま したがね? (Y:ううん) 津波の こ とで。 (Y:ううん) |
| 237 | マー カマイシノー カ, カシカ° ーシ ョーカ° ッコーノー アノー ン ボーサイ イガクシユースル ドギニワー サッキ イッタ リューイシノー ツナミ キネン ヒ ガラ ハジマルンデスヨ。 (X:ウ ーン) (Y:ウーン) ボーサイ ガク シユーワ。 (Y:ウン ウン ウン ウ ン) | まあ 釜石のか, // // // 小学校 [注 12] 釜石市立甲子小学校? のあの ン 防災学習する 時には さっき 言った 両石の津波 記念碑 から 始まるんです よ。 (X:ううん) (Y:ううん) 防 災学習は。 (Y:うん うん うん う ん) |
| 238 | コノ キニンヒー ニワ, ドーユー ゴ ド カガッテルガ, ドーユー キョーク ンカ° ア, ノベラレテルカ (Y:ウ | この 記念碑 には, どういう 事 書 か [れ] てるか, どういう 教訓が × 述べられているか (Y:うん うん う |

| | | |
|-----|---|---|
| | ン ウン ウン) ソレオ マズ ス ソ レカラ ハジマルンデスヨネ? (Y:ウ ーン ウン) | ん) それを まず × それから 始ま るんですよね? (Y:ううん うん) |
| 239 | デ カエッテ マー イズレ マー オ ジツイテ コードーセ, トユー ゴド オ ミナサン ヨグ キクド オモイマス ケドモ (Y:ウーン) オチツイデ コ ードースル ト ユー ゴドワ ドーユー コトカ° ワカリマスカ? (Y:ウーンウ ーン) ソレオー ダレガカ° チャント ー イエマスカ? (Y:ウーン ウン) | それで かえって まあ いずれ まあ 落ち着いて 行動しろ, という ことを みなさん よく 聞くと 思います けれ ども (Y:ううん) 落ち着いて 行動 する という ことは どういう ことか わかりますか? (Y:ううん ううん) それを 誰かが ちゃんと 言えますか? (Y:うん うん) |
| 240 | オチツイデ コードースル ッテ ゴド ワ, ユーッークリ モノゴドー シロ ト ユー ゴドデスカ? (Y:ウーン ウ ン) ドーユー ゴド デスカ? ッテ。 (Y:ウーン ウン) | 落ち着いて 行動する って ことは, ゆっくり 物事を しろ という こと ですか? (Y:うん うん) どういう こと ですか? ッテ。 (Y:うん うん) |
| 241 | ノノービリド ヤル ッテ ユー ゴド デスカ? イソイデワ ダメダ ッテ ゴ ド ナンデスカ? ッテ。 (Y:ウーン ン) | のんびりと やる という こと だ すか? 急いでは だめだ って こと な んですか? |
| 242 | ソレガラ トーンデスヨネ? (Y:ウ ン ウン ウーン) | それから 問うんですよね? (Y:うん うん うん ううん) |
| 243 | ヨク° ユー ケドモー ダレモ ソレ イッテ マセンヨ ット (X:ウーン) (Y:ウーン) オシエテ マセンヨト (X:ウーン) (Y:ウーン ウン) ホン ーライワ ソレガラ キョークンカ° ハ ジマルンデスヨッ。 (X:ウーン) (Y: ウーン ウン ウン) | よく 言う けれども 誰も それ [は] 言っ て いませんよ と (X:ううん) (Y:ううん) 教えて ませんよ と (X:うん) (Y:うん うん) 本来 は それから 教訓が 始まるんですよ。 (X:ううん) (Y:ううん うん う ん) |
| 244 | オジツイテ コードースル ト ユー コ トワ, モノー シーッテ ナケレバ, デ キ° ナイ ゴド ナンデス。 (Y:ウ ン ウン ウン) モノー シラナイ ヒ トワ, ナニモ ウコ° コード デキ° マ セン (Y:ウーン) | 落ち着いて 行動する という ことは, ものを 知っ て なければ, できない こと なんです。 (Y:ううん うん う ん) ものを 知らない 人は, 何も 動 こうと できません。 (Y:ううん) |
| 245 | モノ シッテルカラ, ツキ° ノ コード カ° デキ° ルンデス (Y:ウーン ウ ン) ダガラ, イノチオ タスカル ホ ーホート ユーノカ° ナンーナノカ, | もの 知っているから, 次の 行動が できるんです (Y:ううん うん) だ から, 命を 助かる 方法というのが なうんなのか, これを ちゃうんと 知 |

| | | |
|-----|---|---|
| | コレオ チャンート シッテレバ, オジズイテ コードカ° デキ° マス。(Y:ウン ウン ドーショー,) | っていれば, 落ち着いて 行動が できます。(Y:うん うん どうしよう) |
| 246 | ソノ タメニワー (Y:ウーン) ツネヒコ° ロノー ヒナンクンレン カラ ハジマルン ジャ ナイデスカ? (Y:ウン ウーン) | その ためには (Y:ううん) 常 日頃の避難訓練 から 始まるのでは ないですか? (Y:うん ううん) |
| 247 | ダマーッテ デモ一 カラダカ° モ一アシカ° モ一 ヒナン一ジョノ ホ一ニムキ° マスッ (Y:ウン ウ一ーン) ドユー ゴドデ モッテ一, ヒナンクン一レンノ一 タイセツサオ マズ トク° ワゲデスヨネ? (Y:ウーン ウン ウン ウーン ウン ウン) | 黙っていても 体が もう 足が もう 避難所の 方に 向きますっ(Y:うん ううん) という ことでもって, 避難訓練の大切さを まず 説く わけですよね?(Y:ううん うん うん ううん うん うん) |
| 248 | ト イッテ? マ一 イロイロ ヤッタ ケッカー, エ一ー ト一ジノ一 チューカ° ッコー サンネンセ一, エ一 イマ コ一コー ニネンセ一 デスケドモネ? | と 言って? まあ いろいろ やった結果, ええ 当時の 中学校 3年生, ええ いま 高校 2年生 ですけどもね? |
| 249 | エ一ー サンネンセ サンカ° ツ ジューシチニチカ ソズキ° ョ一シキオ フツカ マエニ, エ一エ一ー一ー一 メノ マエニ シテノ ス, アノ一 サン一, サン一カ° ツ ジューイチニチ ダッタ ワケ デスヨネ? ソノ フツカ マエノ。 | ええ 3年生 3月 17日 ※聞き直し か, 卒業式を 二日前に, ええ 目の 前に しての す, あの さうん, 3月 11日 だった わけ ですよ? その 二日 前の。 |
| 250 | ソノ ドギニ ソノ サク° ブンオ カイデ モラッタンデスヨ (Y:ウーン ウン) ソノ サクブン一オ ワタシカ° イチバン サキニ カ, アノ一 ョ, ョマシテ モライマシタ ケドモネ? (Y:ウーン) ソノ ナカオ コ一 ョ一ヤグ シタノカ° コノ ゴド ナンデスヨ。(X:ウーン) | その 時に その 作文を 書いて もらったんですよ (Y:ううん うん) その 作文を 私が 一番 先に ×, あの ×, 読ませて もらいました けれどもね? (Y:ううん) その 中を こう 要約 したのが この こと なんですよ。(X:ううん) |
| 251 | マ一ジ一メ一ニー イズレ (Y:ウン) ヒナンクン一レンオ ヤッテデ (Y:ヤッテ一テ ョガッタ ッテ, ウーン) (Z:ウン ウーン) ョガッタ。 | まじめに いずれ (Y:うん) 避難訓練を やって (Y:やっていて よかった って, ううん) (Z:うん ううん) よかった。 |

| | | |
|-----|---|--|
| 252 | ホソートニ マジメニ ヤッテ イタガラ コソー イワユル スムースニネ? (Y:ウーーン) アレカ° デキ° ダド ヒナン デキ° ダド。 (Y:ウーーン) | 本当に 真面目に やって いたから こ そ いわゆる スムースにね? (Y:う うん) あれが できたと 避難 できた と。 (Y:ううん) |
| 253 | コレカ° ヤッパ イチバンノー ジブン デ イノチオ マモル ゴド ナンダモン ネ? (Z:ウーン ウーン) コレカ° オチツイデ モノカ° デキ° ル。 (Y: ウーン ウーン) | これが やっぱ [り] 一番の自分で 命 を 守る こと なんだもんね? (Z: ううん ううん) これが 落ち着いて ものが できる。 (Y:ううん ううん) |
| 254 | ト ユー ゴドワ ワレワレ オドナモ ネ? ヤーッパリ ツネ ヒコ° ロー ク ンレン ソーユー (Y:ウーン) ヒナ ンクンレン シテレバ (Z:ウーン) ナ ニモ サーク° コトワ ナイ, トク° ニ モー トーキョーノ ホーナンカ, ジカンカ° ナイ ツツー ソデ アレバ (Z:ウン ウン) ツネニ ヒナ, ヒ ナン クンレン シテレバ (Z:ウーン) イーンジャ ナイデスカ? トユー。 (Z:ウーーン) | という ことは 我々 大人もね? やっ ぱり 常 日頃 訓練 そういう (Y: ううん) 避難訓練 していれば (Z: ううん) 何も 騒ぐ ことは ない, 特 に もう 東京の 方向か, 時間が ない という ので あれば (Z:うん う ん) 常に ひな, 避難訓練 していれ ば (Z:ううん) いいんじゃないで すか? という。 (Z:ううん) |
| 255 | ソレオ ヤッテ ナイデカ° ラ, ア, ド ーシマショー コーシマショー ト ユー ロンジル コトワ, (Z:ウン, タダ ー) モー ク° ノ コッ。 | それを やって いないで [いて] から, × どうしましょう こうしましょう と いう 論じる ことは, (Z:うん, た だ) もう 愚の こっ [「骨頂」と続く と推察]。 |
| 256 | (Z:トーキョーノ バーイワー ソノー ジョーキョー シテ キテ イチジテキニ シゴドー シテール ヒトノ ジンコー カ° ー,) ウン ウン (Z:ニワリ ク° ライ ナンデスヨ) ウーン (Z:アノ ー) アー ア ニワリ ッテ (Z:ジ ュ, ジューワリノ ウチ ニワリカ°, ソノ ヒ タマタマ キテル ヒト ナン デスヨー) アーアー, アーアーアーア ーアーアーアーアー。 | (Z:東京の 場合は その上京して き て 一時的に 仕事を している 人の 人口が) うん うん (Z:2割 ぐら い なんですよ) ううん (Z:あの) ああ × 2割 と (Z:じゅ, 10 割の うち 2割が, その 日 たまた ま 来てる 人 なんですよ) ああ, あ あ あああ あああ あああ あああ。 |
| 257 | (Z:ソレオ ドースルカ, ッテ ユ モ ンダイカ° スコ° ク オーキーンーデス ヨネ?) ウーン。 | (Z:それを どうするか, という 問 題が すごく 大きいうんですよね?) ううん。 |
| 258 | ソレデモ ソレワ ソーユー ヒトワー | それでも それは そういう 人は あの |

| | | |
|-----|---|--|
| | アノー チホー カ° ラノ ヒト ナンデシヨ? (Z:ソーマー チホーカ) ケツカテキニー (Z:ガ, ガイコクカ チホーカ) アー, マー ンー ソノー ンー。 | 地方 からの 人 なんでしょ? (Z:うんまあ 地方か) 結果的に (Z:が, 外国か 地方か) ああ, まあ うん その うん。 |
| 259 | (X:デンシャデ ニジカン カヨッテ, ショクバニ キテル ハイ, ソー) (Z:ソー, ソー ナンデスヨ) ウン, ダカラ ソーナンデスヨネ? (Z:ウー ーン) ソゴ ナンデス。 | (X:電車で 2時間 通って, 職場に 来ている はい, そう) (Z:そう, そう なんですよ) うん, だから そうなんですよね? (Z:ううん) そこ なんです。 |
| 260 | (Z:ヒナンクンレンオ ショーニモー) イヤ イヤ, ア ソ, ソゴ ナンデス イヤー ソー ジャ ナインダネ? | (Z:避難訓練を しようにも) いや いや, × × そこ なんです いや そうでは ないんだね? |
| 261 | ジャ ソノ ヒトー カバウ タメニワ ドースルカ° ト ユーノー (K:ウン) マー マズ ソノ マエニ サキ° ニ コノ ツキ° ノ アレ ナンデスヨ。 (Z:ウー ーン) | それでは その 人を かばう ためには どうするか というのを (K:うん) まあ まず その 前に 先に この 次の あれ なんですよ。 (Z:ううん) |
| 262 | アノーオー ー ー ー ー ソーダツケ エ, マズ ジブンカ° タスカルニワネ? (Z:ウン) ジブン ジシンカ° タスカル ニワ ッテ ゴド ナンデスヨネ? (Z:ウー ーン) | あの 何だっけ ×, まず 自分が 助かるにはね? (Z:うん) 自分 自身が 助かる には という こと なんですよね? (Z:ううん) |
| 263 | ジブンカ° タスカレバ, イズレ カゾクモー ジブン ゴドオー マズ コドナク°, サッサド (X:ウー ーン) シナン デキ° ルト。 (X:ウン) (Y:ウー ンウー ーン) | 自分が 助かれば, いずれ 家族も 自分 [の] ことを 待つ ことなく, さっさと (X:ううん) 避難 できると。 (X:うん) (Y:うん ううん) |
| 264 | ト ユー ゴドナノ ソレワ ケツカテキニワー アノー オー イワユル イマ イッタ ソノ, キタク° コン ー ナンシヤ, モー ネ? (XZ:ウー ーン) マー ー ズ イノチカ° タスカル ゴドオカンカ° エレバ (X:ウー ーン) フツカコ° ニ カエッタッテ イ ー ンダガラ (X:ソーデスネ?) ミッカコ° ニ カエッタッテ イ ー ンダガラ マズ イノジカ° タスカル ゴド。 (Z:ウー ーン) | という ことなの それは 結果的には あの ×× いわゆる 今 言った その, 帰宅 困難者, もね? (XZ:ううん) まず 命が 助かる ことを 考えれば (X:ううん) 2日後に 帰ったって いいんだから (X:そうですね?) 3日後に 帰ったって いいんだから まず 命が 助かる こと。 (Z:ううん) |

| | | |
|-----|---|---|
| 265 | ワレワレモ ゼンブ ソーダッタ ミーン ナカ° モー ニツ, フツカモ ミッカ デモ アノー コリツ シタンデスヨ コ コ°, ミンナ。(Y:ウーン) (Z: ウン) | 我々も 全部 そうだった みんなが も う ×, 2日も 3日でも あの 孤立 したんですよ ここ[は], みんな[が]。 (Y:ううん) (Z:うん) |
| 266 | マズ イノーチカ° タスカル ゴドカ° ダイーチナノ (XZ:ウーン) ソレオ イノチ タスカル ヨリモー カゾクオー アンピシテー ウコ°, コードー ショ ート スルカ° ラー イロンナ ニジサイ カ° イ トカ ソーユー ニ マキコマレ ルンデアッテネ? (X:ウーン) (Y: ウーン ウン) | まず 命が 助かる ことが 第一なの (XZ:ううん) それを 命 助かる よ りも 家族を 安否して ××, 行動 しようとするから いろんな 2次災害 とか そういう [もの]に 巻き込まれ るんで あってね? (X:ううん) (Z: ううん うん) |
| 267 | マシテヤ, ハヤグ カエロード モッテ, マダ, クルマニ スイッチ イレダリ ステ, マダ, ヨケ° ーナ ゴドヌ ナ ルンダガラ。(X:ウーン) (Y:ウ ーン ウン ウン ウン) | ましてや, 早く 帰ろうと 思って, ま た 車に スイッチ 入れたり して, また, 余計な ことになるんだから。 (X:ううん) (Y:ううん うん う ん うん) |
| 268 | ダガラ ワレワレ ソゴオー ヤッパリ コノ コドモダジカ° ナニ, ソーユー ゴドオ イッタ ツツ ゴドワネ, (Y: ウン) オラー, サイコーダド オモー ンダヨナー? (Y:ウーン ウン) | だから 我々 そこを やっぱり この 子供達が 何, そういう ことを 言っ た という ことはね, (Y:うん) 俺, 最高だと 思うんだよなあ? (Y:う うん うん) |
| 269 | デ, ソーユー ゴトー ヤーッパリ ツタエレル コンド ツタエデク° ヒト ニ ナリタイ ッテ ユー ゴド ナンダ モノ (Y:ウーン) アダラシー カゾ ク° オ モズ カラー。(Y:ウーン ウン) | それで, そういう ことを やっぱり 伝えられる 今度 伝えていく 人にな りたい ということ なんだもの (Y: ううん) 新しい 家族を持つ から。 (Y:ううん うん) |
| 270 | (Z:ウン ウン ソレデー アー,) (Y:ヨソ, アー, ヨソ ガラ ココ サ キタ× キテダ ヒト ドカ° ー タ マニ キテタ ヒト ドカワ) (K: ウン) (Y:ドゥー シタンデスカネ?) (K:ウン) | (Z:うん うん それで ああ) (Y: よそ, ああ, よそ から ここに 来 た× 来ていた 人とか たまに 来てい た 人とかは) (K:うん) (Y:ど う したんですかね?) (K:うん) |
| 271 | ソコデ, サッキノネ? (Y:ウーン) ソレワ, (YZ:ウーン) タマタマ コ レ シカ° シチューカ° ッコーノ ゼンタ イテギナ コードーノ ハナシ ナノネ? | そこで, さっきのね? (Y:ううん) それは, (YZ:ううん) たまたま こ れ 東中学校[注1]の 全体的な 行動 の話 なのね? (Z:ううん) |

| | | |
|-----|---|---|
| | (Z:ウーン) | |
| 272 | {紙をめくる音} ソゴニ コノ デテク°ルノ, コレ ナンデスヨ テキセツ ナ カンリシャノ シジ, イワユル ソーユー ワケノ ワカ°ンナイ ヒト イル ワケダガラ, (Y:ウン ウン) ソー ドギニ ツ, ツネニ トップニ タツ モノワー, (Y:ウン ウン ウン ウン) ソノ シジ シナクチャ ナイノ (Z:ウン) (Y:アーーーー) ユードー シナクチャ ナイノ (Y:ワガッテル コワ イーケド?) ウーン。(Y:ワカ°ーッテ ナイ ヒトモ イルカモ シレナイシー) | {紙をめくる音} そこに この 出てくるの, これ なんですよ 適切な 管理者の 指示, いわゆる そういう わけの わかんない 人[が] いる わけだから, (Y:うん うん) その時に X, 常に トップに 立つ 者は, (Y:うん うん うん うん) その 指示 しなくては いけないの (Z:うん) (Y:ああ) 誘導 しなくては いけないの (Y:知っている 子は いいけど?) ううん。(Y:知らない 人も いるかも しれないし) |
| 273 | タダ, コノ バアイニワネ? (Y:ウーン) モー ムラカミセンセー ッテ ユー ソノ フク°コーチャーカ°ネ? ジワレオ シテ, モー ジシン アッテ, コリヤ マジカ°ェ ナク° モー ツナミカ° クル ッテ ユーノ マー イツモ ワダシノ ハナシモ ソーユーノ キーデ ダッタガラ。(Y:ウーン) | ただ, この 場合にはね? (Y:ううん) もう ムラカミ先生 という その 副校長がね? 地割れを して, もう 地震[が] あって, これは 間違いなく もう 津波が 来る というの まあ いつも 私の 話も そういうの[を] 聞いて いたから。(Y:ううん) |
| 274 | モー, イズレ ニケ° ナクチャ イケ° ナイ ッテ, ヒナン シナクチャ イケナイ (Y:ウーン) ツツ ゴドデ モッテ, セーレツ テンコ トッタ ヒナンクンレン デワネ, セーレツ テンコ ダッタソデスヨ。(Y:ソアーーーー ウン) | もう, いずれ [にせよ] 逃げなくては いけない って, 避難 しなくては いけない (Y:ううん) という ことでもって, 整列 点呼 とった 避難訓練ではね, 整列 点呼 だったんですよ。(Y:ああ うん) |
| 275 | デモ ソンナモン ナンカ イーカ°ラ, (X:ウーン ウン) モー ニゲロ, (X:ウンッ ウン) コノ ヒトコトデス。(X:ウン) | でも そんなもの など[は] いいから, (X:ううん うん) もう 逃げろ, (X:うんうん) この 一言です。(X:うん) |
| 276 | ニゲロ, ッテ シャベレバ, モー コドモダジワ モー ドコ°ニ イク°ガ ワカ° ッテッカラ。(X:ウーン) | 逃げろ, と 話せば, もう 子供達は もう どこに 行くか 知っているから。(X:ううん) |
| 277 | (X:オーカワ ショーカ° ッコーノ) ウーン ウン アレ ナンナガッターノー (X:チョット カワイゾーナ) カーイ | (X:大川小学校の) ううん うん あれ [しては] ならなかったの (X:ちよっと かわいそうな) かわいそう。 |

| | | |
|-----|--|--|
| | ソー。 | |
| 278 | ンー アレモネ? カンーリシャカ° ワ ルイノ ソダガラー (Y:アーン ウー ン ネ?) カンリシャカ° ネ? ドーシ タラ イーガ ッテ, ソゴデ マヨー ツテソダモン。 (X:ウーン) (Y: ウー————ン) | うん あれもね? 管理者が 悪いの だ から (Y:ああん ううん ね?) 管 理者がね? どうしたら いいか っ て, そこで 迷っているんだもん。 (X:う うん) (Y:ううん) |
| 279 | ソダガラー ソレオ? イー ヤッパ ヤ ネバ ネーノサ アノー イワユル ソ ーオー ソーユー, ****ノ ッテ ユーガネ? ソーユー ヒトカ° イダ ドキニー (Y:ウーン) テキセズニ シジスル ヤク, アノー カンリシャ トカ, (Y:ウーン) ギョーセーノ ヒ トドカ (Y:ウーン) ソノ ヒトカ° イルカ ドーカ ッテ ユー ゴドナノ。 (Y:ウーウーン) | だから それを? ×× やっぱり やら ねば ならないのさ あの いわゆる そ の そういう, ****の というか ね? そういう 人が いた 時に (Y:ううん) 適切に 指示する 役, あの 管理者 とか, (Y:ううん) 行 政の 人とか (Y:ううん) その 人 が いるか どうか という ことなの。 (Y:ううん) |
| 280 | (Y:ワ, ワゲ ワガンナクッテモ,) ソ ーユー (Y:ミンナ ニケ° ルカラ ニ ケ° ロ? ミタイニ デキル, ノニ?) ハーイーハイ。 (Z:ウーン) (Y: ッテ ユー コト デスヨネ?) | (Y:わ, わけ わかんなくても) そ ういう (Y:みんな 逃げるから 逃げ る? みたいに できる, のに?) は い はい。 (Z:ううん) (Y:っ ていう こと ですよ?) |
| 281 | ダガラ ワレワレモー, イザ ツナミ カ° オキ° ダ バアイニワ コーシタ ヨワイ ヒト ツネニ カカ° エデ オッ タンデスヨ? (Y:ウーン) | だから 我々も, いざ 津波が 起きた 場合には こうした 弱い 人 常に 抱 えて おったんですよ? (Y:ううん) |
| 282 | ソダガラ コドシワ ソレデア ツナミ カ° クル ア, ビデオ トリマショー ソノ ホガニー トーゼン コレデ サ ドースルカ°, ソダガラ, (Y:ウー ン) ワダシワー ウジデ, ヒヤッキロ ノ コメオ モー ジュッピョー, ジュ ーッタイ モッテルンデスヨネ? (Z:ウ ン) (Y:ウン ウン ウーン) | だから 今年は それでは 津波が 来る × ビデオ[を] 録りましょう その 他 に 当然 これで さどうするか, だか ら (Y:ううん) 私は 家で, 10 0Kgの 米を もう 10俵, 10体 持っているんですよ? (Z:うん) (Y:うん うん ううん) |
| 283 | ジュッキロノ コメオ ア, コメモ イ ーッパイ イワユル サソービャク° ニ ンオー ポ, イワユル ゼンブカ° ゼンブ ロッピャク° ニンノ ジンコーノ ウジ ゼンブカ° ゼンブ イル ワ | 100Kgの 米を × 米も いっぱい いわゆる 300人の ×, いわゆる 全部が 全部 600人の 人口の うち 全部が 全部 要る わけじゃ ないか ら, (Y:ううん) おそらく 300 |

| | | |
|-----|--|--|
| | ケ° ジャ ナイガラ, (Y:ウン) オソラク° サナービヤク° ニンカ ヨンヒヤク° ニン, ソレオー ミッカカン, マズ クワセレバ イーンダ, ッテ。 (Y:ウン ウン) | 人か 400人, それを 3日間, まず 食わせれば いいんだ, って。 (Y:うん うん) |
| 284 | ト ユー ゴドデ モッテネ, ヒヤーツキロ アレバ (X:ウン) ダイジョーブ (Y:ウン) ヒヤッキロブンノー ミッカカン, モー チャント コエニモマ, カイデアル ケドモネ? ソノ。 (Y:ウンウン) | という ことでもってね, 100Kg あれば (X:うん) 大丈夫 (Y:うん) 100Kg分の3日間, もう ちゃんと これにも まあ, 書いてある けれどもね? その。 (Y:ううん ううん) |
| 285 | ソーユー モノ ゼンブネー アノーオー, タイオー シテ オッタソデスヨ (Y:ウンウン) ダガラ ソーユー フナ タイオー シテレバ, イズレ, (Y:ウン) ツキ° ノ コードーカ° ナンノ シンパイモ ナインデス。 (Y:ウンウン) | そう いう もの 全部ね あの, 対応して おったんですよ (Y:うん ううん) だから そういう ふうな 対応していれば, いずれ, (Y:ううん) 次の 行動が 何の 心配も ないんです。 (Y:ううん) |
| 286 | (Y:セトサン ワ, ド, ドーシテ ソゴ マデー ソノ, アノ ツナミノ ゴドー ベンキョー ン, ナサロー ッテー オモッタ キッカケワ ナニカ アッタソデスカ?) | (Y:瀬戸さん は, ×, どうして そこまで その, あの 津波の ことを 勉強 ×, なさろう と 思った きっかけは 何か あったんですか?) |
| 287 | イヤ, ターレモ シラナ, ターレモ カマイシデ ツナミノ ゴド シャベル ヒト イナガッタソモノ。 (Y:アーオー) | いや, 誰も 知らない, 誰も 釜石で津波の こと 話す 人 [は] いなかったんだもの。 (Y:ああ おお) |
| 288 | ソダガラ イママデー ツナミノー オーコーエン トカ ナニカ° アレバ ゼンブ オレ, ワダシノ ホーニ マワッテキタ。 (Y:ウン) | だから いままで 津波の 講演 とか 何か あれば 全部 俺, 私の方 にまわって きた。 (Y:ううん) |
| 289 | イヤ オレー ジャナグ ジッサイ トシヨリモ イル デショーシ, (Y:ウン) アノー ベン タズ ヒトモ イル デショーシ, (Y:ウン) ウーン アノー アエダガラ, アノー ソッチノ ホーニ ヤッテ クダサイト, タイケンシタ ヒトモ ケッコー イルソダ ガラ (Y:ウン) デモネー, イヤ, (Y: | いや 俺じゃ なく 実際 年寄りも いる でしょうし, (Y:ううん) あの 弁 [が] 立つ 人も いる でしょうし, (Y:ううん) ううん あの あれだから, あの そっちの方 に やって くださいと, [津波を] 体験した 人も 結構 いるんだから (Y:ううん) でも ね, いや, (Y:語らないんですか?) |

| | | |
|-----|--|--|
| | カタンナインデスカ?) ウン ウン。 | うん うん。 |
| 290 | ト ユー ゴドデ モッテ デンブ ニサ ンカイ ワダシワ アノー (Y:ウー ン) コンニジ イルンデス。 (Y:ウ ーウン) | という ことで もって 全部 2, 3回 [引き受けて] 私は あの (Y:うう ん) 今日 [くらして] いるんです。 (Y:ううん) |
| 291 | (Y:セトサンカ°? ワ? オ, オト ーサン オカーサマトカー ニ? オキキ ニ ナーッタ コト トカワー) ン ソリヤ タマニカワ キク ケドモ。 (Y:ウー) | (Y:瀬戸さんが? は? ×, お父さ ん お母様とか に? お聞きに なった こと とかは) うん それは たまには 聞く けれども。 (Y:ううん) |
| 292 | サッキ イッタ ヨーニ ハナシオ スル ゴドカ° ユーノキリデ ナンマケモノ ダガラ, (Y:ウン) トショリ ガラ キク ッテ ゴドワ アンマ ナガッタン デスヨ。 (Y:アーーーー) | さっき 言った ように 話を する こ とが 「効能きり」で 怠け者 だから, (Y:うん) 年寄り から 聞く っ てことは あんま[り] なかったん ですよ。 (Y:ああ ああ) |
| 293 | タダ, サイーワイニ (Y:ウー) メージ ウマレノ ヒト ッテノワ ソ ージャ ナカッタンデスヨネ? (Y:ウ ーウン) ヤッパリ キカイ アレバ, チャント ソレワ ジブン ナリニ タイ ーケンド シテ チャント オボエデッカ ラ, (Y:ウー) ソレオ キクニワ ネ? | ただ, 幸いに (Y:ううん) 明治 生 まれの人 というのは そうでは なか ったんですよ? (Y:ううん ううん) やっぱり 機会 あれば, ちゃんと それは 自分 なりに 体験と して ちゃ んと 覚えているから, (Y:ううん) それを 聞くにはね? |
| 294 | ワダシワ ハダチ ハダチノ コ° ロ カ ラ ソレオー ンマ キーダ ノカ° ヨ ガッタノ (Y:ウー) メージ ノ ヒト ガラ (Y:ア) ウ ジノ オジーサン ハジメ, (Y:ウ ー) シューラク° モ ミンナー メージ ジダイノ ヒトカ° イギデダガラ。 (X:ウー) (Y:ア) (Y:ア) | 私は 20歳 20歳の 頃 から それ を まあ 聞いた のが よかったの (Y:ううああ) 明治の 人 から (Y:ああ ああ) うちの お爺さん[を] はじめ, (Y:ううん) 集落も みんな な 明治時代の 人が 生きていたから。 (X:ううん) (Y:ああ ああ) |
| 295 | (Y:キ, キカズニ イタラ, ワカ° ヲ ナカッタ デスモンネ?) ウン ウン (Z:ウー) (Y:ウー ソー ナ ンデスネ? ヤッパリ デモ一 チャン ト, キカナイト イケナイ) ウン。 (Y:ウー ウン) | (Y:き, 聞かずに いたら, わかん なかった ですよんね?) うん うん (Z:ううん) (Y:ううん そう な んですよ? やっぱり でも ちゃんと, 聞かないと いけない) うん。 (Y: うん うん) |

| | | |
|-----|--|---|
| 296 | <p>ソダガラ タイオー トカ ナンガ ット ユーノモ ゼンブ ソーユー ノデネ？ (Y:ウーン) マズー ワダシワー ゼ ンブ ヤッテ キタノサー。 (Y:ウ ン ウン)</p> | <p>だから 対応 とか 何か というのも 全部 そういう のでね？ (Y:ううん) まず 私は 全部 やって きたのさ。 (Y:うん うん)</p> |
| 297 | <p>ソダガラ スク° モー アノー {紙をめく る音} ワダシ ジシンワネ？ アノ {咳} コノー コーユー フニ コノー ジシンボーサイカツドー ソノ モノー ソク° マドメデダノ。 (Y:アーー アーー)</p> | <p>だから すぐ もう あの {紙をめくる 音} 私自身はね？ あの {咳} この こういう ふうに この地震防災活動 そ の ものを すぐ まとめていたの。 (Y:ああ ああ)</p> |
| 298 | <p>デ、 アノー ドガ アノー コノ イワ ユル アドワ ヨカッタ テン ワルガッ タ テン ッテ ノー チャント カク° ニン (Z:アーーーアーーー アーーー) (Y:ウーン) (Z:コレワ ヤクニ タ チマスネーー コノ アト) ウン (Y:スコ° イデスネー) (Z:ハー ー) (Y:ウーーーン ウーーン) (Z:ハーーーー) (Y:ウーー ーーン)</p> | <p>それで、 あの ×× あの この いわ ゆる あとは 良かった 点 悪かった 点 という のを ちゃんと 確認 (Z:ああ ああ ああ) (Y:ううん) (Z:これは 役に 立ちますね この あと) うん。 (Y:すごいですねえ) (Z:はあ) (Y:ううん ううん) (Z: はあ ああ) (Y:ううん)</p> |

談話資料：釜石市(2)

胸まで太平洋が来た

—唐丹地区—

竹田晃子

1. 調査概要

話者はC：磯崎^{よし}彬さん（女性・大船渡市盛出身 1937年生）と、K：北村弘子さん（女性）、収録日時は2012年9月19日午後、録音場所は宝来館（岩手県釜石市鶴住居町）である。調査者はX：大野眞男（岩手大学教育学部）、Y：小島聡子（岩手大学人文社会学部）、Z：竹田晃子（国立国語研究所）である。

調査と録音は大野・小島・竹田の共同で行った。録音の文字起こし・共通語訳は草稿をアルバイトに依頼し、談話資料としての取りまとめは竹田が担当した。

2. 談話の概要

磯崎さんは、岩手県交通のバスガイドを務めていた方で、朗らかな声で、尽きることのないお話を次々に語ってくださった。

2011年3月11日の地震のとき、磯崎さんは太平洋に面した高台にある自宅で大きな揺れを体験した。毎朝美しい朝日を眺めることのできる自宅は、過去の大津波の難をことごとく逃れてきたので、自宅にまで津波が来るとは夢にも思わなかったという。地震のあと、防波堤の向こう側から白糸の滝のような海水が流れこんでくる様子を珍しく思い、ビデオカメラで記録しようとしたが、次の瞬間には黒い水の塊が自宅1階に押し寄せ、胸の高さに、水平線から自分の目の前まで太平洋がひと続きになったという。磯崎さんが必死で玄関ドアに取りすがっているうちに引き潮になり、津波はガリガリとまるで爪で引っ搔くような音を立てながら一階の家財道具を運び去った。波が引いたとき、裏山に避難した人々に「逃げろ」と声をかけられ、夫と裏山に避難した。それから、二人で知人宅や避難所を転々とする生活が始まった。自宅を直して戻るつもりだったが、地盤沈下や傾きのためになかなか、解体された。現在は釜石市内の仮設住宅で暮らしている。

今回の談話は、我々による依頼内容（津波のご体験と現在の様子を教えていただきたい）と、磯崎さんの半生、昔話の語り、意識調査の4点となった。

本稿には、磯崎さんが津波に遭遇した場面と、その後の避難所生活についてを収録する。

3. 談話の言語的特徴

ごく簡単に特徴を述べる。方言的特徴として、俚言や文法表現に少しと、音韻と韻律に特徴がみられた。特に、カ行・タ行の有声化と共に、ガ行鼻濁音が散見される。文末に「～モノ」「～ケ」が多用される。助詞ヲ相当の形式としてバ(発話番号 0554 ほか)、格助詞相当のサ(581 ほか)が用いられる。順接の接続詞「ダカラ/ダガラ」には前節要素ンがついていることが多く、より古い形を残しているようにみえる。

特徴的な語彙としては、まじないの文句「マンジョロゴ マンジョロゴ」がある(0583-0584)。津波除けのまじないで、『日本国語大辞典(第2版)』(小学館)には「まんざいらく【万歳楽】」が立項されており、「〔感動詞〕危険な時や驚いた時などに唱える厄(やく)よけのことば。多くは、重ねて用いる。くわばらくわばら。」とあり、用例として「*談義本・教訓雑長持〔1752年〕四・遍参僧精霊に会いし事「繩からげのぶらぶらする棚へ上げられ、身動しする度に、万歳楽(マンザイラク)、世なをし世なをし」/ *滑稽本・八〔笑〕人〔1820-1849年〕三・追加上「エエ、桑原々々、万歳楽(マンザイラク)万歳楽」」の2例がある。末尾の方言の項には「〔感動詞〕雷や地震など、危険な時や驚いた時に唱える厄よけの語。くわばらくわばら。《まんざいらく》岩手県上閉伊郡 097 平泉 108 山形県東村山郡 139 埼玉県秩父郡 251 《まんじゃらく》青森県三戸郡 083 《まじゃらく》青森県上北郡 074 津軽 075 岩手県上閉伊郡 098 気仙郡 100 秋田県鹿角郡 132」とある。このうち下線部が磯崎さんの出身地(大船渡市盛)、二重下線部が釜石市に相当する地域の出典である。磯崎さんはこのまじないを、嫁ぎ先(釜石市唐丹)のおばあさんから聞いたという。他にイッソ(しょっちゅう)(700)などがある。

談話展開について、聞き手が知らない情報について「～デショ」「～モノ」「ホラ」や順接の接続助詞が多用される点は、当地域の女性の談話として典型である。また、相手の話に強く同意する場合に「ダカラ」を用いる点も、東北地方の女性によく観察される特徴である(0968)。

4. 談話の文字化・共通語訳

文字化は、原則としてカタカナ表記と文節による分かち書きで行った。表の左に発話番号、次に方言の文字化、右に対応する共通語訳を逐語訳として掲載した。発話番号は実際には001から829までであるが、ここでは546-625と647-700を掲載した。

話者の記号は1. 調査の概要を参照されたい。磯崎さんの発話内容を中心に、他の人の発話は()に入れて示した。質問は、主に竹田が担当した。

カタカナにできない部分については、次のように表記した。

- × 言い間違いや言いよどみ
- * 聞き取れない部分
- / 共通語訳が付けられない部分
- [] 共通語訳の際に補った部分

{笑} 笑い声

| | 共通語訳以外の補足情報

| 発話 番号 | 発話の文字化 | 共通語訳 |
|----------|---|---|
| 546 | (Z:エー シンサイマエト クラベテー, カオ ミシリノ ゴシンセキー, ゴキンリンノ カタトー, ホーゲンオツカッテ ハナス キカイワ フエマシタカ ヘリマシタカ?) イヤー× ヘラナイ ヘラナイッテ, アンマリ (Z:カワラナイ) ハジメカラ ハナシテナイモノ。(K:ウン {笑}) (Z:ハーン) | (Z:ええ 震災前と 比べて, 顔 見知りの ご親戚, ご近隣の 方と 方言を使って 話す 機会は 増えましたか 減りましたか?) いや × 減らない 減らないって, あまり (Z:変わらない) 初めから 話していないもの。(K:うん {笑}) (Z:はあ) |
| 547 | ケッキョク シラナイ ヒトソ ドゴニホラ, アツマッテルデショ? (X:ウーン) (Z:ハーン) | 結局 知らない 人の ところに ほら, 集まっているでしょ? (X:ううん) (Z:はあ) |
| 548 | ワタシラ クガツマデ ナオシテ ハイルド オモッテダガラ。(Z:アアー) | 私たち [は] 九月まで [家を] 直して 入ると 思っていたから。(Z:ああ) |
| 549 | ウン ジバンチンカシテ ニカイワ (K:アー) ナンデモ ナカッタガラ (Z:ウン ウン) (Y:ウーン) ダガラ マガッタケドネ, (Z:ウン ウン) ジバンチンカ シテ クズレデシマッタケド, (Z:ウン ウン) ニカイワ ナンデモ ナイカラ, リッパダッター。 | うん 地盤沈下して, 二階は (K:ああ) なんでも なかったから (Z:うん うん) (Y:ううん) だから 曲がったけどね, (Z:うん うん) 地盤沈下 して 崩れて しまったけど, (Z:うん うん) 二階は なんでも ないから, 立派だった。 |
| 550 | シタツケ ホラ, ヒノギ ツカッテラガラ, サンジューゴホンモ ナガバシラ (Z:アー) シタガラ ウエマデトッタ サンジューゴホンモ アツタツケ。(Z:アアー) (K:オオー) | そうしたら ほら, ヒノキ [を] 使っていたから, 三十五本も 中柱 [が] (A:ああ) 下から 上まで とった 三十五本も あったよ。(A:ああ) (K:おお) |
| 551 | アノー ウジ (K:リッパナ イエデ,) イェーダッタガラ ホレ ホレ (Z:オオー) (Y:ウーン) × ダイクサンガ アド × シアクショガラ コワシテ モラッタツケネ? テフグギ シタツケド。 | あの うち (K:立派な 家で) [そう, 立派な] 家だったから ほれ ほれ (Z:おお) (Y:ううん) × 大工さんが あと × 市役所に 壊して もらったらね? // // // したんだと。 |
| 552 | サンジューゴホンモ アツタツケド ナガバシラ, (K:ウン ウン) (Z:ハーン) テ イッカイガラ ニカイマ | 三十五本も あったんだと 中柱, (K:うん うん) (Z:はあ) って 一階から 二階まで 通したと (K:ううん) 三 |

| | | |
|-----|---|---|
| | デ トオシタド (K:ウーン) サン ジューゴホンモ (A:スゴイデスネ) アッタガラ (Z:ウーン) ヒノギダ ッテ。(K:ウーン) | 十五本も (A:すごいですね) あったから (Z:ううん) 檜だって。(K:ううん) |
| 553 | ウチワ ホラ, ミツイノーリンッテ ネ? (Z:ウーン) ノーリンノホウ トラック シゴト シタデショ? (Y:ウン ウン) ソンドギダ。 | うちは ほら, ミツイ農林ってね 農林の トラック [の] 仕事 [を] していたでし よ その時だ。 |
| 554 | トシオー オマー アノー イエ タ デンノナ? ゼンブ イヤーー ハシラ バ シノギニ スッカラナ ッテ ミ ツイノーリンノ ショチョー ユッテ。 (Z:フウウーン) | 「トシオ お前は あの 家 [を] 建てる んだな? 全部 ××× 柱は 檜に する からな」 って ミツイ農林の 所長 [が] 言ってる。(Z:ふうん) |
| 555 | デ, アァーッテ シテ, ゼンブ ハ シラワ ヒノギニ シテモラッタダ ガラ (K:スゴイー) シカモ ヤス グネ? (Y:ウウーン) | で, 「ああ」って そして, 全部 柱は ヒ ノキに してもらったんだから (K:すご い) しかも 安くね? (Y:ううん) |
| 556 | オラエノ シゴト シテダガラ (Y: ウウーン) ウンガ ヨガッタノヨ ダ ガラ リッパナイエダッタノヨ (Y:ウウーン) ウン。 | うちの [ところの] 仕事 していたから (Y:ううん) 運が 良かったのよ だか ら 立派な 家だったのよ (Y:ううん) うん。 |
| 557 | ソシテ モー タイヘイヨーガ スグ ソゴニ ミエデー。(Y:ウーン) | そして もう 太平洋が すぐ そこに 見 えて。(Y:ううん) |
| 558 | ナーニモ カニモ アンター ミエケ ンノ イセ イセジグーナンガ ソ ゴサ デダ オラ ナンカ ネデデ コーヤッテナァー {ジェスチャー}(K Z:{笑}) タイヨウ アガノ ミデ ダモンダモノー。(Y:{笑}) | 何も かも あんた 三重県の 伊勢 伊勢 神宮なんか そこに [同じように] [太陽 が] 出た 私なんか 寝ていて こうやって ね {ジェスチャー} (KZ:{笑}) 太 陽 [が] 上がるの 見ていたものだもの。 (Y:{笑}) |
| 559 | ダガラ アノ ヒトド ケッコシテ リコン ショー ド オモッタ イチマン ゴセンカイモ オモッタヨ ー? (KYZ:{笑}) | だから あの 人と 結婚 して 離婚 し よう と思った 一万 五千回も 思った よ? (KYZ:{笑}) |
| 560 | ソダケド アノー ケシキガイーガラ トドマッタノ (Z:アッ {笑}) (K:{笑}) ホントニ ソーダデバ ケシキダデバー。(Y:ウーン) (K: {笑}) | だけど あの 景色が いいから とどまっ たの (Z:あっ {笑}) (K:{笑}) 本 当に そうだつてば 景色だつてば。(Y: ううん) (K:{笑}) |
| 561 | アノケシギ ミターイゴド ド オモ | あの景色 [を] 見たいなあ と 思って |

| | | |
|-----|--|---|
| | ッテ (K:ソダー ネェー?) ナン デモ ユルスモノ (KYZ:{笑}) ウ ーン, ホーントニ。 | (K:そうだ ねえ?) 何でも 許すもの (KYZ:{笑}) ううん, 本当に。 |
| 562 | アノ ソノ ツナミノ ヒ ダッテ ソー ダヨー? (K:ウーン) (Z: ハーン) | あの その 津波の 日だって そう だ よ? (K:ううん) (Z:はあ) |
| 563 | グラグラ グラグラー ッテ *** ネデラノヨ パパ ニカ° イデ。(Y: ウーン) | 「グラグラ グラグラ」 って *** 寝 ていたのよ パパ [が] 二階で。(Y: ううん) |
| 564 | ソレ サガッテ キテー, アンデア スゴガッタナー ッテ ンダネ オッ カナガッタネー ッテ。(Y:ウーン) | それ [を] 下がって 来て, 「ありゃ 凄 かったな」 って 「そうだね 怖かったね」 って。(Y:ううん) |
| 565 | オラエガ アンマリ モノモ オチナ カッタガラ, タダ ナカ° イ ユレダ ッタガラ, (Y:ウーン) スゴイネ ーッテ, (Y:ウーン) ンー トー トー ウチ タカイカラー, メージ ニジューキューネンニモ ショーワ ハチネンニモ ツナミ アガンネガラ ー, (Y:ウーン) オラエマデ ア ガッタラ トーニ オワリダモンナ ー? ナンテ (Z:オー) (Y:ウ ーンウン) ユッテッカラ ツネズネ。 | うちが あんまり 物も 落ちなかったか ら, ただ 長い 揺れ だったから, (Y:ううん) 「すごいね」って, (Y: ううん) ン ※そうとう? うち [は] 高いから, 明治 二十九年にも 昭和 八 年にも 津波 [は] 上がらないから, (Y: ううん) うちまで 上がったら 唐丹 [は] 終わりだもんな? なんて (Z:おお) (Y:ううん うん) 言っているから 常々。 |
| 566 | ナンボ ジシंगा キタッテ ツナミ クット ユメニモ オモワナイノヨワ。 (Y:ウーン) | いくら 地震が 来たって 津波 [が] 来 ると 夢にも 思わないのよ。(Y:うう ん) |
| 567 | イマダガラ オモッタケド, (Z:ハ ーン) ソノコロ, ソンドギ オモ ッテナガッタガラ。(Y:ウーン) | 今だから 思うけど, (Z:はあ) その 頃, その時 [は] 思ってたから。 (Y:ううん) |
| 568 | ソイデ, ソレデ, ナントナグ ミ メノ マエノ ウミ ミダツケ, (Z:ハーン) トロトロトロトロ ッテ ナミ キタンダワ。(Z:イヤ ー) (Y:ウーン) | それで, それで, 何となく × 目の 前 の 海 [を] 見たら, (Z:はあ) ト ロトロ トロトロ って 波 [が] 来 たんだわ。(Z:いやあ) (Y:ううん) |
| 569 | ネ, トロトロッテ ソレ ホラ, ツ ナミドモ シラナイガラ。(Y:ウ ン) | ね, トロトロ って それ ほら, 津波 [だ]ということも 知らないから。(Y: うん) |
| 570 | シタツケ, ジューニーテンゴメーター ノ ボーハテーカ° アッチガラ ア | そうしたら, 12.5mの 防波堤が あ っちから こっちまで ここの 目の前に |

| | | |
|-----|---|--|
| | ツチマデ コゴラノ メノマエニ アンノヨ。(Y:ウン ウン ウン) | あんのよ。(Y:うん うん うん) |
| 571 | ネ? ソノ ボーハテー シタガラ ミダモンダラ ジューニーテンゴダモノ ヨンカイダデダモノ,(Y:ウン) ダーッと ミアゲルー サアソダヨ。(Y:ウン) | ね? その 防波堤 [を] 下から 見たものなら 12.5 [m] だもの 四階建てだもの,(Y:ううん) ダーッと 見上げる [くらい] にあるんだよ。(Y:ううん) |
| 572 | ソレナノニネ, ソノ トロトロトロット オツテキタツケ ソノ ジューニーテンゴメーター ソドゴ シライノ タキミタイニ コー シローク,(Z:ハーアー) シズグミデーニ サーット。(Z:ハーアアア) | それなのにね, その 「トロトロトロ」 っと 追ってきたら その 12.5m のところ 白糸の 滝みたいにかう 白く,(Z:はあ) しづくみたいにか サアツと。(Z:はあ) |
| 573 | ダカラッ, アラー パパ パパ メズラシーネー? | だから, 「あら パパ パパ 珍しいね?」 |
| 574 | アノー, シライトノ タキミタイダガラ ケシキガ, ハイ, ニカイガラ ビデオ ビデオ ビデオ ッタツケ, パパ ニガイガラ, ネデ オギデガラ ビデオサ,(Z:ウン) モツテキタンダツケ? (Z:ウン) | 「あの 白糸の 滝みたいだから 景色が, はい, 二階から ビデオ ビデオ ビデオ」 って 言ったら, パパ [は] 二階から, 寝て 起きてから ビデオを,(Z:うん) 持ってきたんだよ? (Z:うん) |
| 575 | ソデ ゲンカンサ アカ° ッテ ニワサ, デデ, コー ウズスベード オモツタツケ, マッ ウズスベド オモツタ オモーカ° オリダ(ナ?) ガッタ オレ, イマ シロイモノ マックロソ ナツテ, コゴマデ タイヘーヨー。 | それで 玄関に 上がって 庭に, 出て, かう 写そうと 思ったら, まあ 写そうと 思った 思うけど 降りなかった 私 [は], 今 白いもの まっ黒に なって, ここ [=胸] まで 太平洋 [が来た]。 |
| 576 | タイヘーヨー (Z:アアー) ココ° マデ キタノ。 | 太平洋 [が] (Z:ああ) ここ [=胸] まで 来たの。 |
| 577 | タイヘーヨー コゴマデ。(K:ハー) (Z:ハーアー) | 太平洋 ここ [=胸] まで。(K:はあ) (Z:はあ) |
| 578 | ワダシ メノ マエデ タイヘーヨー ミダヨ? (K:{笑}) | 私 [は] 目の 前で 太平洋 見たよ? (K:{笑}) |
| 579 | タイヘーヨー ココ° ッカラ タイヘーヨーダツタ ココ°。(Z:ハーアー) | 太平洋 ここ [=胸] から 太平洋だった ここ [=胸]。(Z:はあ) |
| 580 | エツ, マックロイ。 | えっ, まっ黒い。 |
| 581 | シテ パパモ コゴマデ ハイッテ, アノヒトワ, コノ ×× ニガイサマ | そして パパも ここ [=胸] まで 入って, あの人, この ×× 二階にまで (Z: |

| | | |
|-----|---|--|
| | デ (Z:ワッ,) ハ カゲアガッテ ッタヨ? (Z:ウワー) (K:ハー) | わっ) もう, 駆け上がってったよ? (Z:うわ) (K:はあ) |
| 582 | ワタシワ ゲンカンデ トドマッテ, コーヤッテ スガッテダノ。(Z:ウウ ーン) | 私は 玄関で とどまって, こうやって [扉に] すがっていたの。(Z:ううん) |
| 583 | ソシタラサー, アンタ ゴジューネン モ ヒヤグネンモ マエニ ソゴサ オバーサン ケッコン シタドキ° オバーサンガ, マジョロゴ マンジョ ロゴ マンジョロゴ ッテ ユッタッ ケガネ? ケッコン アノ ジシンド キ° ニー, (Z:ハー ハー) ソノ パパノ オバーサンガ, (Z:ウウ ーン) マンジョロゴ マンジョロゴ ッ テ アタシ ヨメサ キタドキ° ナ ンノ ゴト ユッテンダベー ッテ ナンノ オマジナイド。 | そしたらさ, あんた 五十年も 百年も 前に そこに お婆さん [が] 結婚 した 時 お婆さんが, 「マジョロゴ マンジョ ロゴ マンジョロゴ」 って 言った/// /? 結婚 あの 地震 [の] 時に, (Z: はあ はあ) その パパの お婆さんが, (Z:ううん) 「マンジョロゴ マンジョ ロゴ」 って 私 [が] 嫁に 来た時 [に] 何の こと 言っているんだろうな って 何の おまじないだと。 |
| 584 | ソレ ドーヤッテ アンキ シタワゲ デモ ネーノ マジョロゴ マンジョ ロゴ マンジョロゴ ッテ ワダシモ コーヤッテサ マンジョロゴ ッテサ, (Z:ウウーン) マンジ マンジルゴ ダガ マンジョロゴダガデ キョート ノ コドバダド コレー。(Z:フウ ーン) | それ どうやって 暗記 したわけでも ない の 「マジョロゴ マンジョロゴ マンジ ヲロゴ」 って 私も こうやってさ 「マ ンジョロゴ」 ってさ, (Z:ううん) マ ンジ マンジルゴだか マンジョロゴだかで 京都の 言葉だって これ。(Z:ふうん) |
| 585 | ウン アレ, ダザイ オサムダカ° デネ, テンマンゲーノ。(Z:オ, オマジナイノー) | うん, あれ, 太宰 治だか でない, 天 満宮の。(Z:お, おまじないの) |
| 586 | オマジナイノ。 | おまじないの。 |
| 587 | ソーヤッテネ, イダッケバ アンタ, ガラスガ 「ガーッ」ト コワレデ ナ ミガ ミナー ガラズド フタツ ゲ ンカンノ ガラス コワシテ ナミ ハイッテ, (Y:ウーン) イツカイ ガ ゼンメツ シタノヨ オラエワ。 (Y:ウウーン) | そうやってね, いたら あんた, ガラス が ガーッと 壊れて 波が みな ガラス 戸 [を] 二つ 玄関の ガラス [を] 壊 して 波 入って, (Y:ううん) 一階 が 全滅 したのよ うちでは。(Y:う うん) |
| 588 | ソシタッケネ, ミンナワ モー ヒナ ン シテダノサ。(Y:ウウーン) | そしたらね, みんなは もう 避難 して いたのさ。(Y:ううん) |
| 589 | オラエワ タカイガラ ツネズネ ナ | うちは 高いから 常々 何でもない って |

| | | |
|-----|--|---|
| | ンデモナイ ッテ アダマダガラ, (Z:ウーン) (Y:ウーン) ニ ゲルキワサ ゼンゼン ナイヨ? ワ タシワ。 (Y:ウン ウン) | 頭だから, (Z:ううん) (Y:ううん) 逃げる気はさ 全然 ないよ? 私は。 (Y:うん うん) |
| 590 | イマダガラ オモーケドネ? アンド キワ オモッテナイノ。 (Y:ウン) | 今だから 思うけどね? あの時は 思っ てないの。 (Y:うん) |
| 591 | ット スゴイモノ キタナ トロトロ キタナ ドモッテ。 (Y:ウン ウン) | すると すごいもの [が] 来たな 「トロ トロ」 [と] 来たな と思って。 (Y:う ん うん) |
| 592 | ダッケ ソレガ タイヘーヨー コ コ° マデ キテ, タイヘーヨーツツモ ノ コノ メノマエデ タイヘーヨー ミダノ ハジメデ コンーナ タイヘ ーヨーダモノ。 (XZK:{笑}) | そしたら それが 太平洋 [が] ここ [= 胸] まで 来て, 太平洋っていうもの こ の 目の前で 太平洋 [を] 見たの 初め て こんな 太平洋だもの。 (XZK:{笑}) |
| 593 | ニジューメーターモ ココ° ガケナ ンダヨ ウチワ, ガケ。 (Y:ウー ン) | 20mも ここ [が] 崖なんだよ うちの, 崖。 (Y:ううん) |
| 594 | ソレガ アンタ タイヘーヨーナンテ エーッ ドモッテ。 | それが あんた 太平洋なんて 「ええっ」 と 思って。 |
| 595 | ンモー ゲンカン ドゴ イッテ ス ガッテダラ, アンダ コゴ ウエノ ホーニ コクドー ヨンジュー ゴゴ ーセンガ アンノヨ。 (K:ハー) | うん もう 玄関の 所 [に] 行って す がっていたら, あんた ここ [の] 上 の方に 国道 四十五号線が あんのよ。 (K:はあ) (Z:ううん) |
| 596 | ナナメ ウエノ ホーニ シンコクド ーガ ネ? (Z:ウン ウン) | 斜め 上 の 方に 新国道が ね? (Z: うん うん) |
| 597 | ソコ° ニ ヒトツ クロヤマノ ヒト イダシダワ。 (Z:ハー) | そこに 人 [が] 黒山の 人 [が] いた んだわ。 (Z:はあ) |
| 598 | ホッチ ミダッケバ, シタッケ アノ ー ソーシテル ウジニサ, ガーッ コンダ シケダノヨ ミズガ。 (Y: ハー) (Z:ウーン) | そっち 見たら, そしたら あの そうし ている うちにさ, ガーッと 今度は 引 けたのよ 水が。 (Y:はあ) (Z:う うん) |
| 599 | ウン ソシテ ワダシモ ア, ゲンカ ンガラ コーヤッテダ。 | うん そして 私も ×, 玄関から こう やっていた。 {ジェスチャー} |
| 600 | アララララララ, タダ イグンデ ネック, ガリガリガリガリガリ ド コーヤッテ グンダッケ ミズ ツモ ナア。 (Z:ハー) | あらら, ただ ただ 行くので [は] な いの, ガリガリガリガリガリ と こうや って 行くんだったよ 水 というものは。 (Z:はあ) |
| 601 | ウン, デ アダシ ウダニ ヨンダケ | うん, それで 私 [は] 歌に 詠んだけ |

| | | |
|-----|---|--|
| | ド、ハガネノ ヨーナ ツメオモチ ツテ ヨンダガ。(Z:ウーン) | ど、「鋼の ような 爪を 持ち」って 詠んだけど。(Z:ううん) |
| 602 | ツナミワ、ナミワ ハガネノ ヨーナ ツメオモチ、フルサトー アノ カイ メツ シタツテ ヨンダケドサ。 (Z:ウーン) | 「津波は、波は 鋼の ような 爪を 持 ち、ふるさと ×× 壊滅した」って 詠 んだけどさ。(Z:ううん) |
| 603 | ホニ ナミノ ハジッコサ、ツメ、 タダ「サーッ」ト カエンデ ネー ヨ？(Z:ウーン) | 本当に 波の 端っこに、爪 [を]、ただ サーッと 帰るので [は] ないよ？(Z: ううん) |
| 604 | ジャラ ジャラ ジャラ ジャラ ダ モノ アンタ。(Z:ウーン) | 「じゃら じゃら じゃら じゃら」だも の あんた。(Z:ううん) |
| 605 | エー コンクリェー。(Z:ウーン) | ええ このくらい。(Z:ううん) |
| 606 | ソーシテネ、ワン サッキ ソコデ ミ、ミ イソザキサ イマノ ウジ ニ ゲロー ツテ サワグノヨ ソコノ クロヤマノ ヒトガ。(Z:ハー) | そうしてね、／／、さっき そこで /、 ／ イソザキさん 今の うち [に] 逃げ る」って 騒ぐのよ そこの 黒山の 人 が。(Z:はあ) |
| 607 | ハー ニゲロー、ドモツテ、パパー ハヤグ ニゲ、パパー ッタツケ、 オラエノ パパ フトン カブツテ モー シンデモ イードモツタンダド。 (Y:ア、フッフフ {笑}) | 「もう 逃げよう」と思って、「パパ 早 く 逃げよう、パパ」って 言ったら、 うちの パパ [は] 布団 [を] 被って も う 死んでも いいと思ったんだって。 (Y:あ ふっふふ {笑}) |
| 608 | コエモ ネー、ワダシモ クズ ハイ ダママ、ニカ° イサ アガル ユーキ モ ネー。(K:ウーン) | 声も ない、私も 靴 [を] 履いたまま、 二階に 上がる 勇気も ない。(K:う うん) |
| 609 | ツギ ナニ クンダカ° ドモツテ。 (Z:ハー) (K:ウーン) | 次 [は] 何 [が] 来るんだか とって。 (Z:はあ) (K:ううん) |
| 610 | オッカナクテ オッカナクテ。(K:ウ ーン) (Z:ウン ウン ウン) | 怖くて 怖くて。(K:ううん) (Z: うん うん うん) |
| 611 | パパ パパ ツテ サワイダツテ ウ ントモ スントモ ネーガラ、パパ アタシ ニゲルヨー？ ツテ ユツテ ガラ コー ニゲデ イッタノヨ。 | 「パパ パパ」って [-一階で] 騒いでも うんとも すんとも [音沙汰が] ないから、 「パパ 私 [は一人]で 逃げるよ？」と 言ってから こう 逃げて 行ったのよ。 |
| 612 | シタツケ マダ ウエノ ホーデ ガ ンガン サワグガラ ナンダ ドモツ テ ミダツケ、ソコ° シ ドゴ コー サガナノネ、ノボツテグドゴ。(Z: ハー) (K:ウン ウン ウン) | そしたら まだ 上の方で ガンガン [と] 騒ぐから 何だ とって 見たら、そこ の ところ [は] こう 坂なのね、登って く ところ。(Z:はあ) (K:うん う ん うん) |
| 613 | ツケ、コー イツテ コー ノボリハ ジメダツケ アンマリ シ ナンダエ、 | そしたら こう 行って こう 登り始めた ら あんまり なんだ トシオさんとか 何 |

| | | |
|-----|---|--|
| | トシオサンドガ ナンドガ カンドカ° ッテ サワイデダガラサ, エーッドモッテ ミダツケ パパガ クマミダイニ モソモソ ッテ クンデネーノ。 (KYZ:{笑}) | とか かんとかって 騒いでいたからさ, 「ええっ」 と思って 見たら パパが 熊みたいに 「もそもそ」 って 来るではないの。 (KYZ:{笑}) |
| 614 | キュージュッキロモ アルヒトダモノー。 (Y:ウン ウン) | 九十キロも ある人だもの。 (Y:うん うん) |
| 615 | ソレ ** ヌレダベ? コゴマデ。 (KY:アー) | それ ** 濡れたでしょ? ここ [=旨] まで。 (KY:ああ) |
| 616 | ソレガ アンダ クズ ハイダママニカ° イサ アガッタ マ, クズ ハイダマンマ サガッタ, コンダ ソレオ コンダ パパ, ンデ(おいで) ッテ コンダ ウシ オシリオ オシタ ッテ アグモ アシモ ナニモ コシヌゲデンダベサ アノ ヒトワ。 (Z:ハー ハー ハー) | それが あんた 靴 [を] 履いたまま 二階に 上がった ×, 靴 [を] 履いたまま 下がった, 今度は それを 今度は 「パパ, おいで」 って 今度は 後ろ [から] お尻を 押したって 歩くも 足も 何も 腰 [が] 抜けているのさ あの人。 (Z:はあ はあ はあ) |
| 617 | ホデ アシモ ウゴガサネデ, アノサガー アダシ コー ヤッテ ホラミギ ヒダリッテ, アシ ミギダヨヒダリダヨ ッテ ユッタッタッテ ミギモ ヒダリモ ダサネンデ ダマー ッテ ドッカッテ {ジェスチャー} コーナンダ。 (Z:エー?) | それで 足も 動かさないで, あの 坂 [を], 私 [は] こう やって 「ほら 右左」 って, 「足 右だよ 左だよ」 って 言ったって 右も 左も 出さないで 動かないで ドカッテ {ジェスチャー} こう なんだ。 (Z:ええ?) |
| 618 | オモーイデショ ホラー ッテ, (KYZ:{笑}) ホナーナニ シテ アガッテッタベ? (Y:ウウン) | 「重いでしょ ほら」 って, (KYZ:{笑}) そんなことを して 上がったって でしょ? (Y:ううん) |
| 619 | デ ミンナ ソコ° ニ イダガラー, (Z:ウーン) コゴデ インダッタツケア モー オッカネカ° ッテスマッテ, (Z:ウーン) モット アガル ッテ ユーノデ モー ット アガッタノヨ。 (Z:ハー) (K:ウン ウン) | それで みんな そこに いたから, (Z:ううん) ここで いいんだって 言ったら もう 怖がってしまって, (Z:ううん) 「もっと 上がる」と 言うので もっと 上がったのよ。 (Z:はあ) (K:うん うん) |
| 620 | シタツケ ソゴ イッケンヤー アッタノネ? (Z:ウーン) | そしたら そこ 一軒家 [が] あったのね? (Z:ううん) |
| 621 | ソシタツケ モー ハー ソコ° デツカエデ スマッテ, ウズクマッタノ。 | そしたら もう もう, そこで 疲れて しまって, うずくまったの。 |

| | | |
|-----|---|--|
| 622 | シタツケ ユーキ°ー フツテキタモンネ? (Z:アアー) | そしたら 雪が 降ってきたものね? (Z:ああ) |
| 623 | サンガツ ジューイチニヂノ アノヒワネー? (Z:アノトキワ ソウデシタネー) | 三月 十一日の あの日はね? (Z:あの時は そうでしたね) |
| 624 | ユギ フツテキテ モー コンナン ナツテアツケ。(K:ウーン) | 雪 [が] 降ってきて もう こんなに なっていたっけ。(K:ううん) |
| 625 | ソゴノ イエノ イッケンヤノ ヒトイテ アラー イソザキサン タイヘンダ, アノー ネ? ヌレデツカラ オラエノ トーサンノ デモ イーバカスガラー アバイン ッテ ソコ°ノ ウチサ ツエデガエデサ。(Z:ウーン) | そこの 家の 一軒家の 人 [が] いて「あら 磯崎さん 大変だ, あの ね? 濡れているから うちの 父さんの でもよければ 貸すから あがって」って そこの うちに 連れてかれてさ。(Z:ううん) |

(中略)

| | | |
|-----|--|--|
| 647 | ソシテ イッカケ° ツ タツテ, ソコマデ イダツケバ, コンド アレ ダモノ モリオカノ ツナキ° オンセンサ ヒナンシテ, ッテ イワレデ (K:ウン) ソゴサイッテ サンカケ° ツダ。(K:ウン) | そして 一ヶ月 [が] 経って, そこまでいたら, 今度 [は] あれだもの 盛岡の 繋温泉に 避難して, って [釜石市に] 言われて (K:うん) そこに 行って 三ヶ月だ。(K:うん) |
| 648 | ソゴワ キューカイ ダッタノヨ (K:ウン) ッタツケ タイーシタナカ° メイクテ イガッタノ。(Z:フウーン) (K:ウン) | そこは 九階 だったのよ (K:うん) そしたら とても 眺め [が] 良くて 良かったの。(Z:ふうん) (K:うん) |
| 649 | コーンダ ウチノ パパ アンタ ゴハンタベサ イグノニ アエダツテ, ハゴンデ コ ッテ イウノヨ コンドア サカ° ッテグノ タイヘンダガラ。(Y:{笑}) | 今度は うちの パパ [が] あんた ご飯 [を] 食べるに 行くのに あれだって, 「運んで 来て」 って 言うのよ 今度は 下がって 行くの 大変だから。(Y:{笑}) |
| 650 | エレベーターデ サカ° ッテグノネ? (Y:ウン) シテ アカ° ッテクソノヨ デ オックナワゲ アノ イナカ° タローダガラ ホレ, アー オンセンサ イッテサ, (Y:ウン) イッカイ サンカイ オリデ コーデアーデ ッテ コッチ イッテ アッチ イッテ, ヤンタノ ハ, (Y: | エレベーターで 下がって 行くのね? (Y:うん) そして 上がって 来るのよ 億劫なわけ あの 田舎太郎だから ほれ, ああ 温泉に 行ってさ, (Y:うん) 一階 [や] 三階 [に] 降りて こうで ああで って こっち 行って あっち 行って, いやなの もう, (Y:うん うん) 「スパッ」と 行って 「スパ |

| | | |
|-----|--|---|
| | ウン ウン) スパット イッテ スパット クーノシカ シナイガラ。 (Y:ウーン) | ッ)と 食うことしか しないから。(Y:ううん) |
| 651 | ソシテ アンタ オラ アノ キューカイマデ ゴハン ハコ° ンダリシテ カンガエデミレバ バカ° ヨ ワダシモ (Y:イーヤ) ソンナモノ タベナキャ タベナクテ イーヨ ッテ (Y:{笑}) ユットケバイーノニサ {{笑}} ネ? | そして あんた 私 [が] あの 九階まで ご飯[を] 運んだりして 考えてみれば 馬鹿よ 私も (Y:いや) そんなもの [は] 食べなければ 食べなくて いいよ って (Y:{笑}) 言っておけば いいのにさ {{笑}} ね? |
| 652 | ケッキョグ ネ? ダガラホラ (Y:ウーン) ハ ×× コリヤナンデモ キグモンダナドモッテ アッチワ イルベ? ニジューネンモ ゴジューネンモ ダガラ ダメナンド。 | 結局 ね? だから ほら (Y:ううん) は, ×× 「こいつは 何でも 聞くものだな」と 思って あっちは [思って] いるでしょ? 二十年も 五十年も だから 駄目なんだ。 |
| 653 | (Z:ソレデ ソノー ツナギオンセン ニ イッタトキワー) ウン ウン。 | (Z:それで その 繫温泉に 行った時は) うん うん。 |
| 654 | (Z:コノ ヘンノ チイキノ ヒトト イッショニ イッタンデスカ?) | (Z:この へんの 地域の 人と 一緒に行ったんですか?) |
| 655 | ハイ アノー エート アノトキネ ナンニンイッタベ, サンニンダカ° イッタナ? (Z:フーン) アト マエニ | はい あの ええと あの時ね 何人 [が] 行っただろう, 三人だったか 行ったな? (Z:ふうん) あと 前に, |
| 656 | ズット イッテダガラ。(Z:アー) | ずっと 行っていた [人がすでにいる] から。(Z:ああ) |
| 657 | ソシタツケ ミンナ (Z:ゴーリユー ムコーデ ゴーリユー シタンデスカ?) ゴーリユー シタンデスヨ。(Z:ハー) | そしたら みんな [と] (Z:合流 向こうで 合流 したんですか?) 合流したんですよ。(Z:はあ) |
| 658 | オラガ ×× ウチナオス ナオスツテユー (Z:ウーン) イシカ° アツタカラネ (Z:ウン ウン) ナルバグ ×× イェサ ノコ° リタガッタ ノ パパ。(Z:ウン ウン) | 自分が ×× 家 [を] 直す 直す っていう (Z:ううん) 意思が あったからね (Z:うん うん) なるべく ×× 家に 残りたかったの パパ。(Z:うん うん) |
| 659 | シタツケホラ, セキワスルシッテ (Z:ハーアー) イソザキサン オンセンサ イッタホ イーンダ ビョーインヌ チカイドコ° サ イレッカラッテ イワレデ, (Z:ウウーン) ソ | そしたら ほら, 咳は するしって (Z:はあ) 「磯崎さん [は] 温泉に 行った方が いいんだ 病院 [が] 近い所に入れるから」 って 言われて, (Z:ううん) それならば って なったのです。 |

| | | |
|-----|---|---|
| | ダラバ ッテ ナッタノス。 | |
| 660 | (Z:ココ ヤクバモ アリマシタヨネー? チッチャイ アノー デスクッテイウカ) ウン ウン (Z:シュッチョー ヤクバ ミタイナ トコカ°ネ?) ソー ソー ソー ソー ハイ。 | (Z:ここ[は] 役場も ありましたよね? 小さい ×× デスクっていうか) うん うん (Z:出張 役場 みたいな ところがね?) そう そう そう そう はい。 |
| 661 | シテ ツナギオンセンビョーインダノネ (Z:ハーイ) チューオービョーインダ ツナキ° オンセンビョーインダ (Z:ウン ウン アリマシタヨネ) イダイダ ッテサ, ショッチュー カヨッタ パパワ (Z:ヘェー アー) モウー ウン, イモート モリオカ° ニ イルカラ。 (Z:ハーハーハー) | そして 繋温泉病院だのね (Z:はい) 中央病院だ 繋温泉病院だ (Z:うん うん ありましたよね) 医大だ といっさ, しよっちゅう 通った パパは (Z:へえ ああ) もう うん, 妹[が] 盛岡に いるから。 (Z:はあ はあ はあ) |
| 662 | (Z:デ ソノ ツナギオンセンニ イルトキートカー) ウン ウン。 | (Z:それで その 繋温泉に いる時とか) うん うん。 |
| 663 | (Z:アノー イマモ ソーナンデスケドモ, アノー エトー, コ コノヘンノ ヒトジャナイ ヒトトー) ウン。 | (Z:あの 今も そうなんですけども, あの ええと, × この辺の 人ではない人) うん。 |
| 664 | (Z:ハナシオ スル キカイッテ イウノワ マエヨリワ フェマシタ?) フェナイ フェナイ (Z:アンマリ フェナイ) ウン。 | (Z:話を する 機会って いうのは 前よりは 増えました?) 増えない 増えない (Z:あんまり 増えない) うん。 |
| 665 | シテ オラノ カセツノ トコニサ, (Z:ウーン) ×× サントーン トコ ナランデットコノ ハジッコワネ アノー, トーニノネ, アノ カタギシ ッテユー ドコカラ キタヒトデ, (Z:オオー ハイ) パパワ シッテッケガラ トール (Z:アアーン) アノー ワタル ワタル ッチューッケ。 | そして 私の 仮設の ところにさ, (Z:ううん) ×× 三棟の ところ 並んでいるとこの 端っこはね あの, 唐丹のね, あの 片岸 っていう 所から きた 人で, (Z:おお はい) パパは 知っているから トール (Z:ああ) あの ワタル ワタル って 言うの。 |
| 666 | ワダルー, ッテバ アアー ッテ ユッテ (Z:{笑}) クッケ, ソノヒト ゴジューサンダガラ (Z:オオー ワカイ) パパワ ハチジューダベ? (Z:ウン ウン) | 「ワタル」と 呼べば 「ああ」 って 答えて (Z:{笑}) 来るの, その人[は] 五十三[歳] だから (Z:おお 若い) パパは 八十でしょ? (Z:うん うん) |
| 667 | ワダルー コダゾー, ッテバ アアー | 「ワタル こうだぞ」 って 言えば 「あ |

| | | |
|-----|---|--|
| | ドカ° ッテサ, イマ ソナ アー ソノヒタァ アミ シテッカラ (Z:ホーン) トーニサ イッテ アミオコ° シ シテッカラ。(Z:ハーア, ソーデスカー) | あ] とかってさ, 今 ああ その人は 網 [を] しているから (Z:ほう) 唐丹に 行って 網おこし [を] しているから。(Z:はあ, そうですか) |
| 668 | シテ アノー カセツニモ アノ アミオ ツクッテサ, (Z:アー) コウー タラシテネ? (Z:ハー) イダッケカ° サ (Z:ウン) ソノヒトワ。 | そして あの 仮設 [住宅] にも あの 網 を 作ってさ, (Z:ああ) こう 垂らしてね? (Z:はあ) いるのさ (Z:うん) その人は。 |
| 669 | ソデ ダガラ ソノ ヒトド ハナシ シタリ シテッカラサ。(Z:フウーン) | それで だから その 人と 話 [を] したり しているからさ。(Z:ふうん) |
| 670 | アト ジジカイノ アベサン ッテ イウヒト イルンダッケネ (Z:ウーンウン) ソノヒタァ ジジカイノ カイチャーサン, アベサン ッテ イウカタネ? (Z:ウーン) | あと 自治会の アベさん って いう人 [が] いるんだよね? (Z:ううん うん) その人は 自治会の 会長さん [で], アベさん って いう方ね? (Z:ううん) |
| 671 | デ コノカダ, パパモ サイショワサ, ソゴサ デカケデ イッテ, ジジカイサ イッテ, アノー ナンノコ° ドネー ダマーッテ ヒトノ ハナシ キイデインダッケ。(Z:ウーンウン) | それで この方, パパも 最初はさ, そこに 出掛けて 行って, 自治会に 行って, あの 何のことは ない 黙って 人の 話 [を] 聞いているんだよ。(Z:ううん うん) |
| 672 | ソーセェバ ブガット スワッテ ダマッテ イッカラサ, ソイデモ イインダド カッコ ツイデ。(Z:ウーン {笑}) | そうすれば どっかりと 座って 黙っているからさ, それでも いいんだって 格好 ついて。(Z:ううん {笑}) |
| 673 | ソダガラ ジジカイノ アベサンワ (Z:ナンカ オミアイノ トキミタイ) (KYZ:{笑}) (K:ソーソー {笑}) ダンナサン キテケロ ッテ イウンダッケ。(Z:アーン) | だから 自治会の アベさんは (Z:なんか お見合いの 時みたい) (KYZ:{笑}) (K:そうそう {笑}) 旦那さん 来てちょうだい って 言うんだよ。(Z:ああ) |
| 674 | ダドモ ホラ アシ イダカ° ッテ アルカ° ナイガラ (Z:アァー) サムイドキ° ナド デナイガラ (Z:ウンウン) ソダガラ ッテ アノ チャーシワルイドキ° デナイケドモ。 | ただども ほら 足 [を] 痛がって 歩かないから (Z:ああ) 寒い時など [仮設住宅を] 出ないから (Z:うん うん) だから って の 調子 [が] 悪い時 [は] 出ないけども。 |
| 675 | ット ヤキューズキ° ダガラ (Z:ホォ) アサカラ バンマデ キョジンダ | すると 野球好きだから (Z:ほう) 朝から 晩まで 巨人だ あんた いどこでも |

| | | |
|-----|---|---|
| | アンダ イドゴデモ シンセキ° デモ ネーノニ。(Z:アァー) | 親戚でも ないのに。(Z:ああ) |
| 676 | マイニジ マイニジ ミデ ッテ オ レイウノ。(Y:{笑}) | 「毎日 毎日 観て」 って 私言うの。 (Y:{笑}) |
| 677 | ナニ オモセ イドコ° デモ シンセ キデモ ネークセニッテ (Z:モウ チョットデ カチマスカラネエ) ソダ ーガラ ムジューソナッテ。(Y:{笑}) | 何[が] 面白い 従兄弟でも 親戚でも な いくせになって (Z:もう ちょっとで 勝 ちますからねえ) そう, だから 夢中にな って。(Y:{笑}) |
| 678 | ナーニカ°, ヤキュー カントクダ ー? ソシテ。(KYZ:{笑}) | 何が 野球 [あんたは] 監督だ? そして。 (KYZ:{笑}) |
| 679 | アノ サンカ° ズガラ ジューイカ° ツマデ アル ウズ ミデッカラ ウ ンデ テレビ ニダイ ウジ ケンカ ダガラ。(Z:ハァー) | あの 三月から 十一月まで [試合が] あ る うち 観ているから それで テレビ 2台 うち ケンカ だから。(Z:はあ) |
| 680 | ウジノオドートカ° ネーチャン ソ ンデ ダメナダガラッテ モーイチダ イ カッテッテ × アドヒトツ ジ ブンノホサ (Z:イヤァー イイ オ トートサンダ) ウーン ヤッテ ヤッ テンカ° サァー。(K:ウーン) | うちの 弟が 「姉ちゃん それでは 駄目 なんだから」って 「もう1台 買って」っ て × あと一つ 私の方に (Z:いやあ いい 弟さんだ) ううん やって やって いるけどさ。(K:ううん) |
| 681 | ッテバ, アサガラ コウヤ キュー ー, ウ, アァー ウワァー ナンテ ヤッテル。(Y:{笑}) | そうすれば, 朝から こう 野球, 「う, ああ うわあ」 なんて やっている。 (Y:{笑}) |
| 682 | アド アー ケツイデェノ ハライデ ェノッテサ。(KY:{笑}) | あと ああ 尻 [が] 痛い の 腹 [が] 痛い のってさ。(KY:{笑}) |
| 683 | ソダガラ ソダネ, ヤキュー, タバ コ° ノムドギ デネ, タバコ° ノムド キ° ド ヤキュー ミッドキ° ワ モ ー ビンビン ッテンソネ? (Y:ウーン) | だから そうだね, 野球, タバコ [を] 吸う時 でない, タバコ [を] 吸う時と 野球 [を] 観る時は もう ビンビン し ているのね? (Y:ううん) |
| 684 | アドワ モー ゲェワルーノ {舌打 ち} オガズ ワルバ, アー コンナ モノクッタラ コロサレルー, ナンテ イワレダリシタツケ。(KYZ:{笑}) | 後は もう 具合 [が] 悪いの {舌打ち} おかず [が] 悪ければ, 「ああ, こん なもの [を] 食ったら 殺される」 なん て 言われたりしたよ。(KYZ:{笑}) |
| 685 | ナッパバリ クッテ コロサレルー ドカ° サァー? (KYZ:{笑}) | 「菜っ葉ばかり [を] 食って 殺される」 とかさ? (KYZ:{笑}) |
| 686 | デ ニグバリ ニグ, シタツケ ウジ ノ ムスメ フクイニ イル ムスメ カ° パパ トーニュービョーワネ? | それで 肉ばかり 肉, そしたら うちの 娘 [が] 福井 [県] に いる 娘が 「パ パ 糖尿病はね?」 (Y:ううん) |

| | | |
|-----|---|--|
| | (Y:ウーン) | |
| 687 | アノ タンスイカブツ ゴハン イチバン ワルイガラネ, ママ ゴハンデ ナクテ ニクダケ ヤンナサイ ッテ ユーカラ (Y:ウーン) マー ニグ オークシタツケ コンダ イーキソナツテサ, ニグダ, ドンカ° ドンカ° タベデ。 | 「あの 炭水化物 [が] ご飯 [が] 一番悪いからね, ママ ご飯でなくて 肉だけ [を] やんなさい」 って 言うから (Y:ううん) まあ 肉 [を] 多くしたら 今度は いい気になつてさ, 肉を, どんどん 食べて。 |
| 688 | アンタ, フナノリデモ ネーノニ カセギデモ ネーノニ ニグツケデ エーヨーツケデ ナニ スソノ ッテ ユッテンカ° サ (Y:{笑}) (Z:ハー) ホンートニ。(Z:{笑}) (Y:ウーンウン ウン) | あんた, 船乗りでも ないのに 稼ぎ [に行く]でも ないのに 肉 [を] つけて 栄養 [を] つけて 何 [を] するの と言ってるけどさ (Y:{笑}) (Z:はあ) 本当に。(Z:{笑}) (Y:ううん うん うん) |
| 689 | (Z:ソ, ソースルト) ヤキューミデ (Z:ソー スルトー, アノー タイシテ エート マエトー,) ウン。 | (Z:X, そうすると) 野球 [を] 観て (Z:そう すると, あの たいして ええと 前と) うん。 |
| 690 | (Z:ソノー エート, ハナスアイテー ノ, カンジワ カワラナイッテイ ウ コトデスカネ?) カワラナイ ウン カワラナイネ。 | (Z:その ええと, 話す 相手の 感じは 変わらないって いう ことですかね?) 変わらない うん 変わらないね。 |
| 691 | (Z:アノー) デモ ヘッタンダベ? トーニニ イレバ ミンナ シッテル ヒトアイデ (Z:アー) ナンデ カソデ デハッテ アルグー ッタツテ トールツタツテ オイ, コーデ アーデツテ ッテ ****デ イマ ソンナ ヒト イナイカラネ。 | (Z:あの) でも 減ったんでしょ? 唐丹に いれば みんな 知ってる 人がいて (Z:ああ) なんだ かんた 出て 歩く って 言ったって 通るって 言ったって 「おい, こうで ああで」 って ****で 今 [は] そんな 人 [は] いないからね。 |
| 692 | (Z:ウーン テ コトワ トーニノ ヒトタチト, ハナシオ スル キカイカ° スコシ ヘッタヨウナ キカ° スル ッテ コトデスヨネ?) ハイ ハイ スコシドコロカ イッペ ヘッタノヨ。(K:ウン ウン) (Z:ウーン) | (Z:ううん という ことは 唐丹の 人達と, 話を する 機会が 少し 減った ような 気がする という ことですよ ね?) はい はい 少しどころか いっぱい 減ったのよ。(K:うん うん) (Z:ううん) |
| 693 | (Z:デ カワリニ タトエバ ワタシ タチ トカモ ソーナンデスケドー, ソトカラ キタ ヒトタチトー, ハナス キカイカ° フェタナーツテ オ | (Z:それで 代わりに 例えば 私達も そうなんですけど, 外から 来た 人達と, 話す 機会が 増えたな と思う ことは ありますか?) ないです ないです (Z: |

| | | |
|-----|---|--|
| | モーコトワ アリマスカー?) ナイデ ス ナイデス (Z:ナイデスカ?) アン マリ コナイモノ。(K:ウン) (Z: ウン ウン) | ないですか?) あんまり 来ないもの。 (K:うん) (Z:うん うん) |
| 694 | タダ アサ ブーット マイニチ ホ ラ (Z:ウン) ジジカイノヒトカ° ネ, ミハリノヒトカ° ネ? (Z:ア ァー) カワリナイデスカ? ッテユ ーノ アレワ イラナイクレダナ (K:ウン) マイニジ マイニジ (Y:{笑}) (K:ウーン) (Z: ハァー) | ただ 朝 [に] ずっと 毎日 ほら (Z: うん) 自治会の 人がね, 見張りの 人 がね? (Z:ああ) 「変わらないですか?」 って 言うの あれは いらなくらいだな (K:うん) 毎日 毎日 (Y:{笑}) (K: ううん) (Z:はあ) |
| 695 | アレコ° ソ イラナイ クレーダ。 (KYZ:{笑}) | あれこそ [は] いらなくらいだ。 (K YZ:{笑}) |
| 696 | イジイジ カオダシテ, ハイ ハイ ッテ ユーノモ オックーダワヨー? | いちいち 顔 [を] 出して, 「はい はい 」 って 言うのも 億劫だよ? |
| 697 | オラ モー ナガカラ ハーイ ハイ ー カワリナイヨー (KYZ:{笑}) ドカ° ッテ ヤッテンノ パパ ユッ テ, ッテ オメ ユエ, ドカ° ッテ。 (KYZ:{笑}) | 私は もう [家の] 中から 「はい はい 変わらないよ」 (KYZ:{笑}) とかっ て 言っているの 「パパ [に] 言って」 って [言う]と 「お前 [が] 言え」 と かって [言われる]。 (KYZ:{笑}) |
| 698 | (Z:ソーヤッテ ユッテルノカ° ソ トニ キコエレバ チョードイイデス ヨネ) (KYZ:{笑}) ダカラ ソ ダガラ。 | (Z:そうやって [二人で] 言っているの が 外に 聞こえれば [元気だなと思っ てもらえるので] ちょうど いいですよ (KYZ:{笑}) だから そうだから。 |
| 699 | (Z:ナンカ マタ ケンカ シテル ゾ) マダ ケンカ アソコ° デ ケン カダ (K:{笑}) イッソ ケンカダ ド オモッテッペヨ? | (Z:なんか また ケンカ しているぞ) また ケンカ あそこで ケンカだ (K: {笑}) しょっちゅう ケンカだと 思っ ているだろうよ? |
| 700 | (Z:イキテル イキテル ミタイナ) ウーン (KYZ:{笑}) ソーオナノ。 | (Z:「生きている 生きている」 みたいなの ううん (KYZ:{笑}) そうなの。 |

談話資料：大船渡市

「我慢強い」ではなく「辛抱強い」

—大船渡地区—

竹田晃子

1. 調査概要

話者は、H：山浦玄嗣さん（男性）、S：吉田勇太郎さん（男性）、M：三浦京子さん（女性）、収録日時は2012年11月24日午後、録音場所は山浦さんのご自宅（岩手県大船渡市盛）である。調査者は、大野眞男（岩手大学教育学部）、Z：竹田晃子（国立国語研究所）で、木部暢子（国立国語研究所）が同席した。

調査と録音は大野・竹田の共同で行った。録音の文字起こし・共通語訳は草稿をアルバイタに依頼し、談話資料としての取りまとめは竹田が担当した。

2. 談話の概要

山浦玄嗣さんは医師であり方言研究者でもある。主な著書に『ケセン語入門』、『ケセン語大辞典』、『3. 1 1後を生きる なぜと問わない』などがある。2011年3月11日、午後14時半過ぎ、山浦さんは、自宅の二階から病院へ、外階段を下りていく途中で大地震に遭遇した。病院に駆け込むと、MRIやレントゲンなどの検査機材がまるで踊っているように床から跳ね上がるのを力尽くで押さえながら、地震に悪態をついたという。その後、自宅の1階が浸水し、逃げ遅れて二階に避難し、押し寄せる患者の診療に尽力した。

吉田勇太郎さんは庭師で、以前、公民館の副館長を務めた方であり、ケセン語劇団のメンバーでもある。吉田さんは山の中で大地震に遭遇し、近くにいた雄鹿がよろめいて山を転げ落ちていくのを目撃した。山を下り、公民館を避難所として開放してからは、その運営につとめた。

三浦京子さんはバスガイドで、方言詩の朗読で有名な方である。三浦さんは、大型スーパーで買い物をしていたときに大地震にあった。孫を連れて高台の自宅にのぼったら、近所の人々が集まっていて、津波が迫り来る様子を目撃した。自宅の前に移動できなくなった県外ナンバーの自家用車が停まっており、最多で28人もの人々が滞在していたので、6月までの間、炊き出しをして食料を配った。

今回の談話は、我々による依頼内容（津波のご体験を教えてください）を、山浦さんに司会していただく形で、三人に語り合っていた。本稿には、その一部を収録する。

3. 談話の言語的特徴

ごく簡単に特徴を述べる。方言的特徴として、音韻と韻律、俚言や文法に多くの特徴がみられた。

俚言の例を挙げると、ヨッカマカ（よろよろ）(045)、アンコ（兄ちゃん）(046)、トットマト（よろよろ）(046)、イツツニ（とっくに）(070)、カセル（食わせる）(112-120 ほか)、ヨンマ（夜）(112 ほか)、アサマ（朝）(112 ほか)、アラゲル（転げる）(051)、感動詞ババババ（あらあら）(051)、ヤバツイ（汚らしい）(207)、ナジョニ（どのように）(237)、ベラリ（すっかり）(229)、バツパ（婆さん）(440)、ナーシテ（どうして）(781 ほか)、アズガル（面倒を見る）(769)などがある。

文法は、格助詞ヲ相当のバ(070 ほか)、格助詞相当のサ(096 ほか)、条件表現：ミデダレバ（見ていたら）(099 ほか)、助詞ワ相当のァ（例：コンドァ（今度は）(103 ほか)）、否定のニャ（例：ハラ ヘッテニャノー（腹が減っていないの）(112 ほか)、ダッキヤー（そうしたら）(233 ほか)などがある。文末の表現に、丁寧語のス（例：キタ ノッス（来たのです））(100 ほか)、丁寧語のガスト（例：ネァ ガスト（ないでしょう）(136 ほか)）、勧誘のベシ（例：ヘアイルベシ（入ろう）(272)）、ベツチャ（だろうよ）(446 ほか)などがある。

4. 談話

文字化は、原則としてカタカナ表記と文節による分かち書きで行った。表の左に発話番号、次に方言の文字化、右に対応する共通語訳を逐語訳として掲載した。発話番号は実際には001から842までであるが、ここでは034-276, 408-457, 746-834を掲載した。

話者の記号は1. 調査の概要を参照されたい。長い発話内容を中心に、他の人による相づちや短い発話は（ ）に入れて示した。

カタカナにできない部分については、次のように表記した。

- × 言い間違いや言いよどみ
- * 聞き取れない部分
- / 共通語訳が付けられない部分
- [] 共通語訳の際に補った部分
- {笑} 笑い声
- | | 共通語訳以外の補足情報
- ↑ 文末の上昇イントネーション

| 発話 番号 | 話 者 | 発言内容の文字化 | 共通語訳 |
|----------|--------|---|---|
| 034 | S | ンデア アレダナー, オレア アノ ヒーッサ, (H:ウン) ウートー サムィガッタ ヒ ナンダー。 | では あれだな, 私は あの 日さ, (H:うん) ええと 寒かった 日 な のだ。 |
| 035 | H | サムガッター。 (M:ウン) | 寒かった。 (M:うん) |
| 036 | S | デ, ウラヤマサー ノボッテサ, | それで, 裏山に 登って ね, |
| 037 | H | ハーア, (S:アノー) ナー ナ ニ ジシンノ トギガ? | はあ, (S:あの) ×× 何 地震 の 時にか? |
| 038 | S | アー, (H:ウン) ソノ ヒ。 (H:ウン) | ああ, (H:うん) その日。 (H: うん) |
| 039 | S | アノー スギヤマン ナガ スコシ サッサド アガッテ ダンター。 | あの 杉山の中 [を] 少し さっさ と 上がって いたのだ。 |
| 040 | S | ネバリア スペ ド モッテサー, ソレト ユーノカ ^カ ハルー キタガ ラ ソロソロ シズドギア オワッ テ クットギ ** ダベガラ, (H:ウン) ソノ ドギ ヤマノ スケア トッテー {笑}, ソノ, ダンドリデ サ, (H:ウーン) ウ ー カネアレアレア ネバリ ハ ハジマッタ ンダ。 | 根張りを しよう と 思ってさ, そ れと いうのが 春が 来たから そろ そろ // 終わって くるとき / // だろうから, (H:うん) そ の とき 山の // にとって {笑}, その, 段取りで ね (H: ううん) うう // 根張り も う 始まった んだ。 |
| 041 | S | ホンデ サンビドモ アセ カイダ カラ サ, スギノ ギサー ホレ ヨッカガッテ, イー イップク シ テダ ノサ。 | そして 寒いけれど 汗 [を] かいた から ね 杉の 木に ほら よっかか って, ×× 一服 していた のさ。 |
| 042 | S | ソシタツケ ホリエー, マズ キッ ズガラ ドド ドド ドド ッド ナッテ キタンダ ヨナ。 (H:ウ ーン) | そうしたら ほら, まず // // // っ から ドドド ドドド っとなつて き たんだ よな。 (H:ううん) |
| 043 | S | エーヤ ソシテル ウジニ コンダ ヨゴサ ユレデ キタ ワゲダ。 (H:ウーン) | いやあ, そうしている うちに 今度 は 横に 揺れて きた わけだ。 (H:ううん) |
| 044 | S | ウーン | ううん |
| 045 | S | ソン ドキ ソノ, オレ ヤスデッ トギ ヨッカマカノ スカ イダッ タノサ (H:ホーウ) オレン ド ゴノ ×スグ ソバサ。 (H:ホー | その 時 その, 私 [が] 休んでい る時 ヨロヨロしていた 鹿 [が] い たのよ (H:ほう) 私の 所の × すぐ そばに。 (H:ほう) |

| | | | |
|-----|---|--|---|
| | | ウ) | |
| 046 | S | ソスタッケァ ソノ アンコモサ, (H:ウーン) {笑} トットマト トットマト ド ナッテ ジシンデ。 (H:アー シカガー?) | そうしたら その 兄ちゃん [=鹿] も ね, (H:ううん) {笑} ヨロヨ ロ ヨロヨロ と なって, 地震で (H:ああ 鹿が?) |
| 047 | S | ウン。 (H:ハーア) | うん。 (H:はあ) |
| 048 | S | アルゲネ ワゲダ。 (H:ハーア) (M:ウーン) | 歩けない わけだ。 (H:はあ) (M: ううん) |
| 049 | S | ホッデ スギノ イダサ ×× ケ ットレデ スマッテ サ。 (H:ハ ー ハー) | そして 杉の 板に ×× 倒れてしま って さ (H:はあ はあ) |
| 050 | S | オレノ ママガラ アラゲデッタ ノサ | 私の 近くから 転げていった のさ |
| 051 | S | オラ スカノ アラゲダノ ハジメ デ ミダ。 (H:バ バ バ バ) {笑} (M:{笑}) | 私は 鹿の 転がったの [を] 初めて 見た。 (H:あら あら あら あら) {笑} |
| 052 | H | アー ソガー↑。 (S:ウーン) (M:ウーン) | ああ そうか。 (S:うん) (M: ううん) |
| 053 | S | ホー ステル ウジニ, ホラー, (H:ウーン) コンナ タイボク アラー スギナダ サー, (H:ウ ン) ナニモ カニモ コー, ユ ユレデ サー, (H:アー) アッ ツノ ヤマモ コッチノ ヤマモ ダモ オレノ ワギアドモ サー。 (H:ウーン) | そう している うちに, ほら, (H:ううん) こんな 大木 [が] あ る, 杉など さあ, (H:うん) な にも かも こう, × 揺れて ね, (H:あー) あっちの 山も こっ ちの 山も だもの 私の 脇なども ね。 (H:ううん) (M:ううん) |
| 054 | S | マズ ススオドリァ ドゴデア ネ ァンダ (H:ウーン) コノー, グ ワー ユレデサー。 (H:ウーン) (M:ウーン) | とても 獅子踊り どころでは ないの だ (H:ううん) この, グワー [と] 揺れてね。 (H:ううん) |
| 055 | S | ア コリャ テーヘンナ コドニ ナルゾ ト (H:ウーン) | 「あ これは 大変な 事に なるぞ」 と。 (H:ううん) |
| 056 | S | オレア カンジダンダ アレア ヨンブン グレアヌ カンジダナ ハガッタ ワゲデ ネェドモ。 (M:ウーン) | 私は 感じたんだ あれは 四分 くら いに 感じたな 計った わけじゃ な いけれど。 (M:うん) |

| | | | |
|-----|---|---|---|
| 057 | S | ソスト ウラヤマニ イダガラ, (H:ウーン) アー オ ジブンダ ツジノ ヤーネア シタニ ミエツ カラッサー, (H:ウーン) ア カ ーラ イダマネア ト, (H:ウー ン) ダイジョブダ ド。 | そうすると 裏山に いたから, (H: ううん) ああ / 自分たちの 屋根 が 下に見えるからね, (H:うう ん) 「あ 瓦は 損傷がない」 と。 (H:ううん) 「大丈夫だ」 と。 |
| 058 | S | ヒモ ツカネアガッタガラ ヒヤ イー ト。 (H:ウーン) | 「火も 使わなかったから 火は い い」 と。 (H:ううん) |
| 059 | S | コレア トンデモ ネェ コドニ ナルゾ ト。 (H:ウーン) | 「これは とんでも ない ことにな るぞ」 と。 (H:ううん) |
| 060 | S | ホッデー, サガッテ ッテサ, ア ツ ドギャー, コーミンカンノ フ グカンチョー ダッタガラー (H: ウーン) ソレノ アガルー ドゴデ ナガメデヤッタ。 (H:ウーン) | それで, 下がって 行ってね, あっ ち [の] ときは, 公民館の 副館長 だったから (H:ううん) それの 上 がる ところで 眺めていた。 (H: うん) |
| 061 | S | デ ヤイ, ソノー, シヤ デネア ベ ト。 | それで 「やい その, 死者 [は] 出 なかつただろう」 と。 |
| 062 | S | ダレモ ツブサレダ ノモ イネア ベ ド。 | 「誰も 潰された 者も いないだろ う」 と。 |
| 063 | S | ホノー, コツツノ ヒドダジノ ヤ ネモ, オラエガラ ミダドモ ナン デモ ネア ド。 (H:ウーン) | その こっちの 人たちの 屋根も, 我が家から 見たけれども 何でも な い と。 (H:うん) |
| 064 | S | スタ アンバー サ サガッペ, ド, コレア テーヘンナ コド オ ギデ ッゾ ッタラ サ。 | 「そうしたら 行こう × 下がろう」 と 「これは 大変な こと [が] 起 きている ぞ」 と, そしたら ね。 |
| 065 | S | ホンタッキャー, トナリノ ヤマダ ズィーノ ガガサマ デデギデ サ ナ (H:ウーン) テーヘンダナ コ レア ッテ。 | そうしたら, 隣の 山田家の 奥さん [が] 出てきてね (H:うん) 「大 変だね これは」 って。 |
| 066 | S | デ ビッコー ヒイデダ ワゲダ。 | それで びっこ [を] ひいていた わ けだ。 |
| 067 | S | ナニ スタノス ッタツケア, ケ カ シタノスカ ッタケ ウンツェ ウンツェ ッテー。 | 「何 [を] したのですか」 と言った ら, 「怪我 [を] したのですか」 と 言ったら 「そうでない そうでない」 って。 |
| 068 | S | ナンデモ ネアガラ, アグドサ ヒ ビ アグド ヒビデ イダグデ ワ ガンネ ド。 (H:アー) (M: | 「何でもないから」 [とっていたが], 踵に ひび, 「踵 [が] ひびで 痛 くて だめだ」 と。 (M: {笑} 踵 |

| | | | |
|-----|---|--|---|
| | | ハハハ {笑} アギレ キレダ) | のひび [が] できた) (H: {笑}) |
| 069 | S | {笑} マズ サガッテッター。 (H:M:ウーン) | {笑} まず 下がっていった。(H:ううん) (M:ううん) |
| 070 | S | ホーダツケ イッツニ ハ コーミンカ°ン ドゴバ ツナミーア キテサー, (H:ウーン) ダー ット ウ カゲノボッテ ッタ ノサー。(H:アーー) | そうしたら とっくに もう 公民館の所を もう 津波が 来てね, (H:ううん) ダーッと × 駆け上って いった のよ。(H:ああ) |
| 071 | S | コーミンカ°ンカ°ラ ニヒヤグメーター グライ アガッタ ナ, (H:アーー) カワ。 | 公民館から 二百 メートル くらい 上がった ね, (H:ああ) 川。 |
| 072 | S | アー, アノ コーミンカン, アノ オラダ シバイノ, (S:ウン) ウー ソゾグ コセダ ドゴカ? | ああ, あの 公民館, あの 私たち [が] 芝居の, (S:うん) うう 所属 [を] 作った ところか? |
| 073 | H | イヤー ソレア アーレア ナグナ ッテ シマッタ。 | いや それは あれは なくなって しまった。 |
| 074 | S | アレア ネー, ナグナッタ。 | あれは ない, なくなった。 |
| 075 | H | アレア ナグナッタ。 | あれは なくなった。 |
| 076 | S | マツト カミ? | もっと 上? |
| 077 | H | カミー, (H:アハー) ズット。 | 上, (H:はあ) ずっと。 |
| 078 | S | ノジノ イエニサ, シェンシェア コーエンニ キタ ゴド アンベ。 | 路地の 家にね, 先生 [=H] は 講演に 来た こと あるだろう。 |
| 079 | S | アーー, アソゴナー。(S:ウン) | ああ, あそこね。(S:うん) |
| 080 | H | アーノ コーミンカンの アシモド ×× スギデッタ ノサ。(H:アー) (M:フーン) | あの 公民館の 足元 [を] ×× 過ぎていった のさ。(H:ああ) (M:ふうん) |
| 081 | S | ソノ ス スタ ウミノ ホワ ゼンメツダ。(H:ウン) | その × 下 海の方 は 全滅だ。(H:うん) |
| 082 | S | シンスイ シタリ, モー アドア モー ガレギン ナッテ ナガレツ イデ サ。(H:ウーン) (M:ウーン) | 浸水 したり, もう あとは もう 瓦礫に なって 流れついて ね。(H:ううん) (M:ううん) |
| 083 | S | ソーシテア マー ミンナ ホノー, ナヌ キノミ キノマンマ ダベー。(M:ウーン) | そして まあ みんな その, 何 着の身 着のまま だろう。(M:ううん) |
| 084 | S | ハダシデ ニゲデ キタノモ イル | 裸足で 逃げて 来た 者も いる わ |

| | | | |
|-----|---|---|---|
| | | ワケダ。(H:ウン ウン) (M ウン) | けだ。(H:うん) (M:うん う ん うん) |
| 085 | S | デー モロノ キンシキダドァサー, (H:ウーン ウン) アノ, クズ ハグ ヒマ ネアガッタッテ サン ダルデー, (H:ウーン) ニゲダ ツケァ ヤマサ アガッタツケァ ズルラ ズルラ ッテ スベッテ バリ イデサー, (H:ウーン ウ ン ウン ウン) ホンデ モ, コ シマデ ミズ アラワレダ ズ。 (H:ウーン ワーァ) (M:ウー ン) | それで ものの // // // // // (H:ううん うん) あの, 靴 [を] 履く 暇 なかった って サンダル で, (H:ううん) 逃げたら 山に 上がったら ずるり ずるり と 滑っ て ばかり いてね, (H:うーん う ん うん うん) それで もう, 腰 まで 水 [に] 洗われた そうだ。 (H:ううん わーあ) (M:ううん) |
| 086 | S | ウン。 | うん。 |
| 087 | S | ホノ クサ ムシル ヨーニ シガ ミ ツイデ, (H:アー) ホンデ ヤット ニゲダッテ サ。(H:ウ ーン ウン) | その 草 [を] むしる ように しが み ついて (H:ああ) それで や っと 逃げた って き。(H:うう ん うん) |
| 088 | S | アー マー ソンナ ザマ デサー, マー, トニガグ, ンー コレエ コーミンカン アゲデー, スグ ト ニガグ, ミンナニ コノ ンー, ナニモ ネアンダガラ (H:ウン) モーフモ (H:ウン) キモノモ (H:ウン) アノ キルモノモサー, キモノモ ミズモ ネアンダガラ, コーミンカンサー, マー トマリル ツ モノァ トマリ, トユー。 (M:ウン ウン ウン) | ああ まあ そんな ざま でね, ま あ, とにかく, × これは 公民館 [を] 開けて すぐ とにかく みんな に この んー, 何も ないんだか ら (H:うん) 毛布も (H:うん) 着物も (H:うん) あの 着る物も ね, 着る物も 水も ないんだがら, 「公民館に, まあ 泊まれる 者は 泊まれ」 って, という。(M:う ん うん うん) |
| 089 | S | スグ ダンドリ シタノサ。(H: フウーン) | すぐ 段取り したのさ。(H:ふう ん) |
| 090 | S | アンダー ソンドギ ドゴサ イダ ノサ? | あなた [は] それで どこに いたの? |
| 091 | H | オラーネ, アン ドギア オーフナ ドニ イダノ。(S:ウーン) | 私はね, あの 時は 大船渡に いた の。(S:ううん) |
| 092 | M | ヒドリシカ ネェ ダンナド。 (S:ウン) | 一人しか いない 旦那と。(S:う ん) |
| 093 | M | ホンデー マズ (H:マー ヒドリ | それで まず… (H:まあ 一人 いれ |

| | | | |
|-----|---|--|--|
| | | アレバ タグサン ダベド {笑}) ソー スカナ。 {笑} | ば 十分 だろうよ) そうですかね。 {笑} |
| 094 | M | ホンデー, (S:ウン) × ヤッ パリ タダ ゴッデ ネェ ガラー, (H:ウン) トニガグ エサ アベ ッテ。 | そして, (S:うん) × やっぱり ただ 事で ない から (H:うん) とにかく 家に 行こう と。 |
| 095 | M | (H:オーフナドノ ドゴー?) ウ ン マイヤニ イデ (H:ウン) カ イモノ シテダ ノ。 (Z:ハーア) (H:アー) | (H:大船渡の どこ?) うん マイ ヤ [大型小売店] に いて (H:うん) 買い物 [を] していた の。 (Z: はあ) (H:はあ) |
| 096 | M | ソレデ アド スミ イッデ, (H:ウン) ホイクエンサ イッテ マンゴ ッテーデ, (H:ウン) ッ テ イサ アガッテ, (H:ウン) デ オラホワ タカデアダ ガスト ー。 (S:ウーン) | それで あと スミ [に] 行って (H:うん) 保育園に 行って 孫を 連れて (H:うん) それで 家に あ がって (H:うん) それで 我が家 は 高台で しょう。 (S:ううん) |
| 097 | M | デ ミンナ オラエノ ウチサ (S:ウーン) アズマッテ ダッタ ー。 (S:ウーン) | それで みんな 私の 家に (S:う うん) 集まっ て いた。 (S:うう ん) |
| 098 | M | ナンツツ オッキ ツナミ ダッタ ジャ ナンダ ジャナー ッテ (H:ウン) ュッテダ ノ。 (H: ウン) | なんと 大きな 津波 だった ぞ 何 だ ね っ て (H:うん) 言っ て いた の。 (H:うん) |
| 099 | M | ソステネ, スタ メア ミデダレバ ー ユレデ, ニヤーノニ デンチュ ーカ バダバダ バダバダ ド タ オレデラ ノ。 (S:ウン) (H: ウン) | そしてね, そうしたら 前は 見てい たら 揺れて いないのに 電柱が ば たばた ばたばた と 倒れていたの。 (S:うん) (H:うん) |
| 100 | M | ソステル ズニ マックロイ ミズ ア キタ ノッス。 (H:ハー ア ー) | そうしている うちに 真っ黒な 水が 来たんです。 (H:ああ) |
| 101 | M | アノー ス サンテンズノ センロマ デ。 (H:ウン ウン) | あの × 三鉄の 線路まで。 (H: うんうん) |
| 102 | M | アラ ツナミダヨ (H:ウン) ッ タ トギワ ナミア スグ メノ マエマデ キデダ ノ。 (H:ウー ン ウン ウン) | あら 津波だよ (H:うん) と 言っ た 時は 波が すぐ 目の 前まで 来ていたの。 (H:ううん うん う ん) |

| | | | |
|-----|---|--|---|
| 103 | M | サー コンドア ホレ イマ ユウ ットーリ ユタサン ユウットーリ ナニモ ネア ガスト。(H:ウー ン) | さあ 今度は ほら 今 言う通り 勇 太さん 言う通り 何も ない でしょ う。(H:ううん) |
| 104 | M | デンキア ニャー スイドーア ニ ャー,(H:ンダ) オラエデ イ ジバン イダ ドギネエ ニジュー ハジニン イダ ノ。(H:オー) (Z:ハーア) | 電気はない 水道はない,(H:そう だ) 我が家に 一番 いた 時に 28 人[が] いたの。(H:おう) (Z: はあ) |
| 105 | M | シダサ ニジューハジニン トマッ デダ ノ。(Z:ハーア) | 下に 28人 泊まっていたの。(Z: はあ) |
| 106 | M | アー, ニゲデ キデー? | ああ, 逃げて きて? |
| 107 | H | ニゲデ キテー。(H:ウー ン ウ ン) | 逃げて きて。(H:ううん うん) |
| 108 | M | イヤ, イドゴ シンセギガラ (H:ウ ン ウ ン) ゼンゼン ッシャネエ ヒトガラ (H:ウ ン ウ ン) ナニガラ ネー。 (H:ウ ン) | いや, 従兄弟 親戚から(H:うん う ん うん) 全然 知らない 人から (H:うん うん うん) 何からね。 (H:うん) |
| 109 | M | ソシテ コンメ ニル ッタッテ ミズカ ^o ネエ ガストー。(H: ウ ン) | そして 米[を] 煮る といっても 水 が ないでしょう (H:うん) |
| 110 | M | ヤマサ イッテ ヤマノ カワデ コメ トイデー,(H:ウ ン) ナ ガヤサ マギストーブ モシテー, (S:ウ ン) ツバガマデ オママ タイデー,(S:ウ ン) ソステ カ セダノ。(H:ウ ン) | 山に 行って 山の 川で 米[を] と いで,(H:うん) 長屋に 薪スト ーブ [を] 燃やして,(S:うん) 鍔釜で ご飯 [を] 炊いて,(S: うん) そして 食べさせたの。(H: うん) |
| 111 | M | ソシテネー, ツナムニ オッタデラ レデ, アキチサネ イロンナ, セ ンダイ ナンバー ダズオ ヤマガ ダ ナンバーノ クルマダ, イダ ノッス。 | そしてね, 津波に 追い立てられて 空き地にね いろんな 仙台 ナンバー だの 山形 ナンバーの 車だの [が] いたのよ。 |

| | | | |
|-----|---|---|---|
| 112 | M | <p>ヨンマン ナッテモ ソノ ヒトダ キヤーンネアガラー, (S:ウン) ナント ハラ ヘッテダベナー ド モッテ, オニギリ ツグッテッテ スー, マド トン トン {笑} ト ン トン タガデ ハラ ヘッテニ ヤノー オニギリ タベライヤー ッテ, (H:ウン) ッテ オニギ リ カセデ ス。 (H:ウン)</p> | <p>夜中に なっても その 人たち [は] 帰らないから, (S:うん) なんと も 腹[が] 減っているだろうなあ と 思って, おにぎり [を] 作ってっ ですね, [車の] 窓 [を] とん と ン {笑} とん とん [おにぎりを] 持って 「腹[は] 減っていないの お にぎり食べなさい」 って, (H:う ん) って おにぎり [を] 食べさせ ました。 (H:うん)</p> |
| 113 | M | <p>ソシテネー, イツ ショニジワ ソ レデモ イードモ, (H:ウン) マ イニジ ニジュー ナンニンノ ヒ トサ カセル ヨーデ ガスト。 (S:ウン) (H:ンダー)</p> | <p>そしてね, ×× 初日は それでも いいけれど (H:うん) 毎日 二十 何人の 人に 食べさせる のでござい ます。 (S:うん) (H:そうだ)</p> |
| 114 | M | <p>アサマ マズ カセダガラ, アー イナー ドモ ガスペ。</p> | <p>朝に とりあえず 食べさせたから, ああ いいなあ と思う でしょう。</p> |
| 115 | M | <p>アサマ カセデ, アヤ ツギ オヒ ル ナニ カセベヨー ド (H:ウ ン) オモー ノ。 (H:ウン)</p> | <p>朝に 食べさせて, ああ 次[の] お 昼 [は] 何 [を] 食べさせよう と (H:うん) 思うの。 (H:うん)</p> |
| 116 | M | <p>デ オヒルモ ナンダリ カンダリ カセツ カスト。 (H:ウン)</p> | <p>で お昼も なんだ かんた 食べさせ る でしょう。 (H:うん)</p> |
| 117 | M | <p>オヒル カセデ, アヤ ホンデ コ ンヤ ナニ カスベナー ドーモー ノ。</p> | <p>お昼 [を] 食べさせて, ああ そし て 今夜 [は] 何 [を] 食べさせよ うか と思うの。</p> |
| 118 | M | <p>ッテ マズ ナゾツタリ カゾツタ リ サンカイ カセツ カスト。</p> | <p>そして まず なんだ かんた 三回 食べさせ ますね。</p> |
| 119 | M | <p>アー サンカイ カセダガラ イー ナー ッテ オモッタ ツギノ シ ユンカン, アスノ アサー ナニ カスベヨー ッテ。 (H:ウン)</p> | <p>「ああ 三回 食べさせたから いいな あ」 と思った 次の 瞬間, 「明 日の 朝は 何 [を] 食べさせよう」 と。 (H:うん) (Z:{笑})</p> |
| 120 | M | <p>ソレ ズーット。 (S:オー)</p> | <p>それ [が] ずっと。 (S:おう)</p> |
| 121 | M | <p>ロクカ° ツ ニジュー イチニチニ ムスコフーフカ° カセツサ イク マデ (H:ウン) マイニジ ソ レ カンカ° エデダッタ。 (H:ウ ーン) (Z:へー)</p> | <p>六月 二十 一日に 息子夫婦が 仮設 に行くまで (H:うん) 毎日 そ れ [を] 考えていた。 (H:ううん) (Z:へえ)</p> |

| | | | |
|-----|---|--|---|
| 122 | M | デモネ, ソノ, センダイ ナンバ ーダノ ヤマガダ ナンバーノ ヒ トカ° イズノ コマニカ クルマ イナグ ナッテダ ノス。 (H:ウ ーン) (Z:フーン) | でもね, その, 仙台 ナンバーだの 山形 ナンバーの 人が いつの 間に か 車 [が] いなくなっていた ので す。 (H:ううん) (Z:ふうん) |
| 123 | M | ダッケネ ミダゴドモ ネェ スー ツ キタ ヒトア, キダンダ デ バ。 (H:ホー) | そうしたらね 見たことも ない スー ツ [を] 着た人が, 来たんだよ。 (H:ほう) |
| 124 | M | ゴメンクダサイ ッテ。 (H:ウン) | 「ごめんください」 って。 (H:う ん) |
| 125 | M | アヤー, ハイ, ッタレバ, アン トギー イタダイタ オニキ° リデ (H:ウン) イノチ タスカリマシ タ。 (S:ウン) | 「あらら, はい」, って 言ったら, 「あの 時 いただいた おにぎり で (H:うん) 命 [が] 助かりました。 (S:うん) |
| 126 | M | コレ スコシ デスケド, ッテ ア ノ, ショーヒンケンナド ミナ モ ッテ クン ノス。 (H:ウン) | これ 少し ですけど」, って あの 商品券など [を] みんな [が] 持っ て 来るの です。 (H:うん) |
| 127 | M | オラ ソンナ ツモリデ ヤッタン デ ニューガラ イーガラ ッテ ユッテモー, キモチ ダガラ トッ テデ クダサイ ッテ。 (H:フー ーン) (Z:ハーア) | 「私 [は] そんな つもりで やった ので [は] ないから」 って言っても, 「気持ち だから 取っておいて くだ さい」 って。 (H:ふうん) (Z: はあ) |
| 128 | M | ホンットヌエ, オラ スー, ショ ーワ サンジュー コ° ネンノ ツ ナミーモ, (H:ウン) コンドノ ツナミーモ, イエノ ニワガラ ミ デダ ノ。 (H:アーソー) | 本当にね, 私 ですね, 昭和 三十 五年の 津波も, (H:うん) 今度 の 津波も, 家の 庭から 見ていた の。 (H:ああ そう) |
| 129 | M | ショーワ サンジュー コ° ネンド キ ショーカ° ッコー ダッタ ヨ。 (H:ウーン) | 昭和 三十 五年 [の] 時 小学校 だ った よ。 (H:ううん) |
| 130 | M | ナンネンセー ットユーバ ユタサ ン トシ ワガッ トモー。 (H: ウン) (S:オー) | 何年生と 言えば 勇太さん [は] 年 [が] 分かると思ふ。 (H:うん) (S:おお) |
| 131 | M | マズ イー トシ ナンダ。 (S: ウン) | まあ いい 歳 なんだ。 (S:うん) |
| 132 | M | フン ドギモー, アノー, {笑} バーサンカ° チリジシンツナミノ ドギア ニワサ ゴザ シーデ ケ | その 時も, あの, {笑} お婆さ んが チリ地震津波の 時は 庭に ご ざ [を] 敷いて くれてですね, そ |

| | | | |
|-----|---|--|--|
| | | デスー, ソステ オーフナドカ° ナカ°レルノ ミデ ダッタ ノ。 | して 大船渡が 流れるの [を] 見て いた の。 |
| 133 | M | デ コンドモ, オンナジ バシヨガ ラ ミデダ ノ。 | それで 今度も, 同じ 場所から 見 ていたの。 |
| 134 | M | ウン, ナンダガ タガグテ メー ットゴ ダガラ ヨ。 | うん, 何だか 高くて 見える とこ ろ だからね。 |
| 135 | S | オンダ。 | そうだ。 |
| 136 | M | ンダガラネー, インマス ナンニモ サエギルモノ ネア ガスト。 (H:ウーン) | そうだからね, 今ですね 何にも 遮 る物 [が] ないでしょう。(H:う うん) |
| 137 | M | オーフナドノ シンコ°ーカ° ア ガニ カウッタモ アオニ カウッ タモ ミンナー メールヨニ ナッ タ ノ。 | 大船渡の 信号が 赤に 変わったも 青に 変わったも みんな 見えるよう になった の。 |
| 138 | M | オアーーー, ホンダベナーー 。 | おお, そうだろうなあ。 |
| 139 | H | ナンニモ ニヤア ガラ ス, (H:ハーア ンダナーー) サイ ナンニモ ナグナッタ ガラ。 | なんにも ない から ね, (H:は あ そうだなあ) ×× なんにも な くなった から。 |
| 140 | M | ゼーンブ ミドーシ ヨグナッタ ガスト。(H:ウーン) | 全部 見通し [が] 良くなった ので すよ。(H:ううん) |
| 141 | M | ダッテ オラエデ ゴカ°, ユーダ サン ソーダ ガスペー。 | だって 我が家で ××, 勇太さん そう でしょう。 |
| 142 | M | デンキ キタノ ゴカ° ツノ ジュ ー シチダ ヨー。 | 電気 [が] 来たの [は] 五月の 十 七 [日] だ よー。 |
| 143 | M | ミンナ サガリ アダリノ ヒトダ (H:ンダ) フツカダ (H:ホン ダー) ミッカダッテ ユー ドモ スー。 | みんな 盛 あたりの 人たち [は] (H:そうだ, そうだ) 二日だ (H: そうだー) 三日だと いう けれども ですね。 |
| 144 | M | オラホワ, コゴワ ニシューカン サー。 | 我が家は, ここは 二週間さ。 |
| 145 | H | オラホワ ゴカ° ツノ ジュー シ チナンダガラ。(H:ウン, ウン, ウーン) | 我が家は 五月の 十 七 [日] なんだ から。(H:うん, うん, ううん) |
| 146 | M | ソンナ オソガタンダー。 | そんな [に] 遅かったんだあ。 |
| 147 | H | オラホノ, オラホノ コーミンカン オーフナド シナイデ, イジバン サギニ デンキ° ツゲダ。 | 我が家の, 我が家の 公民館 [は] 大 船渡 市内で, 一番 先に 電気 [を] つけた。 |

| | | | |
|-----|---|---|---|
| 148 | S | ンダガラ スペ アツツノ ヤマガ ラ ヒッパッテ キテ ネー↑。 | だから でしょう あっちの 山から 引っ張って 来てね。 |
| 149 | M | ソノ トーホク デンリョグノ デ ンキデ ナクテ ハツデンキ サ。 (M:アー) (H:ホー) | その 東北 電力の 電気で[は] な くて 発電機さ。(M:ああ) (H: ほう) |
| 150 | S | ×ソノー ノジノイデ シュッシン ノ, リース ヤッテル カンダ サ ンキ° ョー。 | ×その いちのいで[地名と思われる] 出身の, リース[を]やっている 神 田 産業。 |
| 151 | S | アー, カンダ サンキ° ョー ネ。 (S:ウン ウン) | ああ, 神田 産業ね。(S:うん う ん) |
| 152 | M | カンダサンカ° サー (M:ウン) モッテ キテサー, (H:ウーン) ハズデンキ。 | 神田さんが さ, (M:うん) 持つ て 来てさ, (H:ううん) 発電機 [を]。 |
| 153 | S | ソシデ, ソレデ ハズデン シテ ー, コーミンカンデ ジューデン スル トーホク デンリョグノ デ ンセンオ ヌイデ, ハイデンバンサ ハズデンキガラ, アノ, (M:ウ ン) ハイデン シテサ, (H:フ ーン) ソイデ デンキカ° マド ツ カエルヨニ ナッタンダ。(M:ウ ン) | そして, それで 発電 して, 公民 館で 充電 する 東北 電力の 電線 を 抜いて, 配電盤に 発電機から, あの, (M:うん) 発電 してさ (H:ふうん) そして 電気釜と 使 えるように なったんだ。(M:うん) |
| 154 | S | イジバン ハヤガッタン。 | 一番 早かったんだ。 |
| 155 | S | × イヤ カンダサン ニワ (S:ウン) オライモサーア (S: ウン) ダイゲ タスケラエダノ。 (S:ウン) (M:ウーン) | × いや 神田さん には (S:うん) 我が家もね (S:うん) だいぶ 助 けられたの。(S:うん) |
| 156 | H | ア, ツナミノ アドサー, トニガグ ナニモ ナガスト。 | あ, 津波の 後ね, とにかく 何に も なかったでしょう。 |
| 157 | H | デンキア ネーシ, ミズアネーシサ ア, (M:ウーン) ソイデー ク イモ ナニモ ネーワゲダー。 (M:ソルダー) | 電気は ないし, 水はないしね, (M:ううん) それで 食べる物も 何 も ないわけだ。(M:そうだ) |
| 158 | H | デ, カンジャサンワ クルベシサ ー, (M:ウーン) オラエワ ユ ガウエシンスイダバー。(M:ウン) | それで, 患者さんは 来るしね, (M:ううん) 我が家は 床上浸水で しょう。 |

| | | | |
|-----|---|---|---|
| 159 | H | イエンナカデ タフミ シタンダ, オラホサー。 (HSM: {笑}) | 家の中で 田踏み [を] [家の中なのに 床上浸水で田を歩いているようだった, ということか?] したんだ, うちでさ。 (HSM: {笑}) |
| 160 | H | ンデー, サンムクテ (M: ウーン) サンムクテ (M: サンムガッタネー) フルエ フルエ ヤッテエッチャ。 | それで, 寒くて (M: ううん) 寒くて (M: 寒かったねー) 震え 震え やっているでしょ。 |
| 161 | H | ソイデ ウスグレアー ドゴデナ (M: ウーン) × ペンダッテサー ×× アダリメーニ モダレネー ンダオン。 | そして 薄暗い 所でな (M: ううん) × ペンだって ×× 当り前に (=ちゃんと) 持つことができない んだよ。 |
| 162 | H | コレゾ ギジド (S: ウーン) ボッゲ モズヨーニ ステ, ソシテ アサガラ バンマデ ガダガダ ガダガダ ガダガダ フルエ フルエ サー, ウンドーブソグニ ナンネガッタナー。 | こんな風に しっかりと (S: ううん) 棒 [を] 持つように して, そして 朝から 晩まで がたがた がたがた がたがた 震え 震えてね, 運動不足に [は] ならなかったなあ。 |
| 163 | H | ンダガラ ウン。 {笑} (S: ウン ウン ウン) | だから もう。 {笑} (S: うん うん うん) |
| 164 | H | ウン ソシテ フルエ フルエ ヤッテダベ。 | うん そして 震え 震え やったでしょう。 |
| 165 | H | ソシテ ネー, アレネー, ツナソミガラ トーガグレーシター トギダッタ ベガネー, カンダサンガ キタンダヨ。 (M: ハー) | そして ね, あれね。 津波から 十日位した 時だった かなあ, 神田さんが 来たんだよ。 (M: はー) |
| 166 | H | ウン, ケズアズ ×× ×× ハガリサ キタンダヨ。 (S: ウーン) (M: ウン) | うん, 血圧 [を] ×× ×× 測りに 来たんだよ。 (S: ううん) (M: うん) |
| 167 | H | ソシテ コノー ソノ ×× スカゲ ミデサー, (M: ウーン) イヤー センセー コンデワ ダメダ ヅツッテサー, ソシテ マッテラッセンヨー ヅッテイッテネー, × フットンデ イッテサー。 | そして この その ×× 仕掛け [を] 見てね, (M: うん) 「いや 先生 これでは 駄目だ」 って言ってね, そして 「待っていて下さいね」 って言ってね, × 飛んで行ってね。 |
| 168 | H | ソシテネ, ×× ドッガラガガーマー ワレーガラ モッテ キダンダベドモ ナニモ カニモ オーギ | そしてね, ×× どこかからか まあ 自分の所から 持って 来たのだろうけれど 何もかも 大きな 大きな ディ |

| | | | |
|-----|---|---|--|
| | | ナ オーギナ ディーゼルハズデン ノ キカイ (S:ウン) (M:ウ ン) モッテ キテサー, オラエノ ー アノー イリグジ ッドサー ソエ スェズゲデ ボンボン ボン ボン ボンボン マーシテネー, ソシ テ アレー アノー ウー × コ ージゲンバデ ツカウ オーギナ ボンボリ ミデーナ (M:アア ア ア) (S:ウン) アノー (S: ウン) デンキ アッグスト。 (M: デンキネ アルッケネ) | ーゼル発電の 機械 [を] (S:うん) (M:うん) 持って 来てね, うち の病院の あの 入り口[の] 所に そ れ [を] 据え付けて ぼんぼん ぼん ぼん ぼんぼん 回してね, そして あれ あの × × 工事現場で 使う 大きな ぼんぼり みたいな (M:あ あ ああ) (S:うん) あの (S: うん) 電気 [が] あるでしょう。 (M:電気ね あるよね) |
| 169 | | アレーー ナガサ スェズエゲデサー, (M:ウーン) アレデ マズ ナナーボ (S:ホダネー) タスガ ッタガ。 | あれ [を] 中に 据え付けてね, (M: ううん) あれで まず どんなにか (S:そうだねえ) 助かったか。 |
| 170 | H | ***ー。 (S:ウーン) | ***ー。 (S:ううん) |
| 171 | H | フーットニ アノ ヒトニア セ ワニ ナッター。 | ほんとに あの 人には 世話に なっ た。 |
| 172 | H | ダッテ コンド ソレダッタ ッテ ガソリンダガスト, (H:ウーン) ナラバネバ カデネガッタガス, ** * サムイトゴ。 | そして 今度 それだって いったって ガソリンでしょう, (H:ううん) 並 ばないと 買えなかったでしょう, 寒 い所 [で]。 |
| 173 | M | アレー ガソリンデ ネンダ, ディー ゼル ダガラー。 | あれ ガソリンでは ないんだ, ディ ーゼルだから。 |
| 174 | H | アー, ソー ランマ... | ああ, そう// ... |
| 175 | M | ケーユデ ナガッタ? (H:ウン) (M:アー, ソー) | 軽油で なかった? (H:うん) (M: ああ, そう) |
| 176 | S | ウン, ケーユ。 | うん, 軽油。 |
| 177 | H | オラホノ ハズデンキ。アー ケー ユサー。 (H:ウン。ケーユ) | うちの 発電機は 軽油さ。 (H:う ん。軽油) |
| 178 | S | ケーユガ ネーンダヨー, コンダ ー。 | 軽油が ないんだよ, 今度は。 |
| 179 | S | テーニ ハイネノサー。 (M:ウ ンダー **) (H:ウン) (M: アーブラー ナガッタン...) | 手に 入らないのさ。 (M:そうだ * *) (H:うん) (M:油 なかつ た * ...) |
| 180 | S | ナーズニ シタガッチュードサー, アノー, シズノ***** (M:ア | どういう風に したかと言うとね, あ のー, しずの***** (M:はあ) |

| | | | |
|-----|---|---|---|
| | | ーハー) (H:ウン) ケーヨサン ガナア, (M:ケーヨサンドゴネ) ノジノイサ ヒナンシテ キダンダ ヨ, イモートン ドゴサー。 (M: ア ハア ハア ハア ハア) (H:フーン) | (H:うん) けいよさんがね のじの い〔地名か地方名, 場所か?〕に 非難 して 来たんだよ, 妹の所に。 (M: あ はあ はあ はあ はあ) (H: ふうん) |
| 181 | S | ホッデ ケーユワ オラエニ アッ ガラ ヅズンダ。 (H:ウン ウン ウン) | そして 軽油は うちに あるから っ て言うんだ。 (H:うん うん うん) |
| 182 | S | ドコニ アル ッタツケ フネニ アルッ ズウダ。 (H:ウーン) | どこに ある [の]? と言ったら 船 に ある って言うんだ。 (M:うう ん) |
| 183 | S | ソノ フネエァ ツナミ ボーハテ ー ニゲキッタンダヨ。 (M:ウー ン ウン) (H:ハア) | その 船 [は] 津波 [を] 防波堤 [か ら] 逃げ切ったんだよ。 (M:うう ん うん) (H:はあ) |
| 184 | S | ツナミンドギ。 (H:ハア) | 津波の時。 (H:はあ) |
| 185 | S | アー, オギサ ニケ° ダンダ。 | ああ, 沖に 逃げたんだ。 |
| 186 | H | オギサ ニケ° ダノ。 (H:ウーン ウン ウン ウン) | 沖に 逃げたの。 (H:ううん うん うん うん) |
| 187 | S | ソノ イッソーダゲ。 (M:ウン) (H:フーン) | その 一艘だけ。 (M:うん) (H: ふうん) |
| 188 | S | ソシテ, ケーユワ ナンボデモ ア ツカラ, (H:ウン) ワゲーモノ × ア ツェデキテー フネガラ ヌイデキテ クレダンダ。 (H:ウ ン ウン) | そして, 軽油は いくらでも あるか ら, (H:うん) 若い者 × あ 連 れて来て 船から 抜いて来て くれた んだ。 (H:うん) |
| 189 | S | ソイデ タスカッテサー。 (H:ウ ーン) (M:フーン) | それで 助かってさ。 (H:ううん) (M:ふうん) |
| 190 | S | ホッデ ソノー × ノジニーワ ** イッペー モッデダツツサー ヨクタカリダド オモワレツガラー {笑} アノー チョーソーセンター (H:ウン) ホンケホンモドデ (M:ウン) イッペー アズマーッ ガラサー, (H:ウーン ウーン) ソゴサ ワゲデヤッター, (H: アー) ソエガラ ショーボーシャド モー (H:アー) ノゴッタ ショ | そして その × 後には ×× 一杯 持っていたって 欲ばりだと思われ るから {笑} あの 町総センター (H: うん) 本家本元で (M:うん) い っぱい 集まって来るからね, (H: ううん ううん) そこに 分けてやっ たり, (H:ああ) それから 消防 車なども (H:ああ) 残った 消防 車なども 軽油でしょう。 (H:ううん, うん うん) |

| | | | |
|-----|---|---|--|
| | | ーボーシャドモ ケーユダベー。 (H:ウーン, ウン ウン) | |
| 191 | S | ゼンブ ワゲデ ヤッタノサ。 (H:ウーン) (M:ウーン) | 全部 分けて やったのさ。(H:う うん) (M:ううん) |
| 192 | S | ソイデ ソノー ンマー ニダギノ ハナシア デダドモサー。 | そして その まあ 煮炊きの 話が 出たけれどもさ。 |
| 193 | S | マズ ミズア ネーベ。(M:ウーン ン) | まず 水[が] ないでしょう。(M: ううん) |
| 194 | S | ホッデモ アンダジダノサー (M: ウン) ノジノイニワ チイサイ サ ワザワガ アッテー, (M:ソーソ ー カワッコ アッター) (H:ウ ン ウン ウン) ツネヒゴロ ツガ イミジニ シデルワゲダー。(M: ウーン) | それでも あなた達のさ (M:うん) のじのい [地名, 地方名, 場所と思われ る] には 小さい 沢沢が あって, (M:そうそう 川 あった) (H: うん うん うん) 常日頃 使い道に しているわけだ。(M:ううん) |
| 195 | S | クルマ ノッターリナ, (H:ウーン) (M:ソー ソー ソー ソー) ム ガシワ ワンコダノ チャワン ア ラッデダモンダダヨ。(H:ウン) (M:ウン) | 車 [に] のったりな, (H:ううん) (M:そう そう そう そう) 昔は 椀やら 茶碗 [を] 洗っていたものだ よ。(H:うん) (M:うん) |
| 196 | S | × ソノミズア ゴカショ アッタ ンダヨ。(H:ウーン) | × その水は 五か所 [が] あったん だよ。(H:ううん) |
| 197 | S | ソノ ミズデ タスケラレダノサ。 (H:アー) (M:ウーン) | その 水で 助けられたのさ。(H: ああ) (M:ううん) |
| 198 | S | ンダガラ シタメノ ヒトアドゴ ミズア ネーガラ ミンナ アガッ テキテ ギョーレツソナ ワゲダ。 (M:ソソソソソ ソーダ ソーダー ネー) | それだから しため [地名, 地方名, 場 所と思われる] の 人の所 [は] 水が ないから みんな 上がって来て 行列 に [なっている] わけだ。(M:そ そう そう そう そう そうだねえ) |
| 199 | S | × サイショワサー アノー ナゲ ミズサ コンナ × チューブデサ, (M:ウン) × アノ カツジュン ユノ ホーガラ × カワガラ ア ノー タサ ミズ ヒッパッデダベ ー。(H:ウーン ウン) | × 最初はね あの 長い水に こんな × チューブでね, (M:うん) あ の カツジュンユ [場所と思われる] の 方から × 川から あの 田に 水 [を] 引っ張っていたでしょう。 (H:うん) |
| 200 | S | アノミズ コーミンカンドゴデサー アノー アノ パイプササー × ロープデ グルグルマギニ シテタ | あの水[が] 公民館の所でね あの あ の パイプにね × ロープで ぐるぐ る巻きに していたんだよな。 |

| | | | |
|-----|---|--|--|
| | | ンダヨナ。 | |
| 201 | S | コレナンダモンダ ド オモッタノ サー。 | これ何だろう って 思ったのさ。 |
| 202 | S | × コレア × ムッタドゴ トメ テンダナ, ド モッタノサー。 (H:ウーン) (M:ウーン) | × これは ×漏った所 [を] 止めて いるんだな, と 思ったのさ。(H: ううん) (M:ううん) |
| 203 | S | ハズシテ ミダツケア ソツガラ ミズア ムツテクルワゲダー。 (H:ウーン) (M:ウーン) | 外して 見たら そこから 水が 漏っ てくるわけだ。(H:ううん) (M: ううん) |
| 204 | S | ダレガ クサガリデ ヒツカゲダ ラシインダナ。(M:アー アー ア ー) (H:{笑}) | 誰かが 草刈で 引っかけたらしいんだ よ。(M:ああ ああ ああ) (H: {笑}) |
| 205 | S | ア, コノミズア エード モツテサ ー, (M:ウン) (H:ウン) {笑} × コノミズデエ (H:ウン) ア ノー ×× マズ × ソノ ×× ノムノ イー ッチュー ワゲダガ ラサー (H:ウン) ノンダリサー, (H:ウン) ハーミガイダリ, チャ ワン アラッター シデダワケダ。 (H:アー) | × この水は いいと 思ってさ, (H:うん) {笑} × この水で (H:うん) あの ×× まず × そ の ×× 飲むの [に] いい という わけだからね (H:うん) 飲んだり ね, (H:うん) 歯 [を] 磨いたり, 茶碗 [を] 洗ったり していたわけだ。 (H:ああ) |
| 206 | S | ホッデ, アルドギ モドガ オガシ グナツテ イッコー イギオイガ ナグナツテ, (H:ウン) ミサ イ ツタツケアサー (H:ウン) セン タグミズダ ナガレデデ カワガラ ヒッパツテダ ワゲダー。(SH M:{笑}) | それで, ある時 元が 変になって 一 向 [に] 勢いが なくなって, (H: うん) 見に行ったらね (H:うん) 洗濯水が 流れていて 川から 引っ張 っていた わけだ。(SHM:{笑}) |
| 207 | S | × ソレ ノンデダワゲダ。(H: ヤーバツ) (SHM:{笑}) | × それ [を] 飲んでたわけだ。(H: 汚らしい) (SHM:{笑}) |
| 208 | S | オラエデモネー オダイグサマガラ ー (S:ウン) コンナノデ ヒッ パツデダッタノ。(H:ハー) (S: ウン) | 我が家でもね オダイク様から (S: うん) こんなので 引っ張っていたの。 (H:はあ) (S:うん) |
| 209 | M | ンダドモ クレニー (H:ウン) カ ンパデー (H:ウン) ホラ アノ ツジノウエ ヒッパツデダガラー (H:ウン ウン) コーッデ シマ | だけれども 暮れに (H:うん) 寒 波で (H:うん) ほら あの 土の 上 [を] 引っ張っていたから (H: うん うん) 凍ってしまったの。(H: |

| | | | |
|-----|---|--|--|
| | | ッタノ。（H：アア，シミデシマツ テナー） | ああ，凍ってしまったな） |
| 210 | M | ダーメダ コレア ハルサキマデ ダメダッデ ダッダドモ，ウン トッ テモ ヤスヤナクテ（H：ウン）ア ドァ ホレ モーター カリデキテ （H：ウン）ホンデ ホレ ミズト オシタノ，ミズバリ トオシタノ。 | だめだ これは 春先きまで 駄目だっ て 言っていたけれども，うん とても 我慢できなくて（H：うん）後は ほ ら モーター[を] 借りてきて（H： うん）そして ほら 水[を] 通し たの，水だけ 通したの。 |
| 211 | M | ア，ウン，ダガ アノ ミズワ タガラ ミズダヨー。 | あ，うん，だから あの水は 宝 水 だよ。 |
| 212 | S | ウン，（S：ナー）ンダー，ア ノミズネ。 | うん，（S：なあ） そうだ，あの 水ね。 |
| 213 | M | オラーサー ミズワサー スグソゴ ア スイドーヤダベ。 （M：アー アー アー ホンダー，ミズ** *） | 私はね 水はね すぐそこが 水道屋で しょう。（M：ああ ああ ああ ほ んとうに 水***） |
| 214 | H | アー ダーガラ タスカッタノサー。 （M：ウン）（S：**ネー） | ああ だから 助かったのさ。（M： うん）（S：**ねえ） |
| 215 | H | アレー アー，アノ ミズノサ ンガサー，アレー アノー ジカハ ズデンキ モッデデナ（M：ハー） ソステー ポンプデ スイアゲンダ ヨ。 | あれ ××× あの 水野さんがね， あれ あの 自家発電機[を] 持って いてね（M：はー）そして ポンプ で 吸い上げたんだよ。 |
| 216 | H | ダァ ミズ ナンーボデモモラッタ …。 | だから 水[は] いくらでももらった …。 |
| 217 | H | コゴアー チカスイガ ホーフダガ ラ。 | ここは 地下水が 豊富だから。 |
| 218 | S | ソーソーソー，（M：ウーン）カ ワノウエサ タッテルヨーナ モン ダガラネ。（S：ウーン ウン ウ ン） | そうそうそう，（M：ううん）川の 上に 建っているような ものだから ね。（S：ううん うん うん） |
| 219 | H | ミズワ マズ イガッタネー。 （S：ウン）（M：ウン ウン ウ ン） | 水は まず 良かったね。（S：うん） （M：うん うん うん） |
| 220 | H | ソシテ フノー デンキャ トール ヨーニ ナッタガ フロァ ネーベ ー。（M：ウーン）（H：ウーン） | そして その 電気が 通るようにな ったが 風呂がないでしょう。（H： ううん）（M：ううん） |
| 221 | S | ダフクモ カンゲダヤ ヤッパリ | ////// // // // // ** |

| | | | |
|-----|---|--|---|
| | | ** ... | ... |
| 222 | S | ンデモ ノチノチ コーミンカンデ ハヤグ ミンナ フロサ ハイッタ ッタンデネーノ。 | それでも 後々 公民館で 早く みんな 風呂に 入ったんじゃないの。 |
| 223 | M | ソー, オレワ ミッカメニ フロ タデタドー。 | そう, 私は 三日目に 風呂[を] 炊 いたよ。 |
| 224 | S | ソダズオネー, (H:ア, ソー) (S:オー) ソーナンダッテ。 | そうだってねえ, (H:ああ, そう) (S:おう) そうなんだって。 |
| 225 | M | オラ ニシューガン ヘーンネガッ ター。(SHM:{笑}) | 私は 二週間 入らなかった。(SHM: {笑}) |
| 226 | H | カンソーハダ ナオッテヤッタネ。 | 乾燥肌[が] 治っていたよね。 |
| 227 | S | ンダガラー。 | だから。 |
| 228 | H | ウー, デサー, ロージンセーカン ソーハダニ ナッテサー, (HS M:{笑}) アッチコッチ カクテ カクテ モリモリ モリモリ ステ サー, イッコー (M:ウン) ワ ーネガッタノー。 | × それでね, 老人性乾燥肌になっ てね, (SHM:{笑}) あっちこ っち 痒くて 痒くて もりもり もり もり してね, 一向[に] (M:う ん) 良くなかったの。 |
| 229 | H | ニシューカン タッテサー, (M: ウン ウン ウン) ソステー ハタ ガンナッダノア ヤットー × ユミ ズ ツカエルヨーニ ナッテサー, ソシタレバサー, (M:{笑}) コ ノアダリサ イッペー デデダ, カ ンソーセーシッシンガナ, (S:ウ ーン) モ, ベラリ ナオッテダン ダ。(M:アーン) (S:ハハハ) (M:オラー オッシー…) | 二週間 経ってね, (M:うん うん うん) そして 裸になったのは やっ と × 湯水[を] 使えるように な ってね, そうしたらね, この辺りに いっぱい 出ていた[の], 乾燥性湿 疹がな, (S:ううん) もう すっ かり 治っていたんだ。{笑} (M: ああん) (S:ははは) (M:私は ///…) |
| 230 | H | アガド アブラデ。 {笑} | 垢と 脂で。 {笑} |
| 231 | H | タッコノ ムスコノ トモダジンノ ドコサー, × オフロ モライサ イッタノ。 | 立根[たっこん=地名]の 息子の 友 達の 所に, × お風呂[を] もらい に[入りに] 行ったの。 |
| 232 | M | ソシテ ンダッテー ドソモッテー, アノー ヒトバン ヘアイリサ イ グンダドモー, ゴセーエン モッテ オイデキタノス。(H:ウーン) | そして 「そうだけれど」とそう思っ て, あの 一晚 入りに 行くんだけ れど, 五千円[を] 持って[行って] 置いてきました。(H:ううん) |
| 233 | M | ダッキヤー, アノー オカネ モッ テキテ ハイリサ キタノ シノブ | そうしたら, あの 「お金[を] 持 って来て 入りに 来たの[は] しの |

| | | | |
|-----|---|---|--|
| | | クノ カーサンダケ ダッテ エ ツタッテ。(H:オー) | ぶ君の 母さんだけ だ」って 言った って。(H:おお) |
| 234 | M | ソノツギ ガスダイガー (H:ウン) ハチマン トラエダッテ。(H:ウ ン) (Z:ハー) (H:フーン) | その次 ガス代が (H:うん) 八万 [円] かかったって。(H:うん) (Z:はあ) (H:ふうん) |
| 235 | M | ミンナ フロ モライサキテー ハ チマン トラエダットエ。(H:ウ ーン) | 皆 [が] 風呂 [を] もらい [入り] に来て 八万 [円] かかったって。 (H:ううん) |
| 236 | M | × オカネ モッテキタノア シノ ブケンノ カーサンバリ ダッタ ッテー。 {笑} (H:ウーン) | × お金 [を] 持って来たのは しの ぶ君の お母さんだけ だったって。 {笑} (H:ううん) |
| 237 | M | オラホデ ナジョニ フロ コセー ダガッテ ユードサー。(H:ウン) | うちで どうやって 風呂 [を] 作っ たかって 言うかね。(H:うん) |
| 238 | S | ドラムカン。 | ドラム缶。 |
| 239 | M | アノー, イマー ノンノズヒト ア ソゴサ イタンデア。(M:アー ハイ ハイ ハイ ハイ) | あの, 今 ノンノという人 あそこに いたんだ。(M:ああ はい はい は い はい) |
| 240 | S | アンノー ハダゲッコニサー, コン ナノ オーギナ タンクガ ミツ アッタンダヨ, ヨゴン ナッテー。 | あの 畑にね, こんなの 大きな タン クが三つ あったんだよ, 横になっ て。 |
| 241 | S | ナンノタンク? | 何のタンク? |
| 242 | H | ホーロービギノサー, (H:ホー) アレー サゲガイシャデ ツガッタ モノ ナンダド, アリヤー。(H: ハー) (M:ウーン) | ホーローびきのね, (H:ほう) あ れ 酒会社で 使った物 なんだって, あれは。(H:はあ) (M:ううん) |
| 243 | S | セーケズナ タンクナ ワゲダー。 (H:ハア) (M:ウーン) | 清潔な タンクな わけだ。(H:はあ) (M:ううん) |
| 244 | S | ホッデ ×× タカ° サ コノッグ レー アンダナー。(H:ハウ) | そして ×× 高さ [が] このくらい あるんだよな。(H:ほう) |
| 245 | S | ソレー フロニ スッカラッテ × × カシテケロ ッタッケー (H: ウン) イヨアス イヨアス ッテサ ー。 | それ [を] 「風呂に するから ×× 貸して下さい」 って言ったら (H: うん) 「いいですよ いいですよ」 っ て言ってさ。 |
| 246 | S | ホッデ ホノー マダイデ ヘーン ネ テーヘンダガラ (H: {笑}) タガクテー (H: {笑}) (Z: ハー) | そして その 跨いで 入るの [が] 大 変だから 高くて。(H: {笑}) (Z: はあ) |
| 247 | S | アノ ジーメンノ ケイシャチオ | あの 地面の 傾斜地を 利用してね, |

| | | | |
|-----|---|---|--|
| | | リョーシテサー, (H:ウン ウン) ソノ ケイシャチ ホツテェ (H:ウン) ソシテ。 | (H:うん うん) その 傾斜地 [を] 掘って (H:うん) そして。 |
| 248 | S | ソゴサ ハメタンダー。 | そこに はめたんだ。 |
| 249 | H | コノ ×× コノ タンクオ シズメデサー, (H:ウーン ウン) シズメデー コッチノ オーガノ ホーガラ コー ハイルヨーニ シタノサ。 (H:ウーン ウン) (M:ウン) | この ×× この タンクを 沈めてね, (H:ううん うん) 沈めて こっちの × 丘の 方から こう 入るように したのさ。 (H:ううん うん) (M:うん) |
| 250 | S | コジジガラ ハイルヨーニ。 (H:ウン) (M:ウン) | こっちから 入るように。 (H:うん) (M:うん) |
| 251 | S | デ, シタノ ホーワー ホッター (H:ウン) ソノー (H:タキグジ) イシガギ クンデ タキグジニシテ (H:ウン ウン) ソノ イシガギサ ノッケデー (H:ウン) ソシテ アレナンダ, アノ ネンリョーワ ソノ ガレギ ヒロツテキテ チェーンソーデ (M:ウン) キツテサー (H:ウン) ナンボデモ アダガラ ガレギガー。 (HSM {笑}) (M:ソーダネー) (H:ホーナンダー) (HSM {笑}) | そして, 下の 方は 掘って (H:うん) その (H:焚き口) 石垣 [を] 組んで 焚き口にして (H:うん うん) その 石垣に 乗せて (H:うん) そして あれなんだ, あの 燃料は その 瓦礫 [を] 拾って来て チェーンソーで 切ってね (H:うん) いくらでも あるんだから 瓦礫が。 (HSM {笑}) (M:そうだねえ) (H:そうなんだ) (HSM {笑}) |
| 252 | S | ホンデ コンダー ミズア サッキノー (H:ウーン) ホースガラ モツテダヤズ, (H:アー) (M:ウン) ピッピ ピッピ モツテダワゲダー。 (H:ウン) | そして こんどは 水は さっきの (H:うん) ホースから 漏っていたの (H:ああ) (M:うん) ぴっぴ ぴっぴ 漏っていたわけだ。 (H:うん) |
| 253 | S | ナジョニ カンガエダガ ッチュードサー, コノ ホースオ モツツアゲデヨー (H:ウン) ソノ フロノ ヨクソーノ ヘリー イジョーヨリ レベル タガグステサー (H:ウン ウン) ソノ モツテル ウエサノダッテ モツテルノー ナジョニ ミズオ オサエダガ ッチュートー, ペットボトルオ キリキ | どういう風に 考えたか って言うとね, この ホースを 持ち上げてね (H:うん) その 風呂の 浴槽の 縁以上より レベル [を] 高くしてね (H:うんうん) その 漏っている 上に // 漏っているの [を] どうやって 水を 押さえたかっ ていうと, ペットボトルを 切り刻んでね (H:うん) その パイプに ピュッ |

| | | | |
|-----|---|--|---|
| | | ザンデサー (H:ウン) ソノ パ イプサ ピュット ハメゴンデサー (H:ウン) ホッデ ペットボトル クジアンベ。 (H:ウン) | と 嵌め込んでね (H:うん) そし て ペットボトルの 口 [が] あるで しょう。 (H:うん) |
| 254 | S | ソノ クジガラ ガレギガラ アン マドイ ヒロツテキテァー。 (H: ウン) | その 口から 瓦礫から 雨樋 [を] 拾 って来てな。 (H:うん) |
| 255 | S | アマドイー ツタワッテ コノー ヨクソーサ (H: {笑} ナルホド ー。) {笑} | 雨樋 [を] 伝わって この浴槽に (H: {笑} なるほど) {笑} |
| 256 | S | ソシテサ, ソレ アンマドイモー (H:ウン) アノー ノギサ オジ デグル アマドイガ アンベ。 (H:ウン) | そしてね, それ 雨樋も (H:うん) あの 軒に 落ちて来る 雨樋が ある でしょう。 (H:うん) |
| 257 | S | アノ コノ ヨゴノ アマドイニ アナ アイデッチャー。 (M:ウン) | あの この 横の 雨樋に 穴 [が] 開 いているでしょう。 (M:うん) |
| 258 | S | シタサ コー オロスタメニ。 (M:ハァー) | 下に こう 下ろすために。 (M:は ぁ) |
| 259 | S | アノアナオ リョーシタノヨ。 (H: ウン) | あの穴を 利用したのよ。 (H:うん) |
| 260 | S | フロニ ハイッテデー ヌルイ ト ギワー (Z:ハー ハー) イイ? (M:ウーン) コノ ソノ アマド イ オシテヤレバ ソノ アナガラ ミズ オジデッガラー (H:ウン) (M:ウン) アノー ウ×× コネ ワゲダー, (M:ウン) ミズガー。 (M:ウン) | 風呂に 入っていて ぬるい時は (Z:はぁ はぁ) いい? (M:う うん) この その 雨樋 [を] 押し てやれば その 穴から 水 [が] 落 ちてくるから (H:うん) (M:うん) あの う×× 来ないわけだ, (M:う ん) 水が。 (M:うん) |
| 261 | S | ホッデ アツツイ ドギァ ミズ ホシーベ。 (M:ウン) | そして 熱い 時は 水 [が] 欲しい でしょう。 (M:うん) |
| 262 | S | コノ アマドイ ヒッパルドー (M:ウン ミズ オツテクルー** *) アナガ ズレデ ミズガ デデ グル ワゲダ。 {笑} (H:ナル ホド) (M:ウーン) | この 雨樋 [を] 引っ張ると (M: うん 水 [が] 落ちて来る***) 穴 が ずれて 水が 出て来る わけだ。 {笑} (H:なるほど) (M:うう ん) |
| 263 | S | ソースット アナガラ モッダ ミ ズワ ナジョニ リョーシタガ ッ トー (H:ウン) オラエガラ モ | そうすると 穴から 漏れた 水は ど うやって 利用したか と言うと (H:うん) 我が家から 持って行っ |

| | | | |
|-----|---|--|---|
| | | ッテッター × ガギノ コロ ア ノ オラエノ ワラシガダ プール ニ シタ アノ (H:ウン) (M: ウン) ポ ポリノタンク。 (H: ウン ウン ウン) | た × 子供の 頃 あの うちの 子 供達 [が] プールに した あの (H:うん) (M:うん) × ポリ のタンク。 (H:うん うん うん) |
| 264 | S | アレ モッテッテ (H:ウン) ミ ズ タメデサー。 (H:ウン) (M: ウン) | あれ [を] 持って行って (H:うん) 水 [を] 溜めてね。 (H:うん) (M: うん) |
| 265 | S | ダガラ フタヨーニ ツカッタワゲ ダー。 (M:ウーン) | だから 二通りに 使ったわけだ。 (M:ううん) |
| 266 | S | × タメダ ミズァ ツカウ ミズ ットモ, (H:ウン) (M:ウン) アドァ フロニ ツカウ。 (H:ナ ールホドナ) | × 溜めた 水は 使う 水だけれど も, (H:うん) (M:うん) 後 は 風呂に 使う。 (H:なるほどな) |
| 267 | S | ソーイウ ヤリガタ シタノ。 | そういう やり方 [を] したの。 |
| 268 | S | ソシテー ガレギ ヒロツテサー, (H:ウン) デンチューガ イッポ ン ツタッテルワゲダ。(H:ウーン) | そして 瓦礫 [を] 拾ってきてね, (H: うん) 電柱が一本 伝わっているわけ だ。 (H:ううん) |
| 269 | S | ソレ オーギナ ハシラニシテ グ ット コノ × エダッパシノ ト ダ マワシテサ, (M:ウーン) × サイショー ロテンプロダッター イヤー ユギァ フツテクンダー。 | それ [を] 大きな 柱にして ぐっと この × 枝の端の 所に まわして ね, (M:ううん) × 最初 [は] 露天風呂だった いや 雪が 降って来 るんだ。 |
| 270 | S | エード。 | ええいっと。 |
| 271 | S | デ, サースガー イヤー ゴセー アゲッドモー × スコシ キモチ アガルグ モッテッテ × オゲノ ***アレエ, シミデサァ, デ ア ノー シミッテ アノー オシタ シミダドー。 (H:ウーン ウン) | それで, さすがに いやあ /// あるけれども × 少し 気持ち [を] 明るく 持って行って × 桶の ** *あれ, 滲みてね, そして あの 滲 みて あの 押した 染みだよ。 (H: ううん うん) |
| 272 | S | デ ノジノイリオンセンド カイデ サー (SHM: {笑}) ノジノイ リオンセンロデンプロ ド カイデ (H:ウン) ソシテ ユサ ヘアイ ルベシッテサー。 (H:ウン) (M: ウン) | それで のじのいり温泉と 書いてね (SHM: {笑}) のじのいり温泉露 天風呂 と 書いて (H:うん) そ して 湯に 入りましょってね。 (H:うん) (M:うん) |

| | | | |
|-----|---|--|---|
| 273 | S | ホッデ ホレ オドゴド オナゴノ ジカントイオ (H:ウン ウン ウ ン) コノー ワゲデサ, (H:ウ ン) (M:ウン) ソレ キギツゲ ダツケァ シタメノ ホーガラモ クンダー。 (H:アー) | そして ほら 男と 女の 時間帯を (H:うん うん うん) この 分け てね, (H:うん) (M:うん) そ れ [を] 聞きつけたら しため [地名, 地方名, 場所と思われる] の 方からも 来るんだ。 (H:ああ) |
| 274 | S | ユサ ヘーレデーッテ。 (H:ウー ン) (M:ウンダベネー) (H: ンダ ンダー) | 「湯に 入りたい」 って。 (H:うう ん) (M:そうだよねー) (H:そ うだ そうだ) |
| 275 | S | ヤイヤイ ヘーレ ヘーレッテ ナンニニモ イレダツケ ×。 (H:ウーン) (M:ウーン) | 「それぞれ 入れ 入れ」 って 何人も 入れたなあ ×。 (H:ううん) (M: ううん) |
| 276 | S | ホシテマズー × ミッカメニア フロ カグホ シタノサ。 (H:フ ーン) (M:フーン) | そしてまず × 三日目には 風呂 [を] 確保 したのさ。 (H:ふうん) (M: ふうん) |

(中略)

| 発話 番号 | 話 者 | 発言内容の文字化 | 共通語訳 |
|----------|--------|---|--|
| 408 | H | イヤー アンドギワ オレワサ チョードサー。 | いや あの時は 私はね ちょうどね。 |
| 409 | M | ハ, ドゴニイダノ? | はあ, どこにいたの? |
| 410 | H | ア, ニガイサ イダノサー。 (M:ア) (S:イヤー) | あ, 二階に いたのね。 (M:ああ) (S:いやあ) |
| 411 | H | オラエノ ニガイサ イデー (M:ウン) ソシテー アノー ホンノ アレ コーセー シデダ ノサー, アガッペン モッテサ ー。 (M:ウン) | 我が家の 二階に いて (M:うん) そ して あの 本の あれ 校正 [を] し ていたのね, 赤ペン [を] 持ってね。 (M:うん) |
| 412 | H | イマイマ ダスツズーホン。 | 今今 出すという本 [の] 。 |
| 413 | H | ソシテ ホレー, × ソシッタ ケァ カンゴフサンガサー 「ピ ビビー」 ッテ ナラスンダー。 | そして ほら, × そうしたら 看護婦 さんがね 「ピピピー」 って [呼出しを] 鳴らすんだ。 |
| 414 | H | 「ハヤグコ」 ッテ 「カンジャサ ンマッテンダン ナニヤッテン ダ」 ッテサ。 (M:ハハ) | 「早く来い」 って 「患者さん [が] 待 ってます 何やっているだ」 とね。 (M:はは) |
| 415 | H | 「ンナ クソー」ドモッターサー。 | 「この くそー」 と思ったね。 (M:ふ |

| | | | |
|-----|---|--|--|
| | | (M: フフ) | ふ) |
| 416 | H | ンデー ×× ソドノカイダン オリディッテサー × ソノー アノー イリグジサー アシカゲ ダ トタンニ ダーン ト キタ ンダヨ。 (M: ウン) | それで ×× 外の階段 [を] 降りてい ってね × その あの 入り口に 足 [を]かけた 途端に ダーン と 来た んだよ。 (M: うん) |
| 417 | H | ホンデー 「コリヤー トンデモ ネー」 ドモッテ ヘーツタレバ ホレー カンゴフワナ 「キヤー キヤー キヤー キヤー」 ッテ ナ サガンデッペー。 | そして 「これは とんでもない」 と思 って 入ったら ほら 看護婦はね 「き やあ きやあ きやあ きやあ」と 叫 んでるでしょう。 |
| 418 | H | ステ 「センセー コンピュータ コンピューター」 ッテガラサー (M: ウーン) ホレー エムア ールアイダノー (S: ウーン) レントゲンダノ アッグスト, (M: ウーン) アレー ジシン デ ブッコワレットラー オレー カマケッテ シマウンダヨナ。 (S: ウーン) (M: ウーン) | そして 「先生 コンピュータ コンピュ ータ」 って言うからね (M: ううん) ほら MRI だの (S: ううん) レン トゲンだの あるでしょう, (M: うう ん) あれ [が] 地震で 壊れたら 私 は 倒産して しまうんだよな。 (S: ううん) (M: ううん) |
| 419 | H | ンダガラナ コレー テーヘンダ ドモッテー ソノ セイギョシツ サ ハイッタレバ ナーヌガヌ ンモー アリトアラユルキカイガ オドリッコオドッテッカスト。 (M: ウーン) (S: ウーン) | それだからね 「これ [は] 大変だ」 と 思って その 制御室に 入ったら 何もかも もう ありとあらゆる機械が 踊りを踊っているんだよ。 (M: ううん) (S: うん) |
| 420 | H | × シニモノ グルイデ ソレサ トツツイデサー。 (M: {笑}) | × 死にもの 狂いで それに くっ付 いてね。 (M: {笑}) |
| 421 | H | ソシテ ユレデダンダドモネー アンドギネー ロップンカン ツ ズイダンダ。 (S: ウーン) (M: ウーン) | そして 揺れていたんだけどね あの時 ね 六分間 続いたんだ。 (S: ううん) (M: ううん) |
| 422 | H | イッシャグ グライ ユレデダン ナ。 (M: ウーン) (S: ン ダー) | 一尺 くらい 揺れていたね。 (M: う うん) (S: そうだ) |
| 423 | H | × モーノスゴガッタ。 | × ものすごかった。 |
| 424 | H | エ, デー ダンダンサー ヨッ テキテサー。 (M: ウーン) | え, それで だんだんね 酔ってきて ね。 (M: ううん) |

| | | | |
|-----|---|---|---|
| 425 | H | アレ、クルマヨイ（M：アー アアア）ド オンナジサ。 （M：ウン ウン ウン） | あれ、車酔い（M：ああ あああ）と 同じだよ。（M：うーん うん うん） |
| 426 | H | オレ ジシンデヤッタノ ハジメ デダァ。 {笑}（M：ジシン デェ…） | 私は 地震でやったの [は] 初めてだ。 {笑}（M：地震で…） |
| 427 | H | ハキケシテキタオン。（M：ウ ーン） | 吐気 [が] して来たんだよ。（M：う うん） |
| 428 | H | ウン、デ × ダンダン ゴ セグライ ユエデキテサー （M：ウン）ソイデナー ユガ ー ドンドン ドンドン ケット バシナガラナ アクティツイタン ダ。（M：ウン） | ううん、それで × だんだん 腹位 揺れてきてね（M：うん）それでね 床 [を] どんどん どんどん 蹴っ飛ばし ながらね 悪態 [を] ついたんだ。（M： うん） |
| 429 | H | × イズマデ ホノ***** イーカゲンニシロヨ コノ クサ レコンジン トガツツテサー。 （S：フン フン） | × 「いつまで ほの***** いい加 減にしろよ この くされ地震」とかと 言ってね。（S：ふん ふん） |
| 430 | H | サゲンデダッケサー ダクケーア ホレー カンゴフサンモ オレー ソナゴド カダルモンダガラ、 ケラケラッテ（M：{笑}）ワ ライナガラ ユレデルワゲダ、 ガダガダ ガダガダ ドサ。 | 叫んでいたらね そうしたら ほら 看 護婦さんも 私 [が] そんなこと [を] 言うものだから、けらけらと（M： {笑}）笑いながら 揺れているわけだ、 がだだだ だだだだ とね。 |
| 431 | H | ソーシデルウジニ デンキワケル ベシー（M：ソーダネー）ホ レ ツナミワ クルッテ サガブ ベシサー。 | そうしているうちに 電気は消えるし （M：そうだね）ほら 津波は 来るっ て 叫ぶしね。 |
| 432 | H | ×× ソンデー ミソナー ホレ、 × マジアイシズニ イダナド ミンナ ボンド ダシテサー ハ ヤグ ニゲロッテ、ハヤグニゲロ ッテ サー。 | ×× それで みんな ほら、待合室に いた// みんな「ぼん」と出してね 「早く逃げろ」って、「早く逃げろ」 って ね。 |
| 433 | H | ソシタッキヤー × アノ スグ ソノアダリデサー、アノ カジ ニ ナッテダッタンダヨ。（M： ウン） | そうしたら × あの すぐ その あ あたりでね、あの 火事になっ ていたんだよ。（M：ううん） |

| | | | |
|-----|---|--|---|
| 434 | H | アノー, (S:ウーン) プロ パンガス バグハズ シタンダヨ ナ。 (S:アー ウーン) | あの, (S:ううん) プロパンガス[が] 爆発 したんだよな。 (S:ああ うう ん) |
| 435 | H | ソシテ イエガ ニゲンサー モ ウ ボンボン ボンボン モエデ サー, ソラー ハンブクログ クログナッテンノサ。 | そして 家が 二軒ね もう ぼんぼん ぼんぼん 燃えてね, それは 半分黒く 黒くなっているのね。 |
| 436 | H | デ, マーサガ コンタダトゴマ デ ツナミア クルワゲ (M: ンダネー) ネードモッテサ (M:ウン) エー イダツケサ ー ミズァ キタゾー ヅズンダ ン。 | それで, まさか こんな所まで 津波が 来るわけ[が] (M:そうだね) ない と思っただね (M:うん) ×× いたら ね 「水が 来たぞー」と言うんだよ。 |
| 437 | H | ソシタツケ オラエノ カンゴフ ァ 「オレ ミデクツガラー」 ッ トガッテサー, (M:{笑}) 「ヤメロ」 ッツツタノニサー ワ ラワラド ハネデッテサー スゴ イ アオグナッテ ケーッテキタ ノサー。 | そうしたら 私達の 看護婦が「私 見 て来るから」とかと言ってね, (M: {笑}) 「やめろ」って言ったのにね わ らわらと 跳ねて行ってね すごく 青 くなって 帰って来てね。 |
| 438 | H | 「センセー ソゴマデ キテダ」 ッテ。 (M:ウーン) | 「先生 そこまで [津波が] 来ていた」 と。 (M:ううん) |
| 439 | H | ホーシタツケァ ホレ コノ イ エノメエノトーリ ミンナ ニ ゲデグベツチャ。 (M:ウーン) | そうしたら ほら この 家の前の通り [を] みんな[が] 逃げていくでしょ う。 (M:ううん) |
| 440 | H | ソシデ トイダサ バッパ ノセ ダ (M:{笑}) ガサー イ ッショケンメーニナッテ ヤマサ ニゲデグワゲダ。 (M:ウン) | そして 戸板に お婆さん[を] 乗せた (M:{笑}) [人]がね 一生懸命に なって 山に 逃げて行くわけだ。 (M:うん) |
| 441 | H | 「ア コレア トンデモネー」 ドモッテサー ソシテ ホレ カ ンゴフ 「アド ミンナ ニゲロ ー」 ッテイッテサー。 | 「あ これは とんでもない」と思っ てね そして ほら 看護婦[に] 「残り [は] みんな 逃げろ」と言ってね。 |
| 442 | H | アドァ ホレー ガガ コッチノ エサ イダガラサー 「イヤー ィ チェッコー ニゲッゾォー ツナ ミガ キタゾー」 ッツツタドモ, ナーヌナヌ, アノ ヒトァ ツ | あとは ほら 嫁が こっちの家に い たからね 「おうい ちえ子 逃げるぞ 津波が 来たぞ」と言ったけれど, なに なに あの 人は 津波だとは 全然 (M:{笑}) 頭に ない人だから × |

| | | | |
|-----|---|---|---|
| | | ナミダドァ ゼンゼン (M: {笑}) アダマサ ネーヒトダ ガラ × ュックリ ュックリシ テ (M:ウン) 「ワタシ キ ガエ シテルノ」 ドカツツッテ サ, (M:{笑}) イッコー ダメナンダン。 (M:{笑}) | ゆっくり ゆっくりして (M:うん) 「私[は] 着替えして いるの」 とか と 言ってね, (M:{笑}) 一向[に] 駄目なんだ。 (M:{笑}) |
| 443 | H | ホンデー… | そして… |
| 444 | H | デモ, センサーモ ニゲダン ドゴサガ。 | でも, 先生も 逃げたんでしょ う どこ かにか。 |
| 445 | M | イヤ ニゲラレナンダ。 | いや 逃げられなかった。 |
| 446 | H | シャーナイガラ トニガグサー ガガー × ツィデガネバネベッ チャ。 | 仕方ないから とにかくね 嫁[を] × 連れて行かなければならないでしょ。 |
| 447 | H | アア? (M:{笑}) | ああ? (M:{笑}) |
| 448 | H | ホンダ ヤーセネドゴロニ ニガ イサ ハネアガッテサー 「ナニ シテ ヤレ コノァ ハヤク ア ベ」 ツツタツケ × キタノ ヨー。 (M:ウーン) | そうだ // // // ところに 二階に 跳 ね上がってね 「何[を] している ほ れ この 早く 行こう」と言っていたら × [津波が] 来たのよ。 (M:ううん) |
| 449 | H | ソド。 (S:ウーン) | 外。 (S:ううん) |
| 450 | H | モノスゴイ オドシテサー ザァ ー ッテキテサー。 (M:ウー ン) | 物凄い 音[が] してね ザアッ と来 てね。 |
| 451 | H | ホンデ オレア マド アゲデ ミダツケァ ナーニ イェーノ マアリア モー ウミニナッテサ ー | そして 俺は 窓[を] 開けて 見たら なに 家の 周り は もう 海になって ね。 |
| 452 | H | ソシテ, ジドーシャー ドンド ン ドンドン ナガレデクルシ ヤレー ヤネダノサー ハッサ ダノ (M:ウンダー) ウー ソ レガラ フトンダノサー トシオ ジダベー ウン アリトアラユル モノァ ミーンナ ×× ナガレ デキサー。 (S:ウーン) | それで, 自動車[は] どんどん どん どん 流れて来るし ほら 屋根だのね // // // だの (M:そうだ) × それか ら 布団だのね // // // でしょう あ らゆる物が みんな ×× 流れて来て ね。 (S:ううん) |
| 453 | H | ソイデ コノ マアリ イェノマ アリ ウズメーデンダオン。(M: | そして この 周り 家の周り[を] 渦 巻いているんだよ。 (M:うん) |

| | | | |
|-----|---|--|--|
| | | ウン) | |
| 454 | H | イヤー, アンドギ ニゲダラ オラァ タスガンナガッタノサ ー。(M:ンダーノカナー) | いや, あの時 逃げたら 私は 助から なかったのさ。(M: そうなのかなあ) |
| 455 | H | ウン, タスカッタノ。 | うん, [逃げなかったから] 助かった。 |
| 456 | H | (M:ウーン) タス タスカッ タ。 | (M:ううん) ×× [逃げなかったか ら] 助かった。 |
| 457 | H | ンダガラ マズ モタモタッテ (M:モタツイタ) ドゴデ タ スカッタ。 {笑} (M:ハッ ハッハ) | それだから まず [妻が] もたもたっ て (M:もたついた) ところで 助かった。 {笑} (M:ははは) |

(中略)

| 発話 番号 | 話 者 | 発言内容の文字化 | 共通語訳 |
|----------|--------|---|--|
| 746 | H | オレー, オレ イズモサー, イ ズモ カダンダズモサー, (M: ウン) コゴァ ダイタイ サンシ ジューネン ゴジューネン グレ ーニ イッカイ グレーワ オー ツナミー カブッテ キタ ガス ト。(S:ウーン) (M:ウン) | 私は 私は いつもね, いつも 言う のだけれどもね, (M:うん) ここ は 大体 三, 四十年 五十年 位に 一回 位は 大津波 [を] かぶって 来た でしょう。(S:ううん) (M: うん) |
| 747 | H | モー, ナンーカイモ ナンカイ モ。 | もう, 何回も 何回も。 |
| 748 | H | オライノー カンジャサンデモサ ー オラ コレデ サンカイメデ ガス イーナガサレダノ (M:ウ ーン) ァズーヒトモ イルワゲ サ。 | 私の所の 患者さんでもね 「私は こ れで 三回目なんです 家 [を] 流され たの」 という人もいるわけね。 |
| 749 | H | ホンデ コリモ シネーデ オン ナジトゴサ タデルモンダナ ッ テ オレア カダンダ ケッドモ サ。(S:ウーン) (M:ウー ン ウン) | そして 「懲りも しないで 同じ所に 建てるものだよな」と 私は 言う の だけれどもね。(S:ううん) (M: ううん うん) |
| 750 | H | ウン, デモ ソンデモー ソノタ ンービニ シンボーシテ シンボ ーシテ イエ タデデサー, | うん, でも それでも その度に 辛 抱して 辛抱して 家 [を] 建ててね, (M:うーん) 村を 直してね 町 |

| | | | |
|-----|---|--|--|
| | | (M:ウーン) ムラァ ナオシテ サー マジ ナオシテサー ヤレ ヤレ ドモッタコロニ マダ ド バート キテナー (S:ウン ウン) ジンコーノ イジワリグレ ー サラッテ イガレデサー ソ ンナノ ズート クリゲーシテ キテ キテッガラ カンゲーデ ミレバァー ンマ ツナミナレシ テル ッテバ オガシイゲッドモ ー マー ソンナモンダヨナ。 (M:ウーン) | [を] 直してね やれやれ と思った 頃に また どばーっと [津波が] 来 てね (S:うん うん) 人口の 一 割くらい [を] さらに 行かれてね そんなこと [を] ずっと 繰り返して ×× 来ているから 考えてみれば まあ 津波慣れしている と言え ば 変だけれど まあ (M:うん) そ んなものだよ。 (M:うん) |
| 751 | H | ホンデー, コノ ツナミノ アド オレー × ツクズグ モッタノ ァナー, ミンナ ヨーキ ナノ サ。 (S:ウーン) | そして, この 津波の 後, 私は × つくづく 思ったのね, みんな 陽気なのさ。 (S:うん) |
| 752 | H | ウン。 (M:ウーン) | うん。 (M:うーん) |
| 753 | H | アノー マ ダイタイ イッカゲ ツ グレー シタツケ ミンナ ツガレデキテサー。 (M:ウーン) | あの まあ 大体 一カ月 くらい したら みんな 疲れてきてね。 (M:うーん) |
| 754 | H | ソシテ ミンナー オガシグナッ テ ウツビョー ミダイナノ フ ェデ キタゲッドモー ツナミノ チョクゴワー ヨーキ ダッタヨ ナ。 (S:ウーン) | そして みんな 変になって 鬱病 みたいな人が 増えて きたけれども 津波の 直後は 陽気だったよね。 (S:うん) |
| 755 | H | ニサンシューカン グライワ。 | 二, 三週間 位は。 |
| 756 | H | ホンデ ミンナー オラエノ ア ノ マジアイシズデサー, カンジ ャサンガダモサー, アノ, ヤホ ヤホッテンダヨナ。 (M:ウーン) | そして みんな うちの病院の あの 待合室でね, 患者さん方もね, あの, 「わいの わいの」っているんだよね。 (M:うん) |
| 757 | H | ウン, イギアインダ。 (M:ウ ン) | うん, イキがいいんだ。 (M:うん) |
| 758 | H | アレデー, ヤッパリ… | あれで, やっぱり… |
| 759 | H | クソ クソ クソオジズギ ッデ ィウンダガナ。 | ×× ×× 「クソ落ち着き」 と言 う だろうかな。 |
| 760 | S | ホンダー。 (M:クソ クソ ハ ハハ) | そうだ。 (M:クソ クソ {笑}) |
| 761 | H | オー。 | おお。 |

| | | | |
|-----|---|---|--|
| 762 | H | カグゴ キメダ ッチューガー。 | 「覚悟 [を] 決めた」というのか。 |
| 763 | H | アレデ ガンバッタンダベナー。 (S:ウーン) (M:ウーン) | あれで 頑張ったんだよね。(S:ううん) (M:うーん) |
| 764 | H | ホンデー, オラモ ホレ アサガラ バンマデー カンジャサンノ メンドバリ ミデッペ。 | そして, 私も ほら 朝から 晩まで 患者さんの 面倒ばかり 診ているで しょう。 |
| 765 | H | アレー クイブジナド ドコニモ ネンダヨナ。(S:ウーン) (M: ウーン) | あれ 食べる費用など どこにも な いんだよね。(S:うん) (M:う ん) |
| 766 | H | ウーン, ナンモ ネーシサー。 | うん, 何も ないしね。 |
| 767 | H | ソースットサー, カンジャサンガ モーツテクンダヨナ。(M:ウー ン) | そうするとね, 患者さんが 持って来 るんだよね。(M:うーん) |
| 768 | H | × 「センシユー タオレッド コ ッチモー ユルグネーガラ (M: ウーン) コレ ケ コレ ケ エ」ツテサ, ソイデ メシダノサ オガズダノサ (M:ウーン) ミズ ダノサ ×× イッペー モツテ キテ。 | × 「先生 [が] 倒れると こっちも 大変だから (M:ううん) これ [を] 食べて これ [を] 食べて」ってね, それで ご飯やらね おかずやらね (M:うん) 水やらね ×× たくさ ん 持って来て [くれた]。 |
| 769 | H | ミーナ ダガラ カンジャサン ニサー, (S:ウーン) アノ ア ズガレデダ × ヨーナモンダジ ャ。(M:ウーン) | みんな だから 患者さんにね, (S:うん) あの 面倒をみてもらっ た × ようなものだよ。(M:うー ん) |
| 770 | H | マー, ソンナコンナデ, (M: ネ) イッショケンメーナツテ ガ ンバッタドモサー。 | まあ, そんなこんなで, (M:ねえ) 一生懸命 [に] なって 頑張ったけれど もね。 |
| 771 | H | オレー コノマエ オーサガー コーベノ ホーサー コーエン タノマレデ イツテキタノサー。 (M:ウーン) | 私は この前 大阪 神戸の 方に 講演 [を] 頼まれて 行ってきたのさ。 (M:うん) |
| 772 | H | デ, ソンドギニサー。 | それで, その時にね。 |
| 773 | H | オーサガノ ナンダガ ジャーナ リストデ ソノ ボランティアノ オー × × オセ ワシテサー。 | 大阪の 何だか ジャーナリストで その ボランティアの ×× × × お世話 [を] してね。 |
| 774 | H | コッツサ オグリコンデルー ヒ タ イダンダッケオン。 | こっちに [ボランティアの人を] 送り 込んでもる ひと [が] いたんだよね。 |

| | | | |
|-----|---|---|---|
| 775 | H | デ ソノ ヒタァ カダンニアネ, ソノー イヤ 「オーサガガラー カンサイガラー トーホグニ ソ ノ ボランティア デ イッペー ハケンシテ, × シタドモ イママ デ ナンビャクニンモ ヨゴシタ」 ット。 | それで その 人が 言うにはね, そ の いや 「大阪から 関西から 東北 に その ボランティアで たくさん [の人を] 派遣して, × したけれ ども 今まで 何百人も 送った」んだ そうだ。 |
| 776 | H | 「ンダドモー, ケーッテクルモノ ァ マップタツニ ワガレル」ッズ ンダナ。 | 「そうれだけれども, 帰ってくる者は 真っ二つに 分かれる」と言うんだよ ね。 |
| 777 | H | デ ヒトズワサー, トーホグァ スギニナッテー ナソーガイモ ナ ンガイモ (S:ウン) イグ, イ ワユル リピーター。 (M:ウン) | それで, 一つはね, 東北が 好きに なって 何回も 何回も (S:うん) 行く, いわゆる リピーター [だね]。 (M:うん) |
| 778 | H | ナ。 (M:ウン) | ね。 (M:うん) |
| 779 | H | ソェガラー アドノ ハンブンワ サー 「モ ニドド ニガナ」ッ ツテ。 (S:ウン) | それから あとの 半分はね 「もう 二度と 行かない」って。 (S:うん) |
| 780 | H | アー, モー トーホグー ×× トーホグジンガ ウント スカ ナグナッテ 「ニドド イカネエ」 ッテ イッテ 「ゼッテー イッガ ネ」ッテ イウヒトガ イルンダッ テサー。 | ×, もう 東北 ×× 東北人が と ても 好きでなくなって 「二度と 行 かない」と 言って 「絶対 [に] 行 かない」 って いう人が いるんだっ てさ。 |
| 781 | H | デ, 「ナーシテ コンナニ チガ ウモンダベ」 ッテサ。 | それで, 「どうして こんなに 違う もんなんだろう」ってね。 |
| 782 | H | オレニ キグワゲー。 | 私に 聞くわけ。 |
| 783 | H | オ コッチダッテ ワガンネーガ ラナー。 (M:ウン) | × こちらだって わからないからね え。 (M:うん) |
| 784 | H | ンデサー デ 「ナシテ ソノヒダ ズァ ソノ スカナグナッテー アノ × クンノス」 ッテ。 | それでね × 「どうして その人達は その 好きじゃなくなって あの × くるのかな」って。 |
| 785 | H | キィダレバサー。 | 聞いたらね。 |
| 786 | H | ソーシタレバサー。 | そうしたらね。 |
| 787 | H | 「トーホグノ ニンゲンワ ジズ ニ ガマンズヨイ」ト。 | 「東北の 人間は 実に 我慢強い」 と。 |
| 788 | H | 「ソノ ガマンズヨサワー, ニン ゲンバナレ シテル」ト。 (M: | 「その 我慢強さは, 人間離れ して いる」と。 (M:うん) |

| | | | |
|-----|---|---|--|
| | | ウン) | |
| 789 | H | ナ、カンサイジンノ × ガラ ミレバ (S:ウン) ソー ソー ーナンダツツサー。 (M:ウン) | ね、関西人の × から 見れば (S:うん) そう そうなんだって ね。 (M:うん) |
| 790 | H | 「ニンゲン バナレ シテル」ト。 | 「人間 離れ している」と。 |
| 791 | H | 「モノズゴイ モンダ」ト。 | 「ものすごい ものだ」と。 |
| 792 | H | 「アレニヤー モー カナワナイ」 ト。 | 「あれには もう かなわない」と。 |
| 793 | H | 「ダゲットモー、 ナニ キイデモ ケーツテクル コダエワー、 『シ ャーナイワ』ト (M:ウン)シ カ イワネー」 ト。 | 「だけれども、 何[を] 聞いても 帰 って来る 答えは、『しゃあないわ』と (M:うん) しか 言わない」と。 |
| 794 | H | 「コンナー ヤルキノ ネー モ ノドー (M:ウン) ネ、 イッ ショナツテサー アノ ジガンド ゼニド (M:ウン) サイデネ、 コンナー ヤルキノ ネー ヤズ ノタメニ カセグノワ モー マ ツピラダ」ツト。 (M:ウン) | 「こんな やる気の ない 者と (M:うん) ね、 一緒になってね あ の 時間と お金を (M:うん) さ いてね、 こんな やる気の ない 人 達のために 働くのは もう まっぴ らだ」と。(M:うん) |
| 795 | H | 「モー ジズニ ヤルキノ ネー ヤヅ レンチューダ」ツテイッテ ハラダデデ カエツテクンダツツ サ。 (M:ウン) | 「もう 実に やる気の ない 奴 連中だ」って言って 腹[を]立てて 帰 って来るんだってさ。(M:うん) |
| 796 | H | ンデ、 オレサー 「ハテ ソンナ ハズア ネーガ」ドモツテ カンガ エダンダ。 (M:ウン) | それで、 私はね 「さて そんなはず は ないんだが」と思って 考えたん だ。(M:うん) |
| 797 | H | ソンデサー ワガッタノアサー ソノー オーサガノヒトア イッ タ 「シャーナイワ」 ツテイウ オーサガベンサー (M:ウン) 「シャーナイワ」 ズーノアサー トーホグノ オラホノ コドバニ ナオセバサー (M:ウン) 「ス カダネー ズー コツデヤス」ト。 (M:ウン) | そしてね わかったのさ その 大阪 の人 [が] 言った 「しゃあないわ」 というのはね 東北の 私達の 言葉 に なおすとね (M:うん) 「仕方 ない という ことです」と。(M: うん) |
| 798 | H | ンダガラ オラダイ (M:ウン) カダッタ × ノアサー (M:ウ ン) 「スカダネー」ツテ イッタ | それだから 私達に (M:うん) 言 ったのはさ、 (M:うん) 「仕方な い」って 言ったんだよ。(S:うん) |

| | | | |
|-----|---|---|---|
| | | ンダヨ。（S：ウン） | |
| 799 | H | ソレオー オーサガベンデ 「シャ ーナイワ」ト （M：ウン） ホン ヤク シタンダヨー。（M：ウン） | それを 大阪弁で 「しゃあないわ」と （M：うん） 翻訳 したんだよ。 （M：うん） |
| 800 | H | ストサー， オーサガベンデ 「シ ャーナイワ」 ッテ ノワ マッタ ク ムセキ° ニン ムキリヨク ナゲヤリナ コトバナノサー。 （M：アーソー） （S：ウン） | そうするとね， 大阪弁で「しゃあない わ」という のは 全く 無責任 無 気力 投げやりな 言葉なのさ。 （M：ああそう） （S：うん） |
| 801 | H | トゴロガー オラホデサー （M： ウン） 「シカダネエ」 ッテイウノ ワサー （S：ウン ウン） （M： ウン） | ところが 私達でね （M：うん） 「し かたない」というのはね （S：うん う ん） （M：うん） |
| 802 | H | ソーユー コトバ デア ネーア ワゲダー。（M：ウン） | そういう 言葉 では ないわけだ。 （M：うん） |
| 803 | H | モー， ナゾーシテモ ニゲラレネ ー サイガイデ アッテー， （M：ウン） モー トニカグ ウ ゲルホガ ネーワゲダ。（M：ウ ン）（S：ウン） | もう， どうやっても 逃げられない 災害で あって， （M：うん） もう とにかく 受け入れるしか ないわけ だ。（M：うん） （S：うん） |
| 804 | H | カナシカローガ， ツラガローガサ ー （S：ウン） （M：ウン） ト ニガグ ウゲデ ソシテー アノ ー マダ ハイアガルホガネーワ ゲダー。（M：ウン） | 悲しかろうが， 辛かりうがね （S： うん） （M：うん） とにかく 受け て そして あの また 這い上がる しかないわけだ。（M：うん） |
| 805 | H | ンダガラ ソーイウノワ シカダ ネンダヨナ。（M：ウン） | だから そういうのは 仕方 [が] な いんだよね。（M：うん） |
| 806 | H | ウゲル ホガ ナントモ ナンネ ーンダモノ。（M：ウン） | 受け入れる しか どうにも ならな いんだもの。（M：うん） |
| 807 | H | ンダガラ 「シカダネー」 ッテイウ コトパワー （M：ウン） ソーン ナガニ モッテイル （M：ウン） ソノー × ワレワレノサー （M：ウン） ×× モノスゴイ ソノ × トーソーシンネー。 （M：ウン） | だから 「仕方ない」という 言葉は （M：うん） その中に 持っている （M：うん） その × 我々のね （M：うん） ×× ものすごい その × 闘争心ね。（M：うん） |
| 808 | H | ウーン。 | ううん。 |

| | | | |
|-----|---|--|---|
| 809 | H | アー、ヒックリゲアシテ カンゲールド (H:ソーナンダヨ) 「シカタガアル」 ッチューゴドナンダヨ。 | ああ、ひっくり返して 考えると (H:そうなんだよ) 「仕方が有る」ということなんだよ。 |
| 810 | S | ウン、ソーユーゴドダヨー。 | ううん、そういうことだよ。 |
| 811 | H | シカタ、オラダジノ イウ (H:ウン) 「シカダネー」ズノア (M:ウン) シ 「シカダガアルンダ」 ッチューゴドダヨ。 | 仕方、私達の 言う (H:ううん) 「仕方ない」というのは (M:うーん) × 「仕方が 有るんだ」ということだよ。 |
| 812 | S | ウン、ソーユーゴドダヨ。 | ううん、そういうことだよ。 |
| 813 | H | ソーユーサー ユーキノ アルコトバー ナンダット。 (M:ウン) | そういうね 勇気のある 言葉 であると。 (M:うん) |
| 814 | H | ソレー ソレー ユッタツケサー、 (S:ウン) (M:ウン) ソノ オーサガノ ヒトア タナー マケ° デサー (S:ウン ウン) (M:ウン) 「イヤー ハジンメデ キイダ」 ット。 (M:ウン ウン) | それ [を] それ [を] 言ったらね、 (S:うん) (M:うん) その 大阪の 人は びっくりしてね (S:ううん うん) (M:うーん) 「いやあ 初めて 聞いた」と。 (M:うん うん) |
| 815 | H | 「コレア ブンカノ チガイダ」 ット。 | 「これは 文化の違いだ」と。 |
| 816 | H | ウー × 「ウンダバ ワガッタ」 ッツ。 (M:ウン) | ×× × 「それなら わかった」と。 (M:うん) |
| 817 | H | 「ミンナサ イッテ キガセル」 ッテ。 (M:ウン) | 「みんなに 言って 聞かせる」と。 (M:うん) |
| 818 | H | 「イーゴド キーダ」 ッテ。 (M:ウン) | 「いいこと [を] 聞いた」と。 (M:うん) |
| 819 | H | × ソシテナー ヨロゴンデー ケーッテイッタツケー。 (M:ウン ウン) | × そうしてね 喜んで 帰っていったんだよ。 (M:うん うん) |
| 820 | H | ンダ オレ、 モー ヒトツツ カアッタнда。 | そうだ 私、 もう 一つ × あったんだ。 |
| 821 | H | ソノ オーサガノ ヒトア 「トーホグノ ヒトア ガマンズヨイ」 ッテ イウッゲンツトモー、 オラー 「ガマンズヨインデ ネエンダ」 | その 大阪の 人が 「東北の人は 我慢強い」というけれども、 私は「我慢強いので [は] ないんだ」と。 |

| | | | |
|-----|---|--|--|
| | | ト。 | |
| 822 | H | 「『ガマンスル』 ズー ノアー ナニモ シネー コドダ」 ト。 | 「『我慢する』 という のは 何もし ない ことだ」と。 |
| 823 | H | 「ダマッテ スグ ダマッテ ナ ニモ シネーコドダ」 ット。 (M: ウン) | 「動かずに すぐ 動かずに 何も しないことだ」と。 (M: うん) |
| 824 | H | 「オラダジ 『シンボー』スルンダ」 ット。 (M: ウン) | 「私達 [は] 『辛抱するんだ』」 と。 (M: うん) |
| 825 | H | 「『シンボー』ド 『ガマン』ワ チ ガウンダゾ」 ット。 | 「『辛抱』と 『我慢』は 違うんだぞ」 と。 |
| 826 | H | ね, ケセンデワ イエタデダドギ ニサー (M: ウン シン…) 「シ ンボーシタネー」 ッテカダル。 (S: ウン) (M: ハイ ハイ) | ね, 気仙では 家 [を] 建てた時にね (M: うん しん…) 「辛抱したね」 と言う。 (S: うん) (M: はい はい) |
| 827 | H | オレエ イー タデダドギモ (M: ウン) コノ イ タデダド ギモ (M: ウン) トナリノ キ ンジョノ オンツァンガラ ミン ナ キテー, オレー カダー ハ ダイデサー, (M: ウーン ウー ン) 「イヤー センサー シンボ ーシタネー」 ッテサー, カダッ タ。 (M: ンー ソーダ) (S: ウン) (M: ウン) | 私は 家 [を] 建てた時も (M: う ん) この 家 [を] 建てた時も (M: うん) 隣の 近所のおじさん から みんな 来て, 私 [の] 肩を 叩いてね, (M: ううん ううん) 「い やあ 先生 辛抱したね」とね, 言 った。 (M: うん そうだ) (S: うん) (M: うん) |
| 828 | H | ナ。 (M: ウン) | ね。 (M: うん) |
| 829 | H | イーッケン タデル ッタラサー ソレアー ヤッパリ イユルグネ ーサー。 (M: ウン) | [家を] 一軒 建てる といったらね それは やっぱり 容易でないよ。 (M: うん) |
| 830 | H | イッシュョーケンマーニ ナッテサ ー, (M: ウン) × ガンバッ テ ガンバッテ ホシテンノンモ (M: ウン) カワネーデサー タ ンメデサー シンボーシテ イエ タデル ワゲダベー。 (M: ウン) | 一生懸命に なってね, (M: うん) × 頑張って 頑張って 欲しい物も (M: うん) 買わないでね 貯めてさ 辛抱して 家 [を] 建てる わけだろ う。 (M: うん) |
| 831 | H | ツナミデ ゼンーブ ナグナッテ モサー (M: ウーン) オラダ マ ダ シンボースンノッス。 (M: | 津波で 全部 なくなってもね (M: うーん) 私達 [は] また 辛抱する んです。 (M: うーん) |

| | | | |
|-----|---|---|---|
| | | ウン) | |
| 832 | H | ンダガラ 「トーホグノ ニンゲン ワ ガマンズヨイ ンデ ネンダ」 ッテ。 | だから 「東北の 人間は 『我慢強い』 ので [は] ないんだ」と。 |
| 833 | H | 「『シンボー ズヨイ』 ッテ カダ ッテ ケロ, (M: ウーン) (S: ウ ーン) ワガッタガー」 {拍手} ツツ タツケサー 「ワガリマシ ター」。 {笑} | 「『辛抱 強い』 と 言って くれ, (M: うーん) (S: ううん) わか ったか」 {拍手} と 言ったらね [相手が] 「わかりました」 [と言った] {笑} |
| 834 | H | トイウ ハナシ ダッタナー。 (S: ウーン) | という 話だったよ。 (S: ううん) |

岩手方言の特徴と陸前高田市方言

齋藤孝滋

1 岩手方言の区画



図1 岩手の方言区画

(本堂 1967 より)

東北方言は、大きく北奥羽方言と南奥羽方言に区画され、岩手県が位置する太平洋側では、旧南部藩と旧伊達藩の藩境がほぼその境界線とされている（小松代融一 1964、本堂 寛 1967, 1982）。

岩手方言は、まずこの北奥羽方言と南奥羽方言の大区画により、中北部方言地域（旧南部藩領）と南部方言地域（旧伊達藩領）に区分され、さらに小さい区画により、北部方言地域（秋田・青森県に接する部分）、中部方言地域（盛岡市を中心とする内陸部の地域）、沿岸方言地域（北部と南部を除いた沿岸地域。ただし、南部も一部入る）、南部方言地域（南部地域全域）に区分される（本堂寛前掲論文）。

2. 岩手方言の特徴—全体的特徴と各方言地域の特徴—

2. 1. 音韻

以下、特徴的な項目をあげる。

(1) 母音音素は、一般的に /i/[i]、/e/[ɛ, e]、/ɛ/[ɛ, ε^v, æ, æ^v]、/a/[a]、/o/[ɔ, o]、/u/[u]

の6個である。

(2) /i//u/は/s, c, z, (~z)/と拍を構成する場合対立を失い(/susu/~/sisi/煤=獅子=寿司)。中部方言地域・沿岸方言地域・南部方言地域では/u/に、北部方言地域では/i/に統合する(前者/susu/[s̥ũsũ] 煤=獅子=寿司、/cu~zu/[tsũⁿdzũ] 知事=地図、後者/sisi/[s̥is̥i] 煤=獅子=寿司、/ci~zi/[ts̥iⁿdz̥i] 知事=地図、なお北部方言地域でも八幡平荒屋新町では/u/に統合する)(平山輝男他 1982, 1992, 森下喜一 1983, 齋藤孝滋 1997b)。この/i//u/の統合現象は、/s, c, z, (~z)/と拍を構成する場合だけにとどまらず、中部方言地域の盛岡市方言には/s, c, z, ~z/に加え/r/と拍を構成する場合にもみられる話者がみとめられ([rũsũ]リス=留守)、さらに北部方言地域の八幡平市荒屋新町方言には/r, n/と拍を構成する場合にまで及んでいる話者が確認されている(/toru/[torũ]鳥=取る、/haru/[ha rũ]針=春、/nuru/[nũ rũ]似る=煮る=塗る、/nugu/[nũ gũ]肉=抜く)齋藤孝滋 1987b 他。一方、沿岸方言地域の岩手県下閉伊郡岩泉町穴沢(柴田武 1961, 1962)では統合せず区別が保たれており、音声も共通語的な[i](穴沢・大鳥)、[u](穴沢)である。

(3) /i//u/の無声化は、音構造によって傾向が異なるが、音構造1「(CV) C₁/i, u/C₂(S)V_M._w (V_{M,w}:非狭母音)における/i, u/は、共通語のようにC₁とC₂が無声子音の場合([kũsa]草、[ϕ̥kar̥i]光)のみならず、C₁が共通語の/z, b/に対応する鼻音化子音ⁿ[dz, ^mb]の場合にも、それらの子音の声帯振動を奪いつつ([ⁿts][^mp])、規則的に無声化する([n̥iⁿtsũkan]二時間、[kũ^mp̥̥ta]首)齋藤孝滋(1992d)。なお、南部方言地域の一関市舞川(齋藤 2001)では、無声子音及び鼻音化子音に隣接した音環境の他に、/r//j//w/と拍を構成する場合にも、それらの声帯振動を奪い各[r̥][j̥][w̥]等に変化させつつ無声化する([kũr̥e̥]暗い[tsũj̥e̥]強い、[kũøa]鉄)。音構造2 音構造1「(CV) C₁/i, u/C₂(S)/i, u/(C₁C₂とも無声子音)では、ばらつきはあるものの岩手方言全域で無声化しない傾向がある(/susu/[s̥ũsũ] 煤=獅子=寿司)。

(4) /i/と/e/は/' /と拍を構成する(ア行の)場合、対立を失い/e/に統合する傾向が強く、沿岸方言地域の久慈市、南部方言地域沿岸部の大船渡市三陸町・陸前高田市では、完全に/e/に統合している(/' e/胃=胆=柄=絵、/ko' e/声=鯉=濃い)ただし、統合の様相は、方言により段階が異なっており、南部方言地域の一関市・中部方言地域の盛岡市、北部方言地域の八幡平市荒屋新町では、語例が少ないものの、/i/が保たれている(/' i/胃=胆、/' e/柄=絵、/ko' e/声=鯉=濃い)(齋藤孝滋 2001)。

(5) /a' i, a' e/に対応する音は一般に/ε(ε)/である (/tagεε/高い)。

(6) 語中子音有声化: 共通語の語中の/k/[k], /t/[t], /c/[ts]に対応する音は一般に有声音の/g/[g], /d/[d], /z/[dz]である (/hada/[hada]旗)。ただし、音構造「(CV)C₁/i, u/C₂(S)V_M_{WJ} (V_{M-W}:非狭母音) の隣接する母音が無声化する場合は規則的に語中子音有声化はみられず/k/[k], /t/[t], /c/[ts]が対応する (/suke/[sũkɛ]時化、/cuke/[tsũkɛ]付け<で買う>、/suta/[sũta]下、/hacuka/[hatsũka]二十日)。なお、日常語において、筆者が調査した岩手方言全調査地において、[sũkɛ] (時化) : [sũgɛ] (敷け<命令>、[tsũkɛ] 付け<で買う> : [sũgɛ] (<手を>着け<命令>) : [tsũŋɛ] (<お茶を>注げ) のような、[k] : [g] : [ŋ]による minimal pairs がみとめられること等により、現時点では語中子音有声化現象を音韻レベルの現象ととらえることとする (齋藤孝滋 1990, 1992c)。

(7) 語中子音鼻音化: 共通語の語中の/z, d, b/に対応する音は鼻音化音の/z/[dz], /d/[ᵈd], /b/[ᵇb]である (/haᵇda/[haᵇda]肌)。本現象も、語中子音有声化現象と同様の根拠により音韻レベルの現象ととらえることとする (齋藤孝滋 1991, 1992c)。なお、共通語の語中の/z, d, b/に対応する拍が鼻音化せず[ᵈz] [ᵈd] [ᵇ]が対応する方言が、沿岸方言地域の久慈市や大船渡市三陸町にみられる。これらの地域にも語中無声子音の有声化はあるため、語中において共通語の/t/:/d/, /c/:/z/に対応する拍の対立は失われている (佐藤喜代治 1966、齋藤 2001、2002 他) (/hada/[hada]肌=旗、/kazu/[kaᵈzũ]数=勝つ)。なお、このパターンは本来鼻音化子音を持つ地域の新しい世代にもみられる (齋藤孝滋 1991, 1992c)。

(8) 共通語の/ŋ/ (語中カ音) には/ŋ/[ŋ]が対応する。

(9) 共通語の/sj. c.j, zj/は、特徴(2)「/i//u/は/s, c, z, (z)/と拍を構成する場合/u/に統合する」現象がみられる地域で、しばしば/u/と拍を構成する場合/s, c, z/に統合する ([sũ · dzũ] 習字=数字) が、南部方言地域沿岸部の陸前高田市・大船渡市三陸町では、統合傾向が異なり/u, o, a/と拍を構成する場合/hj, kj, gj/に統合する ([ɕũ · ᵇdzũ] ~ [ʃũ · ᵇdzũ] 習字=ヒューズ、[niɕo'] ~ [niʃo'] 二升=二俵、[niɕagũ] ~ [niʃagũ] 二百=二尺、[kjo'] ~ [tʃo'] 今日=腸、[sapk jagũ] ~ [santʃagũ] 三脚=三着) (齋藤孝滋 1992a, 1993)。

(10) 特殊拍/N/が語中尾のみならず語頭にも位置する (/Nda/[nda]そうだ)。また、南

部方言地域沿岸部の陸前高田市・大船渡市三陸町では、さらに/Q/が語中のみならず語頭にも位置する (/Qhjo' e/[ʃfoe] 拾え : /hjo' e/ [foe] 背負え)。

(11) 岩手方言は全体的に、シラビーム方言的特徴を持つ ([to'] (十=戸) が、沿岸方言地域でもモーラ方言的特徴が強い場合がある。特に岩手県久慈市周辺ではその傾向が強く、長音拍が十分に一拍の長さで安定して挿入される例がみられる ([sa:ra] 皿) (齋藤孝滋 2002)。

1. 2. アクセント

北部方言地域の安代町・中部方言地域の盛岡市は「東京式音調Ⅰ」、沿岸方言地域の久慈市は「東京式音調Ⅱ」、南部方言地域の一関市は「特殊音調Ⅱ」の地域に位置する。なお、南部方言地域でも沿岸部の陸前高田市は「東京式音調Ⅱ」とされている(平山輝男 1957 による)。

岩手方言のアクセントの特徴としては、次の点が指摘できよう。

- ・語頭以外の語・文節に句音調(第1拍から第2拍へかけての上昇)がみられない。
- ・起伏式の場合、1拍分だけが卓立する。
- ・沿岸方言地域の久慈・宮古・山田町等には重起伏音調(◎○●▷)がみられる。

岩手方言のアクセントを、平安時代(末期)の中央語(京都ことば)における類の統合の視点でみると、1拍(1音節)語は、東京語と同様に「Ⅰ類(柄・子等)・Ⅱ類(名・日等)／Ⅲ類(絵・火等)」のパターンとなっているが、2拍語は、中部方言地域の盛岡市と沿岸方言地域の久慈市で「Ⅰ類(飴・酒等)・Ⅱ類(石・北等)／Ⅲ類(足・池等)／Ⅳ類(今・海等)・Ⅴ類(雨・秋等)」のパターン、北部方言地域の八幡平市荒屋新町では「Ⅰ類(飴・酒等)・Ⅱ類(石・北等)／Ⅲ類(足・池等)・Ⅳ類a(今等)・Ⅴ類a(雨等)／Ⅳ類b(海等)・Ⅴ類b(秋等)」のパターン、南部方言地域の一関市では「Ⅰ類(飴・酒等)・Ⅱ類(石・北等)／Ⅲ類(足・池等)・Ⅳ類(今・海等)・Ⅴ類(雨・秋等)」のパターンとなっている点で、地域差がみられ、また全て東京語とも異なる(平山輝男 1957、本堂寛 1982、森下喜一 1982a, 1986、齋藤孝滋 1994b 等による)。南部方言地域において類の統合が進んでいるのは、無アクセント方言地域に地理的に近いことが関係していると考えられよう。

1. 3. 文法

1. 3. 1. 動詞

現代共通語の動詞は、大きく、C語幹動詞、V語幹動詞、「来る」、「する」の4種類に分類することができるが、岩手方言の動詞は、C語幹動詞とV語幹動詞は共通してみとめられるものの、「来る」・「する」については、方言によって傾向が異なる。

動詞の種類は、南部方言地域の一関市・沿岸方言地域の久慈市・北部方言地域の八幡平市荒屋新町は共通語と同様に4種類であるが、陸前高田市は「する」が完全にV語幹動詞に統合(/susaseru/させる、/sun/)しているため3種類、盛岡市は「する」が完全にC語幹動詞に統合(//)しているため3種類となっている。ただし、八幡平市荒屋新町は「する」のC語幹動詞化がかなり進行しており、久慈市方言もその兆しがみとめられる。「来る」はすべての方言でC語幹動詞・V語幹動詞とも統合せずに保たれてはいるが、八幡平市荒屋新町でC語幹化(/kuraseru/来させる、/kurudεε/来たい)、その他の方言ではV語幹動詞化(/kiraseru/~/kisaseru/来させる)の兆しがみとめられるのである。

また、C語幹動詞の中で本来語幹末尾子音が/w/であったと推定される「洗う (/’ ara’ u/)・思う」は、北部方言地域で語幹末尾子音が/r/に交替する (/’ araru/) 形態的变化がみられ、また、それ以外の地域でも、/w/の脱落やそれによって生じた連母音の融合パターンによりバリエーションに富んだ様相を呈している(沿岸方言地域久慈市・南部方言地域陸前高田市/’ araa/、南部方言地域一関市/’ aroo/)。

2. 3. 2. 形容詞

「高い」を例に述べると、岩手県全域で、基本形は末尾の連母音が融合し/tagεε /となるが、連用形、音便形の場合、この基本形を含む語幹が存在するか否かで地域差がみとめられる。基本形を含む語幹形式は、中部方言地域の盛岡市・南部方言地域沿岸部の陸前高田市では基本形を含む語幹形式がみとめられる(/tagεgunεε/高くない、/tagεkute/高くて、/tagεgaQta/高かった)のに対し、北部方言地域の八幡平市荒屋新町方言・沿岸方言地域の久慈市方言・南部方言地域の一関市方言にはみとめられない(齋藤孝滋 2001)。なお、岩手県全域に広く、/hurusuu/ (古い)、/hosoko’ e/ (細い)、/’ ogasunεε/ (変だ・おかしい) などの特徴的な形容詞が分布している。

2. 3. 3. 形容動詞

いわゆる形容動詞は、すべての語が同様の活用変化をするが、活用パターンには地域差がみられる。

| | | |
|-----|---|-------------------|
| 連用形 | /su [~] zugani/、/suzugani/ (静かに) | ……県全域に分布する形式 |
| 否定形 | /su [~] zuga [~] denε(ε)/、/suzugadenε(ε)/ | ……県全域に分布する形式 |
| 終止形 | /su [~] zuga [~] da/、/suzugada/ | ……県全域に分布する形式 |
| 連体形 | /su [~] zuga [~] da hito/ | ……八幡平荒屋新町・盛岡市方言 |
| | /su [~] zugana hito/、/suzugana hito/ | ……久慈市・陸前高田市・一関市方言 |
| 仮定形 | /su [~] zuga [~] da [~] ba/、/suzugadaba/ | ……県全域に分布する形式 |
| | /su [~] zuga [~] dare [~] ba/ | ……南部方言地域に多い形式 |

2. 3. 4. 助詞・助動詞等

(1) 格助詞 1

共通語の主格の助詞「が」には、一般に{φ} (無助詞) または、/' a/ (しばしば直前の母音と融合する) が対応する。

/' ame huru/、/' ame' a huru/、/' amεε huru// ' amjaa huru/ (雨が降る)、
「を」には、一般に{φ} (無助詞) が対応する。

/hoN moQte kita/ (本を持って来た)

/sage nomu/ (酒を飲む)

(2) 格助詞 2

共通語の格助詞「に」は、a:動作の帰着点、b:動作の方向、c:動作の目的、d:存在場所、e:動作の行われる時間等を表すが、多くの場合 a~d には「サ」が対応する。なお、陸前高田市話者からは a~c に「サ」が対応するとの回答が得られた。なお、「サ」が用いられない場合は「ニ」が用いられる。このように多少用法に違いはみられる場合があるが、「サ」は岩手方言の中で一般的な格助詞と言える。

a, 動作の帰着点 /' omεε sa kasute/ (あなたに貸して)

b, 動作の方向 /tookjoosa ' egu/ (東京に行く)

c, 動作の目的 /' asu[~]bi sa ' egu/ (遊びに行く)

d, 存在場所 /' asogo sa ' aru/ (あそこにある)

/' asogo ni ' aru/ (あそこにある) …陸前高田市の場合

E, 動作の行われる時間 /' jonagani hoN ' jomu/ (夜中に本を読む)

(3) 過去表現

「タッタ」「～ダッタ」の形式で表される。

/' eQtaQta/ (行った)、/' edaQta/ (居た)、/' ogidaQta/ (起きた)

(4) 自発表現

自発表現には、助動詞「サル」を用いる。

/ka~ze' a hukasaQte kita/ (風が、自然に吹いてきた)

(5) 可能表現

a, 動詞の終止連体形+助詞「ニ」+形容詞「エー」

/' jomuni ' ee/ (読める)

b, 動詞の終止連体形+形式名詞「ゴド」+(ア)+動詞「デギル」

/' jomugodo' a degiru/ (読める)

c, 可能動詞

/' jomeru/ (読める)

d, 動詞未然形+助動詞「エル～ラエル」

/' joma' eru/ (読める)

e, 動詞未然形+助動詞「サル」

/kagasaru/ (書ける)

aは、能力を前提とした上で、条件が整っているがゆえに、その能力を発揮できるというニュアンスを表す傾向があるようである。

なお、eは、本来「自発」の形式が、文脈上「可能」の意味となっているとみなした方がよからう。

2. 3. 5. 語彙・表現

岩手全域で、使用される方言特有語としては、アグ(灰)、マナグ(眼)、ウルガス(浸す)等多数あるが、岩手方言の4つの方言地域の対立を一項目の中で示す例として、「だよ」(そろそろ学校へ行く時間だよ)が挙げられる(本堂寛1967)。北部方言地域が「デアー系」、中部方言地域が「ダンジェ系」、南部方言地域が「ダゾ」系、沿岸方言地域が「ダゾ系」と「ダガヨ系」が優勢となっている。

3. 東日本大震災後の陸前高田市—「仲間に加える」^{きずな} 絆の未来—

～陸前高田市における言語復興すなわち人間社会の復興～

3. 1. 1990年頃の全国&陸前高田市の言語分布とその後20年間の変容予想

「仲間に加える」を意味する語系の全国分布は、多様だが、ある程度の規則性がみとめられ、語系間の相対的な新古関係の推定することができる。

ここでは、代表的な語系であるカテル系・ソエル系・ヨセル系・ハメル系・マゼル系についてみることにする。

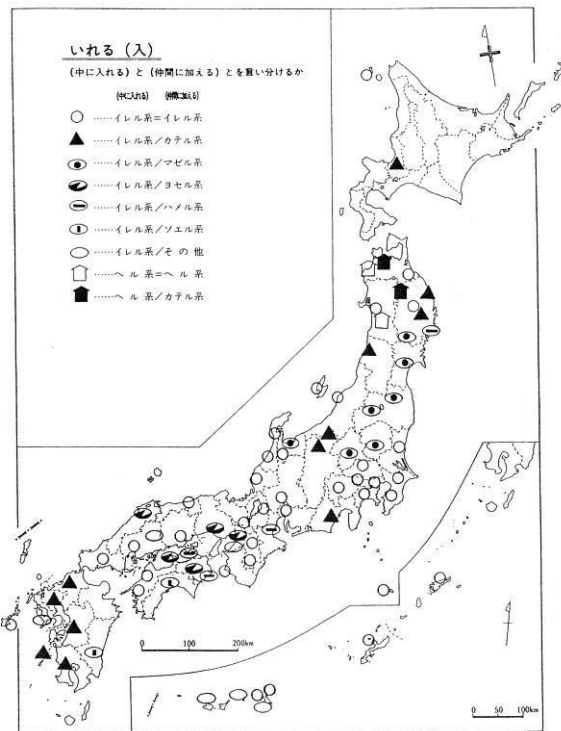


図1. 「いれる」の全国分布図

(齋藤 2001 図6)

これらの語系の分布を、図1^(注)により概観すると、次のようである。

カテル系が主に東北・九州・及び本州の山間部という古代中央(奈良・京都)からみた周辺部に分布し、その内側に西日本ではソエル系・ヨセル系・ハメル系、東日本ではハメル系・マゼル系が分布するという周圏分布の様相を呈している。

従って、方言周圏論によりカテル系が他の語系に比べ相対的に古いと推定できるのである。

なお、カテルは、現代共通語にはみられないが、その原形「かつ」が「混ぜる」に相当する古代中央語であることが『万葉集』(巻16-3829)の用例「醬酢 蒜都伎合而」(かて<「かつ」の連用形>)から窺えるのである。即ち、カテル系は、奈良時代の中央語が、日本の周辺部へ向かって伝播したものが残存したものと推定されるのであ

る(齋藤 2001)。

さて、その内側に分布する語系は、西日本と東日本で異なる。ソエル系とヨセル系は西日本に、マゼル系は東日本に分布するが、ハメル系は西日本東日本ともに分布する。

ここで、東日本太平洋側の、カデル系とハメル系・マゼル系の接触地域に目を向けてみる。現在の行政区画でいうと岩手県がその地域にあたるのである。岩手県を言語的にみると、県内に、北奥羽方言（青森県・秋田県・山形県）と南奥羽方言（宮城県・福島県）に区分する大きな方言区画線がみとめられ、その区画線により、中北部方言地域（江戸時代の旧南部藩領、中心地は盛岡市）と南部方言地域（旧伊達藩領、中心地は宮城県仙台市）に区分される。そしてカデル系は旧南部藩ことば、マゼル系は旧伊達藩ことばとしてみとめられることが、他の資料（小松代 1959 等）からも知ることができるのである。

さて、ここでさらに、ハメル系の地点である陸前高田市に目を向けてみよう。

陸前高田市は、旧伊達藩領沿岸最北部の気仙郡に位置し、気仙郡の中心地の一つでもある。岩手県に属しながらも、言語文化については伊達藩的要素が強くみられるとともに、気仙郡の独自の要素も少なからずみとめられる点で興味深い。

さて、陸前高田市内に方言分布を図 2（調査年：1990 年、話者：1902～1921 年生＝2012 年現在 91～110 歳の調査地点生え抜きの方 12 名、場面設定：地元の同年代の親しい友人とくつろいで話すとき）により概観しよう。

全 12 地点中 10 地点でハメル系の語形ハメル（内 2 地点はマゼル系の語形マヅジェルとの併用）が、2 地点でマヅジェルが、使用されている。マヅジェルの使用地点が、沿岸南部であることと、地点 12 の話者から「ハメルは古い語形で、マヅジェルが現在（多く）使われる語形」であるとの内省が得られていることから、陸前高田市全域でハメルが使用されていたところに、南から海岸伝いにマヅジェルが伝播しつつあるということが読み取れるのである。

以上は、高年層の方が対象であったが、より若い年齢層や、その後の約 20 年の変容も興味深いところである。その変容のパターンとして、次の(a)～(c)のパターンを含め、様々な可能性が推定できることから、また機会があれば、20 年後の変容の確認を含めた、世代別多人数調査に訪れたいと、風光明媚で活気のある陸前高田市に思いをはせていたところであった（…2011 年 3 月上旬頃までは…）。

(a) 南からのマゼル系の侵入により、マゼル系が主流となる。

(b)ハメルとマゼルの混淆が生じ、ハゼル or マメルなどの新語形が誕生し、勢力を拡大する。

(c)ハメル・マゼルが衰退し、共通語系のイレルが主流となる。

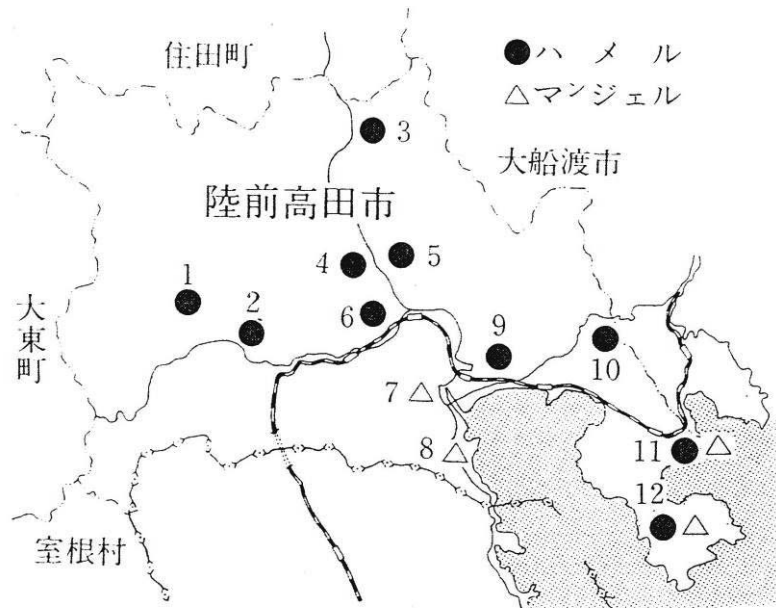


図2—2 「仲間に加える」の方言分布

図2. 『仲間に加える』の方言分布 (齋藤 1992)

3. 2. 2011年3月11日以降の陸前高田市の言語分布 ～その後、現在まで

図3は、陸前高田市の中心地域である9付近の上空写真である。ほとんど建築物の土台が残るのみという惨状である。震災前は、図右下にわずかに海岸線が見えるのみで全体が陸地だったのだが、震災後は、写真下の3分の1のほとんどが水没してしまっている。有名になった奇跡の一本松は、左下の島のようになっている部分にある。図4は地点9の光景である。ここに家屋が建ち並んでいたのである。



図3. 調査地点9を含む地域の現在(Google マップ)



図4. 調査地点9の現在(Google マップ)

図3は、陸前高田市の中心地域である9付近の上空写真である。ほとんど建築物の土台が残るのみという惨状である。震災前は、図右下にわずかに海岸線が見えるのみで全体が陸地だったのだが、震災後は、写真下の3分の1のほとんどが水没してしまっている。有名な奇跡の一本松は、左下の島のようになっている部分にある。図4は地点9の光景である。ここに家屋が建ち並んでいたのである。

再度図2をご覧頂きたい。今回の津波で、地点6・7・8・9・11・12が全域壊滅状態であることを上空写真で確認した。つまり、全12調査地点のうち半数の6地点が、家屋等の物理的な社会生活の舞台を失ってしまったのです。そして、実際に、多くの方が亡くなられたのである。

3. 3. これからの陸前高田市における言語と人間社会～復興へ向かって～

一枚の言語地図は、物理的な地形図とは異なり、多様な人間の社会生活の言語に関する1項目を図示したものに過ぎないが、あくまで人間の社会生活＝言語生活を描いたものである。

従って、震災後物理的な社会生活の舞台が失われ、仮にある期間居住者ゼロの地点があったとしても、その土地で生まれ育った（少なくとも言語形成期を過ごした）方が、他の土地に滞在し、社会生活を営んでおられるなら、言語研究者は、(若干の注記は伴うにしても)陸前高田市内のその地点に語系・語形を表す記号を記して差し支えなからう。

被災者の方は、滞在先でその土地で新たに巡り合う人々と、交流する＝相互に仲間に加え（ハメ・カデ・マゼ・イレ）合うことにより、他地域の人々の影響を受け、また反対に

影響を与えることになる。その影響は、滞在先の人々と陸前高田の被災者の方々との絆の証とすることができるだろう。被災地の物理的な社会生活の舞台が整い、話者の方々が故郷に戻り、社会生活が営まれるようになったとき、多かれ少なかれこの絆の証が言語の面でもみられると考えられよう（特に、言語形成期の小・中学生の場合）。

陸前高田市の復興とは、滞在先で新たに巡り合った人々との絆の証を内包する、新たな言語復興であり、新たな人間社会の復興であるといえるだろう。その結果、「仲間に加える」を意味する語が、どのような変容を遂げようとも、それは、相互に「仲間に加える」行為により結ばれた絆の証を含む力強い復興の結果としてとらえたい。

注) 話者・場面設定については、後述の齋藤(1992)とほぼ同様と考えて差し支えない。

4. 岩手方言に関する主要研究文献

上野善道 1973 「岩手県雫石方言の音韻体系」『日本方言研究会第17回発表原稿集』

上野善道・相沢正夫・加藤和夫・沢木幹栄 1989 「日本方言音韻総覧」『日本方言大辞典 下巻』小学館

大西拓一郎 1989 「岩手県山田町方言のアクセント」『国語学研究』29

— 1993 「第I部 日本語の方言概説」『方言と日本語教育』国立国語研究所

大野眞男 2011 「東日本方言における中舌母音の起源に関する一つの仮説-琉球方言の音変化に照らして-」『音声研究』15-3

大橋純一 2002 『東北方言音声の研究』おうふう

小倉晋平 1932 『仙台方言音韻考』刀江書院

加藤正信 1964 「北奥方言と南奥方言と越後方言の境界」(東条操監修『日本の方言区画』東京堂)

— 1969a 「音韻について」『国文学解釈と鑑賞 7月臨時増刊号 方言研究のすべて』至文堂

— 1969b 「東北方言概説」『言語生活』201

— 1975 「方言の音声とアクセント」大石初太郎・上村幸雄編『方言と標準語—日本語方言学概説—』筑摩書房

加藤正信・村上雅孝・神戸和昭・齋藤孝滋・武田拓・半沢康 1991 「南部・伊達藩境付近における方言分布の報告と考察」『日本文化研究所研究報告』別巻28

- 川本栄一郎 1969 「三陸地方北部における「ゾ・ザ・ジョ・ジャ」の分布と解釈」『国語学研究』9
- 金田一春彦 1954 「音韻」『日本語方言学』吉川弘文堂
- 国語調査委員会編、1905 『音韻調査報告書』日本書籍株式会社
- 小松代融一 1959 『岩手方言研究第3集 岩手方言語彙』岩手方言研究会
- 1961 「3 方言の実態と共通語化の問題点 4 岩手」東条操監修、遠藤嘉基・平山輝男・大久保忠利・柴田武編『方言学講座 第2巻 東部方言』東京堂
 - 1964 「岩手県の方言区画」東条操監修、日本方言研究会編『日本の方言区画』東京堂
 - 1976 『岩手方言の音韻と語法』岩手方言研究会
- 齋藤孝滋 1987a 「語中における子音の有声化現象」の音韻論的解釈について—岩手方言を中心に—『語文論叢』15
- 1987b 「岩手方言における拍の統合現象—共通語の「ル」と「リ」、「ヌ」と「二」に対応する拍について—」『日本語研究』9（井上史雄他編『日本列島方言叢書 3 東北方言考②（岩手県・宮城県・福島県）』ゆまに書房に再録）
 - 1990 「岩手方言における語中子音有声化現象 - 音環境・語彙的事情・世代の観点から -」『国語学研究』30
 - 1991 「岩手方言における語中子音鼻音化現象 - 音環境・語彙的事情・世代の観点から -」『語文論叢』19
 - 1992a 「岩手県一関市舞川方言の音韻」『日本文化研究所研究報告別巻』29
 - 1992b 「第2章 言語・方言第1節 気仙方言陸前高田方言の特色」陸前高田市誌編集委員会『陸前高田市史第6巻民俗編（下）』第一法規出版
 - 1992c 「岩手方言における語中子音有声化・鼻音化現象 - 言語内的・外的要因の観点から -」『国語学』168
 - 1992d 「母音無声化の「広さ」と「強さ」 - 岩手方言を中心に -」『国語学研究』31
 - 1993a 「方言」住田町史編集委員会『住田町史第6巻民俗編』第一法規出版
 - 1993b 「岩手県三陸町方言の音韻」『東北大学文学部日本語学科論集』3

- 1994a 「特殊アクセント方言における音調バラエティーと認知の原理」『音声の研究』23
- 1994b 「岩手方言における/o' e/, /o' i/融合現象の動態とその要因」『北海道方言研究会 20 周年記念論文集ことばの世界<北海道方言研究会叢書第5巻>』北海道方言研究会
- 1997 「岩手方言における語中/' w/の動態要因とバリエーションの計量的推定」『国語学研究』36
- 2001a 「岩手県一関市方言における形容詞の活用体系」『フェリス女学院大学文学部紀要』36
- 2001b 「岩手県久慈市方言の形容詞活用体系」『都大論究』38
- 2001c 「岩手県久慈市方言の音韻」『日本文化紀要』2 (中華人民共和国大連外国語学院)
- 2001d 「岩手県安代町荒屋新町方言の形容詞活用体系」『言語と人間』5
- 2002a 「岩手県盛岡市方言の形容詞活用体系」佐藤喜代治他編『国語論究9 現代の位相研究』明治書院
- 2002b 「東北・越後方言における/r/をめぐる音変化」『フェリス女学院大学文学部紀要』37
- 2002c 「岩手県久慈市方言の音韻対応」『玉藻』38
- 2002d 「日本方言の音韻」(北原保雄監修、江端義夫編『朝倉日本語講座一〇方言』朝倉書店)
- 2003a 「岩手県盛岡市方言における動詞の所謂終止・連体・準体・禁止・推量志向の活用表現と音韻・音声規則」『國學院大學紀要』41
- 2003b 「岩手県一関市方言における動詞の所謂終止・連体・準体・禁止形と音韻・音声規則」『フェリス女学院大学紀要』38
- 2003c 「岩手県盛岡市方言の動詞否定・使役・受身形における母音無声化規則・語中子音有声化規則の音声文法的考察」『玉藻』39
- 2004a 「岩手県盛岡市方言における動詞条件形・命令形と母音無声化規則・語中子音有声化規則・連母音融合規則の音声文法的考察」『フェリス女学院大学文学部紀要』39

- 2004b「岩手県盛岡市方言における動詞の否定・使役・受身形バリエーションとその通時的性質」『玉藻』40
 - 2005「岩手県一関市方言動詞条件形・命令形における連母音融合規則の音声文法的考察」『フェリス女学院大学文学部紀要』40
 - 2006a「岩手方言における形容詞の特徴—活用体系と音声文法の視点から—」『フェリス女学院大学文学部紀要』41
 - 2006b「岩手県盛岡市方言における活用語の特殊な音相と諸要因」『フェリス女学院大学文学部多文化・共生コミュニケーション論叢』創刊号
 - 近刊「東北地方の方言」佐藤武義・前田富祺(編集代表)『日本語学大事典』朝倉書店
- 佐藤和之 1987「津軽方言母音の音実態と標準語音化に関する一考察—五所川原市方言話者老年層と若年層との対比により—」『文経論叢』22-3、人文科学編Ⅶ通巻84
- 佐藤喜代治 1961a「北奥方言と南奥方言の境界地帯における動詞の活用について」『東北文化研究室紀要』3
- 1961b「東北地方における格助詞「サ」の用法」『国語学研究』1
- 佐藤喜代治 1966「岩手県三陸地方北部の言語調査報告」『日本文化研究所研究報告別巻』4
- 佐藤喜代治・加藤正信 1972「岩手県三陸地方南部の言語調査報告」『日本文化研究所研究報告別巻』8・9
- 佐藤喜代治・加藤正信 1974「青森県東南部・岩手県西北部地方の言語調査報告—音韻・アクセントの部—」『日本文化研究所研究報告別巻』11
- 佐藤喜代治・加藤正信 1975「青森県東南部・岩手県西北部地方の言語調査報告—文法・語彙の部—」『日本文化研究所研究報告別巻』12
- 佐藤亨 1969「一関方言における待遇表現—助詞・助動詞による対者尊敬表現について—」『文芸研究』61
- 柴田武 1962「音韻」『方言学概説』武蔵野書院
- 1958『日本の方言』岩波書店
 - 1961「ズーズー弁でない東北方言」『国語学研究』1

- 1962 「岩手県岩泉付近の非ズーブー弁」『国語学研究』2
 - 1988 『方言論』平凡社
 - 下野雅昭 1978 「伊達・南部藩境付近における等語線の推移」『国語学研究』18
 - 志村文隆 1988 「南部・伊達藩境地域の方言分布—理解語における等語線確認—」『国語学研究』28
 - 橋正一 1932 「盛岡弁の動詞と形容詞」『方言と土俗』3-1
 - 竹田晃子 1998 「岩手県盛岡市方言におけるサル形式の意味特徴」『国語学研究』37
 - 2003 「小林好日氏による東北方言通信調査」『東北文化研究室紀要』44
 - 芳賀綏 1961 「東北アクセントの一動向」『東洋大学紀要』15
 - 平山輝男 1957 『日本語音調の研究』明治書院
 - 平山輝男 1968 『日本の方言』講談社
 - 平山輝男編 1979 『全国方言基礎語彙の研究序説』明治書院
 - 平山輝男・大島一郎・大野眞男・久野眞・久野マリ子・杉村孝夫編 1992 『現代日本語方言大辞典』明治書院
 - 平山輝男他編・齋藤孝滋 2001 『日本のことばシリーズ3 岩手県のことば』明治書院
 - 北条忠雄 1951 「東北方言に於ける対者尊敬「ス」の本質」『国語学』6
 - 本堂寛 1964 「岩手方言における敬語秩序についての一考察」『国語学研究』4
 - 1967 「岩手県方言の系統と区画について」『一関工業高等専門学校研究紀要』1
 - 1982 「8 岩手県の方言」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一編『講座方言学4 北海道・東北地方の方言』国書刊行会
 - 森下喜一 1982 『岩手の方言』教育出版センター
 - 1983 「北奥羽方言における音韻変化の特色について—特にシチジとスツズを中心—to」『岩手医科大学教養部研究年報』18
 - 1986 『岩手方言アクセント辞典』第一書房
 - 山浦玄嗣 1986 『ケセン語入門』共同印刷企画センター
 - 2000 『ケセン語大辞典』無明舎
 - Google マップ 2012. 2. 7 <http://maps.google.co.jp/maps?hl=ja&tab=wl>
- 検索住所は齋藤(1992)119 頁参照

[附記]

お忙しい中、ご協力賜った話者の皆さま、ご配慮賜った全ての皆様に感謝申し上げます。心より御礼を申し上げます。筆者自身、被災地である岩手県久慈市の出身であり、親戚の中にも被災者がおり、また大船渡市、気仙沼市、石巻市、南相馬市に在住されていた多くの知人・調査協力者の皆様の訃報に接するにつけ、震災でお亡くなりになられた方々のご冥福と、被災地の復興を祈らずにはられません。そして、微力ながら被災地の復興を、言語文化研究領域から応援申し上げたく存じます。

今回の「被災地方言の記録」に関する調査でお世話になった主要な話者の皆様
(地点別・五十音順)

陸前高田市

後川安希子さん、荻原一也さん、管野範男さん、熊谷チエさん、熊谷千洋さん、
鈴木千恵子さん、瀧本慶子さん、實吉義正さん

大船渡市

三浦重男さん、三浦京子さん、山浦玄嗣さん

釜石市

磯崎彬さん、佐々木章夫さん、瀬戸元さん、藤原マチ子さん

大槌町

越田征男さん、小林正寛さん

山田町

上林實さん、川端弘行さん、白濱とも子さん

宮古市

東キヌさん、伊藤眞さん、平内敦さん、山崎達也さん

いちいちのお名前を記しませんが、その他にも多くの皆様のご協力をいただきました。
心から感謝を申し上げます。